

明治廿二年一月刊行

刑
法
註
釋
參
照
伺
指
令
肉
訓

山内正利校閱
福井淳註釋

035869-000-6

特14-236

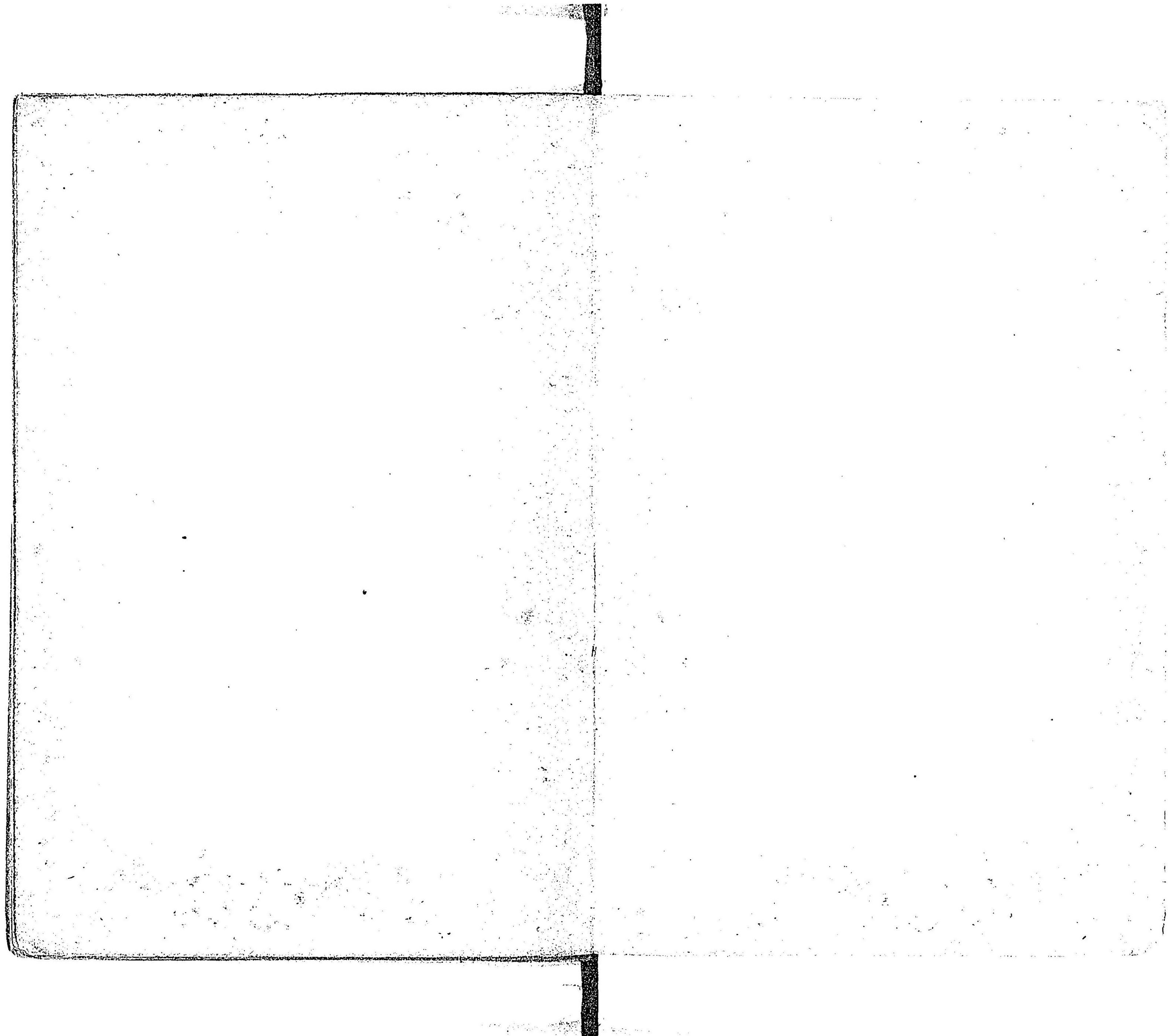
刑法治罪法註釈（龍頭・参照・伺指令・肉訓）

福井 淳 / 著

M22

BBP-0455







凡例

本書ノ刑罰法ニ註解ヲ施シ逐條ノ意
 義ヲ由テ示シタルモノニシテ法律ヲ學
 欲スル者ノ用ニ供ス而シテ最モ簡短
 易キヲ主トスルカ故ニ初學者
 以テ便益ヲ裨補スルナカラン乎
 本法施行後ニ係ル諸布告達ハ悉ク
 頭ニ掲カセテ書テ讀ムニ際シ参考トシ且
 索ノ便ニ供セントシテ直ニ本條ノ上ニ置
 キ加フルニ伺指令テ釐頭ニ記載シ義疑ノ
 生スル處ニ於テ法理ノ在ル所ヲ知ラシム
 是レ亦他書ニ其類ヲ覓サルノ便法ナリ



一本書ヲ註解スルニ多ク讀者ノ義疑ヲ生シ
 異論紛紜タル法文ニ於テハ著者最注意ヲ
 加ヘ之ヲ詳ニシ堀田宮城高木氏等ノ説ヲ
 引證シテ其説ノ據ル所ヲ示シ讀者ヲシテ
 意義理由ヲ明確ニ了知セシメント欲スル
 ナリ
 一本書固ヨリ紙頁ノ限アルヲ以テ著者ノ意
 思ヲ充分ニ述ル能ハサルヲ以テ讀者ヲシ
 テ或ハ隔靴搔痒ノ嘆ヲ懷カシムルコトアラ
 ン然レモ初學ノ者ソ用ニ供スルニハ敢テ
 不可莫ラン乎

明治二十二年春一月

著者識

刑法目録

第一編	總則	一丁
第二章	法例	七丁
第二章	刑例	二十七丁
第一節	刑名	三十九丁
第二節	主刑處分	三十九丁
第三節	附加刑處分	五十五丁
第四節	徵價處分	八十四丁
第五節	刑期計算	八十九丁
第六節	假出獄	九十四丁
第七節	期滿免除	九十九丁
第八節	復權	百三丁
第三章	加減例	百六丁
第四章	不論罪及減輕	百一十一丁
第一節	不論罪及ヒ者恕減輕	百一十四丁
第二節	自首減輕	百二十七丁
第三節	酌量減輕	百三十二丁
第五章	再犯加重	百三十四丁

目録

一

第六	加減順序	百四十三丁
第七	數罪俱發	百四十五丁
第八	數人共犯	百五十丁
第九	正犯	百五十三丁
第十	從犯	百五十七丁
第十一	未遂犯罪	百五十八丁
第十二	親屬例	百六十四丁
第十三	公益ニ關スル重罪輕罪	百六十六丁
第十四	皇室ニ對スル罪	同
第十五	國事ニ關スル罪	百六十八丁
第十六	内亂ニ關スル罪	百六十九丁
第十七	外患ニ關スル罪	百七十五丁
第十八	靜謐ヲ害スル罪	百八十丁
第十九	兇徒聚衆ノ罪	同
第二十	官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪	百八十三丁
第二十一	囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪	百八十七丁
第二十二	附加刑ノ執行ヲ遅ル、罪	百九十五丁
第二十三	私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪	百九十六丁

第六	往來通信ヲ妨害スル罪	百九十八丁
第七	人ノ住所ヲ侵スル罪	二百三丁
第八	官ノ封印ヲ破棄スル罪	二百五丁
第九	公務ヲ行フヲ拒ム罪	二百六丁
第十	信用ヲ害スル罪	二百八丁
第十一	貨幣ヲ偽造スル罪	二百九丁
第十二	官印ヲ偽造スル罪	二百十四丁
第十三	官ノ文書ヲ偽造スル罪	二百十八丁
第十四	私印私書ヲ偽造スル罪	二百二十一丁
第十五	免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪	二百二十三丁
第十六	偽證ノ罪	二百二十六丁
第十七	度量衡ヲ偽造スル罪	二百三十一丁
第十八	身分ヲ詐稱スル罪	二百三十三丁
第十九	公選ノ投票ヲ偽造スル罪	二百三十四丁
第二十	健康ヲ害スル罪	二百三十六丁
第二十一	阿片烟ニ關スル罪	同
第二十二	飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪	二百三十八丁
第二十三	傳染病豫防規則ニ關スル罪	二百三十九丁

目錄

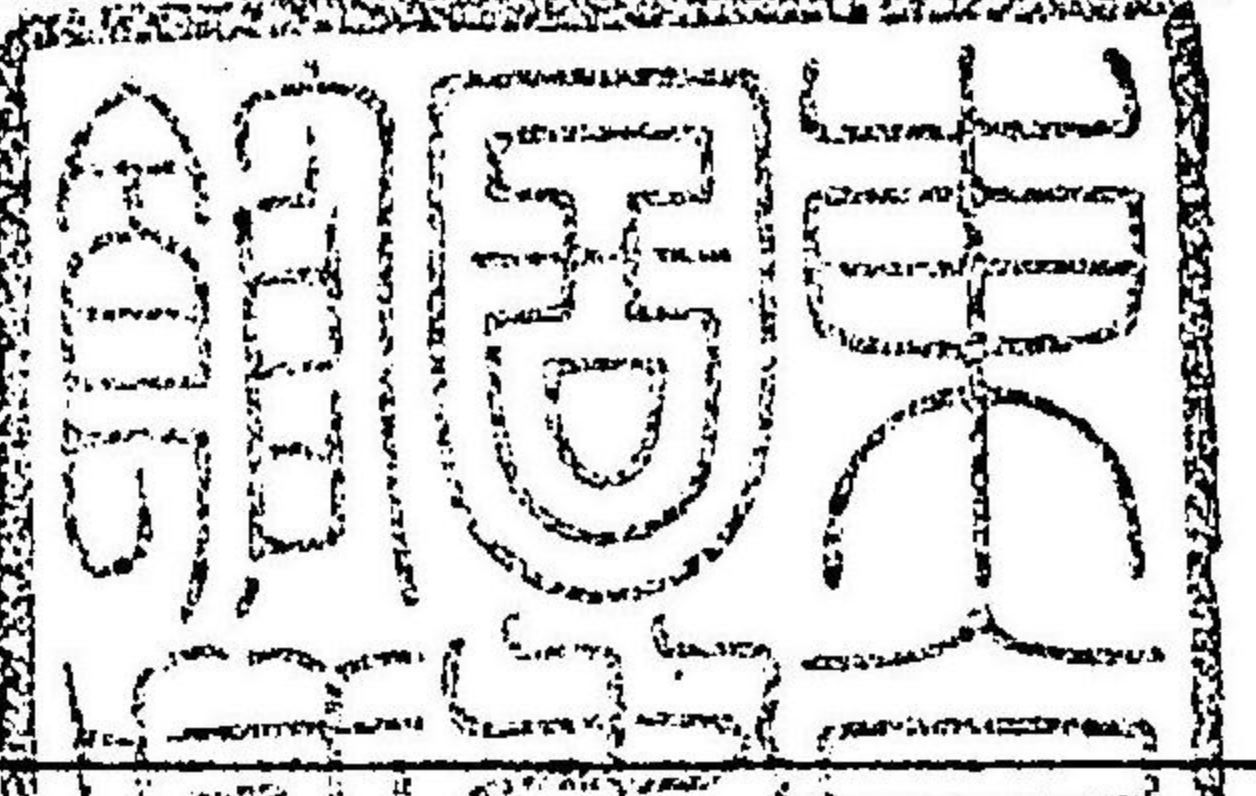
第四節	危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則 ニ關スル罪	二百四十丁
第五節	健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪	二百四十二丁
第六節	私ニ營業ヲ爲ス罪	二百四十三丁
第六章	風俗ヲ害スル罪	二百四十三丁
第七章	死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪	二百四十七丁
第八章	商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪	二百四十八丁
第九章	官吏瀆職ノ罪	二百五十一丁
第一節	官吏公益ヲ害スル罪	同
第二節	官吏人民ニ對スル罪	二百五十四丁
第三節	官吏財産ニ對スル罪	二百六十一丁
第三編	身體財産ニ對スル重罪輕罪	二百六十三丁
第一章	身體ニ對スル罪	同
第一節	謀殺故殺ノ罪	同
第二節	毆打創傷ノ罪	二百六十七丁
第三節	殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不諭罪	二百七十三丁
第四節	過失殺傷ノ罪	二百八十一丁
第五節	自殺ニ關スル罪	二百八十一丁

第六節	擄ニ人ヲ逮捕監禁スル罪	二百八十三丁
第七節	脅迫ノ罪	二百八十四丁
第八節	墮胎ノ罪	二百八十六丁
第九節	幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪	二百八十九丁
第十節	幼者ヲ略取誘拐スル罪	二百九十一丁
第十一節	猥褻姦淫重婚ノ罪	二百九十五丁
第十二節	誣告及ヒ誹毀ノ罪	三百
第十三節	祖父母父母ニ對スル罪	三百四丁
第二章	財産ニ對スル罪	三百六丁
第一節	竊盜ノ罪	同
第二節	強盜ノ罪	三百十二丁
第三節	遺失物埋藏物ニ關スル罪	三百十五丁
第四節	家資分散ニ關スル罪	三百十七丁
第五節	詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪	三百十九丁
第六節	贓物ニ關スル罪	三百二十五丁
第七節	放火失火ノ罪	三百二十六丁
第八節	決水ノ罪	三百二十九丁
第九節	船舶ヲ覆没スル罪	三百三十一丁

第十節	家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪	三百三十三丁
第四編	違警罪	三百三十七丁
治罪法目錄		
第一編	總則	三百七十一丁
第二編	刑事裁判所ノ構成及ヒ權限	四百七丁
第一章	通則	四百八丁
第二章	違警罪裁判所	四百二十二丁
第三章	輕罪裁判所	四百二十四丁
第四章	控訴裁判所	四百三十一丁
第五章	重罪裁判所	四百三十五丁
第六章	大審院	四百三十九丁
第七章	高等法院	四百四十三丁
第三編	犯罪ノ搜查起訴及豫審	四百四十八丁
第一章	搜查	四百四十九丁
第二章	告訴及告發	四百五十一丁
第三章	現行犯罪	四百五十八丁
第四章	起訴	四百六十四丁
第五章	檢察官ノ起訴	同丁

第二節	民事原告人ノ起訴	四百六十七丁
第三章	豫審	四百六十九丁
第一節	令狀	四百七十三丁
第二節	密室監禁	四百九十一丁
第三節	證據	四百九十二丁
第四節	被告人ノ訊問及ヒ野實	四百九十四丁
第五節	檢證及ヒ物件差押	四百九十六丁
第六節	證人訊問	五百一丁
第七節	鑑定	五百十丁
第八節	現行犯ノ豫審	五百十五丁
第九節	保釋	五百十八丁
第十節	豫審終結	五百二十二丁
第四編	公判	五百三十六丁
第一章	通則	同丁
第二章	違警罪公判	五百七十一丁
第三章	輕罪公判	五百八十七丁
第四章	重罪公判	六百丁
第五編	大審院ノ職權	六百二十一丁

第一章	上告	同
第二章	再審ノ訴	六百三十九丁
第三章	裁判管轄ヲ定ムルノ訴	六百四十五丁
第四章	公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴	六百四十七丁
第六編	裁判執行復權及ヒ特赦	六百五十一丁
第一章	裁判執行	同
第二章	復權	六百五十六丁
第三章	特赦	六百五十九丁



刑法

山内正利校閱
福井淳註釋

刑法ノ性質ヲ知ラント欲セハ宜シク先ツ法律ノ何者タルヤヲ解得セサル可ラズ法律ノ根幹ナリ刑法ハ其一小枝葉ニ屬スレハナリ
法律ハ之ヲ分テ二種トス曰ク成文法曰ク性法之ナリ成文法トハ立法者ノ制定ヲ俟テ始メテ成ルモノニテ又之ヲ人定法ト云フ性法トハ立法者ノ制定ヲ待タズ自然ニ存在スルモノニテ又之ヲ自然法ト云フ人定法ハ各國凡テ一様ナラス智識ノ進否人情世計ノ度ニ同シカラズト雖モ性法ハ各國ニ通シテ同一ニシテ毫モ變更アルモノニ非ルナリ蓋シ洋ノ東西ヲ論セバ他人ノ財産ヲ奪却シ去ルヲ許容スルモノアラサルベシ又人ヲ殺シ之ヲ毆打スルノ惡所爲タルハ何レノ邦國ト雖モ皆異論アルコトナシ之レ則チ自然法ノ存在スル證據ニシテ國ニ因テ異テラサル以所ナリ反之シテ人定法ハ各國其軌チ一ニセズ人情風俗智識ヨリ國土ノ位置ニ依テ以テ東西制ヲ別ニス何トナレハ立法者ノ法ヲ制スル人情ニ基キ風俗ニ鑑シ習慣ニ依テ適當ノ法律ヲ成定スルモノナレハ同シカラサルコト又知ル可キノミ如設ハ丁年ニ長短アルカ如ク訴訟手續ノ異同婚姻年齡制限ノ如キ其同一ナラサルモノアルヲ見ル然レモ立法者ハ常ニ基礎ヲ性法ニ取り而後成法トナスモノナレバ決シテ性法ニ背戾セサルヤ明ナリ若シ性法ニ背反シテ組織シタル法律ナルハ之ノ即チ惡法徒法ト云フ可キモノニシテ之ニ服從ス可キノ義務ナキノミナラズ如此有害無益ノ惡法律ハ直ニ撲滅シテ跡ヲ會社ニ絶タサ

ル可ラズ吾人ノ生ヲ聊シシテ安ニスル以所ノモノハ職トシテ性法ヨリ産出セル人定法律ノ保護アルニ依ル又偶然ニアラサルナリ
上來説キ來ル如クナルヲ以テ二者ノ相同シカラサルコトヲ推知シ得ラル可シト雖モ人定法律又之ヲ分ツテ左ノ如ク區別セサル可ラズ

一 國法
國法又分ツテ公法私法トス今公法私法ヲ列記セハ左ノ如シ

- 一 憲法
 - 一 行政法
 - 一 刑法
 - 一 治罪法
- 以上ヲ公法トス

- 一 民法
 - 一 商法
 - 一 訴訟法
- 以上ヲ私法トス

此ノ如キ等差アリト雖モ之ヲ要スルニ立法者ノ性法ヲ根本トシテ以テ組織スル点ニ於テハ公法私法少シモ異ナルヲアルコトナシ公法ハ國ト國或ハ國ト國民トノ間ヲ規定スルモノナシ
フ其第一ノモノヲ國際法又萬國公法ト云ヒ第二ノモノヲ公法又國法ト云フ私法トハ人民ト人民トノ間ヲ規定スルモノニテ私法又國民法ト云フ
然レハ即チ刑法ハ公法中ノ一部ニシテ政府ト人民トノ間ヲ規定シ一國ノ秩序ヲ保チ安寧ヲ

計ル法律ナルコト已ニ解得スルコトヲ得可シ然レバ則チ刑法トハ如何ナルモノナシ云フ方宮城浩藏氏之カ定解ヲ與ヘテ曰ク
刑法トハ人若シ法律ヲ破レハ社會ハ此破法ヲ理由トシテ之ニ或ル痛苦ヲ受ケジムルコトヲ得ルトスル所ノ社會ト人トノ關係ヲ制定シタル者ナリト

井上正一氏刑法ノ性質ヲ論シテ左ノ四個トナセリ

- 第一 犯罪
- 第二 刑罰
- 第三 刑事裁判所ノ構成
- 第四 刑事訴訟ノ手續

今同氏第二ノ理由ニ曰ク犯罪者ニ科スル苦痛ヲ云フモノニシテ更ニ之ヲ詳言スレバ犯罪者ノ財產又ハ自由生命ヲ奪フ等ノ如ク犯罪人ノ精神又ハ身體ニ對シ苦痛ヲ感セシムルニ足ルヘキ者ナシ云フ

二家ノ説已ニ如此其他各家ノ説ク所小異同アリト雖モ之ヲ要スルニ犯罪者ニ苦痛ヲ感セシムルノ性質ヲ具有スルモノナルコトハ敢テ異論ヲ唱フルモノナキカ如シ法律ノ禁止ヲ行ヒ或ハ命令ニ背キテ之ヲ爲スモノヲ賞罰スルモノト解釋スルモ蓋シ失當ニアラサルヘシ
以上刑ノ性質ヲ論セリ之ヨリ進ンテ法學社會ニ説アル刑罰權ノ所在ヲ略説ス可シ刑法ヲ學ブモノニ於テ最モ必要ノ議論ナリトス
凡ソ人ノ世ニ處スルヤ爲ス可キノ業執ル可キノ職各々相均シカラズシテ千差万別錯雜最モ極レリ然レモ其目的ニ至テハ衣食住ノ三者ヲ滿タスヲ以テ標準トス衣食住ノ欲ヲ充タスハ即チ性命名譽財產ヲ得ントスルモノニシテ人間社會ヲ爲スノ目的決シテ之ノ外ニ存セサル

モノト謂フ可シ已ニ生命ヲ護シ名譽財産ノ安全ナルヲ以テ最大ノ目的トナス人類社會ニ於テハ又之ヲ保護スルノ城砦ナカル可ラズ於是乎各自權利ノ幾分ヲ割テ以テ之ヲ政府ニ與ヘ性命財産自由ノ保護セリ然レ其之ヲ政府ニ委任シタル理由ニ至テハ各相同シカラスシテ民約ニ基クテ云ヒ自然ニ出ツルト云ヒ社會刑罰權ノ議論愈々多クナリ之レ余ノ法學ニ志スモノト宜シク知得セサル可ラズト云フ以所ナリ

○第一 復讐説

(理由)人ノ社會ニ在ルヤ自然ニ出テ又天賦ノ權アリ故ニ人アリ我ヲ擱ツキハ我レハ直ニ之ヲ反撃スルノ權アリ自ラ生命ヲ護スル權アル以上ハ人ノ敢テ加フルモノニアラズ然ルニ人アリ暴行ヲ以テ已レニ加フルハ防身ノ權ヲ執行シテ以テ復讐スルノ權利アリ然レ其社會ハ人ノ集合ヲ以テ成立ツ人結体ナリ如此自ラ復讐ヲナスハ爲ニ人々相嫉視シ遂ニ一轉シテ鬭争ノ巷トナリ再變シテ弱肉強食ノ場タラントス故ニ被害者ノ爲ニ社會之ニ代テ復讐權ヲ行フモノナリト

○第二 民約説

(理由)社會ノ未ダ完全ナラサルニ當テ人々各自加害者ヲ防衛スルノ權アリシモ社會漸ク組成スルニ當テハ人々相約シテ防衛權ヲ社會ノ公權ニ委シ敢テ自ラ執行セサルモノトス其最急ノ場合ニ當リテ社會ノ公權ヲ待ツニ違マアツサルハ如キハ例外ナリト

○第三 防衛説

(理由)社會防衛權ト云ヒ社會ノ保存上必要ナルヲ以テ社會ニ防衛ノ權アリト云ヘリ凡ソ社會ハ自然ニ成立ツ所ノモノニシテ人得テ犯ス可ラサルモノナリ已ニ保存權ノ存在スル以上ハ自カラ之ヲ防衛スルノ權アルコト猶ホ防身ノ權アルヲ以テ他人ヲ傷害スル權アルカ如シ

○第四 無責任説

(理由)凡ソ人ニ刑責アルハ自由ト智能トノ二アルヲ以テナリ今其レ瘋癲白痴者ノ罪ヲ犯セシテ見ルモ刑責ノアルコトナシ十二才以下ノモノモ又然リ蓋シ之レ等ノモノハ精神ノ智覺ヲ失ヒ是非ヲ辨別スルノ智能ナキ者ナリ猶ホ言ヲ換ヘテ言ヘバ禽獸ト相去ルト違カラサルナリ故ニ之ヲ罰セサルモノナリ之ト等シク凡テノ犯罪者ハ犯罪ノ當時ハ智覺ヲ失フモノナリ精神ヲ喪失スルモノナリ何トナレハ人ノ罪ヲ犯スヤ必ズ心花ヲ刺衝スルモノナカル可ラズ情欲ノ爲ニ憤リ公憤ノ爲ニ支配セラレ爲ニ常操ヲ失フ一猶ホ白痴瘋癲者ト撰フ所ナシ是ヲ以テ犯人ニハ刑ノ責任ナキモノナリト

○第五 多數ノ利益説

(理由)社會ノ必要ニ在ル限リハ之ヲ貴罰シテ以テ多數人ヲ利益セシモノナリ即チ多數人ノ利益ノ爲メナレバ少數者ノ不利益損害ハ毫モ顧ミルニ及バズ社會多數ノ爲ナレハ一人ヲ殺害スルモ猶ホ可ナリト

○第六 正義説

(理由)道德ヲ以テ基礎トナスモノニシテ道德ニ背カサレハ罰スルヲ能ハサルモノトス凡ソ善ヲ賞シ惡ヲ懲ラスハ人間自然ノ情態ナリ惡事ヲ爲シテ道德ニ背戻シタルモノハ社會之ヲ罰スルノ權アルモノナリト

○第七 折衷説

(理由)此説ハ今世法學社會ニ在テ大ニ勢カアルモノトス今之ノ説ヲ分折スレバ大略左ノ如シ

第一 背徳
第二 加害

此説ニ曰ク人凡ソ惡事ヲナスモ道徳ニ背戻スルニ非レハ之ヲ罰セズ又如設ヒ道徳ニ背戻スルモ智ヲ社會又ハ人ニ加フルニ非レバ罰スルコト能ハズ專ラ道徳ヲ以テ基礎ト爲シ社會ノ利益ヲ以テ制限シタルモノナリ

○第八 命令説

(理由) 社會ノ成ルヤ自然ニ依ルモノニシテ決シテ人造ニアラサルナリ人ノ社會ニ在ルハ自巳ノ目的ヲ達センカ爲ナリ已ニ自己ノ目的ヲ達セント欲セハ宜シク先ツ自由ヲ擁護セサル可ラス然ルニ其自由活用ヲシテ各自ニ放任セシムルハ各々權利ヲ擁護セント欲シテ遂ニ他人ヲ害シ他人ノ權利ヲ侵シ大ニ秩序ヲ亂スニ至ラントス之ヲ以テ政府ヲ組織シ法律命令ヲ制定セシメタリ已ニ立法ノ權アル以上ハ之ヲ執行スル強制法ナカル可ラス故ヲ以テ命令ヲ布キテ之ニ服從セシメ若シ之ニ背戻スルモノアルハ命令執行權ヲ以テ之ヲ罰スルモノトス洵ニ社會ノ必要ナルノミナラズ道徳ト公道ニ適合シタルモノト謂フ可キナリ
以上ノ各説アリト雖モ今世法學士ノ取テ以テ正理ナリトスル所ハ即チ最終第八ノ命令説ナリトス刑罰ハ命令ニ出テ命令ハ政府ヨリ出ツ政府ハ社會ノ團結ヨリ成立チ社會ノ團結ハ自然ニ出ツ之ヲ以テ之ヲ見ルハ刑罰權ハ自然ヨリ出ツルモノト斷定セサル可ラズ之ヲ約言スルハ社會ノ成立ニシテ適正ナル以上ハ政府ノ命令モ又適正ナリト斷定セサル可ラサルナリ
今第一説ヨリ第七説マデノ各説ヲ詳ニ可否セント預想セシカドモ紙數限リアルヲ以テ茲ニ之ヲ略セリ蓋シ第八説ノ法理ヲ討究スルハ自然ニ解得スルコトヲ得可シ

第一編 總則

總則トハ管ニ此刑法ノミナラズ他ノ法律モ等シク總括シタルモノニテ刑事一般ヲ支配スル所ノモノトス今我刑法編成ヲ視ルニ其第一編ニ於テハ總則ヲ掲ゲ第二編以下ニ於テハ犯罪ト刑トヲ規定セリ之ヲ要スルニ第一編ハ刑法全体ノミナラズ苟モ刑事ニ關スル他ノ法律規則ニモ適用シ第二編以下第四編ハ之ヲ小區別シタルモノトス

第一章 法例

法例トハ法律ヲ適用スル元則ヲ規定シタルモノニテ之之又一般ノ法律ニモ相關係スルモノトス

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪別テ三種ト爲ス

- 一 重罪
- 二 輕罪
- 三 違警罪

本條ハ刑法全体ニ通用スルモノニシテ適用スル所最モ廣ク且ツ最モ研究ヲ要スヘキ條項ナリトス

法律ヲ修ムルモノハ須ラク法意ニ注意シ一字一句ト雖モ容易ク看過ス可ラストハ余カ曾テ耳ニスル所ナルノミナラズ法律ヲ修ムルモノト第一着ニ念頭ニ留メサル可ラサルモノトス何トナレハ法律ハ限リアル條項ヲ設ケテ限リナキ社會ノ事件ヲ規定シ凡ソ事物自然ノ道理法ニ依テ以テ制定シタルモノナレハ森羅萬像之ヲ悉クス可キモノニアラサルナリ夫レ然リ已ニ無限ノ社會事物ニ向テ一々制裁ヲ與フ可ラズトセバ之ヲ包括シテ以テ之ニ當ラサルヘカラサルヤ理ノ觀易キ所ナリトス去レバ一條數十文字ト雖モ其包含スル所最モ廣ク且ツ彼

是際連シテ各個孤立スルモノニアラサルナリ實ニ法律ノ意ヲ解スルモノハ正面ヨリ解釋シ又裏面ヨリ説ク如此右往左盼シテ以テ精神ヲ探リ得タル片ハ即チ法律ノ意ヲ得タルモノニテ裁判官ニ於テハ人民ノ權利ヲ傷害スルノ悞ナク代官人ニ於テハ能ク法理ヲ伸暢シテ以テ冤ニ屈服スルノ恐レナキモノトス法律學ノ修メ易スカラサル以テ所ナリ
刑法ハ民法ト異ナリテ其正條ナクシテ之ヲ罰スル能ハサルモノトス故ニ又立法者ノ苦痛モ容易ナラサルモノト言フ可シ

今刑法ト民法トノ差異ヲ舉グレバ左ノ如シ

第一 刑法ハ社會ト人民トノ間ヲ規定シ民法ハ人民相互ノ關係ヲ規定スルモノトス
第二 刑法ハ他人ノ權利ヲ傷害スルト否トヲ論ゼズ法律ニ背戾シタル以上ハ之ヲ罰ス民法ハ權利ヲ傷害スルニ非レバ之ヲ罰セサルモノナリ

第三 刑法ハ罰スル所法律ニ正條アルヲ要ス民法ハ正條ノ有無ヲ問ハス法理ニ照シテ之ヲ罰ス即チ左ノ如シ

刑法第二條ニ曰ク 法律ニ正條ナキモノハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルヲ得ス

佛國民法第四條ニ曰ク 法律ノ不備 法律ノ不委 法律ノ所缺ヲ以テ口實トシ裁判ヲ爲

スヲ肯セサル裁判役ハ漫ニ裁判ヲセサルノ罪アリトシテ訴訟ヲ受ク可シ

第四 刑法ノ罰スル所ハ苦痛ヲ感ンセシムルニ在リ然レモ民法ノ制裁ハ或ハ事ヲ爲サシメ又ハ損害ヲ償ハシムルニアリ

第五 刑法ハ能力完全ナラサルモノト雖モ之ヲ處罰ス民法ノ制裁ハ無能者ニハ其効力ナキモノトス

第六 刑法ノ執行ハ財産ヲキモノト雖モ之ヲ執行ス罰金ヲ輕禁錮ニ代ユルカ如シ民法ハ無

資者ニ對シテ執行スルヲ能ハサルモノトス

右ノ如ク刑法ト民法トノ差異アリト雖モ之レ只ダ刑法ヲ研究スルニ依テ起ル所ノ差異ナリトス之ヲ要スルニ民法ハ私法ニ屬シ刑法ハ公法ニ屬スルヲ以テ刑法ハ其執行上ニ於テモ多少強クテ用ユル所アルモノトス

前已ニ說明スルカ如ク法律ノ文字ハ最モ注意ス可キモノトス今本條ヲ其裏面ヨリ解釋スル

片ハ法律ニ於テ罰セサル罪アルモノト如クナラサル可ラス何トナレハ法律ニ於テ罰ス可キ罪云々トアルヲ以テナリ然レモ之レハ文字ヲ斟酌ノ皮想論ニシテ取ルニ足ラサル反駁ト謂フ可キノミ彼ノ道德上ノ罪ノ如キハ法律ニ明定シタルモノヲ除クノ外此法律ノ敢テ干渉スル所ニアラズシテ道德ノ制裁ニ付ス可キモノトス然レハ則チ別ニ罰セサル罪アラサルコト知得ス可キナリ

然レモ少シク本條ニ付テ疑ノ存スルモノアリ何ゾヤ罰ス可キ罪ト言フモノ之ナリ罪トハ如何ナルモノヲ言フヤチ明示セズシテ直ニ罪ノ字ヲ用ヒタリ蓋シ罪トハ法律ニ背戾シタル所爲ヲ云ヘルモノニテトリモ直サズ禁止法ヲ犯シ又ハ命令法ヲ行ハサル所爲ヲ云ヘルモノナリ宮城氏曰ク此ノ罪ノ字ニ換フルニ所爲ノ字ヲ以テセバ其正チ庶幾カラシム乎ト余モ同氏ノ説ヲ賛成スルモノナリ

罪ノ階級ヲ三種ニ區別セシモノハ蓋シ偶然ニアラサルナリ今其理由ヲ詳説スル片ハ即左ノ如シ

凡ソ人ニ大小アリ男女アリ智愚アツテ其懸隔又同一ナラサルト同シク所爲ノ最モ兇惡ナルモノハ其刑罰隨テ重大ナラサル可ラス之反テ加害少キ片ハ其刑罰又隨テ輕キハ事物ノ自然

數ニ出ツ人ヲ殺スモノト人ヲ罵辱スルモノト其刑ニ輕重ノ大差アルハ職者ヲ候テ後知ラサルナリ已ニ刑ニ大差アル以上ハ之カ因タル罪ニ於テモ又名稱ヲ異ニシテ以テ治罪ノ手續ニ差異ヲ生セサル可ラサルナリ

重罪ハ最モ其刑罰ノ重キモノナレハ之カ手續モ又鄭重ナラサル可ラス又之ノ犯罪ハ權有ノモノナレバ裁判所モ他ノ輕罪違警罪ヲ處罰スルガ如ク甚ダ多キヲ要セサルナリ然レモ輕罪ノ如ク違警罪ノ如キハ最モ多キモノナレバ手續モ寬大ニシテ裁判所モ多カラサル可ラズ又急速ノ即決法ニ依テ時日ト費用ヲ省カサル可ラス其他三罪ノ性質ニ依テ生スル所ノ差異ハ最モ多シトス之ヲ要スルニ三種ニ分チシモノハ立法者ノ成立ニ依レルモノニテ五種又ハ四種ニ別ツモ決シテ不可ナルトナキモノナリ然レモ如クナルハ取扱上大ニ錯雜シテ便宜ヲ失スルノ恐レアルヲ以テ各國ノ例ニ倣ヒ之ヲ三種ニ區別シタルモノトス聞ク英佛共ニ三種ニ區別シ其他歐洲皆ナ之ノ例ニ依ルト去レバ我立法者ニ於テ之ヲ三種ニ區別セシハ決シテ偶然ニアラサルコト亦以テ知ル可キナリ

凡ソ重罪輕罪違警罪ノ確定スルハ其刑罰ノ確定シタルニアラサレハ未ダ付スルニ確定ノ罪名ヲ以テス可カラサルナリ何トナレハ刑罰ノ決定ニ依テ罪名ヲ定ムルガ如ク規定シタルナリ

今三罪ニ付テ異ナル所ノ規則ノ差異ヲ擧クレバ左ノ如シ

第一 三罪其裁判管轄ヲ異ニス重罪ハ重罪裁判所輕罪ハ輕罪裁判所ヲ以テ管轄シ違警罪ハ違警罪裁判所ヲ以テ管轄トス

第二 三罪附加刑ヲ異ニス剝奪公權禁治産ハ重罪ノミニ付加シ停止公權罰金ハ輕罪ノミニ用ヒ監視ハ重罪ニ必ス之ヲ用ユルモ輕罪ハ或ハ之ヲ付加スルト否ラサルトノ別アリ沒收

ハ三罪ニ通シテ之ヲ用ユルモノナリ

第三 假出獄ハ重罪輕罪ニ用イ違警罪ニハ之ヲ用イサルモノトス

第四 十六才以上廿才以下ノ幼者ニハ重罪輕罪ニ限リ宥恕ヲ與フト雖モ違警罪ニハ之ヲ與フルトナシ

第五 三罪ヲ犯スノ前後ニ依リ再犯ノ并加重スルト否ラサルトノ別アリ

第六 三罪中二罪以上俱發シタルハ一ノ重キニ從フモノトス

第七 重罪輕罪ニハ教唆者及ヒ從犯ヲ罰スルモ違警罪ニハ之ヲ罰セズ

第八 重罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰スト雖モ輕罪ノ未遂犯ハ罰スルト否ラサルモノアリ違警罪ノ未遂犯ハ凡テ之ヲ罰セズ

以上三罪ノ區別ハ立法者ノ適宜ニ之ヲ定メタルモノニシテ罪ノ性質ニ依リ之ヲ定メタルモノニアラサルナリ今罪ノ性質ヲ區別セバ即チ左ノ如シ

第一 行犯不行犯

行犯トハ禁止法ヲ犯シタル者ニテ即チ謀殺竊盜ノ如キ是ナリ不行犯トハ命令法ヲ犯シタルモノ則チ爲ス可キトナ爲サ、ル所爲ヲ云フ醫師化學家其職業ニ依リ官署ヨリ解剖分折又ハ鑑定ヲ命セラレタルモノ故ナク之ニ應セザルカ如キ(刑法第七十九條)及ヒ官署ノ督催ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋ノ修理ヲ爲サ、ルカ如キ(刑法第四百廿五條第六項)ハ皆ナ不行犯ニ屬スルモノトス之レ等不行犯ノ場合ノ如キハ最モ少キモノトス

第二 有意犯無意犯

有意犯ハ一罪ヲ構成スルニ最モ必要ノモノニシテ若シ此ノ意思ナキトハ罪トシ論セサルモノト云フ強盜竊ノ罪謀殺殺ノ罪放火ノ罪毆打創傷ノ罪ノ如キ是ナリ無意犯ハ罪ヲ犯スノ意

ナキモノニテ犯跡其モノカ法律ノ規定ニ依テ罰セラレトモノナ云フ過失殺傷ノ罪失火ノ罪ノ如キ是ナリ

之ヲ要スルニ有意犯ハ犯罪構成ノ元素ノ一ナルヲ以テ若シ此ノ有意ヲ缺クトキハ故殺ハ變シテ過失殺トナリ放火ハ變シテ失火トナリ毒殺ハ變シテ毆打創傷トナルカ如キモノナ云フ

無意犯ハ例ヒ意思ナキモ所爲ノ形跡ガ罪トナルモノヲ云フ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲナスカ如キ又ハ木石ヲ道ニ堆積シテ標識ヲ樹テサルカ如キ其意思ノ有無ヲ問ハズ罪トシ罰スルモノ是ナリ然レモ過失殺放火ノ如キハ意思ノ有無ニ依テ大差アルモノニシテ意思アルハ過失殺傷ハ謀故トナリ失火ハ放火ニ變シ毆打罪ハ變シテ毒殺ノ重罪トナルモノトス深ク研究セサル可ラサルナリ

刑法第七十七條ニ曰ク罪ヲ犯スノ意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セズト蓋シ無意的ノ犯罪ハ之ヲ罰セズト云ヘル一大元則ナリト然レモ但シ法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタルモノハ此限ニアラズト云ヘル例外法アルヲ以テ此ノ例外法ニ適當ナルモノハ意思ノ有無ヲ論セスシテ之ヲ處罰スルコト猶ホ彼ノ車馬ノ疾驅及ヒ木石堆積ノ無標識ノ如キ之ナリ

蓋シ無意犯ハ法律上罰ス可キ性質ノモノニ非レナリ何トナレハ人類ノ所爲ニシテ之ヲ罰スルハ其道徳ニ背キ併セテ社會ヲ害スルヲ以テナリ今無意ニ依テ之ヲ考フルニ其形跡ハ犯罪ノ如キ觀アル可シト雖モ而モ意思ナキモノナレハ道徳ノ点ニ於テ缺クル所ナキガ如シ夫レ然リ然レモ法律ハ國ノ秩序ヲ維持シ國民ノ安寧ヲ以テ最大ノ目的トナスモノナレハ其道徳ニ背戻セスト雖モ禁止命令ノ二者ニ背キテ害ヲ社會ニ遺セシ以上ハ其害ノ度ニ相應スルノ刑罰ヲ施シテ以テ犯者ノ粗瀆ヲ懲ラシメサル可ラサルナリ若シ意思ノ欠缺ヲ以テ如何ナル

所爲ヲモ罰スルコト得ストスルハ如何ナル大害ヲ生スルモ遂ニ之ヲ罰ス可ラサルニ至ラントス之レ豈ニ法律ノ意ナランヤ之ニ依テ之ヲ觀ルハ社會存立上必要アルヲ以テ之ヲ罰スル一ノ道理法ト謂フモ敢テ誣言ニアラサルナリ

第三 國事犯非國事犯

凡ソ人ノ犯罪者ト認メラル、ニハ必ず被害者ナカル可ラス被害者在テ始テ加害者アリ加害者アツテ刑罰ノ必要存スルモノトス窃盜犯ノ如キハ直接ノ被害者ハ被害者ナリ間接ノ被害者ハ政府ナリ故ニ盜者其物件ヲ返還シテ以テ之ヲ謝スルモ政府ハ之ヲ罰スルモノトス何トナレハ已ニ公法ヲ犯シテ政權ノ幾分ヲ傷ケシモノナレハ爭テカ社會ノ之ヲ不問ニ付スルヲ得ンヤ之ニ刑ヲ適用シテ犯人ノ再犯ナカラシメンコトヲ希望シ併セテ他人ヲシテ自ラ願ミル所アラシムルハ蓋シ法律ノ精神否刑ニ要スル所ノモノト謂ハサル可ラサルナリ

國事犯トハ社會ノ組織構成ニ害ヲ及ボスモノニシテ常ニ政府カ被害者ノ位置ニ立ツモノナリ内亂ノ陰謀ノ如シ苟モ國寇ノ更改ヲ以テ其目的トナシ現政府ノ組織ヲ變更シテ以テ已レ執ル所ノ主義ニ依テ以テ施政ノ針路ヲ定メントスルモノ之ヲ國事犯ト云フ故ニ火ヲ放テテ都市ヲ燒キ電線ヲ遮斷シテ以テ往來ノ便ヲ妨害スルガ如キハ外面ヨリ見ルハ多衆人民ノ騷擾スルモノナルヲ以テ或ハ國事犯ノ如キ觀想アル可ケレモ決シテ否ラス放火及ヒ往來通信ヲ妨害スルモノヲ以テ處斷ス可キ一ノ常事犯ニ外ナラサルナリ之ヲ要スルニ社會ハ常ニ被害者ノ間接ナルモノニシテ直接ニアラサレバナリ直接ニ害ヲ受ケタルモノハ罹災ニ過ラズルモノト云ハサル可ラサレバナリ

非國事犯ハ國事犯ヲ除キタル凡テノ犯事ヲ云フ國事ノ一ヲ詳説セシテ以テ今之ニ反セルモノハ皆ナ非國事犯ト云フ可キナリ

之ヲ區別スルノ法律上ノ利益ハ即チ左ノ如シ

- 一 加減ノ例ヲ異ニス 刑法第六十八條
- 一 裁判管轄ヲ異ニス 治罪法第八十三條
- 一 監視ニ差異アリ 刑法第三百五十五條

此他刑法第二百二十五條ニ於テハ預備ヲ以テ本罪トナシ之ヲ罰スルモノナリ同條第二項ハ預備ノ前ノ決心ヲ以テ之ヲ處罰ス其他百三十三條ノ如キ等シク預備ヲ以テ之ヲ罰ス蓋シ國事犯既遂ノ場合ニ於テハ之ヲ罰ス可ラサルヲ以テナリ

第四 現行犯非現行犯

現行犯トハ其發覺現ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタルモノニテ餘燭未ダ消散セサルモノヲ云フ

非現行犯トハ其發覺行ヒタル際ヨリ若干ノ時日ヲ經過シタル後ニ發覺シタルモノヲ云フ二者ノ區別ハ治罪ノ手續ニ依テ付シタル名稱ニシテ之ニ由テ罪ニ輕重刑ニ等差ノアル可キモノニ非ルナリ聞ク古昔羅馬ニ於テハ現行犯ニ刑ヲ重クシ非現行犯刑ヲ輕クシタリト然ルモ今日猶ホ未ダ消滅セズト咄々怪事ト云ハサル可ラサルナリ凡ソ現行犯罪ト云ヒ非現行犯罪ト云フモ其罪ノ性質ニ依テ之ヲ區別シタルモノニアラズシテ犯罪ノ手續ニ緩急遲速アリ社會人民ノ目撃スルト然ラサルトニ依テ二者ノ區別ヲ設ケタルニ過キサルナリ犯罪ハ何レモ現行ニ非ズト云フコトナシ然レモ他人ヨリ見ルキハ現ニ罪ヲ犯セシモノヲ目撃セシニアラサルヲ以テ之ヲ現行ト謂ハサルノミ犯罪ノ登時現行ナラサルノ犯罪アラシキ社會ノ發覺ニ依テ以テ之ニ名稱ヲ付シタルニ外ナラサルナリ

現行犯ニアラズト雖モ現行犯ニ準シテ處分スルノ犯罪アリ即チ犯人トシテ追呼セラルルキ

兇器贓物其他犯人ト思料ス可キ物件ヲ携帶シタルキ

又明治十四年九月廿日大政官第四十六號布告ヲ以テ準現行犯ノ場合ヲ明示シタリ則チ其總動犯人ト思料ス可キモノハ又現行犯ニ準シ處分スルコトヲ得

之ヲ要スルニ二者ノ區別ヨリ生スル所ハ治罪ノ手續ニ緩急アルモノトス今此ノ區別ヲ舉クレハ即チ左ノ如シ

第一 令狀ニ差アリ

非現行犯ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕セントモ先ツ預審判事ノ發シタル令狀若クハ命令アルコトヲ必要トス現行犯ノ場合ニ於テハ何等ノ令狀命令ナクシテ直チニ逮捕スルコトヲ得可シ

(治罪法第二百一條)

第二 逮捕人ニ差アリ

非現行犯人ヲ逮捕スルハ警察官巡警憲兵ノ如ク公力強制者ニアラサレハ逮捕スルコト能ハズト雖モ現行犯ノ場合ニ於テハ何人ト雖モ直チニ逮捕スルコトヲ得(治罪法第二百五條)

第三 臨檢ニ差アリ

非現行犯ノ場合ニ於テハ預審判事ニアラサレハ臨檢家宅搜索等ノ預審處分ヲ爲スコト能ハズト雖モ現行犯ノ場合ニ於テハ檢事司法警察官ハ皆ナ此ノ處分ヲ爲スコトヲ得(治罪法第二百三條第二百五條)

第四 處罰ニ差アリ

刑法第二百六十一條賭博犯ノ如キハ現行犯ニアラサレハ之ヲ罰スルコトヲ得サルモノトス

第五 正當防衛ニ差アリ

正當防衛權ヲ行フニハ現行ナラサル可ラス及ヒ姦夫殺傷罪モ均シク現行犯ニアラサレハ其

一 官注意ヲ要スルモノアリ現行犯ト非現行トノ區別ニヨリ治罪ノ手續ニ差異アル理由之ナリ蓋シ此等ノ理由アルヲ以テ立法者ノ之ヲ區別シタルモノト想像セサル可ラサルナリ

預審判事ノ令狀ヲ要セス何人ニテモ非現行犯者ヲ逮捕スルコトヲ得可シトスルモハ助モスレハ輕忽良人ヲ拘シ無辜ノ人ヲ纏繞ニ呻吟セシムルノ不幸ナキヲ保シ難シ故ヲ以テ非現行犯ニ預審判事ノ令狀ヲ要セシ以所ナリ

現行犯ヲ逮捕スルニ之等ノ手續ヲ要セサルノ理由ハ最モ親易キモノニテ現行犯ハ已ニ數々諭セシカ如ク現ニ犯罪ヲ目撃セシモノナレハ眼テ無辜ヲ法網ニ陥ルトノ恐ナシ之ヲ以テ何人ト雖モ之ヲ逮捕スルコトヲ得可キモノトス

第五 即時犯繼續犯

即時犯トハ即時成立シ犯罪ヲ云フ即チ強盜謀殺毆打創傷罪ノ如キ之ナリ何トナレバ他人ノ財物ヲ窃取スルヤ直ニ窃盜罪ヲナシ人ヲ殺スヤ謀殺又ハ故殺罪ヲ成就ス可キヲ以テナリ之ヲ要スルニ即チニ一罪ヲ完結スルモノヲ云フト解得セサル可ラズ

繼續犯トハ罪ヲ犯ズヤ直ニ之ヲ遂クルト雖モ其所爲若干時間繼續スルモノヲ云フ賭博ヲ開張シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結スルカ如キ是ナリ之ヲ要スルニ繼續犯ハ所爲ノ繼續スルモノニテ此ノ所爲ノ絶ヘサル間ハ犯罪中ニ在ルモノト言ハサル可ラサルナリ

今即時犯ト繼續犯トヲ區別スルノ利益ヲ擧ケレバ左ノ如シ

第一 公訴期滿免除ニ差異アリ

即時犯ハ犯罪ノ日ヨリ起算スルモ繼續犯ハ然ラズ其所爲ノ斷絶セシ最終ノ日ヨリ起算ス

第二 裁判管轄ニ區別アリ

即時犯ハ一個單純ノ犯罪ナルヲ以テ數個ノ裁判所管轄内ニ起ルベキトナシト雖モ繼續犯ハ所爲ノ繼續時間ハ其犯罪中ニ在ル可キモノナルヲ以テ犯者ノ移動ニ依テ常ニ數個ノ裁判所ノ管轄ニ屬ス治罪法第四十條第一項ニ於テハ犯罪ノ地ノ裁判所ヲ以テ管轄ト定ムト雖モ第二項ニ於テハ犯罪ノ地不明ナルモノニ限リ被告人逮捕ノ地ヲ以テ管轄ト定メタリ故ニ繼續犯ノ場合ニ於テ數個ノ裁判所ノ管轄ニ屬スルハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ之カ管轄トナス可キモノトス

第三 刑ニ差異アリ

即時犯ハ一般ノ法則ニ依ル可キモノナレバ繼續犯ハ繼續時間ノ長短ニ依テ刑ニ輕重ノ差アルモノトス監禁罪ニ於ケルモ又然リ監禁日數ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フト云ヘルカ如キ之ナリ

第六 單行犯慣行犯

單行犯トハ一回犯シタル以上ハ其事柄ノ性質ニ依テ直ニ一罪ヲ完成スルモノヲ云フ

慣行犯又集合犯ト稱シ一回犯シタルノミナラズ數回犯シテ始メテ罪ヲ組成スルモノヲ云フ

我刑法中慣行犯ノ例甚ダ多カラス今例ヲ擧ケレハ左ノ如シ

刑法第二百五十六條官許ヲ得ズシテ營業ヲナシタル所爲ノ如シ此ノ營業ヲ爲スト云ヘルモノハ一回人ヲ診察シテ藥ヲ投シタルモノ、如キハ私ニ營業爲シタルモノト言フ可カラズ何トナレハ業トハ營業ニ用ユル常ニ爲ス所ノ業ノ義ニシテ一回人ヲ診察シ及ヒ投劑シタルガ如キハ未タ以テ業ト言フ可ラズ必ズヤ二回以上ナラサル可ラサルナリ佛國ニ於テ高利貸ノ營業者ヲ罰スルモ又數回ニ及ヒタルモノニアラサレハ之ヲ罰セサルモノトセリ

單行犯ト慣行犯トノ差異ハ左ノ如シ

第一 公訴期間免除ニ差異アリ
 単行犯ハ一回ノ爲所完ク結了シタル日ヨリ起算スト雖モ慣行犯ハ最終ノ日ヨリ起算スルモノトス

第二 裁判ノ管轄所ニ差異アリ
 単行犯ハ一個ノ裁判所ヲ以テ管轄トナスト雖モ慣行犯ハ數回ノ所爲ヲ以テ或立ツモノナルヲ以テ其數回ノ所爲異ナルハ各地ノ裁判所中被告人ヲ逮捕シタル裁判所ヲ以テ之カ管轄トナス可キモノトス

第七 附帯犯非附帯犯
 附帯犯トハ數罪並起リタルモノヲ云フ之ヲ要スルニ二個以上ノ犯罪相牽連スルニ非ンハ附帯犯ノ場合ヲ生セサルモノトス

治罪法第三十九條ニ曰ク左ノ場合ニ於テハ附帯ノ犯罪ナリトス

第一 同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタルハ
 如設ヘバ人ヲ殺シ其妻ヲ強姦スルルカ如ク又ハ人ヲ殺シテ財物ヲ奪ハントセシハ他人ノ來テ妻ヲ強姦スルルカ如キハ即チ一人若クハ數人ニテ犯シタルモノトス

第二 數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタルハ
 如設ヘバ内亂ヲ謀リ甲ハ金銀ヲ準備シ乙ハ他ニ在テ兵隊ノ招集ヲ爲スカ如シ之レ皆ナ日時場ヲ異ニスト雖モ目的同一ニシテ牽連スルヲ以テ附帯犯トナセリ

第三 自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免ルル爲メ他ノ罪ヲ犯シタルハ
 如設ヘバ其夫ヲ殺シテ其婦ヲ強姦シタルカ如シ

今附帯犯ト非附帯犯ト區別セバ左ノ如シ

第一 裁判所ノ管轄ニツキ差異アリ
 管轄ハ元來治罪法第三十八條ヲ以テ元則トナセドモ附帯犯ノ場合ニ於テハ上等ノ裁判所之ヲ合シテ管轄ス重罪附帯スルハ重罪裁判所ニ於テ輕罪ヲ管轄シテ之ヲ審判スル者トス

第二 公訴受理ニ差異アリ
 元來裁判所ニ於テハ訴ヲ受ケサル事件ニ付テハ裁判ヲ與ヘサルヲ以テ元則トナス然レモ附帯犯ナルハ檢察官ノ起訴ナシト雖モ發覺シタルハ裁判ヲ爲ス可キモノトス

第三 刑ニ差異アリ
 尋常ノ場合ヨリ刑ヲ加重セラルルトアリ如設ヘバ刑法第三百八十一條ニ於テハ強盜罪ト強姦罪ト附帯シタルモノナリ故ニ之ヲ無期徒刑ニ處ス通常ナレバ二罪共ニ輕懲役ニ上ルコトナキモノトス

附帯犯ヲ一個ノ裁判所ニ於テ處分スルハ左ノ如キ利益アリ

- 一 證據蒐集ニ便アリ
- 二 事實發見ニ利アリ
- 三 二重ノ手續ヲ省クノ利アリ
- 四 日子ト費用ヲ省クノ利アリ

第八 普通犯特別犯
 普通犯一ニ一般犯ト云ヒ刑法ニ成定シタルモノヲ云フ
 特別犯ハ特別ニ設定スルノ必要アツテ設ケタルモノヲ云フ即チ或ル商業又ハ或ル一部ノモノニ特ニ要スル必要アルヲ以テナリ
 左ノ如キモノハ特別法ナリトス

- 一 出版條例
- 一 新聞紙條例
- 一 集會條例
- 一 郵便條例
- 一 電信條例
- 一 徵兵令規則
- 一 賣藥規則
- 一 證券印稅規則

以上ハ特別ノ條例及規則ナリ

普通法ハ特別法トナ區別セバ左ノ如シ

- 一 普通法ハ刑法ノ總則ニ從ハサル可ラズト雖モ特別法ハ或ハ之ニ從ハサルコトアリ
- 二 普通法ハ何人ト雖モ犯スコトアリト雖モ特別法ハ或ル一部ノモノニアラサレバ犯スナシ

第二條 法律ニ正條ナキモノハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルコト得ス

釋義 本條ハ新法ニ於テ始テ見ル所ノ條ニシテ未曾有ノ進步ト謂ハサル可ラズ蓋シ法律ニ正條ナキモノト雖モ裁判官ノ意思ニ依テ之ヲ斷シ處分スルトキハ遂ニ吾人ノ生ヲ聊シ塔ニ安ニスルニ由ナカラトス人ノ世ニ處スルヤ千狀万態從テ發生スル所ノ事物又最モ巨多ナリトス如何ニ裁判官ノ法理ニ通曉シ事理ニ明瞭ナルモノト雖モ此ノ紛綜万像ノ世ニ處シア一モ失當ナキヲ保ス可ラサルナリ人ハ精神ニ限リ社會ノ發生スル事物ハ愈々出テ愈々奇ニ

常ニ一定ノ方針ニ向テ發生スルモノニアラサルナリ故ニ動モスレハ裁判官ノ誤謬モアル可ク又關係人ノ敗ルト所モアルベシ如此モノハ何ゾヤ人神ニアラズシテ眞理ノ妙得テ之ヲ獲ルコト能ハズ遂ニ是認スル所ハ非トナリ非ト認ムルモノハ是ナルコト世間往々アル所ナリ嗚呼處世シテ事ヲ執ルモノ又誰イ哉

況ンヤ無形學ノ一種法律其モノニ於ケル又最モ深淵ノ法理存在スルモノナレバ容易ニ活用シ得可キモノニアラサルナリ又況ンヤ刑事其モノニ於ケルチヤ

刑法ノ制裁スル所ノモノハ生命自由財産ノ三点ニ在リ其第二以下ニ至テハ他日之ヲ矯正スルノ方法ナシトセサレモ生命ノコトニ至テハ一度ビ執行スルルハ遂ニ復々還ラズ大ニ社會ノ利害ニ及ボス所ノモノナリ之ヲ以テ深ク立法者意ヲ之ニ注キ周到綿密最モカメリ蓋シ我刑法ハ古來未曾有ノ典章ト言ハサル可ラサルナリ

前第一條ニ於テハ法律ニ於テ罪トシ罰スルモノハ三種ナルコト示シ本條ニ至テハ正條ナキモノハ何等ノ所爲ト雖モ之ヲ罰スルコト能ハズト云ヘル元則チ規定シタリ然レバ則チ前條ニ於テ法律ニ於テ罰ス可キモノハ何ナルヤナ云ハサリシ点之ニ至テ始テ見ハシタリト云フ可キナリ

本條ノ所謂法律トハ他一般刑事ニ關スル法律ヲ總括シタルモノニテ民法ト混同セサランコトヲ要ス何トナレハ民法ハ前已ニ論スルカ如ク正條ナキモノト雖モ之ヲ裁判セサル可ラサルノ義務アルモノニテ正ニ本條ト相反スルモノトス今本條ノ設ケナキハ吾人ノ生ヲ聊シ塔ニ安スルコト能ハズト云ヘル以所ヲ畧陳ス可シ

人ノ社會ニ立テ事ヲ處スルヤ其數最モ多シ若シ正條ヲ設ケスシテ立法者直ニ之ヲ罪トシ罰スルルハ一日モ安心スルノ時ナカラントス故ニ法ヲ設ケテ預メ其罰スル正條ヲ掲ケ之ニ背

カサル以上ハ決シテ罰ス可キモノニアラズ下規定セサル可ラズ之正條ヲ要スルノ第一理由ナリ

犯者ヲ訴フルハ檢察官ナリ裁判官ハ刑ヲ適用スルモノナリ檢察官裁判官ハ同一ノ所ヨリ出テタルモノナリ然レバ自ラ告テ自ラ理スルカ如キノ想ヒアリ如此ナレバ二者ノ意向ニ依テ自由自在ナル可キヲ以テ一定ノ法規ヲ立テ以テ其擅横ヲ防カサル可ラズ是レ正條ヲ要スル第二理由ナリ

法律ノ運用ナリニ裁判後ニ放任スルハ裁判後ハ自己ノ見解ニ依テ之ヲ濫用シ社會ヲ保クントスル法律ハ遂ニ反テ世休ヲ亂スニ至ラントス生殺與奪ノ權ヲ一裁判官ニ委スルハ吾人ノ生命ハ朝夕ヲ計ラレザラントス豈又危カラスヤ其正條ヲ要スル第三ノ理由ナリ

若シ斯ノ正條ナキハ從來ノ如ク比附援引シ又ハ不應爲律ノ如キ思ヒチナスモノナキヲ保シ難シ之ヲ以テ明ニ刑法ニ特書シテ舊例ヲ一洗シタルモノトス之レ正條ヲ要スル第四ノ理由ナリトス

第三條 法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスヲ得ス

▲參看新舊法比照例
明治十四年十二月第八十一號布告
刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニハ左ノ例ニ從フ可シ

第一條 新舊法比照スルニハ左ノ如シ
新法 懲役
一死刑 斬絞

輕キニ從テ處斷ス

本條ハ法律ノ既往ニ及ハサル元則ヲ定メタルモノトス而シテ第二項ニ至テハ反對ニ出テ其効力既往ニ及ブトテ規定シタルモノナリ

法律トハ他ノ單行法律ヲモ包含スルモノニテ頒布トハ發布シテ人民ノ周知期限ヲ去リタルモノヲ云フ明治十六年五月廿六日第十七號布告第十四號ノ布達トテ之ヲ定メラレタルモノニ係ル

二無期徒刑	懲役
終身	
三有期徒刑	禁錮
四無期流刑	禁錮
終身	
五有期徒刑	懲役
六重懲役	懲役
十年	
七輕懲役	懲役
七年	
八重禁錮	禁錮
十年	
九輕禁錮	禁錮
七年	
十重禁錮	懲役
十一一年以上五年以下	
十二輕禁錮	禁錮
銷錮十一日以上五年以下	
十三罰金	贖罪
取贖罰金科料貳圓以上	
十四拘留	懲役
禁錮銷錮拘留十日以下	
十四科料	贖罪

元來法律ヲシテ効テ既往ニ及ホスハ實ニ大ナル弊害ヲ生スルニ至ル昨日マテ自由ニ爲スヘキノ權アルヲ以テ之ヲ爲セシ今日ノ法律ヲ以テ之ヲ禁止シ直ニ昨日ノ所爲ヲ罰スルハ一日モ安心スルノ時ナカラントス昨日ハ昨日ノ法律ニ依テ之ヲ爲ス可キノ自由アリ故ニ其範圍内ニ在テ之ヲ爲セリ即チ自己ノ爲ス可キ範圍内ニ運動シタルモノナリ然レニ今日ノ法律ヲ以テ其專柄ヲ禁止スルモ以來爲ス可キノ權ナキモノナリ昨日ノ處爲ヲ罰スルカ如キハ實ニ道理ニ背キ人情ニ背反シタルモノニテ惡法ト言フ可キモノナリ故ニ法律ハ此ノ弊ヲ避ケンカ爲ニ効テ既往ニ及ホサルヲ以テ元則トナスモノナリ

第二項ノ所犯トハ犯罪ト解ス可キモノナリ其犯罪ニシテ未ダ判決即チ確定裁判ヲ經サルハ被告人ニ利益ナル方法ヲ取リテ新舊輕キニ依テ之ヲ處斷ス可キモノナリ如設ヘハ舊法ニ於テ百日以上三年以下新法ニ於テ二月以上二年以下ナルハ新法ニ依テ處斷ス可キモノトス

之ヲ要スルニ新法ヲ以テ罰スルハ必ズ新法ノ輕キニ限ルモノニテ必ズ其罪ノ情狀如何ニ依ルモノニアラサルナリ新法ニ於テハ加減ヲ用イテ法律ヲ案スルニ必ズ其長短ハ期二月以上四年トナリ舊法ニ於テハ六十日以上三年以下ナルガ如キ場合ニ於テハ一日以テ其舊法ノ輕キヲ知ル可シ斯ル場合ノ如キハ比照スルニ至テモ少シモ困難ヲ感スルコトナシ然レドモ若シ二月以上四年以下一年以上三年以下ト云ヘルカ如キ長短期ニ於テ差異アル場合ニ於テハ何レニ依テ處斷スルハ正當ナリトスルカ頗ル適用ニ苦シマサル可ラサルナリ

此場合ニ於テハ夫ノ明治十四年十二月第八十一號布告比照例第二條第三條ニ依テ之ヲ適合セシメサル可ラス則チ二月以上四年以下ノ二月ヲ取り一年以上三年以下ノ三年ヲ取り以テ一ノ刑ヲ適合シ其範圍ニ在テ上下セサル可ラス

取贖罰金料式
圖未詳

第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期內ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ刑期ニ過クルヲ得ス(舊法ニ於テ懲役百日ニ該ル者新法ニ照ラシ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ二月以上百日以下ノ重禁錮ニ處スルノ類)若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル時ハ舊法ニ從フ(舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照ラシ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ其禁錮三十日ニ處スルノ類)

思フニ以上ハ立法者ノ成定ニ係リタル一ノ刑ニシテ未ダ舊法ナラズ未ダ新法ナラスシテ單獨ノ法ナルノミ然リ而シテ此等ノ場合ニ於テ刑期ヲ定ムル最モ困難ノ場合ナシト雖モ要スルニ舊新二法中其長期ノ降レルモノヲ以テ輕トナシ之ニ依テ處斷スルヲ妥當ナリトス何トナレバ如設ヒ一年以下ニ至ルコトナシト雖モ未ダ以テ四年ニ及ブノ恐レナキヲ以テナリ法律ノ既往ニ溯ル理由ニ三説アリ

第一説 既得權ヲ害スルヲ以テ一般ニ溯ラサルヲ元則トス然レモ新法ノ舊法ヨリモ輕キトハ之ヲ及ボシテ以テ被告人ノ利益ヲ與フルハ法律ノ期望スル所ナリト

第二説 法律ノ恩典ニ依レルモノニテ別ニ理由アルニアラズト

第三説 輕キ新法ヲ以テ重キ舊法ヲ廢止シタルハ立法者ニ於テ重キ刑ヲ用ユルノ必要ナキモノト見做セシニヨル果シテ然レバ必要ナラサル法律ヲ守持スル理由アラサルナリ之レ既往ニ及ブ例外ノ存在スル以所ナリト蓋シ三説ノ理由其正當ヲ得タルモノト云フ可シ

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スルヲ得ス

第五條 本條ハ一設スルハ疑ヒノ存スル所ナキモノ、如クナレバ深ク意ヲ注グハ大ニ思ヒ起ス所ナキ能ハサルナリ或ハ云ハシ陸海軍ニハ各々陸海軍ノ刑法アリ何ゾ本條ヲ廢テ之ニ適用セサルコトヲ知ラント然レモ未ダ本條ヲ解セサルモノ、言ナリ陸海軍ニ註スル法律ヲ以テ論ズヘキコトニハ適用セサレバ陸海ノ法律ヲ以テ論ス可キモノニアラサルハ如設ヒ軍人軍屬ト雖モ之ノ刑法ニ依テ處罰ス可キモノトス

蓋シ陸海軍ニ關スル云々トハ軍事犯ヲ指シテ言ヒシモノト知ル可シ軍人ハ規律ヲ正シクシ約束ヲ嚴明ニシテ以テ信賞必罰少シモ假ス所ナキヲ以テ緊要トス故ニ此等軍事ニ關スルコト

フ但其長期ノ短キ者ニ過クルコトヲ得ス(舊法ニ於テ一年以上三年以下ノ懲役ニ該ル者新法ニ照ラシ三月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類)

トハ陸海軍刑法ノ罰スル所ナリトス然レモ軍人軍屬ニシテ若シ通常ノ犯罪アリタルハ此刑法ニ依テ罰スルコト素ヨリ當然ナリトス

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ各其法律規則ニ從フ

若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ

第六條 刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アルハ其法律規則ニ依テ處斷ス可キモノトス如設バ新聞條例出版條例電信條例郵便條例ノ如キ之ナリ之レ等ノ單行法ハ其一部ニ就テ最モ必要ナルヲ以テ立法者ノ制定シタルモノナレバ容易ニ消滅ス可キモノニアラズ然レモ若シ他ノ法律規則ニモ刑名アリ又々刑法ニモ刑名アルトキハ刑法ニ從フ可キモノトス何トナレバ後ニ頒布シタルモノハ先ノモノヨリモ一層ノ善良ナルヘキモノナラチ以テナリ他ノ法律規則ヲシテ消滅セシメズ依然トシテ存在スル理由ハ己ニ前説ノ如シ加之フルニ今一理由アリ何ゾヤ曰ク將來立法者ニ於テ必要アル場合ニ於テモ又有効ナラシメサル可ラズ故ニ刑法ハ普通法トシテ存在シ他ノ法律規則ハ特別法トシテ存在スル以所ナリトス

法律ト云ヒ規則ト云フモ皆ナ効力ニ至テハ同一ナリトス凡ソ法律ト云フモノハ立法者ノ制定ニ係ルモノヲ云ヒ規則トハ行政廳ニ於テ其法律ヲ施行スル手續及ビ又他ニ必要アツテ發付スル所ノモノヲ云フトハ余カ曾テ聞ク處ナリ我國現今ノ制ニ於テハ法律アリ條例アリ規則アリ甚ダ明了ナクモノ、如シト雖モ之ヲ要スルニ執權者ノ之ヲ執行シ吾人ノ遵フ可キ義務ニ於テハ差異ナキモノ、如ク思ハルハナリ

第二項凡ソ總則ハ一般刑事ノ手續ヲミナラズ苟モ刑法上ノ制裁ニ屬スルモノナルハ必ズ

第四條 舊法ノ贖罪取贖若クハ罰金料ノ金額新法主刑ノ金額內ニ在ルハ新法ニ從フ但舊法ノ金額ニ

刑罰 第一編 第一章 法例

棒鉞ニ處ス
▲參看 罰令處罰
明治十四年十二月第
七十二號布告

明治十五年一月一日ヨ
リ刑法施行候ニ付法律
規則中罰例ニ係ルモノ
ハ左ノ例ニ照ラシテ處
斷スヘシ

第一條 凡懲役ハ十一
日以上ヲ重禁錮ニ處
シ十日以下ノ拘留ニ
處ス

第二條 凡禁獄及禁錮
ハ十一日以上ヲ輕禁
錮ニ處シ十日以下ヲ
拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及科料
ハ貳圓以上ヲ罰金ニ
處シ貳圓未満五錢以
上ヲ壹圓九拾五錢以
下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照ラシ若
クハ違令違式ニ照シ
處斷ストアリ及ヒ告
可申付トアルハ總テ
貳圓以上百圓以下ノ

ヲサルナリ雖然罪科愈々大ナルベ之ニ應用スル刑罰益々大ニ罪科微少ナレバ刑又小ナルハ
蓋シ自然ノ數ト謂ハサル可ラサルナリ

- 一 生命ニ及ブノ刑
- 二 自由ニ及ブノ刑
- 三 財産ニ及ブノ刑

凡ソ刑ハ罪ノ結果ナレバ罪ノ變化ニ依テ又之ニ應セサル可ラズ罪其モノニシテ千變万化シ
來ルルハ刑モ又千變万化シテ之ニ應スルノ覺悟ナカル可ラズ故ニ罪ノ種々益々多キ今日ナ
レバ刑ノ應用モ益々之ニ從テ適度ノ權衡ニ應セサル可ラズ然レモ之ヲ要スルニ三個ノ目的
ニ依テ刑罰ヲ當行スルモノト知得ス可キナリ

以上ハ刑罰ノ目的ニツイテ之ヲ列記シタルモノナリ今刑罰ニ希望ス可キ性質ヲ掲ケレバ左
ノ如シ

- 第一 刑ハ他人ノ懲戒トナル可キヲ要ス
人ノ刑ニ處セラルト見ルモノハ必ズ其自ラ懲ミテ此ノ如キノ苦戒ニ陷ラザラントナ期ス
所ノ懲戒トナラサル可ラズ蓋シ他人モ又タ良心ノ爲ニ戒慎スル處アルヤ更ニ言ヲ待タサル
ナリ
- 第二 刑ハ犯者ヲ懲戒スルニ足ル可キ性質アルヲ要ス
刑ニシテ犯者ヲ懲ラスニ足ラサルハ毫モ刑罰ノ効用ナキモノトス故ニ其罪質ニ依テ刑ヲ
異ニシ當ニ犯者ニ苦痛ヲ感セシムルヲ以テ目的ト爲ス施体ノ刑ハ一般ニ犯者ヲシテ苦痛ヲ
覺ヘシムルモノナリ然レモ其長短及ビ監獄則ニ依テ大ニ緩急スル所アルベシ

罰金ニ處ス
第五條 法律規則ヲ犯
シタル者ニハ刑法ノ
再犯加重及ヒ數罪俱
發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰
例アリト雖モ刑法ニ
正條アルモノハ刑法
ニ依リテ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ
犯シ拘留科料ニ處ス
ル者ト雖モ輕罪裁判
所ニ於テ之ヲ裁判ス

但始審裁判所所在
ノ地ヲ除クノ外ハ
治安裁判所ニ於テ
之ヲ裁判スルヲ得

死刑ノ如キハ懲戒セシムルト能ハズ身死シテ如何ンゾ懲戒スルノ理アル可ケンヤ

第三 道德ニ背反セサルヲ要ス

道德ニ背反セサルトハ其刑ノ道德ニ背反セサルヲ要スト云ヘルモノニテ如設ヘハ往時ノ炮
略殺准死公告ノ如キモノ是ナリ此等ハ他人ノ懲戒ヲ來タスヨリモ助モスレバ其所爲ノ苛
酷ナルヨリ遂ニ反動ヲ來タスノ弊害アリ又文明國ノ取ル可キモノニアラサルナリ

第四 刑ハ分割シ得可キヲ要ス

刑ニハ長短期アリ罰金ニハ算數ヨリ多數ニ至ルマテノ差異アルヲ以テ犯者ノ情狀若クハ繼
衝等ニヨリ分割シテ減刑スルヲ得ラル可シト雖モ夫ノ無期刑及ビ死刑ノ如キハ其性質
分割ス可ラサルヲ以テ大ニ刑ノ性質ニ反スル所アリ然レモ又已ムヲ得サルナリ

第五 刑ハ一身ニ止マルヲ要ス

刑ハ一身ニ止マルヲ以テ元則トス夫ノ族滅法ノ如キハ實ニ往時ノ野蠻法ニシテ刑ノ性質ニ
背反スルコト大ナルモノナリ刑九族ニ及ブナゾトハ今ヨリ之ヲ聞クモ毛髮爲ニ悚然タラズ
ンバアラサルナリ然レモ沒收罰金ノ如キハ一家ノ財産ニ及ビ幾分ニ家屬ニ及ブモノ、如シ
ト雖モ要スルニ戸主ノ財産ヲ沒收シ又ハ罰金ヲ追徴スルモノナルヲ以テ雖モ刑ノ他人ニ及
ブモノト言フ可ラサルナリ

第六 刑ハ平等ナルヲ要ス

平等均一ナルヲ要スト云ヘルモノハ犯者ニ適當ナルヲ要スト言フニ近シ然レモ甚ダ難シ人
ニ強弱アリ貧富アリ智覺ニ鈍鈍アリ廉恥ヲ重スルモノト否ラサルモノトアリ故ニ甲者ノ十
圓ハ乙者ノ一圓ノ如ク丙者ノ公權剝奪ハ丁者ノ毫モ意トセサルガ如シ洵ニ平等不偏ノ論ハ
實行シ難シト言フ可キナリ未レ然リ然レモ之ニ近カラント希冀セサル可ラサルナリ

第七 取消シ得可キヲ要ス
死刑ヲ除クノ外凡テノ刑ニ就テハ取消シ得可キモノナリ死刑ハ一度ビ執行セハ斷頭場程ノ
煙ト爲リ死者又生ク可ラザルヲ以テ如何ニスル丁能ハサルナリ然レドモ他ノ施体刑ニ至テ
ハ之ヲ取消ス可キ得可シト雖モ已ニ執行シ了リタル苦痛及ビ剝奪シ去ラレタル名譽自由ノ
如キハ又繳收シ得可ラズシテ殘余ノ刑ノ取消シテ規定シタルモノナリ

第八 痕跡ヲ遺存セサルヲ要ス

人ノ罪ヲ犯スヤ刑アツテ之ニ相當ノ刑ヲ科ス又他ニ缺クル所ナキナリ然ルニ往時ニ於テハ
妄リニ手足ニ烙印シ又或ハ面部ニ黥印シテ以テ其痕跡ヲ出獄後ニ遺スノミナラズ永久ニ消
滅セサルモノ比々然ラサルハナシ是レ豈ニ刑ノ性質ナランヤ犯者ハ爲ニ再ビ刑ヲ科セラル
トカ如シ不法モ又絶太シト云ハサル可ラズソレガ爲メニ犯人ハ直ニ刑餘ノ人タルコトヲ見
認メラレ世人ノ爲ニ齒セラレズ世計ヲ失スルニ至ラントスルモ得可ラサルナリ如此ナレバ
又遂ニ罪辟ニ觸レテ入獄シ兇惡ノ徒ニ化セサラシメントスルモ得可ケンヤ刑ノ性質ヲ失テ
犯人ヲ益々増加セシムルモノト云フ可キナリ近時我邦ノ刑法ヲ論ズル法學中ニハ夫ノ監視
スラ刑性ノ質ニ反スルモノト論セリ蓋シ出獄後容易ニ犯者タルコトヲ世人ニ看破セラレ遂
ニ動モスレバ世計ヲ失ヒ前記ノ弊害ヲ來タサントスルノ恐レアルヲ以テナリ余ハ實ニ斯説
ニ同意スルモノナリ

第六條 刑ハ主刑及ビ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トヲ定ム

刑トハ前數ニ說明セシカ如ク犯人ニ加フル所ノ苦痛ニシテ生命ニ及ブモノ即チ死刑

ノ如キ自由ニ及ブモノ即チ徒流刑懲役禁錮ノ如シ其他公權ヲ剝奪スルカ如キ監視ノ如キ禁
治産ノ如キ自由ヲ奪フノ刑ナリトスコノ刑ヲ分テ主刑附加刑ノ二種トシ主刑ハ又々重罪輕
罪違警罪ニ異ナルモノトス重罪ニ於テ主刑トナスモノハ刑法第七條ノ掲クル所ニシテ即チ
左ノ如キモノナリトス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 無期徒刑
- 五 有期徒刑
- 六 重懲役
- 七 輕懲役
- 八 重禁獄
- 九 輕禁獄
- 一〇 剝奪公權
- 一一 禁治産

以上ノ刑ハ重罪ノ主刑ニシテ重罪ニ特有スル附加刑ハ左ノ如シ

以上ノ附加刑ハ重罪ニ必ズ附加スルモノトス若シコノ重罪犯ニシテ公權ヲ保存スルモノト
センカ他日滿期放免ノ後ハ通常ノ者ト伍テ同シテ國政ニ參與シ得モ昔日獄裡ノ呻吟ハ今日
ニ痛痒ヲ感セズ刑ノ目的ニ背反スルニ至ル禁治産ニ於ケルモ又然リ若シ獄中ニ居テ財産ヲ
處理スルコトヲ得バ賄賂ヲ贈リテ自己ノ利ヲ圖リ或ハ國事犯ノ如キハ爲ニ黨勢ヲ張ルカ如

キ弊害百出少シモ刑罰ノ効力ナカラントス故ナリテ之等生獄ノ者ニハ治産ヲ禁シテ其不自由ヲ感セシメサル可ラサル以所ナリ然リ而シテ之等附加刑ノ如キハ別ニ宣告ヲ用イズ主刑ト共ニ發生スルモノニシテ主刑ナクハ附加刑アル可キノ理ナク常ニ主刑ノ不足ヲ補ヒ主刑ノ違セサル点ヲ裨補スルモノナリ夫シ然リ附加刑ノ發スルハ主刑ノ宣告アルト同時ニ主刑ニ隨伴スルモノナルヲ推知ス可キナリ

主刑ハ之ニ異リ刑ニ長短アリ罰金ニ多寡アリ必ズ之ヲ宣告セサル可ラズ若シ宣告セサルハ何レノ刑期ニ在ル者ナルキ之ヲ知ルヲ能ハズ送ニ不取締ノ結果ヲ來タス可キヲ以テナリ之レ主刑ハ必ズ宣告セサル可ラサル以所ナリトス

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 無期徒刑
- 五 有期流刑
- 六 重懲役
- 七 輕懲役
- 八 重禁獄
- 九 輕禁獄

前已ニ重罪ノ主刑ヲ列記シタリ今ヤ本條ノ解釋ニ涉リタルヲ以テ第一死刑ノ詳解ヨリ第九輕禁獄ニ論及スルコトヲカム可シ

死刑ハ重罪中第一位ニ在テ最モ重キ罪ニ之ヲ適用スルモノトス然レハ歐洲諸國皆重罪ニ此ノ刑ヲ用ヒタリ

死刑ノ論タル法律家中ニ在テモ其所說一定セズシテ動モスレバ即チ曰ク社會ハ人ノ生命ヲ奪フノ權アルコトナシ故ニ死刑ハ不正ナリ不常ナリト然レハ是又其一ヲ知テ未タ其二ヲ知ラサルノ論者ト云ハサル可ラサルナリ死刑ハ歐洲若干國ニ廢止シタルノ國アリト雖レ佛國ノ如キハ未ダ之ヲ廢止セズシテ依然トシテ刑法中ニ記載セリ蓋シ死刑モ或ル場合ニ於テ必要ナル可キヲ以テナリ今死刑ヲ廢ス可シト云ヘル論者ノ說ヲ舉グレバ左ノ如シ

抑々人ノ生命ハ天賦自然ニ依テ得タルモノニテ社會ヨリ奪ケ得タルモノニアラサルナリ已ニ社會ヨリ受ケ得タル生命ニ在ラサル以上ハ爭テカ社會ノ之ヲ奪フ可キ權利ノアル可キ理アラシヤト

實ニ皮想ヨリ見ルキハ廢止論者ノ說ク所一理ナキニアラサルモノ、如シ然レドモ其ノ天賦ニ出ツルト云ヘルモノハ皆ダニ死刑ノミニ限レルモノ、如シ未ダ其二ヲ知ラサルト云フハ即チ之レガ爲ナリ死刑ノ如キハ社會保存ニ於テ最モ必要ノモノニシテ一日モ缺ク可ラサルモノナリ人ノ貴重ス可キ者ハ生命ニ若クハナシ今コノ生命ヲ斷ツノ法律ヲ以テ之ニ當ルキハ人奚ゾ畏懼セザルコトアラシヤ必ズヤ寒心ス可キナリ今夫レ死刑ニシテ社會ニ存在セザランカ無期刑ノ苦痛ハ楯ホ之ヲ甘シ免惡ヲ逞フスルモノアラシヤ當是時テハ如何シテ之ヲ防ケ可キカ惡漢ノ徒ハ益々不良ヲ逞フスルニ至ラントス是豈法律ノ精神アラシヤ

死刑ハ劇藥ナリ之ヲ用ユルコト過度ナルトキハ終ニ社會ヲ亂シ人ヲ殺ス可シト雖レ其之ヲ用ユルコト宜シキヲ得ルキハ遂ニ社會ヲシテ健全ノ者タラシム要スルニ活用如何ニ在ルノミ夫レ人ヲ殺シ人ノ財産ヲ燒キ其大害ヲ釀成スルモノアルニ當テヤ法律ハ佛然トシテ立チコノ

至惡ノ者ヲ誅シコノ不良ノ兇徒ヲ戮シテ以テ社會人民ノ安堵ヲ保ス之レ即チ法律ノ寬假セサルヲ示シテ以テ無智愚昧ノ者ノ惡風ニ感染セザランコトヲ預防スル以テ所ナリ犯罪ヲ未萌ニ防クノ要ハ蓋シ死刑ノ効力最モ多キニ居ルモノト推測セサル可ラサルナリ

論者ハ天賜ノ生命ヲ以テ廢止論ノ根據トナスモノ、如シ然レモ無期以下ノ刑モ其性質自由ヲ奪ヒ常ニ天賜ヲ抑壓スルモノナリ然レバ即チ何ノ死刑ノミ天賜云々ト云ヘルノ理アラシヤ若シ此ノ理ヲ以テ死刑ヲ廢スルハ他ノ施体刑悉ク廢止セサル可ラサルニ至ラントス之レ余ノ死刑保存論ニ同意スル以テ所ナリ

凡ソ人ヲ殺スハ惡ナリ天賜ノ生命ヲ奪フハ人類ノ爲ス可キ權ニアラサルナリ然レモ社會ハ最モ大切ノモノニシテ社會ヲ重ンズルハ即チ多數人言ヲ換ヘテ之ヲ陳アレバ吾人々類ノ爲ニスル場合ニ於テハ天賜ノ生命モ之ヲ奪却セサル可ラサルナリ彼ノ戰爭ノ如キハ首級ノ多數ヲ以テ人價ヲ買フニ至ルニアラズヤ又正當防衛ノ如キハ自己ヲ防クニ出ツルモノニテ即チ權利ノ執行ト云フ然レバ即チ社會保存ノ上ニ於テ要スルモノハ即チ多數人ヲ保護スルニ出ツルモノナルヲ以テ一ノ道理ヲ成スモノト言テ可ナリ必要ハ道理ヲ爲スト蓋シ又前説ノ場合ヲ言フモノト謂ハサル可ラサルナリ

無期刑有期刑ハ常事犯罪罪ノミニ適用スルモノナリ
無期流刑有期流刑ハ國事犯罪者ニノミ適用スルモノナリ
重懲役輕懲役ハ常事犯罪ノミニ用ユ
重禁獄輕禁獄ハ國事犯罪ニ用ユルモノトス

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス
一 重禁錮

二 輕禁錮

三 罰金

一 重禁錮ハ通常犯ニ用ユルモノニシテ定役アルモノナリ

二 輕禁錮ハ通常犯中道徳ヲ犯スト最モ多キモノニ用ヒ又國事犯罪ノ輕罪ニハ之ヲ用ユルモノトス

三 罰金ハ財産ニ對スル刑ニシテ第一二ノ禁錮ハ自由ヲ奪フノ刑ニテ罰金ハ即チ財産ヲ有スル者ニ科シ輕罪中主刑ノ最下級ニ在ルモノトスコノ罰金ハ二圓以上ヲ以テ限リ其多數ヲ限定セズ蓋シ酒造稅則賣藥規則ノ如キ其違背ニ依テ幾時ノ罰金ニ處スト言ヘル如キ預シメ定ムルヲ能ハサルニ依ルモノナリ

禁錮ハ十一日以上五年以下ヲ以テ之ヲ限ルモノトス
然レモ第七十條末項ニ示スカ如ク加ヘテ七年ニ至ルヲ得可シト雖モ八年ニ至ラハ出來サルモノト知ル可シ

今重罪ト輕罪トニ依テ刑ノ適用ニ差異アル所ヲ掲ケレバ左ノ如シ
一 重罪ニ於テハ總則ノ刑期ニ依テ裁判官適宜ニ上下ス
(如設ヘバ本條ニ於テ別ニ刑期ノ定限ナク單ニ有期徒刑ニ處ストノミアルヲ以テ有期徒刑ノ範圍即チ十二年以上十五年以下ニ於テ相當ノ刑ニ處スルノミナリ)

一 輕罪ハ總則ニ於テハ其最短最長ヲ示スノミニテ各本條ニ依リ處斷セサル可ラズ
(如設ヘバ重禁錮ハ十一日以上五年以下ナレモコノ範圍ヲ以テ輕罪ヲ斷スルコト能ハズシテ必ズ各本條ノ定限ニ從ハサル可ラズ刑法第三百六十六條竊盜罪ハ二月以上四年以下

ニ依テ處斷スルカ如シ

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス

- 一 拘留
- 二 科料

本條ハ違警罪ノ主刑ヲ揭示シタルモノニテ拘留科料ノ二トナス此ノ刑ハ罪最モ輕微ナルモノヘ加フル所ノ刑ニシテ即チ道徳ニ背ク少ク害ヲ社會ニ加フルコト最モ少キ罪ナリ故ニ又之ニ加フル刑モ最少ナルモノナリ

拘留ハ一日以上十日以下ニテ定役アルコトナシ(第二十八條) 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノモノナリ (第二十九條)

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

- 一 剝奪公權
- 二 假止公權
- 三 禁治産
- 四 監視
- 五 罰金
- 六 沒收

附加刑ノコトハ前已ニ説明セシカ如ク主刑ノ及ハサル所ヲ補充スルモノニシテ主刑ニ伴フ所ノモノナリ然レモ罪大ナルハ刑罰ノ任益々重キカ如ク刑其者ニシテ大ナルハ附加刑モ又大ナラザル可ラサルハ數ノ免レサル所ナリトス今剝奪公權ヨリ以下沒收ニ至マテ逐次論スル所アル可シ

一 剝奪公權 トハ何ゾヤ蓋シ剝奪公權ノ何者タルヤナ知リ而後利害得喪ヲ論スルヲ以テ順次ト思考ス故ニ先ツ剝奪トハ如何ナルモノナルヤヲ示スベシ

刑法第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

- 一 國民ノ特權
 - 二 官吏ト爲ルノ權
 - 三 職掌年金位記賞號恩給ヲ有スルノ權
 - 四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權
 - 五 兵籍ニ入ルノ權
 - 六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス
 - 七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲ニスルハ此限ニアラス
 - 八 分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ビ共有財産ヲ管理スルノ權
 - 九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權
- 公權トハ如此モノヲ指シテ云ヘルモノニテ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノハ別ニ宣告ナキモ以上ノ公權ヲ奪ハレシモノト覺悟セサル可ラサルモノトス
- 此ノ刑ハ加辱ノ刑ニシテ權利ヲ殺キ能力ヲ減スル所ノモノニシテ終身之ヲ復スルコト能ハサルモノトス主刑ハ滿期ヲ得ルモ附加刑ハ之ヲ得ルコトナシ
- 二 假止公權 トハ刑期間公權ヲ行フコト停止スルモノトス即チ禁錮ノ刑期間又ハ監視ノ刑期限間之ヲ行フコト停止スルモノニテ剝奪公權ノ如ク無期ノモノニアラサルナリ
- 三 罰金 輕罪ニ限リ附加スルモノニシテ公權トハ第三十一條ノ諸權ヲ指シタルモノナリ

三 禁治産 モ重罪ニ附加スル所ノ刑ナリ然レモ此ノ刑ハ剝奪公權ノ如ク終身刑ニアラズシテ有期ノモノナリ第三十五條ニ曰ク其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルコトヲ禁ズト然レバ則チ主刑ノ満期後ハ自ラ財産ヲ治ムルノ權アルヤ更ニ言ヲ待タサルナリ

四 監視 ハ重罪輕罪何レニモ附加ス可キモノニシテ主刑ノ終リタルト同時ニ始マルモノナリ監視ハ犯人出獄ノ行狀ヲ取締ルモノニシテ重罪ノ刑ニハ別ニ宣告ヲ用イズシテ當然監視ヲ附加シタルモノトス輕罪ニ於テハ特ニ之ヲ附加スル旨規定シタル條項ニアラサレバ之ヲ附加セサルヲ以テ必ズ宣告書ニ之ヲ記載スルモノナリ若シ輕罪ニシテ宣告書ニ監視ヲ附加スル旨ナキハ即チ監視ナキモノナリ

五 重罪ニ附加スル監視ハ一定ノ期限ヲ定メテ之ヲ附加スルモノトス有期ノ重罪刑ニハ本刑ノ短期三分ノ一二均シキ時間監視ニ付スルモノトス故ニ有期ノ刑ノ短期ハ十二年ナルヲ以テ三分ノ一ハ四年ナリ即チ四年ノ監視ニ付セラルモノトス監視ハ常ニ休刑ニ附加スルモノニテ輕罪ト雖モ罰金ノ刑ノミナルハ之ニ監視ヲ附加スルコト能ハサルモノトス

六 遠徙罪ニハ監視ヲ附加セサルモノトス

五 罰金 ハ當然附加スルモノニアラズ別ニ宣告スルモノトスコレハ輕罪ノ主刑ナレモ又附加刑トナルモノトス

六 沒收 ハ三罪ニ通用スル所ノ附加刑ニシテ犯人ノ財産ヲ官ニ沒收スルヲ以テ成立ツ所ノ一ノ附加刑ナリトス今沒收スルコトヲ得可キ場合ヲ擧ケレバ左ノ如シ

第一 法律ニ於テ禁制シタル物件

第二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

第三 犯罪ニ因テ得タル物件

沒收ハ附加刑ナリ必ズ主刑ニ付從スルモノナラサル可ラズ夫レ然レドモ今主刑ニシテ刑ノ期滿免除ヲ得タルハ如何スベキヤ必ズ沒收ノ言渡ヲ爲スベシ然レバ則チ主刑ナクシテ沒收ノ刑ノミ獨リ存スルモノアリ之レ大ニ疑ノ存スル所ナリ

又コノ刑ハ期滿免除ヲ得可ク又必ズ宣告ス可キモノトス

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

本條ハ刑ヲ執行スルコト及ヒ犯人ヲ檢束スル方法ヲ規定スルハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ムト云ヘルコトヲ規定シタルモノナリ刑法ハ罪ト刑トヲ定ムルモノニシテ別ニ之ヲ執行スル方法細目ヲ定ムルモノニ非ルナリ別ニ規則ヲ以テト云ヘル規則ハ則チ刑法附則監視規則等ノ如キモノナリ云フ

第二節 主刑處分

本條ハ主刑ノ處分法ヲ規定シタルモノニテ刑ノ言渡アリタル後其刑ノ始末方ヲ詳シク規定シタルモノナリ即チ死刑ハ絞首ストカ或ハ又獄内ニ於テ之ヲ行フトカ又ハ之等重罪ノ刑ハ司法卿(今司法大臣)ノ命令アルニアラサレバ之ヲ執行セズト云フガ如ク已ニ言渡シタル刑ノ處置方ト云フモ敢テ失當ニアラサルナリ

第十二條 死刑ハ絞首ス但シ規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ之ヲ行フ

古昔生命ヲ剝奪スルノ刑ニシテ磔刑火刑ヲ行ヒシモ方今其跡ヲ絶ツコト既ニ久シ絞トハ繩索ヲ以テ之ヲ縊殺スルモノニテ身首所ヲ完クスルモノナリ斬トハ近世誰新以て還用ヒシ所ノモノ利刀又ハ銳利ノ器械ヲ以テ項頸ヲ切斷スルモノニテ身首處ヲ異ニシ頗ル殘忍ノ

風アルモノトス故ニ近世斬テ廢シテ絞ノミヲ用ユルモノナリ今本條ヲ說明スルニ當テ要スル所ノモノハ斬テ廢シテ絞ヲ用ユルハ何故ナルカ又之ヲ公行セズシテ獄内ニ於テ之ヲ行フハ如何ナル理由ナルカヲ研究スルニ在リ乞フ試ミニ之ヲ論明スル所アルベシ

第一 絞ヲ用イテ斬ヲ廢シタルノ理由如何

歐洲ニ於テ絞ヲ用ユル理由ニ曰ク人ノ斬ニ依テ死スルヤ刎頸ノ後頭部ニ幾分ノ生ヲ保チ其死スルヤ遲シ故ニ斬ハ重シト蓋シ或ハ然ラン然レモ我國ニ於テ絞ヲ斬ニ廢セシ理由ハ斯クノ如キ故アルヲ以テニアラズシテ死後身首處テ異ニスルト然ラサルトニ依テ之ヲ分別セシモノトス今刑ニ處セラレシモノニシテ身首處テ異ニスル斬ト絞トノ身体完全ナルトヲ以テ之ヲ見ルルハ犯人ニ於テハ或ハ大差ナカル可シト雖モ親戚故舊ニ殘忍ノ感ヲ覺エシムルコト斬ヨリ甚シキモノナカラントス故ヲ以テ絞ヲ用ユルモノトス又絞ハ方法宜シキヲ得ルルハ忽チ死スルヲ斬ノ頭部ニ餘脈ヲ害スルカ如キ憂ナシト蓋シ方今各國ノ法律ニ於テ絞ヲ用ヒ斬ヲ用イサル以所ナリ

第二 死刑ヲ公場ニ決行セサル理由ニツイテハ所説最モ多シ第一説ニ曰ク公場ニ於テ之ヲ決行シ人ヲシテ目撃セシムルハ自然慘狀ヲ觀ルニ慣レ往々殘忍ノ所爲ヲ行フモノアリ故ニ之ヲ公場ニ於テセズト第二説ニ曰ク凡ソ刑ノ本旨タルヤ公衆ニ畏懼心ヲ發セシムルニアラズシテ自ラ鑑戒スル所アラシムルヲ以テ本旨トナスモノナリ死刑ノ決行ヲ見テ戒心スルハ刑ノ一結果ニ過キサルモノナリト

以上ノ所説皆テ大家ノ説ニ出ツ然レモ死刑ヲシテ公場ニ決行セシメサル以所ノモノハ殘忍ヲ極ムルノ弊ヲ避クンカ爲タルニ出ツルモノナリ若シ目撃セシムルハ殘忍ニ慣レ人々遂ニ惡所爲ヲ行フ可シト雖モ千人中一二ニ過ギス然レモ則チ他千人中死刑ヲ目撃

セシカ爲ニ邪念ヲ放鄭セシモノアルヤモ未ダ以テ知ル可ラサレバナリ之ヲ要スルニ刑ハ畏懼ヲ感セシムルヲ以テ本質トセズ人ノ畏懼心ヲ發スルハ刑ノ一結果タルニ外ナラサルナリサレバ之ヲ公衆ニ觀セシムルノ必要ナキナリ故ニ之ヲ獄内ニ於テ決行シ候リニ他人ヲシテ之ヲ觀セシメサルモノヲ以テ正當ノ解釋方ト謂ハサル可ラサルナリ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フヲ得ス

死刑ハ極刑ナリ一度ビ決行スルハ之ヲ取消ス可能ハサルモノナリ故ニ之ヲ行フニ當テハ最モ鄭重敬慎ヲ致サハル可ラズ死者復タ生ク可ラズ容易ニ決行ス可キモノニアラサルナリ死刑ニ於テハ裁判確定後司法大臣ニ書類一切ヲ差出シ司法大臣ノ命令ヲ待テ而後決行スルモノトス然レモ命令後猶ホ三日間ヲ猶預シ而後之ヲ執行スルモノトス

何ヲ以テ司法大臣ノ命令アルコトヲ要スルカ裁判確定シタル以上ハ司法大臣ト雖モ及之テ動ス可能ハズ必ズ之ニ命令ヲ下附スルヤ當然ナリ然レバ徒ニ時日ト費用ヲ徒消スルニ過ギサルノミト嗚呼又何ゾ妄言ノ甚タシキヤ司法大臣ハ特赦ヲ請フノ特權ヲ有スルモノナルヲ忘却シタルモノナリ人ノ一度ビ大罪ヲ犯スヤ其情欲ニ依テ一時ノ憤激ニ克ツ可能ハズ遂ニ殘忍ノ所爲ヲ行フト雖モ元ト天賦ノ良心アツテ存スルモノナレバ檢改ノ情アルヤ已ニ明ナリ當是時司法大臣爲ニ特赦ヲ請ヒ再ビ天日ヲ拜セシムルノ場合ナキヲ保シ難シ之ヲ以テ命令ヲ要スル以所ナリ

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

大祀令節國祭ノ日ニ死刑ヲ行ハサルモノハ公衆祝賀若クハ慶賀ヲ表ス可キ日ニ當テ獨リ被刑人ノ親戚ニ悲哀ヲ感セシムルハ人情ノ忍ビサル所ナルカ故ナリ
大祀トハ元始祭神嘗祭大祓ヲ云ヒ

令節トハ紀元節天皇節ナ云々
國祭トハ春秋皇靈祭等ナ云々

佛國刑法ニ曰ク凡ソ刑ノ執行ハ國祭又ハ教祭ノ日及ヒ日曜日ニ之ヲ爲ス可ラズト蓋シ何レ
ノ國ト雖モ前ニ三個月ノ場合ニ於テ刑ノ執行ヲ爲サザルモノハ又前記ノ理由アツテ然ルモノナ

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分
娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

刑ハ一身ニ止マルヲ以テ元則トス故ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執
行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經テ之ヲ執行スルモノトス

然レモ其懷胎ナルヤ否ヤハ人得テ之ヲ知ル能ハズ時ニ或ハ本人ト雖モ之ヲ知ル可ハサル
場合アルベシ故ニ刑法附則其第五條ニ本條ノ場合ヲ規定シテ曰ク婦女懷胎ト申スルモノハ
醫師及ビ穩婆ヲシテ之ヲ検査セシメ果シテ懷胎ナル時ハ檢察官ヨリ司法卿ニ上申シテ其執
行ヲ止メ産後一百日ヲ經テ之ヲ執行ス可シト蓋シ懷胎ノ子ニ刑ノ及ブテ避クシ立法者ノ意
ヲ推知ス可キナリ

産後一百日ヲ以テ刑ヲ執行スルモノハ何ゾヤ思フニ生子一百日ヲ經ルトキハ哺食生ヲ保ツ
可ク命ヲ續クコトヲ得可キヲ以テナリ

生子若シ百日内ニ死去セシキハ如何

此時ニ於ケルモ百日ヲ經ルヲ要スルモノトスルルキハ生子乳養ノ理由ニ背戻スル所アラント
ス何トナレバ百日ハ生子哺食續命ノ爲ニ要スル所ノ日子ナラズヤ然ルニ哺食ノ必要モナキ
ニ安リニ決行ヲ延バスハ其理由ニ背反スルモノアリ夫レ然リ然レモ之ハ立法論ノ域内ニ歸

及シタルモノニテ正文ヲ解釋セシモノニアラサルナリ何トナレバ分娩後一百日ヲ經ルニ
ラサレバ刑ヲ行ハズト言テ其生子ノ死去ノコトヲ言ハサルヲ以テ見ルルキハ百日ノ猶預ヲ與
サル可ラサルナリ若シ夫レ百日ノ猶預ハ婦女血行ノ未ダ整ハザルヲ以テ一百日ノ猶預ヲ與
フルモノトセバ猶ホコノ理アルガ如シ然レモ一日ノ日子ハ決シテ分娩後ノ婦女ヲ發ヒシ
モノニアラズシテ所謂君子好生ノ德ニヨルモノトスルルキハ生子ノ爲ニ設クシモノト知ル可
シ去レバ如設ヒ生子死スルモノ一百日間ハ之ヲ執行セサルモノトス
何トナレバ法律ニ規定アルヲ以テナリト答ヘサル可ラサルナリ

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス

但式ヲ用ヒテ葬ルコトヲ許サス

刑屍ニ及バサルヤ久シ一度ビ刑ヲ行ヒ生命ヲ斷チシ以上ハ法律ノ用死刑ニ全ク悉キ
テ遺ル所ナシ故ニ其屍ノ如キハ官ニ留メ置クノ要ナク之ヲ下附セサルノ必要ナキモノナレ
バ宜シク親戚故舊ノ之ヲ請フモノアレバ之ヲ下附セサル可ラサルナリ

古昔野蠻ノ時代ニ於テハ刑屍ニ及ビテ之ヲ山野ニ暴露シ甚ダ殘忍ヲ極メカリシカドモ今ヤ
文明又其跡ヲ留メズ大ニ事物ノ所ヲ得タルモノヲ喜バサル可ラサルナリ死者言ハズ苦痛感
スル所ナシ故ニ山野ニ暴露シテ豺狼ノ口腹ヲ肥シ海底ニ抛ツテ鰐魚ノ腹ヲ滿タシムルモ略
モ感スル所ナシ然レモ親于兄弟故舊ノ情ニ於テ之ヲ自ラ埋瘞スルト山野ニ於テ暴露スルト
二者ノ懸隔豈嘗穽管ナラシヤ刑屍ニ及バサルノ法理ハ進テ汚俗ヲ矯メ敗風ヲ正フス法律ノ
進歩セルモノト云フ可キナリ

式ヲ設ケテ葬ムルコトヲ許サザル以所ハ如何

死刑ヲ當行セラレシモノハ社會ノ大惡人ナルヲ以テナリ已ニ社會ノ惡人ナル以上ハ之ニ對

スル葬式モ又必ズ社會ニ憚ル所ナカレラズ若シ之ニ反シテ盛ニ葬禮ノ式ヲ行ヒ旗ヲ樹テ
香花ヲ捧ケ觀美ヲ衆人ニ示スカ如キ丁アラバ良民ヲシテ言フ可ラサル感覺ヲ惹起セシムル
ノミナラズ兇奸無賴ノ徒ハ動モスレバ惡念ヲ遂行スルノ端緒ヲ惹起スモ未ダ知レ可ラズ
況ンヤ裁判ヲ蔑如スルノ弊ヲ生スルニ至ラントス是ヲ以テ之ニ盛式ヲ許サハル以所ナリ
刑法附則第六條ニ曰ク獄司之ヲ下附スルコトヲ得ト本條ニ於テハ下附スト明言ス二者ノ同
シカラサル所アルハ何ゾヤ

蓋シ刑法ニ於テ之ヲ下附スト命令シタル以上ハ親戚故舊ノ請フモノアルトキハ必ズ之ヲ下
附セサル可ラズ豈獄司ノ之ヲ許否スルモノナランヤ

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス島地ニ發遣シ定役ニ服ス」有期
徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

〔註〕 徒刑トハ常事犯中死刑ニ繼グ所ノ刑ニシテ定役アルモノトス

コノ刑ニ限リ島地ニ送致シテ内地ニ置カサルモノハ主トシテ犯人ノ逃亡逃走ヲ防ギ一ハ良
民ノ安キヲ期望スルニ出ツルモノトス

若シ大罪人ヲシテ内地ノ獄ニ在ラシムルハ何時脱獄逸逃シテ再ビ良民ヲ害スルモ計リ難
シ故ニ之ヲ遠島ニ發遣シテ以テ惡習ノ念ヲ絶タシメ從ツテ自修ノ心ヲ發育セシムルモノト
ス

今本條ヲ詳論セントセバ左ノ三段落ニ分ツテ之ヲ論究ス可シ

- 一 島地發遣ノ利害
- 二 服役ノ利害
- 三 無期刑ノ利害

島地ニ發遣スルハ逃走ヲ防グニ依ルト雖モ之レ又劇ニ服スル能ハズ何トナレバ我北海道ノ
如キニ發遣スルカ如キハ開拓ニ從事スルノ益少ナカラズト雖モ逃走ニ對テハ之ヲ防グト言
可ラズ寧ロ逃走ニ便ナルモノト云フ可シ

内地良民ノ害ヲ防グト言フト雖モ之レ又俄カニ從スルコト能ハサルナリ内地ヲ去ラシムルハ
ハ内地ノ民安心スベシト雖モ島地ノ民ニ至テハ又害ヲ受クルノ恐レチ生ズ即チ一方ニ防ギ
一方ニ生スルモノニテ利害相半スト云ハサル可ラズ

犯人ノ身ニ取テ之ヲ見ルハ内地ニ在ルト島地ニ送遣セラルハトハ大ニ心思ニ關係スル所
アリ何トナレバ犯人ノ苦痛ハ内地ノ民ニ對シテ大ニ面目ヲ失ヒ大ニ恥ツ可キ點アルヲ以テ
内地ノ獄ニ在ルハ非常ニ其念頭ニ浮出スルモノハ内地ノ民ニ對スルノ名譽心ナリ然ルニ一
朝見モ知リモセメ島地ニ送遣セラルハ其島民ニ對スルノ廉恥心ハ内地ニ於ケルヨリモ
最モ淺薄ナラサル可ラズ故ニ少シク瑣理ヲ辨別シタラン者ハ皆悉ク内地ヲ去テ島地ニ趣カ
ン」テ期望ス如此ナレバ重大ノ刑人ヲ懲戒セシムルニ反テ寛大ノ方ヲ取ルニ至ラントス之
レ又島地發遣ニ弊アル所也服役ノモノタル犯者ヲシテ苦シマシムルニ出ヅ去レバトテ軟弱
ノ婦人ヲシテ百鈞ヲ負ハシムル能ハズ必ズヤ精力相當ノ役ヲ取ラシムルモノトス已ニ精力
相當ノ役ヲ取ラシムルモノトセバ何ゾ之ヲ指シテ苦痛ヲ覺エシムルト云フ」ヲ得可ケンヤ

人ハ常ニ勞動ヲ以テ社會ニ立チ逸遊安樂ニ居ルモノニアラサル可キヲ以テ平常相當ノ勞動
ヲ取ルモノトス然レバ其勞動ヲ以テ苦役ト言ハハ應分ノ義務ヲ苦役ト言フモノニシテ強ユ
ルモノト言ハサル可ラズ然レバ平人ハ平常爲ス可キ業ヲ爲サハルニ因ルモノ多シ故ニ之ヲ
シテ就業セシムルハ又一ノ刑ナルカ
無期刑ハ改惡遷善ノ刑ノ目的ニ背反ス何トナレバ八ノ過チ悔ヒ心ヲ改ムルモノハ他日社會

ニ立テ人ト齒伍セント欲スルニ由ル然ルニ願ミテ身ヲ思考スルトキハ終身天日ヲ見ルノ期
ナシ終身人ト齒スルノ期ナシ死シテ後チハ今考フル所ニアラス身ヲ終ルマテ世間ニ立ツ
能ハサルハ等テカ心ニ改惡遷善ノ心ヲ發起スルモノアラシヤ惡念益々增長シテ脱獄ヲ計
テ一日ノ安ヲ偷マン下ヲ望ミ越獄ヲ企テ身ヲ晦サン下ヲ希ヒ不其ノ心ヲシテ益々切ナラ
シムルモノアラントス

然レモコノ刑ナキトキハ有期ノ刑ト死刑ノミ遂ニ死刑ヲシテ多カラシムルニ至ラントス故
ニ又之ヲ廢ス可ラサルナリ無期刑ニテ假出獄免幽閉ノ法アリ以テ遷善ノ者ヲ俟ツ青天白日
ヲ見ルノ期ナキト言フ可ラサルナリ

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於テ定役ニ
服ス

徒刑ノ執行ニ二種アリ島地ニ發遣スルト否ヲサルト是ナリ

婦女ヲ島地ニ送遣セサルニ二理由アリ

一 脱獄ノ患ナシ

二 カ役ニ堪エス

婦人ハ骸質微弱ナリ容易ニ越獄ヲ計ルノ憂ナシ之ヲ以テ内地ノ獄ニ在ラシムル以所ナリト
ス

婦人ハ島地ニ發遣スルモ開拓等ノカ役ニ堪ユルハズ又之ヲ送遣スルモノトスルハ別
ニ女監ヲ設置セサル可ラズ實益ヲ計テ之ヲ内地ニ留ムルモノトス

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者通常ノ定役ヲ免シ其體力相當ノ
定役ニ服ス

老年ノ者ハ精力衰へ又少壯血氣ノ者ノ比ニアラズ故ニ是ヲシテ其精力ト相當セシム
ル定役ニ服セシムルモノトス六十才未滿ニシテ精力衰弱シテ少シモ役ニ堪ヘサルモノアリ
六十才以上ニシテ猶ホ壯年ノ者ノ如ク甚ダ勞カニ堪ユルモノアリ然レモ法律上推測シテ六
十才以上ノモノハ老体ニシテ衰弱ナルモノト假定シタルヲ以テ如設ヒ少壯ノ者ノ如クカ役
ニ堪ユルモノト雖モ定役ヲ免シテ寛假ス可キモノトス
本條ヲ解スルモノアリ曰ク老年者ヲ憐ムニ依ルモノニシテ壯年者ト均シキ腕カアルモ老年
ノ故ヲ以テ定役ヲ免ス可キモノナリト

又曰ク其高年ヲシテ定役ヲ免スルハ一ナリ然レモ其理由ヲ異ニシテ曰ク老年者ヲシテ定役
ヲ免セシムルハ法律上ノ推測ニ由ルモノニシテ其体力ノ強弱ニ付テハ反對ノ証據ヲ免ス
モノニアラズト是説可ナリ猶ホ廿年未滿ノモノハ智覺精神未ダ充分ナラズトノ法律上ノ推
測ニハ反對ノ証據ヲ免サ、ルモノハ如シ蓋シ老年者ハ衰弱ノモノト見做セバナリ

第二十條 流刑ハ無期有期ヲ分タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ服セス
有期流刑十二年以上十五年以下ト爲ス

流刑ハ國事犯ノ刑ニ用ユルモノニテ死刑ニ次ク最重ノ刑ナリ

本刑ハ最モ其宜シキヲ得タルモノトス何トナレバ國事犯ノ如キハ實際モ廣ク親戚ノ情モ深
ク夫ノ兇好無智ノ徒ノ如キモノニアラサルナリ之ヲシテ内地ニ在ラシムルハ殘覺ノ通謀
アリ反獄ノ患アリト雖モ島地ニ送遣スルトキハ之等以上ノ憂ヒテ防ギ以テ一ハ苦痛ヲ感セ
シムルハ最モ深シ凡ソ國事犯者ハ道徳上ヨリスルモ法律上ヨリ論スルモ深ク咎ム可キモノ
ニアラズシテ其目的ニ至テハ實ニ志士ヲ本務ヲ尽スモノト謂フ可シ然レモ社會刑罰權ノ存
在スル以上ハ政府ハ被害者ノ位置ニ立テ痛ク之ヲ資罰スル者ナリ夫レ然リ然レモ元ト名譽

ナ重シ事時ヲ看破スルノ志士ナルヲ以テ島地ニ送遣セラルト時ハ大ニ痛苦ヲ感スル所アルベシ已ニ苦痛ノ以テ感スルモノアリトスルハ別ニ定服ヲ設ケテ之ヲ苦シマシムルヲ要セズ幽閉無聊スルニ足レリトス是ヲ以テ島地ニ送遣シ幽閉シテ定役ニ服セシメサル以テ所ナ

第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ住居セシムルヲ得有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者又同シ

附則 國事者ヲ重大ナルモノハ之ヲ無期ノ流刑ニ處シ島地ニ送遣シテ幽閉スルモノトス蓋シ犯人ノ再犯ナキヲ預防シ苦痛ヲ與ヘテ之ヲ懲戒スルニ出ツサレドモ前已ニ無期刑ヲ解スルニ當テ之ヲ論究セシカ如ク大ニ刑罰ノ目的ニ背反スルモノアルヲ覺知ス何トナレバ再犯ヲ懲スニ出ツルト雖モ犯人ハ無期ノ刑ナリ終身ノ刑ナリ再犯ハ出獄セズシテ犯シ得可キモノニアラサレバナリ懲戒ニ出ツルトセンカ懲戒ハ他日ヲ預想スルモノナリ犯者ハ終身入獄セサル可ラサルノ身トナレリ他日ニ懲ル可キ目的アラシヤ

如斯キ無期刑ニハ刑ノ目的ニ背クモノアリト雖モ又遷善ヲ待ツノ法律ナクンバアラズ之レ本條居住セシムルノ自由ヲ得セシムル以テ所ナリ

凡ソ兇奸不良ノ徒ハ管ニ勞動ノ苦役ニ由テ其前非ヲ悔ユルノ場合ナキニアラサレハ元是レ外物ノ刺衝ニ依テ來ル所ノ改悟ナレバ外物ノ除却ス可キハ亦不良心ノ發生スル所多シ然レハ國事犯者ノ如キヲ以テ之ヲ見ルハ政体ニ平ナラサル心ヲ抱キ意見ヲ廟堂ノ大臣ト異ニシ旨聽カレズ意行ハレズ止ムテ得ズシテ之ヲ干戈ニ訴ヘ政柄ノ歸スル所ヲ馬上ノ勝敗ニ試ミントセシモノナリ即チ社會ノ幸福安寧ヲ希望シ餘熟之ニ至レルモノナレバ其心情ノ大

ナルト又憐ム可キ所アル夫ノ殺伐放火ノ如キ兇奸ノ徒ト日ヲ同シテ語ル可ラサルナリ已ニ斯ノ如キノ差異アルヲ以テ一朝幽閉ノ苦痛及ビ前後考察スル所アルトキハ直ニ良心悔悟シ深ク前非ヲ考察スル所アルベシ當是時テハ幽閉ヲ免シテ島地ニ住居セシムルヲ許シ以テ幾分ノ自由ヲ許シタルモノトス

第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ

重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス

附則 懲役ハ徒刑ニ次ク常事犯ニ用ユル刑ナリ重懲役ト云ヒ輕懲役ト言フモ只ダ刑期ニ長短アルノミニシテ他ニ異ナル所ナキモノトス

此等ノ刑ハ別ニ島地ニ發遣スベキノ必要ナク重罪犯ノ輕キモノナルヲ以テ内地ノ獄ニ入レテ定役ニ服サシムルモノトス

其六十歳ニ滿ツルモノハ定役ヲ免シテ相當ノ刑ニ服サシムルモノトス

第二十三條 禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

附則 禁獄ハ國事犯ノ重罪ニ用ユ可キモノナレドモ流刑ニ比スレバ稍輕ク其刑期ハ長キモ十一年ニ出テス短期ハ六年ナリトス

内地ノ獄ト雖モ集治監ニ幽閉スルモノトス

本條ニハ其六十歳以上ノモノヲ言ハズ之レハ定役ニ服スルノ義務ナキヲ以テナリ

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定

役ニ服セス

禁錮ハ重輕ヲ分タズ十一月以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ
其長短ヲ區別ス

禁錮ハ輕罪ニ用ユルモノニシテ重罪ノ二種アルモノトス重禁錮ハ定役アツテ破廉恥
ノ甚シキモノ即チ通常犯ニ之ヲ用ヒ輕禁錮ハ破廉恥ニ涉ルモノ少キ國事犯ノ輕罪ニ之ヲ用
ユルモノトス

禁錮ノ刑期ハ五年ヲ以テ長期トナシ重罪ノ懲役輕禁錮ハ短期ト一年ヲ差アルノミ又之レガ
短期ハ十一月ヲ以テシ違背罪ノ拘留ノ長期ト一日ヲ隔テ以テ之レガ區別ヲナスモノトス
重罪ノ刑ニ於テハ各本條ニ長短ヲ區別ナシト雖モ禁錮ハ各條ニ其長短ヲ區別シ總則ニ於テ
只ヌ最長短ノ範圍ヲ示セシニ過ギサルナリ

重禁錮ニ定役アルハ此刑ニ當ルモノハ破廉恥罪ヲ犯シタルモノニテ教育モ少ク又道徳ニ乏
シキモノナリ故ニ輕禁錮ノ如ク終日端座スルガ如ク無爲ノ刑ニテハ少シモ苦痛ヲ感セス反
テ安樂ヲ欣ブモノナキニアラズ故ニ之ヲシテ一定ノ役ニ服セシメ以テ其惡念ヲ絶シムル
モノトス

輕禁錮ハ常ニ事理ニ通曉シ能ク道徳ノ何者タルコトヲ知ルモノナレドモ一朝ノ怒ニ乘シ又ハ
強國ノ切ナルヨリ來ル如キ者ニテ大ニ異ナル所ノモノアリ此等ハ定役ヲキモ入獄ノ名譽ヲ
傷ケルヲ知り心術ヲ懲戒スルニ足ルモノアルヲ以テ之ヲ輕禁錮ノ無定役ニ苦痛ヲ與フルモ
ノトス

第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ
獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與ノ

限リ在ラズ

本條ハ犯人ノ利益ヲ計ルニ出ツル者トシ何トナルハ罪ヲ犯シテ入獄スルモノハ心程
ノ兇惡ナルモノナレバ之ヲ感化シテ以テ善良ノ民タラシメサル可ラズ故ニ獄内教場ヲ設置
シ教師ヲ招キ朝夕教育ヲ受ケザムルモノトス其他説教所アツテ同伴ヲシテ之ヲ掌ラシム如
此ナルヲ以テ工錢ノ幾分ヲ其費用ニ供セサル可ラズ

然レモ悉ク之ヲ收入スルハ犯人ノ滿期放免ノ片ハ旅費ニ差支エ或ハ營業ノ資本ニ乏シク
遂ニ犯罪者タルニ至ル之ヲ以テ其幾分ヲ犯者ニ給與スル以所ナリ
百日以内ハ給與セズトハ如何ナル理由ナルカ
論者アリ曰ク百日以内ハ短期ノモノハ放免以後主雖モ就業スルニ難カラズ又給與スルモ其
金額少キナルヲ以テ就業ノ資トナスニ足ラズ又囚人百日以内ハ業ハ未ダ熟セズシテ得ル所
出費ヲ償フニ足ラズ蓋シ此理由ニ依ルルヲ以テ今日ハ定論トナレリ

第二十六條 罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別
ス

罰金ハ輕罪ノ主刑ニシテ二圓以上ヲ以テ罰金トシテモソナルコトハ已ニ之ヲ説ケリ
然レモ多數ハ未ダ定限アルコトナシ其本條ニ於テ多數ヲ定ムコト云ヘルモノハ只ダ其罪ニ適
用スル多數ヲ規定シタルニ止マサルモノトス
罰金ハ財産ニ及ブ刑ニシテ格別効用アル可キモノニアラサルナリ何トナレバ罰金ヲ科セラ
ズトナリ前知シテ以テ之ヲ犯シ猶ホ利益ヲ計ルモノアルカ如キ之ナリ酒酒規則ノ如キ之ナリ
罰金ヲ納完セサル前犯人死スルハ如何
裁判已ニ確定スル前相續人ヨリ納完ス可キモノノ如クナレバ決シテ然ラズ刑ハ一身ニ止

ナル者ナレバ犯人身死スルハ罰金モ又消滅ス可キモノトス
 刑法附則第二十條ニ曰ク
 罰金科ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スルハ之ヲ徵收セズ附加シ罰金
 ニ於ケルモ又同シト定メタルヲ以テ知ル可キナリ
 蓋シ罰金ノ最多額ハ幾百萬圓ニ涉ルモ知可ラサルヲ以テ(第百九十三條)定限スルニ由ナシ
 ト雖モ刑法中最モ多キモノハ第二百七十五條ノ罪ナリト知ル可シ

第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内
 納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿
 サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判
 官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過ルヲ得ス若シ禁錮限内罰金
 ナ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他
 ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

凡ソ刑ハ裁判確定スルニアラサレバ執行スル能ハサルヲハ一般ノ元則ナリトス本條
 罰金ニ於ケルモ又然リ裁判確定ノ日ヨリ起算シテ一日内ニ納完セシムルモノトス若シ一月
 内ニ納完スルヲ能ハサルモノハ一圓ヲ一日ニ算ヘテ實決即チ禁錮ノ刑ニ處スルモノナリ若
 シ三圓五十錢ノ如キ余數アルモノニテ一圓ニ滿タズト雖モ一圓ト同シク一日ニ換フルモノ
 トス

前項ノ場合ニ於テ罰金ヲ禁錮ニ換フルトキハ宣告書ヲ造ラズ只ダ檢察官ノ請求アルハ裁
 判官其請求ニ應シテ換刑ノ命令書ヲ檢察官ニ交付ス可キモノトス此換刑ノ處分ニ於テハ二

年ノ上ニ出ツルヲ能ハサルモノトス

已ニ換刑執行中罰金ヲ納完シタルモノアルトキハ已ニ執行シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免
 セラル可キモノトス如設ヘバ十圓ノ罰金言渡チ受ケ納完スル能ハサルヲ以テ換刑ノ處分ヲ
 受ケ十日ノ輕禁錮ニ處セラレタルハ已ニ四日間執行シタル罰金拾圓ヲ納完シ來ルハ四日
 ナ扣除スルヲ以テ即チ四圓ヲ返シ六圓收受シテ禁錮ヲ免スモノトス

罰金ハ親族ヨリスルモ代人ヨリスルモ差支エナキモノトス
 今罰金處分ニ付テ必要トスル所ヲ掲クレバ左ノ如シ

第一 確定ノ日ヨリ一月内ニ納ムル
 一月内ハ其金錢ヲ得ル方法中ニ在ルモノナレバ一月内ハ徵收スベキノ權ナキモノトス若
 シ一月内ニ他管轄ニ移住スルハ其裁判所ニ納ムルモ可ナリ

第二 換刑
 換刑ハ檢察官ノ請求アルトキハ之ヲ命令ス可シト雖モ犯人ノ請求ニ依テ檢察官容易ク裁
 判官ニ請求スルモノニアラズ凡ソ罰金ハ政府債主ノ位置ニ立ツモノナレバ之ヲ徵收スル
 ナ以テ本則トス若シ資力ナキハ財産ヲ公賣スルモ檢察官ノ權内ニ在ルモノトス故ニ之
 ナ請求スルト否トハ檢察官ノ無資力ナルヤ否ヤヲ知悉シテ而後自ラ裁斷所ニ依ルモノト
 ス

二年ヲ超ユルヲ得サルモノハ禁錮ノ刑ト同シキニ至ルノ恐レアルヲ以テナリ數千年ノ罰
 金ナルハ三年若クハ四年五年ノ輕禁錮ニ至ル斯クテハ罰金ノ輕キニ處シタル効用ナキ
 ニ至ルヲ以テ之ヲ二年ニ限定シタルモノトス

第三 命令

命令ハ裁判官ノ命令ニシテ上訴スルコトヲ得キモノニアラズ又輕禁錮ナルヲ以テ定役
アラサルモトス又罰金ニ代テ之ヲ納完スルモ差支エナシト雖モ換刑ハ本人ニ非レバ命
スルコト能ハサルヲモトス

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セズ其刑期ハ一日以上
十日以下ト爲シ尙各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

拘留ハ送醫場ニ刑ヲシテ拘留所ニ留置シ定役ニ服セサルモトス其刑期モ至テ短少
一日以上十日以下ト爲シ

送醫場ハ取締上必要ヨリ成ル所ノモノニシテ府縣知事又ハ警視總監適宜ニ之ヲ其期限リ
定ムルコトヲ得キモトス

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢以下ト爲シ仍各本條ニ
於テ其多寡ヲ區別ス

本條ニ於テ前條ト拘シテ違背罪ノ主ニシテ其性質ニ至テハ罰金ト同シキモノナリ

本條ノ科料ヲ言渡シ及ビ拘留ノ刑ニ處スルノ併科アル件モ科料ハ附加刑ニアラズシテ主刑
ニ併科スルモノナリ

科料ハ少數五錢ニ始メ多數一圓九十五錢ナリトス罰金ノ少數二圓ト區別シタルモノナリ
第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納
完セサル者ハ第七十條ノ例ニ照シテ之ヲ拘留ニ換フ

本條ハ科料金ヲ納完期限及ビ換刑法ヲ定メタルモノニテ方ニ罰金ノ處分ト大小長短
ノ區別アルモノナリ

罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシムルヲ以テ元則トシ若シ納完スル能ハサルハ
之區別アルモノナリ

禁錮ニ換フルモノトス然ルニ科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシムルヲ以テ本則ト
ス蓋シ科料ハ其金額ノ少ナキヲ以テ之ヲ納完スルモ又罰金ハ如ク雖ガテハ以テ之ヲ換
留ニ換フルハ違背罪ノ實決ニ處スルモノニテ是又凡テ禁錮ノ場合ト同シキ性質ヲ在スル
モノトス

第三節 附加刑處分

附加刑ノ何者タルコトハ前已ニ之ヲ論ゼリ今ヤ附加刑ノ處分ニ違ゼル形ヲ附加刑
云ヘルモノハ主刑ノ不足ヲ補佐スルモノニシテ主刑ノ發生ト共ニ起ル所ノモノトスコ
ノ附加刑ニハ必ズ宣告ヲ要スルモノナリ然ラバ刑罰ノ期滿免除ヲ得ルモノハ否テサ
ルモノアリ或ハ其罪ニ特有ナルモノアリ又ハ三罪ニ普通加ルモノアリ必ズ一定ナル可キモ
ノニアラズト雖モ而カモ附加刑ノ目的ニ至テハ少シモ其大ナル所ナキモノト爲ス

第三十一條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

- 一 國民ノ特權
- 二 官吏ト爲ルノ權
- 三 勳章年金位貴號恩給ヲ有スルノ權
- 四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權
- 五 兵籍ニ入ルノ權
- 六 裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スル者此限ニ在
ラス
- 七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニ爲ルハ此限
ニ在ラス

八分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權
九學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

剝奪公權ハ權利又ハ能力ノ上ニ加フル所ノ加辱ノ刑ニシテ國民ト違スルコト能ハサ
ラシムルノ刑ナリ此ノ刑タル無期ニシテ期滿免除ヲ得ル能ハサルノミナラズ宣告ヲ用イズ
シテ重罪ニ當然附加スル附加刑ナリトス此ノ刑ノ性質ニ於テ見ルハ大ニ刑罰ノ主旨ニ反
スル所ノモノアルカ如シ請フ試ミニ之ヲ論セン
改過遷善ヲ以テ刑罰ノ一大目的トナスコトハ皆ナ人ノ許ス所ナリ人ノ罪ヲ犯スヤ一時ノ忿
怒ニ乘シテ犯スモノアリ又情義ノ奴隸トナルモノアリ之レ等ハ犯罪後大ニ覺悟スル所アル
モノ多クシテ惡念ノ愈々増長シテ底止スル所ナキモノハ殆ンド稀ナリトス夫レ然リ然レハ
之等犯罪者ノ身ニ取テ考フルトキハ大ニ惡志ニ背クノ反對ヲ來タスアラントス何トナレ
ハ終身世人ト齒スルヲ得サルヲ以テ遂ニ改過ノ念ヲ去ラシメ善ニ遷ルノ思ヒヲ絶タシムル
是ナリ況ンヤ此刑ハ原因結果ノ相同シカラサルモノアリ人ヲ殺シタル重罪者ニ共有財産ヲ
管理スルノ權ヲ奪ヒ國事犯者ニ裁判所ニ出テ、証人トナルノ權ヲ奪フカ如キハ大ニ結果ノ
同シカラサルモノト云ハサル可ラサルナリ
然レハ無期刑ナレバトテ大赦復權特赦ノ法アリ又改過遷善ノ者ヲ待ツモノト言フ可シ其殺
人犯ニ財産ノ管理權ヲ奪ヒ國事犯者ニ証人ノ權ヲ奪フカ如キハ洵ニ因果ノ相應セサルモノ
ニテ事理貫徹セサルモノト言フ可シ
以上ハ剝奪公權ノ性質効果ニ就テ一言シタルノミ先ツ本條ノ解釋ニ及バントスルニ臨ミ預
メ公權ノ何者タルコトヲ解得セサル可ラズ此ノ公權其者ニシテ明瞭ナルハ之ヲ剝奪スル
ノ可否自ラ釋然タル所アル可シ

公權トハ私權ノ反對ニシテ政權ニ參與スルノ權ナリト言ハサル可ラズ然ルニ今本條公權ヲ
剝奪スト旨ヘル部ニ第七以下ノ私權ヲ摠列シテ以テ公權ノ部分ニ列記セリ然レハ正直廉、
ノ者ニ非レバ行フコト能ハサルモノナルヲ以テ此ヲ剝奪公權ノ部ニ特書セシモノナル歟
一 國民ノ特權トハ國民タルノ資格ヲ有スルヲ特權アルモノヲ云フ語ヲ換ヘテ之ヲ言ハ深
國民ニアラサルモノ即チ外國民ニハ之ノ權ナキモノト言フ可キナリ國民トハ如何ナルモ
ノヲ言フヤハ民法ノ規定ナキヲ以テ未ダ知ルニ由ナシト雖モ蓋シ日本人ノ親族ヨリ出テ
タルモノハ日本國民ニ相違ナカル可シ
此等國民ノ特權トハ即チ現今ノ府縣會議員ヲ撰舉シ及ビ撰舉セラレ、權ノ如シ土地所有
ノ權買買ノ權内地通行ノ權國字新聞記者トナルノ權等ハ外國人ノ得テ行フ能ハサル權ナ
ルヲ以テ外國人ニ對シテハ或ハ特權ト言フ可キカ如シト雖モ決シテ公權ニアラズシテ私
權ニ屬スルモノナリ土地ヲ所有シ賣買シ内地ヲ通行シ國字新聞ノ記者トナルカ如キハ他
日重罪犯ノ滿期放免後ハ勝手ニ爲スコトヲ得可キモノトス
今皮市制町村制ノ發付ニナリシ市會及ビ町村會ノ議員トナリ又ハ之ヲ撰舉スルカ如キハ
取りモ直サズ國民ノ特權ナリトス
井上正一氏刑法講義ニ曰ク代官人トナルノ權モ國民ノ特權中ニ入ル可キモノト言フモ不
可ナルコトナシト余モ然ク考量スルモノナリ
二 官吏ト爲ルノ權
官吏ト爲ルノ權ト言ヘハ將來ノコトヲ言ヘルモノ、如クナレハ決シテ然ラズ輕罪ノ刑ニ處
セラレタルモノヌラ猶ホ且ツ現任ノ官職ヲ失フモノナレバ現任ノ官ヲ失フハ元ヨリ其當
然ナリトス官吏トハ上奏勅任官ヨリ下判任官ニ至ルマテ凡テ等内等外等ノ如キモノ及ビ

雇ト稱スルモノモ汎稱スルモノトス蓋シ俸給ヲ受テ公務ヲ執ルモノハ官吏ト稱シテ不可ナルコトナカル可シ然レ正御雇ト稱スルモノハ此限ニアラサルナリ

三 勳章年金位記賞號恩給ヲ有スルノ權

勳章トハ一等ヨリ八等ニ至ル勳位ニテ大綬章小綬章從軍記章皆此内ニ包含スルモノトス之ヲ剝奪スルハ賞牌モ返納セサル可ラズ勳狀モ收奪セラルトモノトス
年金トハ文武官ノ勳勞アルモノニ與フルモノニシテ即チ政府ヨリ年々與フルモノト知ル可シ

位記トハ從九位ヨリ正一位ニ至テ止ム十八等ノ位階ヲ云フ（明治廿年叙位條例ヲ定メテ正一位ヨリ從八位トナセリ）

貴號トハ皇族華族士族ノ稱號ヲ云フ

恩給トハ恩典ヲ以テ官ヨリ給與スル所ノモノニシテ陸海軍ノ恩給令其他文官恩給令ヲ云フ

四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

外國ヨリ受クル所ノ勳章ナルヲ以テ我政府之ヲ剝奪スルコトヲ得ズ然レドモ之ヲ佩用スルコトヲ許否スル政ノ權我府ニ在ルヲ以テ又剝奪スルコトヲ得可シ

重罪犯ニシテ此ノ佩用權ヲ剝奪セラルト以上ハ我國ニ於テハ之ヲ佩アルコト能ハサレドモ外國ニ至テハ自由ニ之ヲ佩用スルコトヲ得可シ何トナレバ外國ニ於テハ之ヲ佩用スルコトヲ禁セサレバナリ

五 兵籍ニ入ルノ權

兵籍ニ入ルノ權トハ兵士トナリテ國ヲ防衛スルモノニテ即チ國民最大ノ義務ナリ故ニ大

罪人ヲシテ斯ル邦國防衛ノ重大ノ權利義務ヲ執行セシムルハ大ニ安ス可カラサル所ノモノアリ故ニ之ヲ剝奪スルモノトス

第六 裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權

裁判所ニ於テ證人ト爲リ事實ヲ陳述スルハ重大ノ權ニシテ爲ニ犯人ノ有無罪ノ分ルノ所ナリトス然レバ即チ一方ニ於テハ其冤ヲ雪クコトアル可ク社會ノ爲ニハ害ヲ除ク可キ國民ノ義務ナリ然リ而シテ今之ヲ剝奪スルハ如何ナル結果ヲ來タス可キヤ刑餘ノ故ヲ以テ之ヲ證人トナス能ハサルハ犯人ハ冤罪ニ陥ルコトアル可シ即チ刑餘ノ人ノ能力ニ制限ヲ與ヘテ間接ニ犯人ヲ害スルモノナリ豈又社會民人ノ爲ニ一大不幸ト云ハサルヲ得ンヤ今此ノ者ヲシテ證人タラシメサル理由ヲ考フルハ蓋シ左ノ如シ

重罪ヲ犯シタルモノハ誠實ノ事ヲ陳述スルモノニアラズ又証人ハ裁判ノ幾分ニ關係スルモノナリ裁判所ハ公明正直ヲ以テ大主官トナス所ナリ今言ノ信スベキナキ刑餘ノモノヲシテ陳言セシムルモ事ニ益ナシト嗚呼又何ゾ思ハサルノ甚シキヤ

証言ノ採ルト否トハ一ニ承審官ノ權内ナリ刑餘ノ人ト雖モ採ル可キコトハ之ヲ採ル可ク通常ノモノト雖モ必ズ其言ヲ取ル可キモノニアラズ然レバ即チ直ニ刑餘ヲ名トシテ之ヲ擯クルハ大ニ事ニ害アルモノト云可キナリ

然レモマタ一方ヨリ考フルハ正直ノ者ニアラズトノ推測ヨリシテ之ヲ擯クルモノナレバ決シテ一概ニ論シ去リ難キモノアリ宜シク注意ス可キナリ

七 後見人トナルノ權

後見人ハ最モ正直廉潔ヲ要ス今刑餘ノ人ヲシテ後見タラシムルハ幼者ノ爲ニ危フシトノ想念ナカル可ラズ但シ血族親ノ許ヲ得タルハ差支エナキモノトス此ノ場合ニ於テ

ハ親族ノ許可ヲ危險ノ恐ナシト想像スベクレバナリ

八 分散者ノ管財人トナリ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權
管財人トハ身代限ヲ爲ス者ノ爲ニ其財産ノ管理ヲ爲スモノニシテ最モ又正直ノ人タル可
キヲ要ス管理者ハ會社ノ財産又ハ共有物ノ管理ヲナスモノニシテ其責任最モ重キモノト
謂ハサル可ラズ何トナレバ是等ノ者ハ所有者ニ代テ財産ヲ衆債主ニ分配シ又ハ公費スル
等財産處分ノ全權ヲ有スルモノナレバ善良方正ノ人ナラサル可ラサルヤ更ニ言ヲ要セサ
ルナリ

九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

人ノ社會ニ立ツヤ種々アリト雖正要スルニ智愚ノ二者ニ因テ大ニ貧富ノ懸隔ヲ來タス智
愚トハ何ゾヤ少時ノ教育如何ニ依ルノミ夫ノ幼年ノモノタル思慮未タ確カナラズ常ニ人
ノ行爲ヲ見テ以テ直ニ之レニ走ルモノナレバ薰陶ノ良否ハ幼者教育ノ岐ル所誘掖ノ良
否ハ善タリ邪タルノ分ル所ナリ教師ノ任又重カラズヤ

如斯ナルヲ以テ其人ヲ精選セサル可ラズ今犯人ヲシテ之ニ當ラシムルハ其行ヒ常ニ邪
曲ニ出テ、善良ニ趣カズ大ニ人ヲ導スルニ至ル之ヲ以テ是ニ教育ヲ委セサル以所ナリ

第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公
權ヲ剝奪ス

重罪ノ刑ニ處分セラレシモノハ別ニ宣告セズトモ當然公權ヲ剝奪スルモノトス其公
權ノ一ハ前已ニ說明シタルカ如ク即チ第一ヨリ第九ニ至ル諸權ヲ剝奪ス可キモノトス然レ
正右諸權中少シモ犯人ニ痛苦ヲ覺ヘシメサルモノアリ兵籍ニ入ルノ權ハ人ノ常ニ忌ム所ノ
モノニシテ此權ヲ奪ヒ去ラルトテ少シモ苦痛ヲ感セザルノミナラズ或ル部分ノモノニ於

テハ反テ大ニ欣ブ可キモノアリ又一方ヨリ之レヲ見ルニ國事犯ノ重罪ニ處セラレタル者ヲ
シテ証人ノ權ヲ奪フガ如キモノソノ刑ト結果チ同フセサルモノアリ

死刑ニ處セラレタルモノニハ公權剝奪ノ必要ナシト云ヘルモノアリト雖正決シテ正論ニア
ラサルナリ死刑ノ宣告ノアリト雖正直ニ執行ス可キモノニアラズ又期滿免除及ヒ特赦ニ依
テ主刑ノ執行ヲ道ルコトモアル可シ斯ル場合ニ於テ如何シカ之ヲ處スヘキヤ直ニ公權ヲ
執行セシムルハ遂ニ弊害百出スルノ怖レアリ必ズヤ附加刑ノ必要アルモノトス

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職
ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フヲ停止ス

禁錮ノ刑ニ處セラレタルモノハ別段宣告書ニ現任ノ官職ヲ失フモノナルコトヲ記載
セズトモ無論之ヲ失フモノト定メシモノナリ

停止公權ハ新法ニ規定シタルヲ以テ始メテ之ヲ知ルカ如キノ觀アルベシト雖正決シテ然ラ
ズ凡ソ人罪ヲ犯シテ獄中ニ在ルヤ自由ヲ拘束セラレテ一定ノ規則ニ支配セラルトモノナリ
故ニ公權ヲ行フコト能ハサルヤ元ヨリナリ然レドモ獄中ニ在テ又公權ヲ行フコト能ハサル
場合ナシトモ言フ可ラス夫ノ選舉權ヲ行ヒ時ニ或ハ証人トナリテ裁判所ニ出ツルカ如キモ
實際行ヒ難キモノニアラサルナリ故ニ之ヲシテ判然入獄中ハ公權ヲ行フコトヲ停止スト旨
ヒシ以所ナリ

年金權恩給貴位記ノ如キハ停止ト旨フ能ハサルモノアリ何トナレバ之等ハ常ニ行フ可キ
モノアラズシテ入獄中ハ年金ヲ受取ラズ之ヲ政府ニ領置スルニ過ギス其外ノ諸權ノ如キハ
期滿ノ後ハ皆之ヲ佩用シ之ヲ維持スルノ權アル可キヲ以テナリ

第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス

監視ノ期限間公權ヲ行フヲ停止ス
主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者亦同シ

輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノハ其監視中ハ公權ヲ行フコトヲ停止スルモノトス重罪ハ終身公權ヲ奪フモノナルヲ以テ之レガ規定ヲ要セザレモ輕罪ニ至テハ然ラズ刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ストアルヲ以テ即チ監視執行中ト雖モ又刑期中ナレバ無論執行中ノ刑ナレバ公權ヲ停止ス可シト雖モ監視執行中ト雖モ解スルモノアルヲ以テ殊更ニ監視中云々ト明定シタルモノトス

前項ニ於テ禁錮ニ處セラレタルヲ以テ現任ノ官職ヲ失フコト元ヨリナリト雖モ本條ニ於テハ主刑ヲ免シ只ガ監視ノミナ科スルコトアルヲ以テコノ監視ノ執行ヲ了リタルハ現任ノ官職ニ復スルコト勿論ナリ然レモ監視執行中ハ刑期間ナルヲ以テ公權ヲ停止スルモノトス
第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルヲ禁ス

本條ハ重罪ノ主刑中自ラ財産ノ處分ヲ爲スコトヲ禁スルモノトス故ニ主刑ノ終リタルハ監視中ニ在ルト否トナ論セズ財産ヲ治ムルコト自由ナリトス
凡ソ禁治産ハ財産ニ對スル能力ヲ停止スルモノニシテ主刑中ハ實ニ弊害ノ恐ル可キアルヲ以テナリ今財産ヲ治ムルヲ禁シタル理由ヲ擧クレバ左ノ如シ

- 一 刑ノ効用ニ害アリ
 - 一 賄遺ヲ以テ脱獄ヲ圖ルノ弊アリ
- 人ナシテ獄中ニ呻吟セシメ依テ以テ自由ヲ得サラシムルハ即チ刑ニ懲改ノ性質アルヲ以テナリ若シ夫レ刑罰ニシテ此ノ如キ性質ナカランカ兇奸猛惡ノ徒ハ何ニ依テ改過移善ノ心ヲ

起サンヤ苦痛ヲ與フルハ刑罰主ノ要ナルモノト云フモ決シテ失當ニアラサルナリ故ニ主刑中ハ財産ノ處分ヲ缺カシメ又公權ノ剝奪又ハ停止ノ如キ皆ナ苦痛ヲ與フルニ出テシモノナリ如此ナラズンバ刑ノ効用ナク人々獄中ニ在テモ少シモ不自由ナク動モスレバ安逸ヲ欣ブノ惡徒アツテ入獄ヲ希望スルモノヲ生スルニ至ラントス之レ本條ヲ設定シタル理由ノ一ナリトス

- 若シ財産ヲ治メシムルハ金錢ヲ遺テ獄吏ニ處分ノ寛假ヲ計ラシメ遂ニ脱獄ヲ圖ル等ノ恐レチ生スルニ至ラントス蓋シ之等ノ理由ヨリ出タルニ外ナラサルナリ
- 主刑ノ終リタルヨリ云々トハ如何ナル場合ヲ云ヒシモノナルカ主刑ノ終ルニ種々アリ今刑法案按第六十八條 主刑及ヒ附加刑ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス
- 一 刑ノ執行終リタル時
 - 二 本犯死去シタル時但已ニ宣告シタル罰金科料收收ハ此限ニ在ラズ
 - 三 數罪俱發一ノ重キニ從フタル時
 - 四 將來ノ新法ヲ以テ刑ヲ廢止シ及ヒ減輕シタル時
 - 五 治罪法ノ規則ニ從ヒ再審ヲ以テ前判ヲ廢シタル時
 - 六 期滿免除ヲ得タル時
 - 七 復権ノ許可ヲ得タル時
 - 八 赦典ヲ以テ刑ヲ減輕シタル時
 - 九 大赦常赦特典ヲ以テ免シタル時
- 刑ノ消滅ノ原因以上ノ九個アリ此時ニ際スルモ依然トシテ財産ヲ治ムルコト能ハザルモノナ

ルカ凡ソ期滿免除ニ於テ刑ノ免除ヲ得ル間ハ財産ヲ治ムルコト能ハサルカト云フニ在リ
 以上ノ解釋ニ依テ堀田宮城ノ二氏其説ヲ異ニセリ
 堀田氏曰ク抑モ犯人ノ自ラ財産ヲ治ムルヲ禁セシモノハ犯人ニ快樂ヲ取ラシメズ刑罰ノ苦
 楚ヲ感セシムルニ在リ然レモ犯人逃走シテ主刑ノ執行ヲ逃レタルモノニハ之レ等ノ苦楚ヲ
 感セシメ又快樂ヲ取ラサラシムルノ必要ナシ如設ヒ之レアリトスルモ犯人ハ他ニ在テ自由
 ニ之ヲ處分シ得モ禁制シ得ラレトモニアラズ又財産ノ處分權ナクシバ一日モ生命ヲ維持
 スルコト能ハズ故テ以テ期滿免除ニ至ル間ハ財産處分權アルモノナリトス
 宮城氏曰ク若シ死刑決行ニ至ルマテノ間又ハ主刑ノ期滿免除ニ至ルマテノ間ニ於テ他人ト
 契約ヲ結ブカ如キアルモ即チ禁治產ヲ犯シタルモノナリ其契約タルヤ無効ナリ故ニ其
 取消ヲ請求スル權ハ受刑者其管理人及ビ受刑者ト結約シタル者ニ屬シ又檢察官ニモ取消ノ
 權アルモノナリト
 二氏ノ所說正ニ相反ス極極ト消極ノ二説ニ出ツ余ハ堀田氏ノ説ニ賛成スルモノナリ
 何トナレバ主刑ノ實行間ハ犯人ノ苦痛ヲ以テ目的ト爲シ之ヲシテ恣ニ財産ヲ治メザラシム
 ルモノナリ故ニ是時ニ當リ他人ト契約シタルモノハ元ヨリ其効ナキコト勿論ナレモ出テ
 一般ノ社會ニ居リ他人ト契約ヲ結ブモノハ如何ゾ之ヲシテ無効タラシムルヲ得ン何トナレ
 バ他人ハ其人ノ犯罪人ナルヤ否ヲ知ズシテ結約セシモノナレバ毫モ咎ム可キノ点ナキヲ以
 テナリ在監者ト私カニ結約スルハ他一方ノ惡意アリタルモノト推知ス可キヲ以テ取消シ
 原因十分ナルモノトス況ンヤ財産ヲ治ムルノ權ナクシバ死スルヨリ外道ナキモノトス余ノ
 堀田氏ノ説ニ左租シ宮城氏ニ一考ヲ煩ハサントスルモノナリ
第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セレタル時ハ行政ノ處分ヲ以テ治

產ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得

流刑ノ囚ハ國事犯罪者ニ適用スル重罪ノ刑ナリトス今此流刑ノ囚徒ニシテ幽閉ヲ免セ
 ラレ住居ヲ限リサレシメハ治產ノ幾分ヲ許可セラル、モノトス何トナレバ此等流刑ノ囚徒
 ニシテ地ヲ限リ居住セシムルコトヲ得ルモノト官ヨリ衣食ヲ給付セラル、モノニアラサル
 ナリテ必ズ治產セサル可ラズ然レモ本條ニ於テハ行政ノ處分ヲ以テ免スルヲ得ト云ヘル
 條文ニシテ即チ總任法ノ文字ヲ以テ之ヲ規定シタリ之ヲ以テ考フルトキハ幾分ヲ免セラ
 レサルトモアル可シト云ハサル可ラズ然レモ前已ニ説明スルカ如ク治產ハ免幽閉ト同時ニ
 必要ノモノナルヲ以テ必ズ之ヲ免セラル可キモノト思考ス
 幾分トハ甚ダ解シ易カラサルノ思ヒナシトセズ然レモ之レ蓋シ生活ニ必需ノ部分ニ限ルト
 言ヘルカ如キ治產中ノ少部分ノ區域ト狹ク解釋スルハ大ニ誤リナカルベシ
第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑
 ノ短期三分ノ一二等シキ時間監視ニ付ス
 重罪ノ刑ニ處セラレタルモノハ別ニ宣告ヲ用イス監視ヲ附加スルヲ本則トナス
 重罪ノ無期刑、無期ノ監視アリト雖モ有期ノ刑ニ至テハ一定ノ期限ナカル可ラズ故ニ本條
 短期ノ刑ノ三分ノ一二等シキ監視ヲ附スト定メタル以所アリ
 短期三分ノ一トハ十二年以上十五年以下ノ有期ノ刑ニ於テハ十二年ノ三分ノ一即チ四年ノ
 監視ニ付ス可キモノトス
 監ハ刑ト云ハシヨリ寧ロ取締法ト云フ可キ者ナリトス近時法律學家ノ所說ナリ監視ノ性質ハ
 犯者ヲ資罰スルニアラズ主刑ノ滿期出獄後ヲ監視スル一ノ行政上ノ取締法ナルヲ以テナリ
 監視ヲ離ズルモノ曰ク犯人ノ懲戒シテ善ニ遷リ過チ改ムルハ以來社會ニ立テ道德ヲ重シ

其民ト齒セント欲スルニ在リ刑ノ目的ニ於ケルモ然リ犯罪者ヲ懲戒シテ歸善セシメ惡念ヲ消滅セントスルニ在リ夫レ然リ而シテ監視ヲ願ルトキハ大ニ刑ノ目的ヲ阻害スルモノアラントス一方選善ヲ欲シテ一方門戸ヲ鎖サスノ思ヒナクンバアラサルナリト所説紛々玄妙ノ法理ヲ尽セリ就中福原直道氏ノ監視論ハ議論周到最モ適切ノモノト思ハルレバ掲テ以テ監視ノ利害得失ヲ知ルノ便ニ供スベシ

刑ニ主刑ト附加刑トノ別アルハ人ノ知ル所ナリ主刑ハ罪者ヲ罰スルカ爲ニ設ケ附加刑ハ其結果又ハ將來ノ爲ニ主刑ノ外ニ附加スルノ刑ナリ而シテ其附加刑ニハ種々ノ類別アルハ諸君ノ瞭知セラルト所ナリ余ハ今其種々ノ附加刑ニ付テ述フルノ要ナシト雖モ監視ノ刑ニ付テハ少シク述ヘサルヘカラサルモノアリ

抑モ監視トハ監獄則第二十一條ニ明記セル如ク警察官カ犯人ノ將來ヲ檢束スル爲ニ其行狀ヲ監視スルヲ云フ斯ク犯人ヲ檢束スル者ナルカ故ニ刑法ノ之ヲ刑中ニ列擧シタルハ相當ナレト此刑ハ一種特別ノ性質ヲ有スルモノトス何トナレハ既ニ犯シタル既往ノ犯罪ヲ償フ爲ニ科スルモノニアラスシテ其主トスル所ハ出獄者再犯ノ恐アルヲ以テ之ヲ檢束スルニ在レハナリ由是觀之監視ハ處罰ノ刑ト云ハンヨリハ寧ロ豫防ノ刑ト謂ハサルヘカラス

此ノ如キ附加ノ刑ハ從來我邦ニ存シタリシヤ否ヤ余淺學未タ發見スル能ハスト雖モ恐ラクハ曾テ之レ無カリシナラン而シテ現ニ我刑法中監視ナル刑ノ存スルアルハ佛國法律ニ由來シタルモノナリ佛國ノ歴史ニ溯テ考フルニ古昔斯ルモノハ未タ曾テ之レアラサリシ封建時代ニハ或ハ多少之ニ類似シタルモノナキニアラスト雖モ全ク其性質ヲ異ニセリ其始テ設ケタルハ實ニ革命時代ニ在リトス爾來今日ニ至ルマテ屢々變遷シテ時ニ或ハ非常ニ峻嚴トナリ或ハ之レニ反シテ頗ル寛大トナリタリ之レヲ嚴ニセンカ從テ犯罪多キヲ致ス之ヲ寬ニセ

ハ則チ其効ナキニ至ル是ヲ以テ其寬嚴ノ程度如何ハ今日ニ至ルマテ學者ノ攻究シテ止マサル所ナリト雖モ未タ最良ノ方法ヲ得サルナリ凡ソ人其智カノ及フ範圍内ニハ首尾ノ完全ヲ求ムルモ決シテ其至全至美ヲ得ヘキニアラス唯僅ニ之ニ近接スルニ過キス監視ニ至テモ亦然リ一利アツテ一害之ニ伴ヒ到底完全ノ域ニ達スヘカラサルナリオルトラン氏謂ヘラケ監視ハ理論上及ヒ實際上共ニ最モ困難ナル問題ニシテ又最モ不完全ナル論決アルモノナリト以テ其困難ナルヲ推知スルニ足ルヘキナリ

前述ノ如ク監視ハ再犯豫防即チ社會自ラ防衛スルノ意ニ由來スルモノナリ然ラハ之レヲ設ケタルカ爲メニ果シテ再犯ヲ防衛スルコトヲ得タリシヤ余ハ斷シテ實際否ラスト言ハントス若シ豫想ノ如ク豫防ノ功ヲ奏シ得ヘケンハ則チ假令被監視者ハ多少檢束ニ苦ムコトアルモ又多少苦窮ニ堪ムコトアルモ一己ノ私益ハ社會ノ公益ニ勝ツ能ハサルヲ以テ止ムナシトセン而シテ余カ見ル所ヲ以テスレバ被監視者ハ唯檢束ニ苦ミ社會ニ之レニ代フヘキ利アルヲ見ス彼ノ出獄シテ監視ヲ受クル者ハ毫モ惡意ナキニ直ニ人ノ疑フ所ト爲リ公衆ノ信用ヲ失スルニ至ル此者ノ一身ニ付テハ當時最モ信用ヲ得ンコトヲ要スルニ却テ倍々之レヲ失ハシムルモノナリ其初ニ在テハ唯一時ノ迷誤ニテ惡事ヲ爲シタルモ刑ヲ受ケテ既ニ悔悟シ心ヲ洗テ善ニ歸シタルニ出獄スルモ猶ホ檢束セラレ身ニハ自由ヲ得ス父兄ニハ見捨ラレ親戚朋友ニハ嫌忌セラル何ノ面目アツテカ妻子ニ見ヘン是ニ至テハ再ヒ其民ト伍ナ同フセントスルモ能ハス自暴自棄惡心却テ增長シ遂ニハ復タ罪ヲ犯スニ至ル其監視規則ニ背クカ如キハ毫モ願慮スル所ニアラサルナリ

ハ一タヒ罪ヲ犯スモ必スシモ再スルモノニアラス然ルニ之レヲ疑フテ非常ニ檢束ヲ加フルハ奇怪モ亦甚クシ矣殊ニ出獄ノ時ニ至リ再犯ノ恐アル者ニハ或ハ監視ヲ科スルノ必要ナキ

ニアラスト雖モ之ヲ宣告スルハ主刑ト同時ニ當初ヨリ出獄ノ後再犯ノ恐アリト想像シテ
 一年若クハ六ヶ月等ノ年限ヲ定メテ監視ニ附スルモノ也抑モ人心ハ一定スルモノニアラス
 シテ主刑宣告ノ當時ハ兇惡ナル者モ出獄ノ時ニ至リ全ク悔悟スル者アリ或ハ當初纔ニ惡心
 アリシ者モ一タヒ褌衣ヲ着シ兇漢惡徒ト坐テ交ユルニ至リテ大ニ兇惡ト爲ル者アリ然ルニ
 其初ニ當テ此者ハ刑ヲ受クルモ出獄ノ時尙ホ再犯ノ恐アリ故ニ出獄スルモ猶ホ若干時間監
 視ニ附シ之レヲ檢束セサルヘカラストスルハ是レ豈法官カ專横ノ最モ甚タシキモノニ非ス
 ヤ法官モ亦人ナリ此者ハ六ヶ月間再犯ノ恐アリ彼レハ一ヶ月間再犯ノ恐アリト豫定シテ將
 來ヲ推定スルハ果シテ何ニ由リテ然ルヲ得ル乎況ンヤ其再犯ノ恐ナキ者ニ監視ヲ科スルニ
 至テハ是レ犯罪ハ既ニ罰スルニ相當ノ刑ヲ以テシタルニ猶ホ加フルニ無益有害ナル檢束ヲ
 與フルモノナリ彼殺人ハ大罪ナリト雖モ種々ノ情狀アリテ或ハ孝心ノ厚キヨリ或ハ交誼ノ
 親シキヨリ遂ニ事茲ニ至ル者アリ此ノ如キ者ハ其情狀ヲ原諒シテ本刑スラ輕減ス夫レ此等
 ノ者ハ概テ再犯ノ恐アルトナシ然モ尙ホ必ス監視ニ附セサルヲ得サルナリ
 凡ソ再犯ハ輕罪ニ多クシテ重罪ニ稀ナリ然ルニ何レノ場合ニ於テモ重罪ハ必ス監視ニ附セ
 サルヲ得サルナリ諸君モ知ラルト如ク佛法及ヒ之ヲ基トシタル我刑法草案ニハ監視ハ概シ
 テ任意法(但シ或場合ニ於テハ命令法ナルトアリ)ト爲シタリ蓋シ監視ヲ以テ任意法トシタ
 ルナラハ裁判宣告ノ當時斷斷シテ再犯ノ恐ナシト認メタル者ニハ之レヲ科スルトナキノ便法
 アルヲ以テ無益有害ナル檢束ヲ與フルノ弊ナカラン然ルニ我刑法ニ於テハ悉ク命令法ト爲
 セリ余其法意ヲ解スル能ハサルナリ是ヲ以テ我判官ハ決シテ之レヲ取捨スル能ハス故ニ彼
 ノ山ニ入りテ數個ノ薑ヲ盜ミ藪ニ入テ數株ノ筍ヲ取ル者モ或ハ主人ヲ瞞若シテ賣掛代金ヲ
 飲食ニ消費シタル備重ノ如キ輕微ノ罪ト雖モ亦是レ窃盜若クハ詐欺取財ニ外ナラザルハ悉

科スルニ少クハ六ヶ月ノ監視ヲ以テセサルヘカラス夫レ斯ノ如キ者果シテ監視ノ必要アル
 乎監視ノ實効ヲ得可キ乎再犯ノ豫防ヲ爲シ得ル乎將タ或ハ監視ノ爲メ却テ再犯ノ恐ヲ生セ
 シムルトアラサル乎余ハ切ニ諸君ノ再考ヲ煩ハサント欲スルナリ

今被監視者ハ果シテ善ク其監視ノ執行ヲ完フス可キヤ否ヤヲ觀察センニ彼レ出獄ノ後旅券
 ナ受ケ監視執行ノ地ニ向ヒ發送スル者大概途中ヨリ逃走シ其甚シキニ至テハ直チニ逃走シ
 豫定ノ地ニ至ル者三ノ一ニ充タズ然ラバ則チ一層之レニ檢束ヲ加ヘンカ看守押丁又ハ巡査
 ナシテ豫定ノ地ニ押送セシムルハ固ヨリ決シテ爲シ難キ事ニハアラスト雖モ尙ホ未タ充分ナ
 ラス何トナレハ則チ到着ノ後尙ホ逃走ノ恐レアレハナリ故ニ監視ノ執行ヲ完カラシメ其實
 ナ舉ゲント欲セハ監獄ヨリ監視執行ノ地迄警護押送スルハ勿論到着ノ後ト雖モ尙ホ巡査チ
 シテ晝夜之カ舉動ヲ觀察セシメ出入亦之ニ尾行セシメサルヲ得ス是レ殆ント言フ可クシテ
 行フ可カラス何トナレハ則チ被監視者數万ノ多キ其費用ニ堪ユル能ハサレハナリ
 受刑者中又順良ナルモノ無キニアラス此ノ如キ者ハ監視ニ附スルモ固ヨリ善ク之レカ規則
 ナ遵守シ敢テ或ハ違背スルトナカル可シト雖モ然レモ斯ル者ニハ既ニ監視ノ要ナキナリ尙
 ホ安ソ無益ノ檢束ヲ與フルトナ爲ン官ニ於テモ亦無益ノ煩ヲ取ルノ要ナシ而シテ其兇惡
 再犯ノ恐アル者ニ至テハ必ス之ヲ遵守スルコト無ク忽チ逃走シテ其跡ヲ晦マスマモノナリ夫
 レ監視ノ實効アルヘキ者ニハ監視ノ要ナシ監視ノ必要アル者ニハ監視ノ實効カラス監視ノ
 効實果シテ那邊ニ存スル歟

想フニ刑ヲ受ケテ以來數年ヲ經過シタル後ニ在テハ假令人其罪ヲ知ルモ或ハ恕シテ之レヲ
 使備スルモノアリト雖モ出獄當時ニ在テハ人之レヲ嫌思スルト最モ甚タシ而シテ出獄者ハ
 當時最モ產業ニ就クノ必要アリ然ルニ監視ナル重荷ヲ擔ヒテ世ニ處ス誰カ之レヲ使備スル

者アランセ其産ヲ得サルヤ必セリ然レハ其最モ必要ナル時ニ當テ監視ハ全ク就産ノ途ヲ遮
塞スルモノ也夫レ罪ヲ惡シテ人ヲ惡マス其所爲ノ惡ハ則チ惡ナリシト雖モ既ニ主刑ヲ受ケ
テ之レヲ償ヒタリ然モ猶之レヲ矚テ困苦ノ域ニ陷ラシムルハ余其何ノ故タルヲ知ラサルナ
リ殊ニ被監視者杜撰ニ在テハ人ニ齒セラルトナリ得サルカ故ニ初ハ則チ温順ニ之レヲ執行ス
ルモ産業ニ就ケ能ハス又人ニ嫌忌セラルトナリテ止ムテ得ス遂ニ逃走スルニ至ル而シテ其
逃走スルヤ必ス都會ニ出ツ是レ蓋シ人其被監視者タルヲ知ラス從テ産業ニ就クノ便益アレ
ハナリ其途ニシテ巡査ノ咎ムル所ト爲リシ者ハ監視違背ヲ以テ罰セラレ刑期ヲ終テ出獄ス
ルニ至テハ彌々復々其婦里ニ歸ル能ハス是ニ於テカ其會テ在獄中同房ニ在リシ者等ト相集
リ相語リ遂ニ無賴ノ徒ト爲リ互ニ連合シテ盜ヲ爲シ贓物ヲ隱匿シ巧ニ罪跡ヲ蔽フニ至ル
者往々ニシテ然リ是レ畢竟監視ノ峻嚴ニ過クルノ致ス所ト謂ハサルヘカラス
今又眼ヲ轉シテ犯罪者ノ一身トヨリ考フルニ重罪若クハ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ甚ダ
汚名ヲ被ムル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リテ放免セラレモ爲ニ之ヲ洗除シ得ヘキニアラス其
汚醜ハ依然トシテ存セリサレハ假令社會ニ出ツルモ其一ヒ失ヒタル地位ハ容易ニ回復スル
ヲ得ヘキニアラスノ善意ナルモ毒モ人ニ信用セラレズ誠實ナルモ却テ人ノ疑ヲ惹クニ至ル
其一舉手一投足盡ク衆目ノ集マル所ト爲リ何ヲ爲サンモ前途ノ門戸閉サルトナ奈何セン平
身低頭千百ノ辛苦ヲ嘗メ幾多ノ艱難ヲ積ミ多年ノ星霜ヲ經テ唯纒ニ之ヲ洗除スルヲ得夫レ
刑ハ期アリ然レモ公衆ノ犯罪ヲ念フヤ無限ナリ處刑ハ嚴ナルモ有限ニシテ公衆ノ念慮ノ酷
罰無限ナルニ若カサルナリ主刑ノミヲ以テスルモ既ニ然リ之ニ加フルニ監視ノ刑ヲ以テス
其名譽ヲ回復スルハ數十年ヲ期シテ得ヘカサルナリ
爰ニ老疾者アリ門ヲ叩テ哀ヲ乞フ憐憫ニ堪ヘス既ニ惡ヲ與ヘントス儻テ人ナリ告テ曰ケ此

者ハ刑餘ノ人ナリ數年前罪ヲ犯シタルモノナリト我之ヲ聞クヤ既ニ一錢トテモ之ニ與フル
ヲ欲セサルナリ其數年前ノ罪人ト雖モ仍ホ斯ノ如シ況シヤ其出獄日猶ホ淺クシテ現ニ監視
ヲ受クル者ナルニ於テテヤ況シヤ繼續之ヲ使備シ日常之ニ接スルノ雇主ニ至テハ其嫌惡ス
ルト固ヨリ當然ナリトス故ニ被監視者ハ其初ハ則チ巧ニ隱匿シテ會々生業ニ就クヲ得可
キモ遂ニハ刑餘ノ人タルトナリ發覺セラレ纒ニ得タル産業モ全ク之ヲ失フノ不幸ニ陷ラサル
ヲ得ス

第三十八條 輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條ニ記載
スルノ外監視ニ付スルモヲ得ス

本條ハ輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ必ズ其都度何月ノ監視ヲ附加スト宣告文ニ記載ス
ルト旨ヘルモノナリ然レドモ輕罪ニハ監視ヲ附加ス可キモノト然ラサルモノトノ二アルヲ
以テ一概ニ論及シ難キモノトス故ニ監視ニ付ス可キモノナルトキハ其條ニ明記シアルヲ以
テ必ズ之ヲ附加スベシト雖モ其條ニ記載ナキトキハ監視ヲ付セサルモノト決定セサル可ラ
ズ
此條ハ重罪トクン別ケ爲ニ更ニ設ケタルモノニテ重罪ノ刑ニハ宣告ヲ用ユルコトナク無期
ニ監視ヲ附シ又ハ有期ノ刑ニハ短期三分一ハ必ズ當然附加ス可キモノナルヲ以テ之レト分
別センカ爲ニ本條ヲ規定シタルモノトス
又ハ輕罪トアルハ重罪ヲ減輕シテ輕罪トナリシキモ又之ヲ包含シタルモノナリ第二百七
條官文書偽造ノ減輕ニ依テ輕罪ニ降リシキハ二月以上二年以下ノ監視ニ附スルカ如シ
第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用
ヒズ五年間監視ニ付ス

死刑無期免刑ノ期滿除テ得タルモノハ別ニ宣告テ用イズシテ五年間ノ監視ニ付スルモノナルコトヲ規定ス凡ソ重罪有期ノ刑ノ如キハ其短三分ノ一ニ均シキ監視ニ付スルヲ以テ通則トス今死刑及ビ無期刑ノ如キハ常ニ身首ヲ斷テ若クハ終身自由ヲ拘束セラルルモノナルヲ以テ又監視ヲ付スルノ必要ナキモノトス故ニ死刑及ビ無期刑ニハ監視ヲ附セザリシモ其一度ビ逃走シテ期滿免除テ得タル場合ニ至テハ大ニ重罪ノ刑ト歸スル所アルヲ以テ是ヲ以テ今茲ニ五年間ノ監視ニ付スト旨ヒシ以所ナリ

然レモ大ニ重罪有期ノ刑ト本條ト抵觸スルモノアルヲ覺フ何トナレバ死刑及ビ無期刑ハ最初ヨリ監視ナキヲ以テ特赦ニ依テ主刑ヲ免セラルルハ別ニ監視ヲ付セラル可キ者ニアラズ而シテ有期重罪ノ場合ニ於テハ最初ヨリ監視ノ付加アルヲ以テ特赦ニ依ルモ復權ナキ以上ハ監視ヲ執行セサル可ラズ重罪有期ノ刑ニ重ク死刑無期刑ノ如キニ輕キモノハ如シ不權衡ト謂ハサル可ラサルナリ

宮城氏刑法論義堀田氏刑法釋義ヲ見ルニ皆ナ所說不權衡論ヲ以テ之ヲ結ベリ堀田氏ハ本條ヲ改ムルコト左ノ如クセバ則チ可ナリト旨ヘリ蓋シ草案第四十七條ノ如クナルヲ以テ大ニ妥當ナル可キナリ

死刑及ビ無期刑ノ期滿免除テ得タル者若クハ特赦ニ因リ刑ヲ免セラレタルハ別ニ宣告テ用ヒス五年間監視ニ付ス

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ期滿免除テ得タル時ノ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス

若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日ヨリ起算ス

監視ハ其性質ヨリ論スルモ刑ニアラズ取締法ナリ何トナレバ犯者ヲ罰スルモノニアラズシテ刑罰ノ不足ヲ補補スルモノナレバナリ故ニ監視ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算スルモノニテ主刑執行中ハ未ダ監視ノ執行ニ着手セサルヲ以テ監視ノ日數ニ算入セサルヤ旨ヲ待タサル所ナリ

若シ主刑ノ期滿免除テ得タルハ捕ニ就キタル日ヨリ起算スルモノトス何トナレバ捕ニ就キテ實際其監視ノ執行ヲ受ケサレバ監視ノ効力ナキヲ以テ捕ニ就キタル日ヨリ起算スト規定シタル以所ナリ

主刑ヲ免シテ只タ監視ニ付ストハ如何ナル場合ヲ言ヘルモノナルカ即チ第二百二十六條第九十二條等ノ場合ニ於テハ主刑ヲ免シテ監視ニ付スルモノトス

茲ニ一ノ注意ス可キコトアリ凡テ刑期計算ハ第五十一條ニ從テ裁判確定ノ日ヨリ起算スト雖モ其刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ計算スルモノトス然ルニ今只タ監視ニ付スルハト雖モ一般ノ法則ト同シク確定ヨリ執行シテ刑名宣告ノ日ヨリ起算スルモノナルカ

余思フニ此等監視ト雖モ時ニ或ハ上訴スルコトアルヤモ未ダ知ル可ラサルヲ以テ見レバ宜シク確定ト宣告トナ區別シ刑期ヲ起算スルコトキハ最初宣告ノ日ヨリ計算スベキカ如シト雖モ決シテ然ラサルモノアルヲ見ル蓋シ監視ハ一種ノ附加刑ナリト雖モ又取締法ノ性質ヲ備フルモノナリ故ニ一般ノ法則ニ依レルモ大ニ權衡ノ相比敵セサルモノアリ故ニ監視ノミ科スル場合ニ於テハ實際執行ニ着手シタル日ヨリ起算ス可キモノトナサ、ル可ラサルナリ

第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

監視ニ付セラレタル者ニ假免監視アルハ重罪ノ主刑ニ免幽閉假出獄アルカ如ク行政

ノ處分ヲ以テ改過ヲ獎勵スルニ出タルモノトス刑法附則第三十六條ニ曰ク監視ニ付セラレタル者監視規則ヲ遵守シ檢收ノ狀アルモノハ行政ノ處分ヲ以テ警察官ヨリ事實ヲ上申シ内務司法兩脚ノ命ヲ受テ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得ト規定セリ是ニ依テ之ヲ見レハ監視ニ付セラレタルモノハ其重罪ナルト輕罪ナルトヲ問ハズ檢收ノ體アル者ニ之ヲ行フ可キモノトス

第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ納完セサル時ハ

第二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換ヘ主刑滿限ノ後之ヲ執行ス

附加ノ罰金ハ必ズ之ヲ宣告スルモノニシテ彼ノ剝奪公權停止公權監視ノ如ク當然附加ス可キモノニアラサルナリ故ニ各本條ニ其明文アル場合ニ於テハ宣告文ニ必ズ之ヲ明記ス可キモノトス

コノ罰金ハ一月内ニ納完スルヲ以テ是レリトス故ニ裁判確定シテヨリ起算シ一日内ニ納完ス可キモノトス若シ資力ナクシテ一日外ニ涉ルモ納完スルコト能ハサルモノハ第二十七條ニ照シテ換刑ノ處分ニ及ブモノトス

換刑トハ一圓チ一日ニ算ヘテ輕禁錮ノ實決ニ處スルモノトスコノ換刑ハ檢察官ヨリ裁判官ニ請求シテ裁判官之ヲ命令スルモノニテ更ニ公廷ヲ開キ裁判官渡ヲナスモノニアラズ只ダ何月日何事件ニシキ首渡シタル罰金何圓限内納完セサルヲ以テ檢察官ノ求ニ依リ何日ノ輕禁錮ニ換フル一ヲ命スト云ヘル命令書ヲ作りテ之ニ裁判官署名捺印シ其原本ヲ檢察官ニ送致シ檢察官ハ之ヲ監獄ニ送テ執行セシムルモノトス

主刑滿限ノ後トハ主刑ノアル場合ヲ規定シタルモノニテ主刑アルトキハ主刑ノ執行ヲ終リタル後之ヲ執行スルモノトス此換刑ノ場合ニ於テ期滿免除ヲ起算スルハ罰金宣告ノ日ヨ

ヲ起算スルモノトス

第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則

ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一 法律ニ於テ禁制シタル物件

二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

三 犯罪ニ因テ得タル物件

本條ハ沒收ノ何者タルコトヲ規定シタル條項ニシテ學者間議論ノ最も多クアル所ナリトス先ツ平易ニ之ヲ解釋スルハ第一ヨリ第三ニ至ル物件ハ裁判官渡ニ特記シテ官ニ沒收ス即チ官ニ取揚クルト云フモノナリ然レモ但法律規則ニ於テ云々各其法律規則ニ從フトアリ是ヲ以テ之ヲ見レバ本條ハ他ノ法律規則ニハ適用スルコトヲ得ズ即チ他ノ法律規則ニ別ニ規定アルハ其規定ニ依ルト言ヘルモノ、如シ然レモ本條ハ決シテ斯ル意ニテ設ケタルモノニアラズシテ即チ凡テノ刑事ニ付テハ本條ヲ適用スルモノナリ只ダ法律規則ニ例ヲ定メタル并其例ニ從フト云フハ此ノ法律中ニテモ特別ニ規定シタルモノハ又其特別法ニ從フ可シト云ヘルモノナリ即チ第二百六十一條賭博罪ノ如キ又ハ第六百一十一條銃砲彈藥製造ノ器械ノ如キハ特別ノ最モ著シキ場合ナリトス何トナレバ此等ノ處分ハ第四十四條記載スル所ノ犯罪ノ用ニ供シタル物件ハ其犯人ノ所有ニ係ルカ又ハ所有主ナキ時ノ外沒收スルコトヲ得ズト云ヘル元則ニ背反スレバナリ今確部四郎氏沒收論ヲ掲テ之ヲ示サン

本條ニ付キ余ノ特ニ解説ヲ試ムルモノハ他ナシ現今世上ニ存スル刑法論著少カラスト雖モ沒收ノ專ニ至リテハ一モ余ヲシテ満足セザルモノナク是レ恐ラクハ法文ノ明確ナラサルニ由ルモノナルヘシト雖モ苟クモ法律ノ解釋ヲ以テ任トスル者ハ法文明確ナラサルニ醉フ

テ自カラ迷誤スヘキニアラス宜シク法理ヲ在ル所ヲ探究シテ其幽ヲ闡キ其微ヲ顯ハシ以テ
 後進ノ就學ニ倦マサルコトヲ勉メサルヘカラス然ラズンハ解釋ノ要何レニ在ルヤ是レ余カ
 爰ニ本條ノ解説ヲ試ムル所以ナリ「蓋シ本條ノ各項ニ付キ説明ヲ下スノ前抑モ法律上此沒收
 例ヲ設定スルニ至リタル理由ヲ明示スルハ敢テ無用タラサルモノト思考ス故ニ此理由ヲ一
 言シ然ル後チ本條ニ包含スル數個ノ問題ニ論及スベシ」

第一 沒收例ノ存スル理由

凡ソ人ノ情慾ハ外物ノ耳目ニ觸ルニ從ヒ無慮ノ感動ヲ起ス性質ノモノニシテ之ヲ略言セ
 バ人ノ情慾ハ外物ノ奴隸ト云フモ亦敢テ過言ナラザルベシ實ニ今日外物ノ爲メニ吾人ノ心
 意ヲ動カスニ至ルコトハ殆ント枚擧スルニ暇アラサル者ノ如ク然ルナリ例令ヘハ一定ノ織
 物ヲ他人ヨリ贈與セラレタリト假想セヨ管ツテ着服ヲ製スルノ意思アリシニ非ラスト雖ド
 モ此贈與ヲ受ケタルカ爲メ玆ニ衣服新調ノ念ヲ發動シ之レカ爲メ其新調ニ附隨スベキ裏地
 ノ如キモノヲ買得シ知ラス識ラス冗費ヲ抛ツニ至ルハ人ノ常情ナルベシ然リト雖ドモ是等
 ハ敢テ犯罪ヲ構造スルニ至ルモノニ非ラサレハ之レヲ其人ノ自由ニ放任シ置キテ可ナリ之
 レニ反シテ往昔世ニ武士ナルモノアリテ偶々傳ヘテ名作ト稱スル刀劍ヲ購ヒ得タルカ爲メ
 始メヨリ期セサリシ所ノ試斬ヲ爲サント欲スルノ念慮ヲ惹起スルニ至ルモノ、如キハ其危
 險亦言フベカラサルナリ然レドモ此人タルヤ未タ其事ニ及ハサルノ間ハ社會之レヲ如何ト
 モスルコト能ハズ或ハ常人ヲシテ兵器ヲ携帯セシムルコトヲ禁止スルノ法度存スルモノハ此
 危險ヲ豫防スルノ旨意ニ出タルコト疑フ容レサルベシ然ル時ハ社會モ亦人情ハ外物ノ奴隸
 タル理由ヲ認知シタルモノト謂フヲ得可シ而シテ社會ノ設定シタル將來ノ危險豫防方法ニ
 シテ悉ク實行ヲ奏スルモノトセハ特ニ沒收ノミナラス一切ノ刑法ハ無用ノ長物トナルベシ

何トナレハ豫防其効ヲ奏ストハ犯罪ニ至ラスシテ事止ムノ場合チ云フモノナレバナリ然ル
 ニ豫防其効ヲ奏セス或ハ警察ノ目ヲ窺ヒ或ハ法禁ノ裏ヲ亘リ以テ續々犯罪ニ至ルモノ少カ
 ラス是ニ於テカ刑法ノ必要ヲ感スルコト益々急ナル所以ナリ彼ノ沒收例モ亦然リ已ニ社會
 ニ於テ人情ハ外物ノ奴隸タル理由ヲ認知シテ精々危險ヲ豫防スルコトヲ勉メタリト雖ドモ
 或ハ其間ニ種々ノ物件ヲ假リテ犯罪ニ至ルモノ往々ニシテ止マラス是等ノ者ハ已ニ外物ノ奴
 隸トナリテ其情慾ニ支配セラレ或ハ社會ノ安寧ヲ妨害シ或ハ各人ニ損害ヲ及ボシタルモノ
 ナリ豈是等ノ者ヲシテ其已ニ情慾ヲ動カシタル物件ヲ所持セシムルコトヲ得ンヤ社會之チ
 等閑ニ付スルトキハ世俗ノ所謂猫ニ與フルニ體節ヲ以テスルト一般ナリ是レ我刑法中沒
 收例ノ存スル理由ノ大要トス而シテ余ノ之レヲ以テ唯一無二ノ理由ト爲サス其大要ト云フ
 モノハ他ナシ此理由ハ本條第一及ヒ第二ノ場合ニ適用スルコトヲ得ヘシト雖トモ第三ノ場
 合ニ之レヲ適用スルコト能ハス即チ第三ノ場合ハ一他ノ原則ニ基クモノナレハナリ何チカ
 一他ノ原則ト云フヤ曰ク人ヲシテ不正ノ所爲ニ由リ利得スルコト能ハサルノ原則是レナリ
 尙ホ此事ニ付テハ後チニ論スル所アルベシ

第二 本條ノ沒收例ハ廣ク理解スヘキヤ將タ狹ク理解スヘキヤ如何

抑モ沒收例ノ法律上ニ存スル理由ハ一ハ外物ノ爲メ情慾ヲ發動セラル、ノ危險ヲ豫防シ一
 ハ不義ノ富ミヲ得セシムコトヲ禁スルニ在ルコトハ前陳ニ於テ知ルヲ得タリ而シテ此理由
 チ玩味熟慮セハ自然本問題ノ論決ヲ喚起スルコトヲ得ベシ而シテ其論決ハ如何ト問フニ將
 來ノ危險ナキモノハ之チ沒收スベカラス不義ノ富ミニアラサルモノモ亦均シク之レチ沒收
 スベカラスト是レナリ何トナレハ沒收例ハ將來ノ危險ヲ豫防スベキ事情止ムヲ得サルノ理
 由ト不義ノ富ミヲ得セシムヘカラスルノ原則トニ出ツルモノニシテ犯罪人ノ財産ヲ奪フテ

國庫ヲ富マシノ主義ニ出シルモノニアラザレハナリ是ヲ以テ法文上其明チ欠ククノ嫌ヒアリト雖ドモ其精神ニ於テハ實際已ムヲ得サルノ物件ニ非ラザレハ沒收スベカラサルノ旨意ヲ包含スルモノト余ハ斷言スルモノナリ故ニ本條ノ禁制物供犯物及ヒ因罪所得物ノ三種ハ精々狹キ意味ニ理解スルヲ以テ其當チ得タルモノト謂フベシ

人或ハ曰ハシテ下ノ言然ルモノト如シト雖ドモ之レヲ法文ニ徵セハ單ニ禁制物供犯物及ヒ因罪所得物トノミアリテ別段之レヲ制限シタル理由アルヲ見ズ然ルニ足下ハ濫リニ之レヲ制限セサルベカラスト口ヲ鼓スルハ果シテ何ゾヤ前陳ノ如キ危險豫防云々ノ論理ハ未ダ以テ満足セシムルモノニアラス包フ一層其理由ヲ明示セヨト

抑モ沒收例ハ國庫ヲ富マシノ主義ニアラス犯者將來ノ危險ヲ豫防スルニ在リ故ニ其危險ヲ補助スルノ物具ヲ沒收スルニ根ヲサルヘカラサルモノト余ノ主張スルモノハ敢テ故ナキニアラス面シテ其故トスル所ハ古來沒收例ノ沿革如何ニ在リトス暫ク往時ニ溯リ我國ハ勿論泰西諸國ニ於テ行ハレタル沒收ノ何物タルヲ見ルニ今ヲ距ルコト僅々一世紀前ニ在リテハ歐洲各國ニ於テモ包括財産ノ沒收例ナルモノアリテ或ル犯罪人就中重大ナル國事犯者ノ家産ハ悉ク之レヲ沒收セリ此ノ如キハ刑ノ犯人ノ一身ニ止マルノ原則ニ背反スルコト甚クシ實ニ犯人ノ家産ハ犯人ノ一身ノミヲ養フモノニアラス其妻子眷族ヲモ之レニ由リテ生活スルコト世間往々ナラスヤ然ルニ若シ悉ク之レヲ沒收スルアラシカ犯罪者其人ハ獄中ニ繋カレテ衣食ニ困スルヲ得ベシト雖ドモ無罪潔白ノ妻子眷族ハ番々ニ其歸依スル所ノ夫ニ別レ親ニ離ルル不幸ニ遭遇スルノミナラス其賴リテ以テ生活スベキ財產ヲモ共ニ失フニ至ルニアラスヤ然ルトキハ其沒收例ヨリ來タス結果ハ犯者ノ身ニ及ブヨリモ却ツテ其妻子眷族ニ及ブモノトス沒收ノ極茲ニ至ルトキハ無罪潔白ノ者爲メニ饑饉凍死ノ不幸ニ陥ルニ至ルコト

ト其常態ナルベシ果シテ然ラハ此ノ如キ沒收ハ刑ノ犯人ノ一身ニ止マルノ原則ニ背反スルノ著シキコト余ノ喋々ヲ待タズシテ明瞭ナルニアラスヤ是レ我國ニ於テモ亦泰西諸國ニ於ケルカ如ク沒收例ヲ制限セサルヘカラサル眞理ヲ認知スルニ至リタル原因ニシテ且ツ今日苟クモ法度備ハルノ國土ニ於テハ包括財産ノ沒收例全國スルニ至リタル所以ナリ由是觀之沒收例ノ施ス所益々減スレハ益々刑ノ犯人ニ止マルノ原則ヲ全フスルニ至ルモノニアラスヤ而シテ或者モ亦刑ノ犯人ニ止マルノ原則ニ精々接近スルヲ以テ一切ノ刑法其宜シキヲ得ルモノト認知スル者ナラン加之我立法官モ亦現行刑法ヲ制定スルニ當リテハ固ヨリ此原則ヲ奉体セシモノナルコトハ現行刑法ノ全体ニ付テ見ルヲ得ベキナリ然ルトキハ特リ沒收ニシテ此原則ニ背反シ廣ク之レヲ理解シテ沒收ノ必要ヲ感セサル物件ニマテ之レヲ及ボスノ理アラシヤ是レ沒收例ハ精々狹ク理解セサルヘカラザルモノト余ノ斷言スル所以ナリ而シテ刑ノ犯者ノ一身ニ止マルノ眞理ヲ世ニ顯ハシ其適用ヲ各般ノ事項ニ及ボシ從ツテ包括財産ノ沒收例ヲ今日刑法上ニ見サルノ効績ハ獨リ學者ノ舌頭筆端ニ在リトス學者モ亦輕ズベカラサルナリ

第三 法律ニ於テ禁制シタル物件トハ何ゾヤ

此問題ニ付キテハ敢テ余ノ喋々スルヲ要セサルモノト如シ一讀以テ法意ヲ知ルヲ得ヘケレハナリ故ニ余ハ二三ノ事例ヲ指示スルニ止マルベシ即チ兵器彈藥其他事猥褻ニ涉ル圖畫等ノ如キハ此類ノ物件ナリ蓋シ此時ハ一ハ犯罪ノ用ニ供スルノ危險アリ一ハ風俗ヲ亂ルノ媒効ニシテ其物タルヤ之レナキモ人生ノ需用ニ欠ク感スルモノニアラス是レ之ヲ常人ノ有ニ置キテ其弊害ヲ見ルヨリ寧ろ之ヲ沒收シテ其危險ヲ豫防スルニ若カサルノ理由ヨリ本條ノ如ク規定シ且ツ此等ノ物件ハ何人ノ有テ間ハス沒收スベキモノト次條ニ明言シタル所以ナリ

第四 犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ何ゾヤ
 本問題ニ付キテハ讀者ノ最モ注意アラシキコトヲ希望ス他ナシ余ノ没收例ヲ茲ニ解説セシム
 下ノ念慮ヲ發生シタルモノハ專ラ本問題ニ基因セシモノニシテ且ツ世上ニ存スル刑法說明
 書モ没收例中他ニ敢テ大ニ咎ムベキモノナシト雖ドモ本問題ノ說明ニ至リテハ一トシテ錯
 雜ヲ極メサルモノアラザレハナリ
 抑モ供犯物ノ何タルハ一見スル所ニ於テ理解スルニ難カラサルノ外形ヲ表示スト雖ドモ其
 實最モ困難ナル問題ヲ包含スルモノトス蓋シ法文ニ拘泥シテ之レヲ解釋スルトキハ苟クモ
 犯罪ノ用ニ供シタル物件ナランニハ如何ナル場合タルヲ問ハス凡テ之レヲ没收スヘキモノ
 如シ然リト雖ドモ若シ此ノ如ク解釋スルトキハ例令ヘバ馬車止ノ道路アラシニ馬車ニ鞭
 ツテ此ヲ通過シタル者ニ對シテハ其馬車ヲ没收スベク又阿片煙ヲ流籠ニ積ンテ輸入シタル
 者ニ對シテハ其流籠ヲ没收セサルベカラス其他鐵道馬車誤リテ人ヲ殺傷シタルトキハ其一
 レール」并ニ馬車ヲ没收セサルベカラス或ハ無印紙煙草ヲ藏匿シタル倉庫モ亦之レヲ没收
 セサルベカラス家内ニ於テ博奕ヲ爲セシトキハ其家屋モ亦没收セサルヘカラサルナリ然レ
 ドモ是等ノモノハ決シテ没收スベキモノニアラス而シテ又未タ之レヲ没收シタルノ實例ヲ
 見サルナリ若シ此等ノ物件モ亦没收スヘキモノト解釋スルトキハ刑ノ犯人ノ一身ニ止マル
 ノ原則ニ背馳シテ特別ノ没收例モ包括財産ノ没收例ト殆ント異ナラサルノ結果ヲ見ルニ至
 ラントス亦危カラスヤ
 然ラハ則チ其没收スヘキモノト否ラサルモノトノ限界ハ果シテ如何ト願ルニ第一有意犯罪
 無意犯罪トニ由リテ其區別ヲ爲サルヘカラス即チ罪ヲ犯スノ意思アリテ始メテ罪トナル可

キ所爲ノ場合ニハ本條ニ項ヲ適用シテ其犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ没收スベク之レニ反シ
 テ不注意若クハ懈怠ニ出タル犯罪ニハ此ニ項ノ没收例ヲ適用スヘキモノニアラサルヘシ何
 トナレハ犯罪ノ用ニ供スルトハ自然罪ヲ犯スニ態ト使用シタル物件ト云フノ意味ナルヘク
 シテ偶然事物ノ他物ニ觸レテ一種ノ犯罪ヲ構造スルニ至リタル場合ヲ包含スルモノニアシ
 サルヘシ加之意思ヲ有無ハ犯罪ノ構成ニ影響ナキ場合ニモ亦本項ヲ適用スルヲ得サルヘク
 他ナシ犯罪ノ構成原素中ニ意思ノ有無ヲ包含セサル場合ハ假令ヒ意アリテ之レヲ犯スモ意
 ナキ時ト同視ス即チ不注意若クハ懈怠ニ基ク犯罪ト法律上彼是ヲ區別セサル者ナレハナリ
 故ニ没收スヘキ物件ト否ラサル物件トノ限界ハ有意犯罪ト無意犯罪トノ區別ヲ以テ第一ノ標準
 ト爲スヘシ果シテ然ラハ苟クモ有意犯罪トラシニハ如何ナル場合タルヲ問ハス犯罪ノ用ニ供
 シタル物件ハ悉ク之レヲ没收スベキモノナルヤ如何若シ悉ク没收スヘキモノトセハ阿片煙
 ヲ流籠ニ積ンテ輸入シタル場合ニハ其流籠ヲ没收セサルヘカラス又家内ニ於テ博奕ヲ爲シ
 タル場合ニハ其家屋ヲ没收セサルヲ得サルベシ然レドモ是レ決シテ然ルニアラス右ノ如ク
 有意犯罪ト無意犯罪トノ區別ハ没收例ノ一限界タルニ過キスシテ尙ホ一他ノ制限アリトス而シ
 テ其制限トハ他ナシ即チ犯罪ヲ構成スルニ是非欠ク可ラサル物件ト否ラサル物件トニ由リ
 テ没收スベキ物ト否ラサルトノ區別ヲ立ツルコト是レナリ何ヲ以テ然ルヤ前陳沒收例ノ原
 則ニ於テ指示シタル如ク没收ハ事情已ムヲ得サル物件ニ限ルベキヲ以テナリ夫レ然リ然リ
 ト雖ドモ犯罪ヲ構成スルニ是非欠クベカラサル物件トハ果シテ何ゾヤ其事例最モ多クシテ
 殆ント枚擧スルニ遑アラスト雖ドモ茲ニ前陳ノ事例ニ依リテ其區別ヲ明示センニ阿片煙輸
 入罪ノ阿片煙其物ニ於ケルカ如キ或ハ第二百六十一條ノ末項ニ明示セル賭博ノ器具財物ノ
 如キモノニシテ其阿片煙積ミタル流籠若クハ賭場ニ供シタル家屋ハ決シテ犯罪ノ構造ニ

欠クベカラサル物件ニアラス何トナレハ阿片煙ナク若クハ賭博ノ器具財物ナクシテ其罪ヲ犯スコト能ハスト雖ドモ其流船其家屋ナキモ唯之レヲ犯スノ不便ヲ感スルノミニシテ之レナクハ以テ其罪ヲ犯スコト能ハスト云フニアラサレハナリ其他銃砲彈藥私造罪ノ銃砲彈藥ニ於ケルカ如キ又ハ第五百五十七條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供シタル器械ノ如キ皆此類ナリ之レヲ要スルニ此等ノ物件ハ一ハ犯罪ノ用ニ供シニハ罪体其物ヲ組成スルヲ以テ之レヲ沒收スルモノトス而シテ刑法中ニ於テモ特別ノ條文ヲ以テ其沒收ス可キ物件ト否ラサル物件トテ區別シタルノ點ヲ熟察セハ愈々以テ犯罪ニ欠ク可ラサル物件ニアラサレハ沒收スベカラサル理由ヲ解釋スルヲ得ベシ他ナシ其各本條ヲ見ルニ多クハ第四十三條二項ノ適用ヲ廢キニ及ホスノ危險ヲ豫防スルヲ以テ目的トシタルモノナレバナリ尙ホ此點ニ付テハ第百六十一條及ヒ第百六十一條ヲ熟讀シテ余ノ敢テ法理ヲ闡ヒサルコトヲ知ルベシ

是ヲ以テ茲ニ一個ノ犯罪アリテ其用ニ供セシ物件ト見做スコトヲ得ベキモノ數個アルニ際シ其一切ノ物件ヲ沒收スベキヤ否ヤノ點ニ付キ疑ヲ抱クコトアルトキハ其物件中犯罪ニ欠クヘカラサル物ヲ沒收シテ他ヲ省クニ於テ茲ニ以テ法理ニ適合シタル裁決ヲ與ヘタルモヘト謂フコトヲ得ベキナリ

法律ニ於テ禁制シタル物件

此解釋ハ異說數多アリト雖モ先づ二種ト爲シテ之ヲ論スルノ解シ易キニ若カサルモノノ如シ

第一 禁制ノ明文アルモノ

如設ヘハ銃砲彈藥毒藥ノ類是ナリ此等ノモノハ製造及ビ所有販賣共ニ禁制物ナリ然レモ或ル部分ノ人ニ依テハ之ヲ禁制スルコトナシ即チ毒藥ハ常人ニ禁制ナルノミニテ醫師藥商ノ

如キハ之ヲ以テ營業トナス可キモノナルヲ以テ此等ノ人ニ對シテ禁制物ニアラサルナリ

第二 物件ノ性質法律ニ背反スルヲ以テ之カ陳列販賣ヲ禁スルモノ

猥褻ノ圖畫ノ如シ之レ等ハ製造所有スルハ法律ノ禁制スル所ニアラズト雖モ販賣陳列スルハ之ヲ沒收スルモノナリ

第二 犯罪ノ用ニ供シタル物件

犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ物件其物ノ性質ニ依テ之ヲ沒收スルニアラズ犯罪ノ用ニ供シタルカ爲メニ之ヲ沒收スルモノトス如設ヘバ貨弊ヲ僞造スルカ爲メ用イタル器械又ハ殺傷罪ニ用イタル刀劍ノ類ノ如シ

第三 犯罪ニ依テ得タル物件

犯罪ニ依テ得タル物件トハ賄賂ヲ取リタルカ如キ即チ此物件ハ沒收スルモノトス強盜竊ノ贓物ノ如キ犯罪ニ依リテ直接ニ得タルモノ、如キハ皆之ヲ沒收スルモノナリ

第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得ス

本條モ最モ注意ヲ要スル點ナリトス何トナレバ第四十三條ノ例外的ニ在ルモノニテ第四十三條ニ於テハ其第三項ノ場合ニ於テ之ヲ沒收スルト云ヒ本條ニ至テハ有所主不分明ナル片及ビ犯人ノ所有ナラサレバ沒收セサルモノトス

法律ニ於テ禁制シタル物件トハ即チ如何ナルモノナ云フカ蓋シ法律ニ於テ所有販賣ヲ禁制スルモノアリ又只々陳列ノミニ禁スルモノアリテ一概ニ論究ス可ラサルナリ如設ヘバ毒藥ノ如キ之ヲ常人ノ所有スル片ハ沒收ス可シト雖モ醫師藥舖ニ於テ之ヲ所有スル片ハ法律ノ

禁スル所ニアラズ猥褻ノ圖畫ノ如キハ之ヲ所有スルモ敢テ法律ノ禁スル所ニアラズシテ只
之ヲ公然陳列販賣スルヲ以テ法律ノ禁スル所トナルノミ故ニ禁制シタル物件トハ所有ス
可ラサルモノ、所有シ又ハ販賣ス可ラサルモノ、販賣スルカ如キヲ罰スルモノト思考セサ
ル可ラズ

次項所有主ナキモノ外之ヲ沒收ス可ラズト云ヘリ蓋シ所有主ノナキモノハアラサル可シ只
本條云ハント欲セシ所ノモノハ所有主分明ナラサルモノトテ規定シタルモノトス凡ソ窃
取罪ト云ヒ得遺失物罪ト言フモ所有主ノ分明ナラズト雖モ必ズヤ所有主ノ何レカニ在ルヲ
以テ犯罪ノ成立スルモノトス然ルニ若シ果シテ所有主ノナキ物件ナランニハ少シモ犯罪ノ
成立セサルモノニテ其物件ハ無主物ト云ハサル可ラズ無主物ハ法律上罪トシテ論ズルモノ
ニアラズシテ占有者之ヲ獲得スルモノナリ故ニ所有主ナキモノ外云々トハ所有主不明ノ
外ハ解釋セサル可ラサルナリ若シ其物件ニツキ所有主ノ不明ナルコトヲ明カナラシメン
ニハ明治十六年司法省丙第二十號ノ達ニ依テ處分セサル可ラズ其達ニ曰ク

犯罪ノ用ニ供シタル物件及ビ犯罪ニ依テ得タル物件ハ本案ノ裁判ヲ言渡ス迄ニ所有主ヲ發
見セサルハ刑法第四十三條第四十四條ニ從ヒ其本案ノ裁判ト共ニ沒收ノ言渡ヲ爲ス可シ
ト雖モ右ノ物件ハ之ヲ其裁判所々在及ビ犯罪ノ地ニ公告シ一年間ニ所有主ヲ發見シタルハ
ハ檢察官ヨリ直ニ之ヲ還付スベシ此旨爲心得相違候事但檢察官ニ於テ保存ス可ラサル物件
又ハ保存スルニツキ費用ヲ要スヘキ者ト思料スル時ハ公費ノ處分ヲ爲シタル上其代金ヲ保
存シ置クヘシト此レ實際ノ上已ムヲ得サル便宜法ト謂ハサル可ラズ蓋シ所有主ナキ云々ト云
ヘルハ即チ所有主不明ノ懸タルコト推知ス可キナリ

第四節 徵償處分

徵償處分トハ先ヅ左ニ掲クル徵却方法等ノ類ヲ云フ

第一 裁判費用ノ徵收

第二 贓物ノ還給

第三 損害ノ賠償

以上犯罪ヨリ生スル所ノ被害者ノ結果ヲ補フ費用ヲ云フモノニシテ民事ノ所謂訴訟費用ト
云ヘルカ如シ裁判費用ノ何者タルコトハ別ニ規定シタル法律アリ就テ之ヲ觀ル可シ論者アリ
曰ク裁判費用及ビ其他ノ一ハ民事上ニ關スルモノニテ刑法ノ規定ス可キモノニアラズト然
レモ是又一ノ便宜法ナルノミ

第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費
用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

本條ハ裁判費用ヲシテ全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科スヲ以テ元則トナスモノナリ全部ヲ
官ニテ負擔スルトハ其事件ニ必要ナラザルモノナ官ヨリ命シタル場合ノ如キ之ナリ之等ハ
即チ官ノ負擔ニ期セサル可ラサルナリ如設ヘバ其事件ニ必要ナラザル鑑定ヲ命シ無益ノ証
人ヲ呼出シタルカ如キ預審ニ於テ免訴シタル事件ノ証人ノ如キハ等シク官ヨリ負擔ス可キ
モノト爲サレ可ラズ

然レモ其証人ヲ請求スルヤ被告人ノ請求ニ出テ又ハ鑑定證明セシムルカ如キハ即チ被告ニ
於テ負擔ス可キモノトス何トナレバ一ハ官ノ裁判上テ佐クルニ出テ一ハ被告人ノ利益ノ爲
ニ爲サシムル所ナルヲ以テ之ニ者ニ區別セサル可ラズ今本條ニツキ悉ク官ノ負擔ニ歸ス
可シト論スルモノアリト雖モ決シテ其當ヲ得タルモノニアラズ官ハ刑罰ヲ施スガ爲ニ官員
ヲ設ケ給料ヲ與ヘ以テ之レガ處置ヲ爲サシムト雖モ然レモ犯人ノ爲ニ生シタル凡テノ費用

ヲ負擔セザル可ラズト云フニ至テハ決シテ執ル可キ議論ニ非ルモノト斷定セザル可ラズ給
料ノ如キ諸官衙修繕及ビ其外預算シ得キ性質ノ金額ニ至テハ之ヲ支出スル敢テ難キニ非ル
可シト雖モ犯人ノ所爲ニ依テ生スル所ノ損害及ビ裁判費用ノ如キハ之ヲ預メ測知シ難キノ
ミナラズ爲ニ犯人ヲ益シテ罪人ヲ保護スルニ至ル蓋シ犯人ノ費用ハ犯人自ラ之ヲ犯セシモ
ノナルヲ以テ其犯者ノ責任ニ任スルヲ以テ正當ノ斷按ト爲サ、ル可ラザルナリ

**第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラル、ト雖モ被害者ノ請
求ニ對シ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ免カル、トテ得ス**

釋義 犯人ハ刑ニ處セラレテ役ニ服セシモノハ元ヨリ如設ヒ無罪免罪ニヨリ放免セラレシ
モノト被害者ノ請求アルハ贓物ノ還給損害ノ賠償ハ免ル可ト能ハサルモノトス被害者ノ請
求ハ必ズ本案裁判ノ前ナラサル可ラズ先ヅ刑法附則第五十五條ヲ揭テ之ヲ示サン同條ニ曰
ク贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ依リ買取シタル物品ハ其公商者クハ被害者ヨリ買
取者ニ原價ヲ償ハサレハ直ニ還給セシムルコトヲ得ス
若シ公商ニ依ラズシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムコトヲ得ズ但其買取者ハ賣者ニ對シ
賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

右ノ如クナルヲ以テ贓物現在スルハ之ヲ被害者ニ還給ス可シト雖モ其公商ニ依リ買取シ
タル者ハ其公商者クハ被害者ヨリ原價ヲ償フニ非レバ之ヲ取戻ス可ト能ハサルモノトス
蓋シ贓物ノ還給トハ現在シタル贓品ノ確定物ナルハ云フモノニシテ其不確定物ナル時ハ
之ヲ賠償ヲ求ムルニ過キサルモノトス確定物トハ他ノ物品ヲ以テ代フ可ラサルモノニテ必
ズ其物品ニ所有主ノ印シタル自然ノ物權ノ存在スルモノヲ云フ何摸樣何色ノ衣服ト云ヘル
カ如キハ即チ之ヲ確定物ナリトス

然レモ若シ盜取セラレシ物品ニシテ金錢ノ如キモノナルハ對人權ヲ得ルニ止マリ損害賠
償ヲ求ムルニ過ギサルナリ此盜人ニシテ身代限ヲ爲スハ衆債主ト平等ノ分配ヲ爲サ、ル
可ラズ反之シテ物權ナルハ追隨權アルヲ以テ他債主ニ先チ之ヲ取り去ルノ利益アルモノ
トス何トナレバ金錢穀物ノ如キハ他物ト交換スルモ少シモ變更ス可キモノニアラズシテ同
買同量ノ物ヲ以テ換ヘ得可キモノナレバナリ

贓物ノ還給ハ刑事裁判所ニ之ヲ爲ス可ト得シト雖モ公判已ニ落着タル後ニ在テハ民事
裁判所ニアラサレバ請求スルコトヲ得スト然レモ現在スル贓物ナルトキハ被害者ノ請求ナシ
ト雖モ之ヲ還附スルモノトス又之レ等ノ處分ニ付テハ身代限ノ處分ヲ請求シ又ハ犯人死ス
ルモ相續人ニ對シテ要求スルコトヲ得ルモノトス

**第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯
人ニシテ之ヲ連帶セシム**

釋義 本條ハ數人共犯ノ場合ニ於テ其裁判費用及ビ贓物ノ還給損害ノ賠償等ヲ定メタルモ
ノニシテ法律上其數犯人ヲ分身同休トナシ連帶ニテ之レ等ノ費用ヲ負擔セシムルモノトセ
リ思フニ數人共犯ニ係ル以上ハ其犯罪ノ成立ハ一体ニシテ心意ノ結合恰モ一身ノ如キ思ヒ
アルモノナリ故ニ之ヲシテ刑事ノ裁判費用ハ犯者數名アルハ連帶セシムト云ヘル元則ノ
發生セシ以所ナリ

以上ハ本條ノ概略ニ過ギスト雖モ之ヲ細論スルハ先ヅ連帶ノ何者ナルヤヲ研究セザル可
ラズ連帶ノ性質分明ニシテ而後本條ヲ視ルハ自ラ氷釋スル所アルベシト思ハル故ニマツ
連帶ノ如何ヲ詳論ス可キナリ

廣島縣輕罪裁判所檢
專請訓
明治十六年九月十七
日
刑法第四十三條同第四

佛民法

十八條末項ノ旨趣ハ渾
テ現ニ得ル贓ヲ指稱ス
ルモノト了解罷在候處
客年七月當裁判所ニ於
テ贓金ヲ以テ買取シタ
ル物品ヲ沒收セリ然ル
ニ當時檢事代理ハ之ヲ
不當トシ被害者ヘ下付
スヘキ趣意ヲ上告ス大
審院ハ本年七月上告ノ
如ク第四十八條ニ據リ
裁決アリ右ハ凡ソ裁判
例トナルヲ以テ之ニ倣
フハ勿論ト雖大ニ疑團
不少抑モ金ハ品ニ變化
スルモ猶問接ノ贓トシ
品ハ同視スル者トセハ
何度其性質ヲ變スルモ
同ク源贓ト同視セサル
ヲ得ン爰ニ一例ヲ舉ン
ニ農甲吉商乙吉力賣品
タル反物數拾ヲ盜ミ以
農用牛馬數頭ヲ所有セ
ハ之ヲ押收シテ乙吉ニ
還付スヘシ然ルニ被害
者タルモノノ常情ハ繁
ヨリ源贓ノ返還若クハ

第百二條ニ曰ク義務ヲ行フ可キ數人同一ノ義務ヲ負ヒ其數人中ノ各人義務ノ全部ヲ行フ
ヘキノ際ヲ受ケヘク且其數人中ノ一人義務ノ全部ヲ行フニ於テハ他ノ義務者其權利者ニ對
シ義務ヲ免ルトキハ其義務ヲ行フヘキ者ニ連帶アリトスト
故ニ今連帶ノ性質ヲ分別スルハ左ノ如クナルベシ
第一 義務者數人ニテ義務ノ全部ヲ負擔スル
第二 一人義務ノ全部ヲ盡シタルハ各人其義務ヲ免ルベシ
是ヲ以テ之ヲ觀レバ連帶義務トハ各人互ニ代理契約ヲ以テ成立ツ所ノモノニシテ一人ニテ
全部ノ義務ヲ盡スコトヲ得可キモノトス故ニ之カ反對ノ權利者ニ在テハ義務者全部ヲ訴フ
ルモ可ナリ或ハ又義務中ノ一人ヲ訴テ義務ノ全部ヲ辯償セシムルモ可ナリ又或ハ一人ヲ訴
ヘ直ニ又數人ヲ訴フルモ權利者ノ思フ所ニ從フ可キモノトス
第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ
刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ
請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ス
附註 本條ハ私訴ニツキ裁判管轄及ビ贓物還給方ヲ規定シタルモノトス凡ソ刑事ニ於テ裁
判費用及ビ損害賠償贓物ノ還給等ニ付テ裁判スルハ一ノ便宜ニ出テシモノニテ刑事裁判所
本質ニハアラサルナリ
贓物ノ現存シテ犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ直ニ被害者ニ還給スルモノ
トス何トナレバ此等ノ物件ハ犯人ノ所有シ得可キモノニアラズシテ高ニ刑法ノ制裁ヲ受ケ
ルニ至リタル財物ナレバ其盜取セラレタルモノニ還付セサル可ラス然レモコノ還附スル場
合ニ於テハ必ズ差押ヘナカル可ラズ刑法附則第五十四條治罪法第三百八條等ヲ參看ス可シ

相當ノ要償ニ可有之右
牛馬ヲ還付セザルハ如
キハ該贓僅少ナラサレ
ハ之ヲ辭退センニ判官
ハ已ニ押收還付ノ宣告
ヲナシタルハ如何モ
ヘカラス其他言ヘカラ
サル障害アルニ至ラン
右ハ法理上甚々了解致
兼候間何分ノ御訓示ヲ
仰キ候也

○司法省內訓

十六年十一月二日
請訓ノ趣贓金ヲ以テ買
取シタル物品ハ勿論贓
物ト交換シタル物品ト
雖モ仍ホ贓物トシテ處
分ス可キモノトス但還
付ノ處分ヲ受ケルモ被
害者ニ於テ其物品ヲ領
收セシテ別ニ損害ノ
賠償ヲ求ムルハ其隨意
ナリトス此旨及內訓候
也

○京都府伺

十六年六月廿一日
茲ニ一人ノ未決監ニ

被害者ノ請求アルヲ以テ還附スト爲セシ以所ノモノハ大ニ理由ノ存スルアルヲ以テナリ
フ試ミニ之ヲ辨セシ凡ソ私權贓アルハ被害者ノ財産ニ損害ヲ加ヘタルヲ以テナリ故ニ必ズ
被害者ハ之ヲ取還シ又ハ賠償ノ所權アルヤ已ニ明瞭ナリトス然ルニ被害者ヨリ請求ナキ
ハ之ヲ如何ニス可キヤ被害者ノ請求ヲ忘却失念セシモノト臆斷シテ之ヲ直ニ被害者ニ還付
ス可キヤ或ハ法律ヲ知ラサルモノト速斷シテ直ニ之ヲ被害者ニ還付ス可キモノナルカ二者
必ズ其當ヲ得タル推測ト云フ能ハサルナリ
私權贓ハ私益ヲ害セシニ起ルモノナリ私益ニ依テ公事ヲ害ス可ラズト雖モ然レモ私益ニ關
スルモノハ公益ニ背反セサル以上ハ之ヲ拋棄スルコト自由ナリ致テ他人ノ牽制シ得ル所ニ
非ルナリ然レバ則チ被害者ノ意ヨリスルハ之ヲ請求スルハ面倒ナリ煩ニ堪ヘサルナリ錄
登擬ハ之ヲ盜者ニ與フルモ可ナリト拋棄シ請求ヲ故ニナサトルモノアルベシ況ンヤ法律ヲ
知ラサルニ由ルトハ推測シ得可ラサルモノナルヤ何トナレバ法律ハ一般人民ノ周知シタ
ルモノトナシ之ヲ實行スルモノニテ未ダ之ヲ知ラズ又ハ愚蒙ニシテ之ヲ知ラサル可シトハ
決シテ法律上免スコラサル推測ナリサレバ知ラサルニ由ルトノ推測モ用ユルコト能ハサル
ナリ
此場合ニ於テ宗リニ被害者ヲ招喚シ數十里ヨリ出延セシメテ古鐵壹挺ヲ下渡スガ如キコト
レバ實ニ被害者ハ俗ニ云フ盜人ニ追錢ニテ利害償フコト能ハサルニ至ル故ニ檢察官ハ被害
者ノ請求アルトキハ之ヲ還付ス可シト雖モ然ラサレバ直ニ之ヲ還附セサル以所ナリ
第五節 刑罰計算
刑罰ノ起算ハ最モ必要ノモノニシテ一步誤レバ謂ハレナク貴重ノ身體ヲ拘束シ或ハ
反テ刑ノ執行ヲ全クセス爲ニ大ニ刑ノ目的ニ背反スルノ結果ヲ生スルニ至ラントス况ンヤ

收監セラレ審理中餘罪發シテ又收監狀ヲ發セラル者アリ而シテ第一ノ所爲ニ對シ刑ノ言渡チナシ數日ヲ經テ第二ノ所爲ニ對シ放免ノ言渡チナシ又ハ刑ノ言渡シチナス者アリ此場合ニ於テハ未決監期ニ收監中ト雖モ第一ノ刑期ハ刑法第五十一條ノ通計算シ可然裁前顯果シテ何ノ通ナルハ已決囚ニシテ餘罪發シ未決監ニ收監セラレハ其餘罪ノ罪トナルト否トヲ論セス其日數ハ刑期ニ算入スル義ト心得可然裁差係リタル義有之候條至急何分ノ御指令相成度此段相伺候也

○司法省指令
 十六年六月三十日
 京都府伺
 明治十六年十月廿六日

官渡ノ日子ハ滿期ニ必要ニシテ滿期出獄ハ監視ノ起算ニ必要ナルモノアリ故ニ之等ハ最モ慎マサル可ラサルナリ

第四十九條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從テ受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス

凡ソ刑法中規定スル所ノ日ヨリ同年ニ至ルマテノ時或ハ日子分明ナラサルトキハ一定ノ日子ニ據ル可キ處ナキヲ以テ法律上明ニ之ヲ規定セサル可ラズ今本條ヲ見ルニ古來ノ曆數ニ依テ之ヲ規定シ少シモ差異スル所ナシ然レバ殊更ニ之ヲ明ナラシメタルハ紛議ヲ避クル良法ト謂ハサル可ラズ

廿四時ヲ以テ一日トスルハ零時ヨリ零時ニ終ル所ノ數ヲ云ヒシモノナルカ將タ一時間ト稱スルモノ廿四時ヲ併セタルモノヲ云フカ思フニ本條單ニ二十四時ヲ以テ一日トストアル以上ハ一時ヲ二十四併セタルモノト解釋セサル可ラズ

一月ト稱スルモ又同シク其起頭ハ何レニ在ルモ一日ヲ三十併セタルモノト知ラサル可ラズ受刑ノ日ヲ以テ刑期ニ算入シ放免ノ日ヲ算入セサルモノハ即チ犯人ノ利益ノ爲ニ之ヲ斯ク規定シタルモノト何トナレバ如設ク二十四時ニ滿タサルモノ一日ト定メ以テ起算ニ便ニシ一ハ犯者ノ利益ヲ計リタルモノトス

第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルヲ得ス

凡ソ刑事民事ヲ論セズ裁判ノ効力ヲシテ動カス可ラサルニ至ラサレバ執行力ヲ生スルモノニアラズトス今本條ハ治罪法第三百九條ト比較スルヲ以テ之ヲ揭ケテ以テ本條ヲ解スルニ便ス可シ

本年九月廿六日付京都府輕罪裁判所檢事請訓其第二條ニ重禁錮一年ノ刑ヲ受タルモノ六十日經過シテ逃走シ云々ニ對シ本月十三日付請訓ヲ越ハ第一條第二條共後段見込之通ト内訓有之候處當府ニ於テハ刑法第四十九條ニ據リ斯ノ如キモノハ一年ノ内ヨリ六十日ヲ扣除シ殘ル三百五日ヲ執行致來候處右内訓ノ通ニテハ一年ノ刑ヲ受ケタルモノ六十日經過シテ逃走スルハ其逃走スルカ爲メニ已ニ確定シタル裁判ノ刑期五日ヲ減縮スル義ニテ稍不穩當ニ被考候如何相心得可然哉

○司法省指令
 十六年十一月八日
 伺ノ趣旨ニ從フトハ一年ヲ三百六十五日トスルニ非スノ曆ノ年月日

第三百九條 本案ノ裁判官渡ニ對スル上訴ノ期限内又上訴アリタルトキハ其判決アルマテ裁判執行ヲ停止ス

第四百五十九條 重罪遺野罪ノ刑ハ裁判確定ノ後ニ非レハ之ヲ執行ス可ラズ

第四百六十一條 死刑ヲ除クノ外刑ノ言渡確定シタルハ直ニ之ヲ執行ス可シ

以上ハ裁判確定ニ關スル刑事ノ條項ニシテ須ラク注意ヲ要スルモノトス

裁判ノ確定スルトハ如何ナル手續ノ終リタルトキナ云ヘルモノカナ詳ニセサル可ラズ動ス可ラサルニ至ルトハ何ナリヤ知ルヲ要スルモノナリ

上訴ノ期限トハ即チ故障控訴上告等ノ道ヲ經過シテ最早何レニモ上訴ス可ラサルニ至レルモノヲ云フ即チ五日間經過スルトキハ上訴スルコトモ控訴スルコトモ得可ラサルヲ以テ通常對審ノ重罪遺野罪ニ對シテ確定ス可キモノトス又上訴アリタルハ其判決マテト云ヘルハ上告ニ係ルハ大審院ノ判決アルマテ控訴ニ係ルトキハ控訴院ノ判決アルマテ執行ヲ停止スルモノトス併シナガラ控訴院ハ事實ヲ覆審スルモノニテ即チ取調ヲ要スルコトモ宣告ヲ受ケシ裁判所ト異ナルヲナキモノトス然レバ即チ通常ノ場合ニ於テハ本人自ラ控訴院ニ出頭シテ事實ヲ陳述セサル可ラズ此場合ニ於テハ元ヨリ刑ノ執行ヲ停止セサル可ラサルヤ事實ニ於テ已ニ然ルモノトス然レバ大審院ハ事實ノ裁判ナサズシテ法律ノ適用ヲ矯正スル所ナルヲ以テ被告人ノ上告ニ係リ欠席ナルコト數々ナリ斯ル場合ニ於テハ執行停止ノ條項ノ必要ヲ見ル可シト雖モ夫ノ控訴ノ場合ニ於テハ此トト異ナルヤノ点ナキ能ハサルナリ

拘留ノ刑ハ一日ヨリ十日マテトス今治罪法第三百三十九條ニ於テハ遺野罪ノ刑ト雖モ三日ヲ輕ルニアラサレバ確定セサルヲ以テ又執行ヲ停止セサル可ラズ況ンヤ是等遺野罪ノ刑ハ未決ノ時ニ當リ拘留スルヲ許サハルヲ以テ上訴中ハ元ヨリ歸家セシメサル可ラズ而シテ三

ニ從ヒ計算スルヲ云フ
即チ年ノ平閏ニ拘ハラ
ス禁錮一年ニ處セラレ
タル者本年十一月一日
ヨリ執行シタルハ明
年十一月一日ニ之ヲ放
免ス若シ明年一月二日
ニ逃走シ同五月一日ニ
捕ニ就キタルハ明後
年四月卅日迄チ一年ト
假定シ其内ヨリ前ニ執
行ヲ經タルニケ月一日
ヲ扣除シ平年ナルハ
明後年二月廿七日ヲ以
テ滿期トス依テ京都始
審裁判所檢事會根誠藏
へ前訓示ノ通心得ヘシ

日間ヲ經過スルハ二日ノ拘留ニ處セラレタルモノハ逃ニ執行ス可ラサルニ至ル何トナレ
バ凡ソ刑ハ宣告ノ日ヨリ起算スルモノナレバ宣告ノ日ヨリ起算スルトキハ一日ノ餘分アル
モ不足ナキカ如シ此ノ場合ニ於テハ大本條ノ適用ニ阻礙ヲ來タサル可ラズ若シ右等ノ
場合ニ際スルハ實行ヲ受ケサルモノトセサル可ラサルナリ
其他裁判確定スルハ直ニ之ヲ執行ス可シト雖モ死刑ハ元ヨリ夫ノ罰金及ビ科料ノ如キモ
確定スト雖モ直ニ執行スル能ハサルモノトス何トナレバ科料ハ言渡アリテ確定シタルヨリ
十日間ニ執行スルコトヲ得可ク罰金ハ確定ノ後一月ノ猶預アルヲ以テナリ他又死刑ノ婦女
樹胎ナル場合ニ於テハ百日ヲ猶預スルカ如キモ均シク確定スルヤ否直ニ執行スルコト能ハ
サルモノトス
蓋シ以上ノ罰金科料及ビ婦女懷胎ノ場合ノ如キハ第四百六十一條ト同シク除クノ外ノ部類
ニ算入シテ正當ナル可キモノカ
**第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者
ハ左ノ例ニ從フ**
一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス
若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス
二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トチ分タス前判宣
告ノ日ヨリ起算ス
三 上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入ス
ルヲ得ス

刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算スルヲ以テ元則トナス然レドモ上告シタル場合ニ於テ

可然哉法律ニ正條ナキ
ヲ以テ此段相伺候也
○司法省指令
十六年十一月十日
伺ノ越後判宣告ノ日ヨ
リ起算スヘシ
但上告期限内檢察官ヨ
リ上告シタルモノニ係
ル時ハ前判宣告ノ日ヨ
リ起算スル儀ト心得ヘ
シ

ハ其起算方ニツキ大ニ異ナルモノアリ依テ之ヲ分別シタルモノトス
一 項ハ之ヲ二個ニ區別セサル可ラズ
一 犯人上訴シテ正當ナル時
二 犯人上訴シテ正當ナル時
第一ノ場合ニ於テハ始メ宣告シタル日ヨリ起算シテ上訴ノ判決ノ日マテ算入シ之レヲ執
行ノ日ニ算入スルモノトス如設ヘメ三月ノ重禁錮ニ處セラレタルモノニシテ犯人上告シ大
審院ニ於テ其上告ヲ認可シ原裁判ヲ破毀シテ更ニ二月ノ重禁錮ニ處斷シタルハ上告中ノ
日數一月ヲ設シタルモノト假定セバ此場合ニ於テハ第一月ヲ執行スルカ如シ
犯人上訴シテ正當ナル時ハ其上告中ノ日數ハ算入セズシテ大審院判決ノ日ヨリ執行ス可キ
モノトス故ニ入獄中ノ日數ハ全ク犯人ノ爲ニ無益ニ屬スルモノナルベシ
二 檢察官ノ上告ニ係ルモノハ上訴ノ正當ナルト否トニ拘ハラズ前判宣告ヨリ起算スルモ
ノトス蓋シ檢察官ノ上告ノ爲ニ犯人ニ刑期ノ長短ヲ覺セシムベキ理ナキヲ以テナリ
三 上訴中保釋又ハ責付等ニ依テ出獄シタルモノ其出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セザルモノ
トス是等ノ日數ハ等モ爲ニ刑ノ執行ヲ受ケズ犯人ノ請願又ハ逃走ノ恐レナキヲ以テ一時
出獄セシメタルニ過ギサレナリ
保釋トハ未決拘留中犯人ノ請願ニ依テ許可スル所ノモノニシテ保證人ヲシテ何時ニテモ
出廷セシムトノ受書ヲ差出サシメ且ツ裁判官ノ命スル保證金ヲ差出シテ而後之ヲ許可ス
可キモノトス保證ハ預審判事公判々事何レモ之ヲ命スルコトヲ得可キモノトス
脅付ハ犯人ノ願ニ依テ爲スモノニアラズシテ微罪ニシテ逃走ノ恐レナキモノ等ニ之ヲ命
スルモノトス司法警察官檢事公判々事預審悉ク之ヲ行フ可キモノトス責付中ハ猥リニ他

○司法省指令
十六年十一月十日
伺ノ越後判宣告ノ日ヨ
リ起算スヘシ
但上告期限内檢察官ヨ
リ上告シタルモノニ係
ル時ハ前判宣告ノ日ヨ
リ起算スル儀ト心得ヘ
シ

十六年十二月廿一日
伺之趣原裁判宣告ノ日ヨリ起算ス可シト雖モ大審院ニ於テ破毀ノ旨渡アリタル翌日ヨリ哀訴棄却ノ旨渡迄ノ日數ハ除去スル限ト心得可シ

●新潟縣伺
明治十六年十二月廿五日

第一條 舊刑法處斷ノ者ニシテ改定律例第五十條ニ依リ償役アル者現今服役中ニ在ル者ハ新刑法ニ比準シ其償役ヲ有メ原役限内ニ算入シ可然哉
第二條 前條ノ者改定律例第四十四條ニ依リ償役アル者現今服役中ニ在ル者ハ前條同條處分シテ可然哉
○司法省指令
十七年一月十九日
第一條 第二條伺ノ趣

出スルコト能ハズ又公會ニ臨ムコト能ハサル等責付條例アリテ悉ク之ヲ規定ス若シ其條件ニ背反スルトキハ責付ヲ取消シ直ニ入臨セシム可キモノトス
第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス

本條ハ刑期限内逃走シタルモノハ其逃走中ノ日數ハ刑期ニ算入セズト云ヘルモノニテ最モ解シ易キ條項ナルモノ、如シ然リト雖モ場合ヲ假シ設テ之ヲ論スルハ大ニ難ノ發生スル場合アルモノ、如シ然レモ今此ノ難問題ヲ掲出スルハ爲ニ紙數ヲ要シ義解ニ類スルノ怖レナキ能ハサルヲ以テ之ヲ略シ簡單ニ之ヲ解釋スベシ刑期限内トハ必ズ確定後ノナラサル可ラズ未決中逃走セシモノハ未ダ以テ刑期ト云フ能ハサルノミナラズ限内ノナクレバナリコノ刑期中逃走シテ捕ニ就キタルモノハ前受刑ノ日數ト就捕以來ノ受刑ノ日數トヲ計算シテ之ヲ受刑ノ日トナスモノニシテ逃走中ノ日數ヲ控除スルモノトス今監視規則ヲ犯シ是ノ執行ヲ逃レタルモノアルハ同シク刑期限内ト云フ可キヤ否蓋シ入獄シタルモノニアラズト雖モ監視モ附加ノ刑ナレバ刑ト云ハサル可ラズ而シテ執行中ニ在ルモノナレバ又均シク限内ト謂ハサル可ラサルナリ
已ニ然レバ逃走シテ執行ヲ逃レタル日ハ之ヲ除キテ同シク實際執行シタル日數ヲ計算シテ以テ受刑ノ日トナサレ可ラサルナリ
刑期計算ノ点ニ於テ逃走ノ日ト就捕ノ日トハ之ヲ刑期ニ算入ス可キヤ否ノ間ヒアリ宮城堀田ノ二氏皆ナ之ヲ以テ刑期ニ計算ス可キモノトセリ蓋シ幾分ノ拘束ヲ受ケタル上ハ元ヨリ刑期ニ加ヘサル可ラサルナリ
第六節 假出獄

●和歌山輕罪裁判所檢事請訓
明治十七年七月十七日

刑ノ言渡ニ對シ被告人自ラ上告シ檢察官亦附帶ノ上告ヲ爲シタル場合ニ於テ二個ノ上告共ニ棄却セラレタルハ刑罰第五拾壹條第五ノ後段ニ依リ後判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘキ儀ト存候得共同上ノ場合ニ於テ被告人ノ上告旨趣ハ原裁判ヲ破毀スルノ理由ト爲スニ足ラサルモ他ニ不法ノ點アルヲ以大審院之ヲ破毀シタルハ檢察官附帶上告ノ旨趣ニ依リ原裁判ヲ破毀シタルハ到底原裁判不法ナリシ者ニ付被告人ノ之ニ服セシメテ上告セシムハ不當ナルト爲シ難ク且原裁判ノ破毀ト爲リタルハ畢竟被告人ノ上告

假出獄トハ被刑未者其刑期ヲ了ラズト雖モ假ニ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ許可スルモノナリ即チ重罪輕罪ノ場合ニ於テ獄則ヲ遵守シ悔改ノ狀アルモノハ刑期四分ノミナ經過スルノ後之ヲ許可スルコト得可キモノトス無期ノ徒刑囚ハ十五年ヲ經過シタル後出獄ヲ假ニ許可セラル、コトアルモノトス其流刑ノ囚ニ此ノ設ケナキ以所ハ蓋シ流刑ノ囚人ニハ免隨閉ノ處分アリテ出獄スルコトヲ得可キヲ以テナリ
今假出獄ノ依テ起ル目的ヲ掲ケレバ左ノ如シ
第一 改過遷善ノ心ヲ發セシムルヲ
第二 生活劇變ノ預備ヲナスヲ
第三 預備出獄

人ノ罪ヲ犯シテ入獄スルヤ重罪無期ノ如キニ至テハ終身良心ニ遷ルノ念ナク益々不良心ヲ發生スルニ至ラントス蓋シ人ノ善ニ遷リ昨非ヲ改ムルモノハ以來社會ニ立テ良民ニ齒セント欲スルノ念慮アレバナリ夫然リ然ルニ無期刑ナルハ終身獄裡ヲ出ツルノ日ナキヲ以テ何ヲ樂ンテカ等ニ遷ルノ心華ヲ發セン斯ノ如クナレバ大ニ刑罰ノ主旨ニ背キ忘リニ良心ヲ誘接シテ月ヲ閉ケルガ如キ嫌ハアルヲ以テ茲ニ假出獄ヲ設ケテ良心ノ改過ヲ誘出セントスル以所ナリ況ンキ有期刑者ノ如キハ此法ニ依テ益々頓重ヲ取リ早く出獄白日ノ天ヲ拜セントスルハ人情ノ然ラシムル所ナル可キヲ以テナリ
獄舍不自由ノ生活ハ一變シテ出獄自由ノ身トナルハ前ノ苦ヲ補ハントシテ猥リニ食慾ヲ逞フシ助モスレバ放逸無頼ノ徒タラントス茲ヲ以テ出獄セシメテ自由ヲ漸次ニ得セシメ依テテ劇ニ自由ニ走ルノ弊ヲ避ケシメ放免ノ後ト雖モ爲ニ就業シ易カラシメンスルニ由レルモノトス

二因ルヲ以テ此二個ノ
場合ニ於テハ刑法第五
十一條第一ノ前段ニ依
リ前判宣告ノ日ヨリ刑
期ヲ起算スヘキ儘ト相
心得可然哉

○司法省內訓
十七年七月三十日
別紙訓ノ趣ハ見解ノ
通此旨及內訓候也

○大分縣例
十七年十月廿一日
本年八月御省第三八一
○號內訓ヲ葉縣例第壹
條ニ對シ云々御指令有
之候處茲ニ明治四年七
月廿一日準流十年ノ旨
渡テ受ケ處刑中逃走外
ニ在テ又犯罪ニ依リ全
六年十二月十七日從新
拘役十年加役七十日ノ
處刑中全十年四月二日
再ニ逃走セシニ依リ捧
讀一日ノ上懲役終身ニ
處セラレ服役中全囚ノ
逃走ヲ報シタルニ依リ
減一等懲役十年トナリ

預備出獄ハ放免後生活ノ道ニ就カシメントスルモノニテ特別ニ監督ニ付シテ之ヲ監視スル
モノトス

第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀
アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出
獄ヲ許スルヲ得
無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ
流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒ
ス

○獄則ヲ遵守シテ改過善ノ表ハレタルモノハ重罪ニマレ輕罪ニマレ刑期四分ノ三ヲ
經過シタル後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許可スベキモノトス
無期徒刑ノ四十五年ヲ經過スルノ後又假ニ出獄ヲ許可セラルト、トテ得ルモノトス
今明治十五年九月廿六日司法省達假出獄犯罪處分手續ヲ左ニ示サン

假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタルモノアルトキハ其裁判確定ノ後現ニ之ヲ管束ス
ル所ノ典獄ニ於テ直ニ假出獄ヲ停止テ申渡シ當初下付シタル假出獄ノ證票ヲ受ケヘシ
第二條 典獄ニ於テ假出獄ヲ停止シタルハ其事情ヲ具シ內務司法兩卿ニ開申スヘシ
第三條 甲地方ニ於テ假出獄ヲ許シタル者乙地方ニ於テ停止シタルトキハ乙地方典獄ヨ
リ其事狀ヲ甲地典獄ニ通知シ假出獄ノ證票ヲ送致スヘシ
第四條 前條ノ場合ニ於テ乙地監獄ニ拘禁スルトキハ其監ノ新入者トナシ本刑後刑トニ乙

タル者アリ右ハ千葉縣
伺ト事情相違ノ限モ有
之候ヘハ矢張該內訓ニ
基 刑法第五拾貳條ニ
從ヒ逃走棒鎖等ノ日數
ヲ除キ最前受刑ノ日ハ
明治四年七月廿一日ハ
ニ溯リ已ニ役過セシ日
數四年三百拾九日(自
明治四年七月二十一日
至全六年二月十八日)
數壹年貳百拾三日自全
六年十二月十七日至全
十年四月一日日數三年
百六日合セテ本文ノ如
シ)ヲ懲役十年ノ內ヨ
リ扣除シ刑期ヲ計算致
可然哉

○司法省指令
十七年十一月二十日
伺ノ趣明治十年四月二
日即チ懲役終身ノ宣告
アリタル日ヨリ刑期ヲ
起算スル儘ト心得可シ
○岐阜縣例
明治十七年十二月五
日

地方ニ於テ執行スヘシ(舊式是)

第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サル、ト雖モ仍ホ島地ニ居住セ
シム
○徒刑ノ囚ニシテ假出獄ヲ許サレシハ猶ホ島地ニ之ヲ止ムルハ如何ナル理由ニ依ルモ
ノナルカ益シ左ノ如クナルヘシ
第一 處分ニ便ナリ
第二 開拓ニ益アリ
假出獄中犯罪アリタルハ直ニ島地ニ發遣セサル可ラズト雖モ島地ニ在ルトキハ是等ノ手
續ト費用ヲ省クノ利便アリ
島地ニ在テ出獄ヲ許可セラレシモノハ妻子眷族ヲ招ケノ自由アリ且ツ不毛ノ地ヲ開キ殖民
ノ地ヲシムルニ便ナリ

第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ
幾分ヲ免スルヲ得但本刑期限內特別ニ定メタル監視ニ付ス
○假出獄ヲ許サレタルモノハ必ズ治産ノ禁ノ幾部ヲ免スルヲ得ト規定シアリト雖モ
必ズ之ヲ許可セサル可ラズ何トナレバ假出獄ハ出獄シテ生活ノ道ヲ執ルモノニシアレバ假
出獄ヲ許サル、ト同時ニ治産禁ノ幾部ヲ免セザレバ生活ノ道依テ立ツ所ナケレバナリ
假出獄ヲ許可スルハ悔改ノ情アルモノニ之ヲ許スト雖モ此時ニ於テハ必ズ又行政上監督ノ
方法ナクンバアラス故ニ特別ニ定メタル監視ニ付スヘキモノトス特別監視ハ行政上ノ取締
ニシテ普通監視ノ如キ刑ノ性質ヲ有スルモノニアラズ故ニ之ニ背反スト雖モ刑法第百五十
五條ヲ以テ之ヲ罰スルコトナク單ニ行政上監視則ニ依テ之ヲ懲罰スルニ過ギサルナリ

第壹條 甲地裁判所ニ於テ缺席裁判ヲ受ケ乙地ニテ他ノ被告事件ニテ捕縛入監シタルモノ其事件數罪俱發例ニ依リ不論罪等ノ言渡ヲ受タルモノアリ右刑期計算方ハ假令他事件ニテ捕縛入監中缺席裁判アリタルトテ知リタル場合ト雖モ明治十五年九月廿日本國監第五拾貳號御指令ニ依リ逮捕ノ日ヲ以テ該缺席裁判ノ刑期ヲ起算可然哉

第貳條 缺席裁判アリタルトテ不知全ク往時ノ罪科ヲ悔ヒ自首入監中右缺席裁判アリタルトテ知リタル時モ猶舊條ノ通相心得可然哉

第三條 治罪法第四百拾條但書ニ補ニ就キタル時ハ十日内ニ故

通帯ノ監視ハ毎月二回所轄警察署ニ出頭セザル可ラズト雖モ特別監視ハ每周間ニ一度出頭スルヲ以テ定則トス

住居ヲ轉スル場合ニ於テ普通監視規則ニ依レバ警察署ニ申請シテ許可ヲ受ケ可キモノナレモ特別監視ニ於テハ他ノ府縣ニ轉住スルコトヲ許サハルモノトス

旅行ヲ爲ス場合ニ於テモ警察署ノ許可ヲ得タルハ差支エナシト雖モ特別監視ハ一日程ヲ過クル地ニ旅行スルコトハ之ヲ禁セリ

第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルヲ得ス

假出獄ヲ許スハ改悛ノ情表ハレタル者ヲ以テ之ニ當行スル所ノ恩典ニシテ犯人チシテ改過遷善ヲ誘掖セシムル主旨ニ出ツルモノトス然ルニ出獄中猶ホ罪ヲ犯スカ如キハ未ダ改悛ノ十分ナラサルモノニテ假出獄ヲ許可スベキモノニアラサリシナリト推測ヲ用ユ可ク依テ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルヲナクシテ更ニ出獄ヲ停止シ前後受刑ノ日ヲ計算スルモノトス

夫レ然リ然レモ宮城氏本條ヲ論ジテ曰ク惡意アツテ罪ヲ犯セシキハ出獄ヲ停止スルモ可ナリ然レモ只ダ罪ヲ犯セシキハ云々ト云ヘルハ火ヲ失シテ他人ノ家屋ヲ燒燬スルカ如キ場合ニ於テモ又出獄ヲ停止セザル可ラサルニ至ラン酷ニ失スルモノト云フベシ如設ヒ改悛ノ充分ナルモノト雖モ過失ニ依テ罪ヲ犯スコトナキヲ保ス可ラズ故ニ惡意アリテ犯セシキハ出獄ヲ停止ス可シト規定スルハ大ニ出獄ノ處分ト權衡ヲ保ツニ至ラント實ニ氏ノ所說正當ニシテ間然スル所ナシ

二年ノ餘モ出獄シタル後一朝ノ失竊ニ依テ火ヲ失シタル場合ノ如キハ直ニ爲ニ出獄ヲ停止

障ヲ爲スヘシトアルハ是レ單ニ本案事件ヲ指シタル場合ニテ他ノ事件ニテ入監中當然定期ノ期限ヲ經過スルト雖モ缺席裁判言渡アリタルトテ知リタルヨリ十日ノ期限ヲ與フヘキモノカ

○司法省指令
十七年十一月二十日
伺ノ趣明治十年四月二日即チ懲役終身ノ宣告アリタル日ヨリ刑期ヲ起算スル應ト心得可シ

◎岐阜始審裁判所檢事
訓
明治十七年十月一日
刑法第五拾條刑ハ裁判確定ノ後ニアラサレハ之ヲ執行スルヲ得ストアリテ總テ刑ノ執行ハ上訴期限經過ノ後執行スヘキモノナルモ違背罪ノ如キハ明治十四年第四拾四號公布ニ依

シ出獄中ノ二年ハ刑期ニ算入セザルモノトス又不權衡ナラズヤ論シテ茲ニ至レバ宮城氏ノ所說益々確實ナルモノト謂ハサル可ラサルナリ

第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サス

假出獄ヲ許サハル前ト出獄ヲ許シタルモノトナ論セズ苟モ刑期中ニ在テ罪ヲ犯シタルモノハ未ダ改悛ノ完全ナラサルモノナルヲ以テ以來出獄ヲ許可セザルモノトス何トナレバ假出獄ヲ許スハ過テ改メ善ニ移リタルモノヲ賞スルニ依ルモノナルニ刑期中ニ在テ罪ヲ犯スモノ、如キハ改悛ノナキモノト斷定セザル可ラサレバナリ

然レモ之又前記ノ如ク犯罪ノ故ヲ以テ直ニ之ヲ斷スルカ如キハ未ダ以テ其當ヲ得タルモノト謂フ可ラサルナリ

第七節 期滿免除

期滿免除トハ若干年間經過シタルノ故ヲ以テ法律上之ヲ免除スルモノヲ云フ即チ法律ノ推測ニ依ルモノニシテ日月ノ經過ヲ以テ義務者ハ義務ヲ免除セラレ權利者ハ又既權ヲ消滅シ刑事ニ在テハ公訴權ヲ消滅シ或ハ刑ノ執行ヲ免除セラル、モノトス

刑事期滿免除ニ二種アリ一ナ刑ノ期滿免除ト云ヒ一ナ公訴期滿免除ト云フ大同小異ナリ刑ノ期滿免除トハ既ニ裁判宣告ヲ受ケテ逃走シ又ハ欠席等ノ故ヲ以テ之ヲ執行セズシテ若干年間經過シタルモノヲ云フ是等ノ期滿免除ハ重モニ社會ノ遺忘ヲ以テ理由ト爲ス所ノモノニシテ證據ノ埋滅ノ点ハ附從ノ一小事由タルニ過キサレナリナルトラン氏期滿免除ヲ論シテ曰ク凡ソ社會ニ刑罰權アルハ其所業ノ道德ニ背キ社會ヲ害スルヲ以テナリ然リ而シテ日ノ經過ハ人ノ記念カチ消滅スルモノナレバ犯罪事件ノ記念モ又消滅セザルヲ得ス社會ノ人之ヲ遺忘シタル以上ハ又又刑ヲ執行シ公訴ヲ續起スルノ必要ナシト

リ上訴ヲ許サレサルモ
ナレハ裁判宣告ハ即
日ヨリ執行スヘキ者ナ
ラン依テ思考スルニ茲
ニ輕罪犯ニノ宥恕減輕
酌量減輕等ニテ禁錮ヲ
減盡シ拘留ニ處セラレ
タルモノハ勿論縱令減
シテ其長期一月以上ニ
在ルモ其短期十日以下
トナリ其短期ヲ以テ拘
留ニ處セラレタルモノ
ハ其現ニ受クヘキ刑ハ
即テ違警罪ノ刑ナレハ
該第四十四號ノ公布ニ
基キ上訴ヲ許サレサル
モノトシ裁判宣告ノ即
日ヨリ執行スヘキモノ
ト心得可然哉仰内訓候
也

○司法省内訓

十七年十月十八日
請訓之趣禁錮ヲ減盡シ
テ拘留ニ處セラレタル
者ト雖モ尚ホ上訴スル
ヲ得ルヲ以テ上訴期限
經過ノ後ニアラサレハ

蓋シ刑ノ期滿免除ハ社會ノ遺忘ヲ以テ主意トナシタルモノニテ法律ノ推測ニ依レルモノト
ス故ニ反對ノ證據即チ社會未ダ忘却セズトノ反証ヲ以テスルモ決シテ許ス可キモノニアラ
サルナリ

公訴期滿免除ハ治罪法ノ規定スル所ニシテ罪ヲ犯シタル後其所在ノ不明瞭ナルカ爲ニ犯人
ヲ逮捕スルニ由ナク崔再歲月ヲ經過シテ法律上ノ若干年間ヲ經過シタルヲ以テ公訴權ノ消
滅スルモノヲ云フ

民事期滿得免ニモ又二種アルモノニテ權利ノ消滅中ニ在ルモノトス一チ期滿免除ト云ヒ一
チ期滿得免ト云フ

期滿免除トハ義務ヲ免除セラルルモノニテ即チ若干年間權利者ハ義務ノ執行ヲ要求セズ送
ニ法律上ノ推測期限ニ達スルヲ以テ義務ヲ免ルモノヲ云フ如設ヘバ債權者アリ債主ノ催
促ヲ受ケズ若干年間經過シタルハ義務消滅シタルヲ以テ之ヲ盡スニ及バサルカ如シ

期滿得免トハ權利ヲ得有スルノ意ニテ如設ヘバ他人ノ所有地ヲ占有スルカ如シ占有ニ必要
ナル條件ヲ具備シテ若干年間之ヲ占有スルハ自己ノ所有地トナリテ又動カス可ラサルニ
至ルモノトス蓋シ時効ト云ヘルモノニテ時日ノ經過ニ依テ義務ヲ免レ又權利ヲ獲得スルモ
ノトス

第五十八條 刑ノ執行ヲ週レタル者法律ニ定メタル期限ヲ經過スル

ニ因テ期滿免除ヲ得

刑ノ執行ヲ週レタルモノトハ即チ逃走シテ週ルモノアリ最初ヨリ出廷セズシテ欠
席ノ儘裁判ヲ受ケ依テ之ヲ週ルモノアリト雖モ其執行ヲ週ルモノノ方法如何ニ依ラズ苟モ
刑ノ宣告ヲ受ケ其執行ヲ週レタル者ニハ必ス斯ノ期滿免除ノ方法ヲ適用スルモノトス

其刑ヲ執行スルヲ得サ
ル儀ト心得可シ此旨及
内訓候也

○栃木縣何

明治十八年

第一條 刑法第五十六

條假出獄中更ニ重罪
輕罪ヲ犯シタル者ハ
直ニ出獄ヲ停止シ出
獄中之日數ハ刑期ニ
算入セズト有之右所
謂出獄中之日數トハ
即本年(九月)丙第七
號勅達假出獄停止手
續第一條ニ依リ典獄
ニ於テ假出獄ノ停止
申渡ヲナセシ前日迄
ヲ云フモノナルヲ果
シテ然レハ刑法第五
十二條刑期限內逃走
シ再ヒ捕ニ就キ未決
監ニ拘禁中之日數ヲ
本刑期ニ算入スル
者ト權衡如何ト被考
候因テハ前文第五十
六條出獄中之日數計
算方ハ假令假出獄停

刑ノ執行ヲ週レテ期滿免除ヲ得タルモノニハ必ズ刑ヲ執行ス可ラズト雖モ私訴ノ名義ニ依
ラズシテ民事損害要領ノ名義ヲ以テスルトキハ犯罪ニ依テ受ケタル損害ヲ要求スルコトヲ
得可キモノトス

第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得

- 一死刑ハ三十年
- 二無期徒刑ハ二十五年
- 三有期徒刑ハ二十年
- 四重懲役重禁獄ハ十五年
- 五輕懲役輕禁獄ハ十年
- 六禁錮罰金ハ七年
- 七拘留料料ハ一年

本條ハ主刑ノ期滿免除ヲ得ルコトヲ規定シタルモノニテ死刑ヨリ拘留料料ニ至ルマ
テ三十年ヨリ一年ノ差異アルモノトス死刑ノ如キハ罪ノ重大ナルモノナルヲ以テ社會ノ遺
忘拘留料料等ノ如ク甚ダ速カナラズ從テ年限ノ長キ以所ナリ此等期滿免除ヲ得タルモノハ
他日其本人ノ出現スルモノ之ヲ執行スルコト能ハズシテ刑ハ時日ノ經過ニ依テ消滅スルモノ
トス

公訴ノ期滿免除ハ檢察官ヨリ預審若クハ公判ノ手續アリタルハ治罪法第十一條ニ定メタ
ル期限ノ二倍ヲ超過スルヲ得サレハ刑ノ期滿免除ニ至テハ即チ然ラズ刑法第六十二條ニ
從ヒ逮捕狀ヲ發シテ之ヲ中斷スルヲ數十年ニ至ルコトヲ得可シ之レ蓋シ一ハ刑ノ宣告アリ
タルヲ以テ社會ノ記念久シキニ存スルヲ以テナリ

止ノ申渡ヲナサハル
モ既ニ繫獄スル以上
ハ其日數ハ刑期ニ算
入スル儘ト心得可然
哉

第二條 假出獄停止手
續中假出獄申渡書式
之末文ニ其出獄ヲ停
止シ証憑取上候事ト
アルハ出獄中已ニ其
証憑紛失等ノ爲メ所
持セサル者ト雖モ猶
証憑取上ノ四字ニ記
入スル義ニ候哉

○内務省指令
十八年十二月五日

書面伺ノ趣左ノ通可心
得事

第一條末段

伺ノ通

第二條 証憑取上ノ

四字ハ省クヘシ

○宮城縣伺

明治十六年八月廿三

日
刑注第五十七條ニ曰刑

第六十條 剝奪公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラズ

本條ハ附加刑中剝奪公權停止公權及監視ハ期滿免除ヲ得サルモノトス何トナレバ之
レ等ノ刑ハ刑ナリト雖モ其之ヲ執行スルニ當テヤ有形ノ執行ヲ爲ス可キモノニアラズシテ
常ニ無形ノ執行ニ屬スルモノトス主刑ノ如キハ有形ノ執行ヲ爲スヘキヲ以テ世人ノ之ヲ執
行シタルト否トハ外見上知り得可シト雖モ無形ノ執行即チ附加刑ノ如キハ權利ヲ滅殺スル
所ノ刑ニシテ目以テ之ヲ見ル可ラサル刑ナルヲ以テ又期滿免除ヲ得テ權利ヲ復スルノ理ナ
キモノトス

罰金ノ刑ハ有形ノ刑ナレバ之ヲ執行スルト否トハ判然區分スルヲ得可キモノナルヲ以

テ若干ノ時日經過ニ依テ期滿免除ヲ得ル主刑ト同一ナラサル可ラス

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遲レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ

就キ再ビ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ缺席裁判ニ係ル時

ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

期滿免除ノ日ハ何レノ日ヨリ起算スルカハ最も必要ノモノナルヲ以テ本條之ヲ規定
シタルモノトス

期滿免除ノ期限ハ實際刑ノ執行ヲ道レタル日ヨリ起算スルヲ以テ妥當ナリトス何トナレバ
世人ノ記念方ナシテ薄弱ナラシムルト云ヘルモノハ執行ヲ道レタル日ヨリ若干日時ノ經過ニ
依テ記念ノ御キヲ致ス可クナレバナリ然レハ刑ノ期滿免除ニ至テハ逮捕ノ手續ニ依テ期限ノ
經過ヲ中斷スルモノナレバ更ニ期限ヲ進マシムルヲ以テ起算ノ點ト爲サハル可ラサルナ

期限内更ニ重罪輕罪ヲ
犯シタル者ハ假出獄ヲ
許サストアリ就テハ舊
法ニ處セラレ該刑期中
新法實施後ニ至リ重罪
輕罪ヲ犯セシモノモ亦
假出獄ヲ許サル儀ニ
可右之哉將々許ス可
得ヘキ哉若シ是レヲ許
スモノトセハ其刑期四
分ノ三計算方ノ如キハ
舊刑殘日數ト新刑ニ處
セラレタル日數トヲ合
算スル儀ト相心得可然
哉此段相伺候也

○司法省指令

十六年九月八日

伺之趣前段見込ノ通

若シ逃走シテ捕ニ就キ而シテ又逃走シタルカ如キハ前ノ逃走ハ就捕ニ依テ期限ノ經過ナキヲ
以テ後ノ逃走ヨリ起算セサル可ラズ欠席裁判ノ如キハ期滿免除ニ至ルマテ故障ヲ爲ス可
得可シト雖モ其執行ヲ道レテ法律ノ定メタル期限ヲ經過シタルハ期滿免除ヲ得可キモノ
トス

宣告ノ日ヨリ起算スルモノハ逮捕ノ發附ニ依テ期限ノ經過ヲ中斷スルモノニアラズシテ宣
告ノ日ヨリ進行シテ期滿免除ヲ得可キモノトス然レハ欠席裁判ハ元ト不確定ノ刑ナシテ期
滿免除ヲ得セシムルモノニシテ大ニ結果ノ不幸ヲ生スルニ至ル場合アリタトヘバ外國ニ在
ル死刑ノ宣告ヲ受ケ期滿免除ヲ得タル場合ノ如キハ主刑ト執行ヲ免ルト雖モ剝奪公權ハ期
滿免除ヲ得サルヲ以テ終身權利ノ不能力者ナラサル可ラズ當是時テ故障セントスルモ得可
ラズシテ爲ニ大ニ不幸ヲ發生スルニ至ラントス蓋シ欠席裁判ニ依テ生ヌル結果ナリト雖モ學
者ノ未ダ明ニ答ヘサル所ナリ暫ク記シテ識者ヲマツ

第六十二條 刑ノ執行ヲ遲レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終
ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ記算ス

刑ノ執行ヲ道レタル者ニ對シテ令狀ヲ發付スル場合ニ於テハ逮捕ヲ命シタル最終ノ
令狀ヲ發シタル日ヨリ期限ヲ計算スルモノニテ其間ニ發付シタル令狀ハ最終ノ令狀ノ爲ニ
中斷セラル、モノトス蓋シ斯ノ規定シタル以所ハ令狀ノ發付ニ依テ記念ヲ再ビ惹起スモノ
ト見做スヲ以テ更ニ之ヨリ計算スルモノトス

第八節 復權

復權トハ刑ヲ受テ剝奪又ハ停止セラレタル公權ヲ回復スルモノニテ犯人ノ爲ニ最も

必要ナルモノトス凡テ犯者ノ良心ヲ誘起シテ善ニ移ル以所ノモノハ他日社會ニ立テ大ニ爲
スコアラントスルヲ以テナリ然ルニ若シ一度ビ重罪ニ處セラレタルノ故ヲ以テ終身公權ヲ
得ルコトナクンバ犯者ハ遂ニ過ヲ改メ良心ニ歸スルノ道ヲ絶タヘントス如此ナレバ懲戒ノ主
旨ニ戻リ刑ノ性質ニ欠クル所アルヲ以テ復權ノ法ヲ設ケテ犯者ノ悔改ヲ誘起スル以所ナリ
此ノ復權ト云ヒ假出獄ト云ヒ皆古今ノ良法ト謂フ可キモノニシテ此法ナクンバ犯者ノ改
悔得テ冀望ス可ラサルナリ

第六十三條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年
ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルコトヲ得

主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過ス
ルノ後亦同シ

本條ハ公權ヲ得ル方法ヲ規定シタルモノトス凡ソ重罪ノ犯人ナレバトテ悔改ノ情ナ
キモノアラズ改過遷善ノ真心ヲ惹起セサルモノアラサルナリ況ンヤ重罪ノ犯者ノ如キハ憤
激胸宇ヲ衝キ一時ノ熱情ニ制セラレテ前後ヲ辯スルニ遠マアラズ終ニ發シテ重罪犯ノ苦感
ニ陷ルモノナレバ其情狀ニ於ケル大ニ夫ノ窃盜犯ノ如キ又ハ詐欺取財ノ如キモノト徑庭ス
ル所ナカル可ラズ此犯人ニシテ改過ヲ善ニ移リ前非ヲ悔悟スルモノハ近ニ輕罪被廢恥ノモ
ノヨリモ夥多ナリト謂ハサル可ラスサレバ法律ハ之等ノ者ニ向テ其良心ノ發起シタルヲ賞
シ本心ノ善ニ立復リタルヲ認メテ始テ復權ヲ得セシムルモノトス

復權ヲ得ルニハ三條件ヲ具備スルヲ要ス

第一 主刑ノ終リタル日

第二 五年ヲ經過スル日

第三 悔改ノ情狀アル日

以上ノ三條件ヲ具備スル日ハ公權ヲ復スルコトヲ得可シ
主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ニテ單ニ監視ノミ付セラレシテ五年ヲ經過シタル後ハ又其情
狀ニ依テ公權ヲ復スルコトヲ得ルモノトス

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因

テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復權ヲ得ス

赦ニ因テ復權ヲ得タル者自ラ監視ヲ免シタル者トス

本條ハ大赦ニ依テ免罪ヲ得タルモノハ直ニ復權ヲ得ルコトヲ規定シ特赦ニ因テ免罪ヲ
得タルモノハ直チニ復權ヲ得ズシテ特赦中記載スル日ハ復權ヲ得可キモノトス

大赦トハ如何ナルモノナク云フカ先ヅコノ定義ヲ明ニセバ自ラ解得スルコトアルベシ

大赦トハ皇帝ノ特權ニ屬スルモノニテ裁判前及ビ裁判確定後ニ論ナク之ヲ行フコトヲ得可キ
モノトス先ヅ大赦ヲ行フ場合トハ左ノ如シ

犯罪ノ性質ニ依リ社會之ヲ罰スルノ必要ナク若シ罰スル日ハ時勢ヲ擾亂シ反テ人心ヲシテ
騒然タラシムルノ怖レアル日ニ限ルモノニシテ國事犯者クハ特別犯罪事件ニ適用スルモノ
トス大赦ニ依テ罪ヲ免セラレタルモノハ再犯ヲ以テ論セス全ク罪ヲ消滅セシムルモノトス
特赦トハ事件ヲ目的トセズシテ犯人ノ悔改ヲ目的トシテ其刑ヲ減シ又ハ全免スルモノニテ
罪ヲ消滅セシムルモノニアラズ故ニ特赦ニ依テ免刑ヲ得タルモノハ赦狀中記載スルニ非レ
バ復權ヲ得サルモノトス今大赦トテ特赦トノ區別ヲ茲ニ掲記セバ左ノ如シ

一 大赦ハ事件ヲ目的トシ特赦ハ犯人ヲ目的トス

二 大赦ハ罪ヲ免シ特赦ハ刑ヲ減免ス

三 大赦ハ國事犯又ハ特別犯ニ用ヒ特赦ハ國事犯ト常事犯トヲ分ク又之ヲ用ユ
 四 大赦ハ未決中及ビ裁判確定後ヲ論セズト雖モ特赦ハ裁判確定後ニ限ル
 五 大赦ハ他日罪ヲ犯スモ再犯ヲ以テ論セザレモ特赦ハ再犯ヲ以テ論ス
 六 大赦ハ復権ヲ得ルモ特赦ハ赦狀中記載スルニテラサレバ復権ヲ得ス
 以上ノ區別アルヲ以テ之ヲ觀ルハ特赦ハ刑ヲ減シ又ハ免スルモノナルベケレバ免罪ト云
 ハズシテ免刑ト云フ可キナリ免罪スルハ獨リ刑ノミ存在スルノ理ナケレバナリ

第六十五條 復権ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラズ

復権ハ既ニ剝奪セシ公權ヲ復セシムルモノニシテ最大ノ事件ニ關スルモノナリ故ニ
 司法大臣ノ專決ノ能クスル所ニアラズシテ唯リ 天皇陛下ノ親裁ニ依ルモノトス復権ヲ得
 ル手續ハ治罪法第四百七十條以下ニ規定シタリ
 故ニ依テ復権ヲ得ルハ第六十三條ニ規定スル所ニヨルモノトス

第三章 加減例

加減例トハ刑ヲ加重減輕スル例方ト云フ可キモノニシテ第六十六條以下詳ニ之ヲ規
 定ス凡ソ刑期ハ長短アツテ一定ナラズト雖モ重罪ヲ除ク外各條ニ長短ノ範圍ヲ設ケテ裁判
 官ヲシテ情狀ニ依リ斟酌加減セシムルモノトス故ニ本章以下ハ加減ノ方法規定シタルモノ
 トス

第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シ

タル例ニ照シテ加減ス但シ加テ死刑ニ入ラズ得ス
 刑法ニ依テ刑ヲ加重又ハ減輕スルハ後ノ數條ニ記載シタル例ニヨリ加減ス可キト
 ナ規定ス可キモノトス

加ヘテ死刑ニ入ルコトヲ許サズトハ死刑ハ人命ヲ奪フ所ノ極刑ニシテ加重ニ依テ行フ可キモ
 ノニアラズ無期徒刑ノモノニ至ラザレバ死刑ヨリ外ニ當行ス可キモノナシト雖モ斯ル場
 合ニ於テハ之ヲ加ヘテ死刑ニ至ラシムルコトヲ得サルモノトス他又輕罪ニ加ヘテ重罪ニ至
 ルコト及ビ違背罪ヲ加ヘテ輕罪ニ至ラシタルハ是又法律ノ禁スル所ナリトス蓋シ本條ニ
 列記セサルハ理由アツテ然ルカ余ハ之ヲ識者ノ論評ニ求メントスルモノナリ

第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

- 一 死刑
 - 二 無期徒刑
 - 三 有期徒刑
 - 四 重懲役
 - 五 輕懲役
- 本條ハ重罪ノ刑ノ加減等級ヲ示シタルモノニシテ通常犯ノ重罪ヲ規定シタル者トス
 又輕懲役ヲ加フルハ重懲役トナリ重懲役ヲ減スルハ輕懲役又ハ輕罪ニ減等スル者トス
 本條ハ即チ刑ノ等級ヲ指定シタルニ過キサルナリ
- 第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス
- 一 死刑
 - 二 無期徒刑
 - 三 有期徒刑
 - 四 重懲役
 - 五 輕懲役

第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重
禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス

輕禁獄ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス
ルヲ以テ一等ト爲ス

第六十七條第六十八條ハ重罪刑ノ等級ヲ示シタルニ過ギスト雖本條ハ其重罪ヲ減
輕シテ輕罪ニ降リタル場合ヲ規定シタルモノトス國事犯ニ於テハ輕禁錮ト云ヒ通常犯ニ於
テハ重禁錮ト云フト雖凡そ十一月ニ起テ五年ニ終ルモノトス此場合ニ於テハ必ズ輕罪ノ
刑ノ何年以上何年以下ヲ以テ之ニ充ツルヤヲ定メサル可ラズ是ヲ以テ二年以上五年以下ノ
法律上規定シタルモノトス

第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑
期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦
四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス

輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年ニ至ル
ヲ得

禁錮罰金ニ該ル者減輕スベキハ各本條ニ記載シタル刑期及ビ金額ノ四分ノ一ヲ
減スルヲ以テ本則トオス加重ス可キモ又同一ナリトス
重罪ハ社會ヲ害スルコト甚ク其所爲タル又最モ惡ム可キ惡質ヲ具有スルヲ以テ之ヲ重罪
ニ處スルモノトス輕罪ノ如キハ之ヲ重罪ノ所爲ニ比スルバ性質最モ輕ク社會ノ損害道徳ノ

點ニ於テモ又大ニ重輕ノ別アルモノトス故ニ如設ヒ重罪ノ短期ト輕罪ノ長期ト比較シ其刑
期ニ於テ重罪ノ短期輕罪ノ長期ヨリモ短シト雖凡そ性質ニ依テ大差アルモノナレバ重罪
ノ短キ故ノミヲ以テ之ヲ重罪ノ刑ニ入ルコト能ハサルモノトス重罪ノ刑ニ於テハ公權ヲ
剝奪シ宣告ヲ用イザシテ監視ニ付スルガ如キ無形ノ權利ノ上ニ於テ重罪ニ受ケル所ノモノ
ハ決シテ輕罪ノ比ニアラサルナリ之レ輕罪ヲ加ヘテ重罪ニ入ラシメサル所以ナリトス
又禁錮ノ刑ヲ加ヘテ七年ニ至ラシムルト雖凡そ輕罪ノ性質ニ至テハ少シモ變更スルモノニア
ラサルナリ

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時
ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢
以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スヲ得

本條ハ輕罪ヲ減シ盡シタル時ノ方法ヲ指定シタルモノトス禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘
留ニ處シ罰金ヲ減盡シタル時ハ科料ニ處ス可キモノトス之等輕罪ノ刑ニシテ如此ク重罪
ノ刑ニ減盡シタル時ハ被告人ノ利益ナルヲ以テ拘留科料ニ處スベシト雖凡そ之ノ例ヲ推シテ
加テ違警罪ヲ輕罪ニ入レ輕罪ヲ重罪ニ入ルコトハ之ヲ許ササルモノトス
禁錮罰金共ニ減盡シタル時ハ拘留及ビ科料ニ處ス可キモノトス拘留ハ施体ノ刑ニシテ科料
ハ財産ニ及ブノ刑ナルヲ以テ禁錮罰金ト其性質ヲ同フスルヲ以テナリ
凡ソ短期十一日ノ禁錮寡數二圓ノ罰金ニ該ル者一等ヲ減スルトキハ即チ此場合ヲ生スルモ
ノトス

第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮罰金ノ例ニ照シ
其四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス

違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得ス但拘留ハ加ヘテ十二日ニ至ルヲ得減シテ一日以下ニ降スヲ得ス科料ハ加ヘテ二圓四十二錢ニ至ルヲ得減シテ五錢以下ニ降スヲ得ス

拘留科料ノ加減例ヲ示シタルモノニテ前條ハ禁錮罰金ノ加減例ヲ示シ本條ハ違警罪ノコトヲ規定シタルモノナリコト違警罪ニ付テモ禁錮罰金ノ如ク四分ノ一ヲ減スルヲ以テ本則トナスモノナリ

一日以下及ビ五錢以下ニ及ボスヲ得サルモノハ之等ノ短數以下ハ科ス可キカナキヲ以テ之ヲ減スルコトキハ放免ス可キモノト爲サレ可ラズ蓋シ五錢以下時ヲ以テス可キ拘留及ビ科料ナキヲ示シタルモノトス

第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿ザル時ハ之ヲ除棄ス

本條ハ禁錮拘留ヲ加減スル時ニ當テ其期限ニ零數ヲ生シタル場合即チ何日何時ト旨フカ如キハ一日ニ滿タサルヲ以テ之ヲ扣除スベキモノトス我刑法中刑期ヲ計算スルニハ一日ヲ以テ起端トナシ時ヲ以テ之ヲ算セサルモノトス然レモ科料及ビ罰金ノ如キハ其性質財產ニ及ブモノニシテ何錢何厘ト雖モ分チ離キモノニアラサルヲ以テ之ヲ禁錮拘留ニ限リタルモノトス

第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止メ主刑ヲ科ス

附加ノ罰金ハ如何ニ之ヲ加減スルヤハ未ダ規定セサル所ナリ故ニ本條ニ於テ之ヲ明定シテ主刑ト共ニ加減スルモノナルコトヲ示セリ

附加刑中剝奪公權ト云ヒ停止公權ト云ヒ禁治產ト云フモ皆ナ一種ノ附加刑ナリト雖モ剝奪公權ハ重罪犯ニ終身之ヲ附加シ停止公權ハ主刑執行中ニ止マリ禁治產ハ主刑ノ終ルト同時ニ消滅スルモノニテ主刑ノ加減ニ依テ短縮消長スルモノニアラズ沒收ハ必ズ別ニ主刑ニ關セズ然レバ則チ罰金ノ主刑ト共ニ仲暢短縮スルモノト謂ハサル可ラズ

第四章 不論罪及ヒ減輕

本條ハ不論罪ノ條項ニシテ最モ困難ナル個條ナリトス然レモ又有益ナルコト之條ニ過クルモノアラサルナリ不論罪トハ何ゾヤ罪ヲ論セサルノ謂將カテ罪ヲ構成セサルヲ以テ之ヲ論ゼストノ謂ナル乎二者必ズ其一ニ居ルナラン

罪トハ何ゾヤ法律カ命令シ又ハ禁止シタル所爲ヲ能カアル人間カ犯シタル事組成スルモノニシテ法律上罰ス可キモノヲ云フ

故ニ之ノ定義ヲ以テ論スルハ犯罪ヲ構成スルニハ必ズ左ノ條件ヲ具備セサルベカラズ

第一 智識

第二 自由

以上ノ智識及ビ自由アルモノニシテ法律ノ禁シタルコト若クハ命令シタルコトニ背キタルハ必ズ責任アルモノトス即チ刑罰ヲ受クルノ責メアルモノトス夫レ然リ故ニ落雷ノ爲ニ死シ地震ノ爲ニ壓死セラレタルモノ、如キハ法律ヲ適用スルニ由ナキ者ニテ雷ト云ヒ地震ト云フモ天變地災ノ禍ニシテ如何トモスルコト能ハサルモノト去レバ法律上人ヲ罰スル以所ノモノハ其所爲ノ人爲ニ出テ、而シテコノ人爲ハ智識ト自由アルヲ以テ始テ罪ヲ構成スルモノトス

智識トハ何ゾヤ是非ヲ辨別シ善惡邪正ヲ識別スル所ノ精神ノ活動ニシテ人間特有ニ係ルモノトス

ノトス夫ノ禽獸ノ外物ノ刺衝ニ依テ發動スルカ知キ無心ノモノニアラサルナリ凡ソ世人ノ
 社會ニ立テ事ヲ執ル以所ノモノハ智識ノ作用ニ依テ然ルモノニシテ決シテ無意無心ノ致ス
 可キモノニ非ルナリ故ニ良心ノ制スル所ニ從テ惡ヲ避ケ善ヲ行ヒ能ク法律命令ヲ遵守シテ
 始テ自由ノ社會ヲ全フス可ク惡ヲ行ヒ道徳ヲ顧ミズシテ一日モ安キモノアラザルナリ
 然ルニ良心ノ制裁ニ從ハズシテ却テ惡ヲ行フモノアレバ即チ刑責ヲ生スルモノニシテ始テ
 法律ノ必要ヲ感スルモノトス如斯良心アツテ是非善惡ヲ臆別スル能力アルニモ拘ハラズ善
 ナ捨テ、惡ヲ行ヒ邪ヲ以テ正ヲ捨ツルカ如キ反對ノ行爲ヲ行テ以テ社會民人ヲ毒スルモノ
 ハ自ラ招ケ所ニシテ法律ノ罰セサラントスルモ得可ラサルナリ
 自由トハ智識ノ動作ニ依テ發動スルモノニシテ智識ノ奴隸ト云フモ不可ナルコトナシ然レ
 凡ソ自由ト云ヘルモノ、内ニハ常ニ動不助爲不爲ノ辨別ヲ知ル所ノ能助的ノ存在スルモ
 ノニシテ智識ノ令スル所ナレバトテ直ニ惡行ヲ遂ケ可キ責任ナキモノトス如設ヘバ人ヲ殺
 傷セント決意スルモ之ヲ中止シテ行ハサルハ自由ノ能力アツテ然ルモノト謂ハサル可ラズ
 サレバ人ニ刑責アルハ智識ト自由ト二者アルヲ以テナリ己ニ智識ト自由ト二者ヲ缺ケモノ
 ハ人間ノ形體ヲ爲スト雖モ石禽獸ト選フ所ナキモノニシテ又以テ吾人社會ノ人ト呼ブコ
 ト能ハサルモノトス
 智識ノ缺欠ニ依テ罪科ヲ構成セサルモノハ即チ左ノ如シ
 第一 精神錯亂
 第二 幼年者
 第三 瘖啞者
 右第一ノ場合ハ結果ニ就テ之ヲ見ルモハ罪科ヲ構成スルニ十分ナリト雖モ法律ハ結果ヲ罰

スルモノニアラズシテ其之ヲ來タセシモノヲ罰スルモノナルヲ以テ溯テ罪囚ヲ求ムルモノ
 トス若シ死者アリ直ニ法律ヲ明裁判官ニアラズシテ法律ヲ知ラサルモノト謂ハサル可ラズ
 夫ノ盤梯山土砂ヲ噴テ山ヲ崩シ人命ヲ奪フコト數十ナリト雖モ元ト之レ一個ノ不助産力火
 氣ノ爲ニ破烈シタルモノニシテ智識モナク自由モナキト獨ホ雷ノ落テ人ヲ殺傷セシカ如シ
 然レバ即チ死者アリト雖モ劇ニ法律ヲ案ス可ラズシテ宜シク之ヲ來タス源ニ溯ラサル可ラ
 サルナリ精神錯亂トハ蓋シ心神ノ錯亂シテ智識ヲ失シタル一ノ狂者ト云フ可キモノニシテ
 犯罪構成ニ必要ナル條件ノ缺失シタルモノトス今井上氏ノ精神錯亂ニ付キ區別セシ所ヲ掲
 クレバ左ノ如シ

- 白痴
- 痴愚
- 本然ノ精神錯亂
- 狂癖
- 夢狂
- 醉醜

是ナリ之等何レノ場合ヲ論セバ刑法第七十五條ニ規定スルカ如ク罪ヲ犯スル智識精神ノ喪
 失シタルモノトシテ之ヲ罪トシ論セサルモノトス

第二 幼年者ハ刑法第七十九條ノ規定スル所ニシテ天年未ダ辨別心ヲ誘起スルニ由ナク未
 ダ精神ノ充分ナラサルモノトシテ法律上テ推測ヲ以テ之ヲ論セサルモノトス同條ニ曰ク罪ヲ
 犯スル十二歳ニ滿タサルハ其罰ヲ論セズト然レバ之ニ對シテハ反証ヲ許ササルモノトス
 何トナレバ法律ノ推測ニ付テハ反証ヲ許ササルヲ以テ元則トナセバナリ

第三 接吻者ハ耳聞クテ得ズ口言フコ能ハズ故ニ又社會ノ賦性ヲ如ル能ハズ十二歳ノ幼
者ト選テ所ナシ故ニ又罪ヲ論セサルモノトス

第一 有形ノ強制

第二 無形ノ強制

有形ノ強制又之ヲ分テ外人ヨリ來ル強制ト天地ノ變化ニ依テ來ルモノトシテ二種ニ分ツ有形
ノ強制ニシテ外人ヨリ來ルモノトハ人アリ手ヲ把テ劍ヲ授ケ大聲叱シテ曰ク速ニ甲某ノ首
ヲ斷ツ可シ若シ速ニ命ニ從ハズバ汝ノ命ハ余之ヲ斷ツト曰ムヲ得ズシテ甲ヲ斬ルカ如シ
此ノ場合ニ於テ手ハ拘ニ斬首ノ機械ニ供セラレタルモノニシテ之ヲ忌ムモ肯ハズ辭スレ
ハ身首成テ異ニス自由ヲ活動セントスルモ得可ラサルカ如キ場合はナリ天災ノ現象洪水ノ
爲ニ召喚ニ應スルコト能ハサルカ如シ

無形ノ強制トハ人ノ心意ヲシテ危惧ヲ抱カシメ依テ罪ヲ犯スニ出ツルモノヲ云フ甲者ヲ殺
サズバ汝ノ親ヲ殺傷スト云ヘルカ如キ外形ノ強制ナキモ心意ノ苦痛之ヨリ甚ダシキモ
ナカラントス蓋シ以上強制ノ度ハ強制者ト被強制者トノ強弱及ビ年齡男女等ノ區別ヲシテ
明ラシメサル可ラズ其受クル所ノ感覺ニ依テ大ニ深淺重輕ノ差異アレバナリ
減輕ニ種々アリ自首減輕酌量減輕有無減輕是ナリ斯ノ内ニ就テ酌量減輕ノミ裁判官ニ特任
シタルモノトス

第一節 不論罪及ビ宥恕減輕

本條ハ前條ノ畧同ニモノニシテ獨リ宥恕減輕ノ則アルノミ然レモ以下方ニ之等
ノテ論スルヲ以テ又更ニ之ヲ説明セズ

第七十五條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非サル所爲ハ其
罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若クハ親
屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲亦同シ

本條ハ不論罪中ノ最困難ナル個條ナリトス凡ソ罪トシ罰スルニハ必ズ先ヅ知識ト
自由ノ二者ヲ要スルコトハ既ニ之ヲ説明セリ然レバ即チ本條ノ如キ又強制ノ抗拒ス可ラサル
モノナルハ其有形ト無形トニ論ナク之ヲ不問ニ措カサルベカラズ蓋シ其意ニ非ルノ所爲
トハ已ムヲ得ズ犯シタル所爲ニシテ決シテ惡意ナキモノト解釋セサル可ラサルナリ

抗拒ス可ラズトハ避クルニ路ナキ場合ヲ規定シタルモノニテ身體ノ及ブノ有形ト心裡ニ來
タス無形トヲ論セス進退谷マル時ヲ云フ即チ左ノ條件ヲ具備スルニアラサレバ本條ヲ適用
スルコト能ハサルナリ

第一 他ニ之ヲ避クルノ道ナキコト

第二 危害大ニシテ現在ナルコト
故ニ危害甚大ナラズ又ハ現在ナラサルハ本條ニ依テ保護ヲ受クルコト能ハズ若シ又他ニ
コノ危害ヲ避クル方法即チ警察官ニ訴出スルコトヲ得可キ猶預アル場合ノ如キハ是又本條
ノ保護ヲ得ルコト能ハサルモノトス

其意ニ非ルノ所爲トハ罪ヲ犯スノ意ナキ所爲ト云フニアラズシテ全ク自己ノ意志ニアラズ
シテ強制ノ爲メ已ムヲ得サルニ出ツルト云フガ如キ意味ニ解釋セサル可ラズ何トナレバ犯
意ナキ場合ハ第七十七條ニ記載スル所ニシテ強テ犯ス意ナキノ所爲ハ云々ト規定シアルヲ
以テナリ

本條ノ解釋ノ始メニ管テ不論罪トハ罪アレドモ罪トシ論セズト云ヘル意味ナルヤ將タ罪トナラズト云ヘルモノナラト問題ヲ設テ未ダ之ニ答ヘサザシカ故ニ茲ニ之ヲ辨スベシ罪トハ法律ニ規定シタル所爲ヲ行ハズ又ハ禁シタル所爲ヲ行フヲ以テ始テ罪トナルモノニシテ刑法之ヲ責罰スルモノトス是ヲ以テ之ヲ觀ルル本條ノ場合ノ如キ罪科ヲ構成スルニ必要ナル元素ヲ欠キ而シテ之ヲ犯セシモノハ恰モ天災地變ノ所爲ト一般ニシテ元ヨリ罪アリト云フ可ラズ然レモ被害ノ点ヨリ見ルルハ道徳ノ罪人ナリト云フハ又免ル可ラザルカ

第一 強制ノ力大ニシテ現在オルト

第二 本屬長官ノ命令ニヨリ爲シタルコト

第三 智識ト自由ノ缺失シタルコト

第四 罪ヲ犯スノ意ナキコト

第五 罪ト爲ルヘキ事實ヲ知ラズシテ爲シタルコト

以上ハ一般ノ不論罪ニ要スル所ノ條件ナリトス

第七十六條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル者ハ其罪ヲ論セス

本條ハ長官ノ命令ニ依テ爲シタルモノナレバ即チ職務ヲ全クシタルモノナリ職務ヲ盡シタルモノナリ何ゾ之ヲ以テ罪トシ論ズルコトヲ得ンヤ凡ソ前已ニ論シタルカ如ク自己ノ意ニ依テ悪行ヲ遂ゲ始テ罪トナルベキモノニシテ意外ノ變又ハ其意ニ非ルノ所爲ハ自己其者ニハ惡意ナキヲ以テ之ヲ不論罪ト爲スモノナリ故ニ長官ノ命令ニ依テ爲シタル行爲ノ如キハ職務ヲ行フタルモノト云フ可クシテ罪トシ論ス可キモノニアラザルナリ

長官ノ命令ニ依テ行フタルモノトハ如何ナルモノナリ云フカ今官城氏刑法講義ヲ見ルニ大ニ理由ノ判明ナルモノアリ同氏曰ク人能ク本條ノ例トシテ逮捕官吏ヲ捕縛シ獄吏人ヲ監禁シ云々等ノ場合ヲ引ケリ余以テ爲ラカ本條固ヨリ此ノ如キ明瞭ノ場合ヲモ含寄セザルニハ非レモ(中略)逮捕官吏無罪ノ人ヲ捕縛シ獄吏冤罪ノ死刑ヲ執行スル等ノ場合ヲ云ヘルモノナリト洵ニ氏ノ論ハ完全ノ説明能ク法理ヲ導キ得タルモノト云フベシ

本條ヲ構成スルニハ左ノ二條件ヲ要ス

第一 職務ヲ以テ爲シタルコト

第二 長官ノ命令ニ從テ爲シタルコト

此ノ條件ニシテ備具スルハ本條ニ依テ不論罪ニ入ル可キモノトス

第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在ラズ

罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラズシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論セス罪本重

カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルヲ得ス

法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲スヲ得ス

犯罪構成ノ元素ニ於テハ其罪質ニ小異アリト雖モ大體ノ惡意ト着手執行三元ヲ有スルニアラザレバ犯罪ヲ成立セザルモノトス

夫レ然リ故ニ本條ハ其有意ノ必要ナルコトヲ規定シタルモノニテ無意犯ハ則ニ定メタル中

罰スルニ出ツルモノナルヲ以テ無意ト雖モ罪科ヲ構成スルモノトス
 罪トナル可キ事實ヲ知ラズシテ犯ストハ有夫ノ婦タルヲ知ラズシテ之ト密通シタル場合ノ
 如キハ即チ之ヲ姦淫罪ニ問フ可ラサルカ如シ
 罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者トハ如設ヘハ通常ノ他人ト思惟シテ之ヲ殺傷シタル
 ニ計ラサリキ親父ナリシモノ如シ
 法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲ストハ已ニ領布シテ周知ノ期限若經
 過シタル以上ハ之ヲ知リタルモノト見做ス故ニ其犯罪トナルヤ否ハ法律ヲ知ラサルニヨル
 ト抗辨スルモ決シテ之ヲ採用ス可ラサルモノトス証人呼出狀ニ記載シタル若シ當日不登ス
 ルニ於テハ罰金ヲ言渡ストアル可シト記載シタルニモ拘ハラズ出頭セサルハ之ニ對シテ
 罰金ヲ言渡ストテ得可シト雖モコノ記載ナキハ罰金ノ言渡ヲ受ク可キ理由ナキモノトス
 之ヲ要スルニ周知セシメタル以上ハ已ニ之ヲ知リタルモノト見做スモノトス
**第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セサル者
 ハ其罪ヲ論セス**
 罪ヲ犯シテ刑罰ノ責任アルハ智識ト自由ト二者アルヲ以テナリ若シ智識アツテ自由
 ナク而シテ罪ヲ犯シタルカ即チ有形ニアラサレバ無形ノ強制ニ出テタルモノニテ四肢ハ犯
 罪ノ器具ニ供セラレタルニ過キサルナリ自由アツテ智識ナキカ猶ホ幼者ノ犯罪ノ如ク瘖啞
 ノ所爲ト一般之ヲ罰スルニ法律ハ及バサルモノナリ今本條ノ場合ヲ見ルニ殆シド之ト一般
 ニシテ罪科構成ノ元素ヲ欠失スルモノトス然レモ其犯罪ノ時ニ當テヤ精神ヲ喪失シタルモ
 ノナルカ知覺ノ欠乏アリタルモノナルヤハ頗ル困難ナル事實ノ問題ニシテ裁判醫學上ノ論
 究ス可キ所ナリトス

宮城氏ハ精神ノ喪失ヲ左ノ三項ニ區別セリ

- 一 白痴
- 二 瘋癲
- 三 「マニエ」

「マニエ」トハ種々ヲ稱シテナキヲ以テ原語ヲ用ユト云ヘリ其解ニ曰ク「マニエ」トハ定マレ
 或ル事件ニ値シテ狂セラル者ヲ云フ例ヘハ一念放火若クハ殺人ノ事ニ及フヤ之レカ爲ニ制セ
 ラレテ其眞實能ヲ失ヒ他ノ事ハ統テ離別ノ腦力ヲ有スルモ斯ノ事ニ關シテハ全ク精神ヲ
 喪失セルモノナリト云フ

- 一 白痴
 - 二 瘋癲
 - 三 本然ノ精神錯亂
 - 四 狂癡
 - 五 夢狂
 - 六 醉醜
- 二氏已ニ斯ノ如ク區別セリ然レモ其白痴及ビ痴癲(宮城氏ハ瘋癲ト云ヘリ)ノ二項ハ少シモ
 異ナル所ナシトス宮城氏ノ所謂「マニエ」ト云ヘルモノハ今井上氏ノ所謂第四位ニ列記スル
 狂癡ニ相當スルモノトス
 之ヲ要スルニ白痴トハ生來腦力ノ缺失セシモノニシテ事物ノ理ヲ辨別スル力ナキモノトス
 痴癲トハ生來腦力ヲ有セシモ病ニ依テ遂ニ精神ヲ喪失セシモノナリ其他本然ノ精神錯亂ト

云ハ狂癡夢狂醉狂ト云フモ何レモ一辭ノ爲ニ天賦ノ智能ヲ減殺スル所ノモノニシテ智識ト自由即チ爾ヲ極ヘテ之ヲ述ブレバ動不動チ決定スルノ智能ナキモノニ相違ナカルベシ果シテ然レバ是等ノ爲ニ犯罪セシモノハ智覺精神ノ喪失ニ依レルモノナルチ以テ刑罰ノ責任ナキモノト決定セサル可ラズ

竊ニ一ノ問題アリ第六項ノ醉醜過ナリ或曰ク犯罪ノ意ヲ遂ケンガ爲ニ故ラニ酒力ヲ假リ依テ以テ其目的ヲ達シタルモノハ罪ヲ罰スベシト然レモ劇力ニ從フコト能ハサルナリ先ツ井上氏ノ區別セシ醉醜ノ條件ハ左ノ如シ

- 一 一人ノ勸誘スル所トナリテ飲酒シ醉醜ニ至リタル者
- 二 偶然自カラ好シテ醉醜ニ至リタル者
- 三 醉醜ヲ以テ常ト爲ス者
- 四 罪ヲ犯スノ氣力ヲ買ハシメ故ラニ醉醜ニ至リタル者

以上ノ如ク醉醜ヲ區分セシト雖モ未ダ以テ犯罪ヲ構スルニ至ラス獨リ其第四ノ場合ニ於テハ或ハ之ヲ罰ス可シト論スルモノナキニアラサレモ至底誤解タルチ免レサルモノトス凡テ本條ノ主トスル所ノモノハ其精神錯亂ヲ來タシタル原因ノ何タルチ論セズ犯罪ノ時智覺精神ノ喪失ヲ以テ之ヲ不贖罪ニ措クモノナルチ以テ人ヲ殺サントシテ酒ヲ飲ミ果シテ兇行ヲ遂ゲタルモノモモ日犯罪ノ登時果シテ精神ノ喪失シタルモノナルコト明カナレバ無論罪科ヲ擇成セサルモノトス

第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス
但滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歳ニ過キザル時間之ヲ懲治場ニ留置スルコトヲ得

附註 人ノ世ニ立テ智識ヲ有シ世人ト交際往來シテ其業ニ從事シ自ラ産チ營ムモノハ其人々智識ノ深淺教育ノ程度ニ依テ遲速アリ固ヨリ一定ナラズト雖モ滿廿年以上ニアラサレバ獨立シテ契約ヲ結ビ自ラ社交ヲ爲スコト能ハサルモノトス故ニ各國其土地ノ風俗氣候ニ因テ小異同アリト雖モ大都子廿年以上チ下年ト規定シ法律上ノ能力ヲ附與セリ我邦ニ於テハ丁年チ廿年ト定メ法律上コノ年齢ニ達セサルモノハ未ダ以テ普通ノ責任ヲ負荷セサルモノトス今滿十二才ニ滿タサルモノハ何故ニ之ヲ罰セサルカト云フニ之ヲ答フル易々タルナリ十二才未滿ノモノハ是非ヲ辨別シ善惡ヲ識別スルノ能力ナキチ以テ刑罰ノ責任ナキモノナリト速答スルコトヲ得可シ蓋シ犯罪構成ニ要スル所ノモノハ智識及ヒ自由ノ二ナリ然リ而シテコノ幼者ニ智識アリ自由アリヤト云フニ未ダ以テ法律ノ所謂智識自由ト指ス所ノモノハ之ヲ具有セサルモノナレバナリ

然レモ法律ノ罰セサルチ奇貨トシ猥リニ惡所業ヲ爲スカ如キハ社會ノ爲メ危險ノ恐レアルチ以テ之ヲ懲治場ニ留置シテ以テ懲戒スル所ナル可ラズ然レドモ此ノ場合ニ於テハ左ノ期限ニ從ハサル可ラサルナリ

- 第一 滿八才以上ノ者
- 第二 滿十六才ニ過ギサルコト
- 第三 猶ホ惡行ヲ遂ケントスルカ如キ情狀ノアルコト

右ノ如キ場合ニ於テ之ヲ懲治場ニ留置シ以テ之ヲ懲治セシムルハ大ニ惡心ヲ斷ツカ如シト雖モ罪裡ハ兇好無賴ノ徒ノ象マル所食欲不食ノ相寄ル所チ常ニ見聞シテ遂ニ又惡徒ノ群ニ入ルモノナキチ保シ難シ故ニ之等ノ行政處分ニ至テハ宜シク深ク注意シテ他ノ囚徒ト隔離シ致テ往來ナカラシメサル可ラズ然ラズニ私火ヲ拵ハントシテ油ヲ注グト同一般ノ

海アラントス之ヲ懲治矯正スルノ効ハ雷路者ノ處置ニ在ルモノト謂ハサル可ラサルナリ
今懲治場留置ノ者假出規則ノ全文ヲ左ニ掲出スベレコノ規則ハ明治十九年十一月内務省
第二十四號達ニ係リ刑法第七十九條第八十條第八十二條ノ場合ニ於テ最モ必要ノ規定ナリ
トス

刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ依リ懲治場ニ留置セラレタル者ニシテ獄則ヲ遵守シ
改悛ノ狀アルハハ警廳總監北海道廳長官府縣知事ハ左ノ規則ニヨリ假ニ出場ヲ許スコトヲ
得

假出規則

- 第一條 假出場ヲ許スヘキ者アル時ハ典獄ヨリ其長官ニ狀ヲ具シテ認可ヲ受クベシ
- 第二條 假出場ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其證票ヲ本人ニ付ス可シ
- 第三條 假出場證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ
 - 一 本人ノ眞籍氏名年齢住所懲治期限及ヒ宣告並ニ滿期ノ年月日
 - 一 殘期何年何月何日假出場ヲ許ス何年何月何日滿
 - 一 本日出場ヲ許スニ由リ住居ノ地ニ歸着ノ上ハ即時所轄警察署ニ其旨ヲ届出ツ可シ
 - 一 毎月一回謹慎ヲ表スル爲メ所轄警察署ニ到リ假出場證票ヲ出シ警察官吏ノ認印ヲ受ク可シ但已チ得サル事故アレハ其事由ヲ届出可シ
 - 一 一日程ヲ過タル地ニ旅行スル時ハ其行先並往復滞在日數等ヲ詳記シ所轄警察署ニ届出可シ但其滞在一月以上ニ涉ル時ハ一ヶ月毎ニ其滞在在地ノ警察署ニ到リ前項ノ手續ヲナス可シ
 - 一 事故アリテ其住居ヲ轉スルハ時ハ所轄警察署ニ届出ツ可シ

一 第二項以下ノ事ハ本人自ラ爲ス能ハサル場合ニ於テハ親族故舊代リテ之ヲ爲スコトヲ得

右ノ各項ニ違背シタルトキハ直チニ出場ヲ停止シ出場中ノ日數ヲ懲治期限内ニ算入スルヲ得

第四條 假出場ヲ許シタルハ典獄ヨリ假出場證票及ヒ懲治申渡書ノ謄本ヲ具シ本人住居ノ地ノ警察署ニ通知ス可シ

第五條 警察署ニ於テ轉居ノ届ヲ得タルハ之ヲ其轉居地ノ警察署ニ通知シ第四條ニ記載シタル書類ヲ遞送ス可シ

第六條 假出場ヲ許ス可キ住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ總ホ懲治場ニ留置シテ他ノ懲治ノ者ト殿ニ別異ス可シ但住居遠地ニアリテ歸着スルノ資力ナキ者モ亦タ同シ

第七條 假出獄ヲ停止スヘキ時ハ本人住居ノ地ノ典獄ニ於テ其旨ヲ言渡シ直チニ假出場證票ヲ取上ケ其殘期ヲ執行ス可シ但甲地方ニ於テ下付セシ證票ヲ乙地方ニ於テ取上ケタル時ハ其專狀ヲ甲地方典獄ニ通知シ證票ヲ送致ス可シ

第八條 假出場ヲ許サレタル其懲治期滿限ノ日ニ至レハ假出場證票ヲ所轄警察署ニ還納シ該警察署ヨリ證票ヲ出シタル典獄ニ之ヲ遞送ス可シ

第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シ辨別ナクシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減ス

本條ハ罪ヲ犯スル者ハ是ノ辨別如何ニ依テ之ヲ論スルト否ラサルトニ區別アルモノトス若シ辨別ナクシテ犯シタルモノナレバ即チ智識ノ缺欠ニヨリ之ヲ不問ニ付セサル可ラズ然リ而シテ其犯罪ノ種類及ビ情狀ノ点ニ於テ免ルサル所ノモノアルハ如設ヒ罪ヲ論セズト雖モ廿歳ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置シテ以テ其惡所爲ヲ懲戒モシムルモノトス

若シ辨別ノ心アツテ之ヲ犯シタルモノト雖モ本刑ヲ科セズシテ二等ヲ減スルモノトス蓋シ此等ノ者ハ辨別心アリト雖モ未丁年ノ者ニテ智識十分ナラズトノ法律上ノ推測アルヲ以テ之ヲ斯ク規定シタルモノトス

第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス

本條ハ十六歳以上廿才ニ滿タサルモノニシテ罪ヲ犯シタルモノハ辨別ノ有無ヲ論セズ之ヲ其刑ニ處ス可キモノトス然レモ未丁年ニ滿タザルモノナルヲ以テ本刑ニ一等ヲ減シテ之ヲ處分ス可キモノトス蓋シ前第八十條ハ十六歳以上十六才未滿ノモノナルヲ以テ辨別ノ有無ヲ論シ若シ辨別ナキモノナルハ之ヲ罰セズ辨別アルモノト雖モ本刑ニ二等ヲ減スルモノトナセシ以所ノモノハ十六歳以上ノモノト十六才未滿ノモノトハ處育ノ度智識ノ点ニ於テ大ニ差異アル可キヲ以テナリ本條ハ即チ十六歳以上ノ場合ナルヲ以テ之ヲ不問ニ付セズシテ本刑ニ一等ヲ減シテ以テ處分スルハ其當ヲ得タルモノト云ハサル可ラサルナリ廿才以上ニ至テハ如何ニ高年ニ達スルモノト雖モ辨別ノ如何ヲ問ハズ之ヲ本刑ニ處スルモノハ老若ニ至レバトテ智識ヲ喪失ス可キモノニアラズ反テ經驗ニ富ミ邪正ヲ識別スルノ能力アルモノナレバ幼者ト同一ニ論ス可ラサルノ理由アルニ依ルモノトス

第八十二條 瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ五年ニ過キサル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得

瘖啞トハ如何ナルモノナク云フカ之ヲ詳ニセサルハ本條ハ到底解シ得可ラサルモノトス何トナレバ瘖啞者ノ犯罪ハ之ヲ不問ニ付スル者ナレバ頗ル重大ナル可キヲ以テナリ」瘖啞者トハ耳聞ク能ハズ口言ハサルモノニシテ聲ヲ兼有スルモノトス凡ソ人ノ世ニ在ルヤ世人ト交際シテ世態人情ヲ知リ人ノ説ヲ聞キテ是非邪正ヲ判決スルノ能力アルヲ以テ始テ世人ト齒シ以テ社會ニ獨立スルヲ得可シト雖モ然レモ生レナガラ聲ナルモノハ未ダ曾テ人語ヲ解セズ從テ談話器ノ活用ヲ失ヒ啞トナルヲ以テ口言フ能ハサルニ至ル如斯ナレバ等テカ法律上ノ責任アラシキ凡ソ刑罰ノ責メアルハ邪正ヲ識別シ善惡曲直ヲ判斷スルノ能力アツテ始テ刑罰ヲ負フモノトス然ルニ人語ヲ解セズ口言フ能ハサルモノハ如キハ殆ンド禽獸ト一般刑ノ責任ナキヤ又知ル可キナリ

夫レ然リ然リト雖モ近時教育ノ道大ニ進ミ盲啞學校等ノ設立アツテ大ニ前日ノ瘖啞者盲者ニアラズシテ是非ヲ辨別シ邪正ヲ識別スルモノ甚ダ多シト聞ク洵ニ文運ノ隆盛前代未開ノ美譽ト言ハサル可ラサルナリ實是時テ瘖啞トテモ直ニ辨別ノ心ナク又ハ邪正ヲ識別スルノ能力ナシト速斷ス可ラズ宜シク實際ニ就テ其果シテ智識モ能力モナキヤ否ヲ鑑査シ以テ之ヲ論セサル可ラズ近頃聞ク所ニ據レバ瘖啞中京都盲啞學校ヲ卒業シ某處ノ刀筆吏員タリシモノアリト事實未ダ知ル可ラズト雖モ或ハ又絶無ト云フ可ラサルナリ如此モノハ法律上ノ責任ヲ負ハシムルコト普通ノ者ト選ブ所ナキヲ以テ之ヲ論ズ可キカ如シト雖モ法律ニ於テハ瘖啞者ノ犯罪ハ之ヲ罰セズ規定シタルヲ以テ如何ニ字ヲ書シ文ヲ綴ル者ト雖モ刑罰ナキモノトセサル可ラズ盲者ハ智識ノ缺欠スル所ナキモノナルヲ以テ之ヲ通常人ト同シク罰

スルハ余ノ疑ハサル所ナリ
然レテ瘡腫者ニシテ耳聞クコトヲ得口言フコトヲ得タルハ最早ヤ常人ト異ナル所ナキヲ以テ不論罪ノ保護ヲ受クルコト能ハサルモノトス然ラズニ如何ニ鋭敏ニシテ文字ヲ能クシテ手類似以テ事ヲ悟ルモノト雖モ瘡腫者ノ範圍ハ未ダ脱却セサルヲ以テ之ヲ論スルコト能ハサルモノト解釋セサル可ラサルナリ

第八十三條 違警罪ハ滿十六歲以上二十歲ニ滿サル者ト雖モ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得ス

滿十二歲以上十六歲ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス十二歲ニ滿サル者及ヒ瘡腫者ハ其罪ヲ論セス

重罪輕罪ニ至テハ犯者ノ年齢ニ依テ或ハ不論罪ニ歸シ或ハ二等ヲ減セラレ又ハ宥恕減ヲ受クルノ等差アリト雖モ違警罪ニ至テハ十六才以上廿才ニ滿タサルモノト雖モ宥恕シテ一等又ハ二等ヲ減スルカ如キコトヲ爲サズ直ニ本刑ヲ科ス可キモノトス然レモ十二才未滿及ヒ瘡腫者ノ如キハ能力ナキモノナルヲ以テ其罪ヲ論セサルモノトス
前已ニ説明スルカ如ク十六才以上廿才ニ滿タサルモノハ宥恕セズト雖モ十二才以上十六才未滿ノモノニ至テハ宥恕法ヲ用イテ本刑ニ一等ヲ減スルモノトス
是等ノ犯罪ハ甚ダ輕微ノモノニシテ減等法ヲ用ユルモ大差ナキヲ以テ之ヲ斯ク規定シタルモノトス

第八十四條 此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥恕減輕ハ各本條ニ於テ之ヲ記載ス

今マテニ列記シ來リタル所ノ不論罪及ヒ宥恕減輕ハ一般ニ適用スルモノトス然レモ

時ニ或ハ特別ニ宥恕シ又ハ不論罪ニ入ル可キモノアリ此等ハ其各條毎ニ之ヲ記載シテ以テ宥恕又ハ不論罪タル可キコトヲ指示スモノナリ今特別ノ宥恕減輕ヲ擧グレハ即チ左ノ如シ

- 一 第三百九條ノ暴行防止ノ場合
 - 一 第三百十條ノ毆打下手ノ場合
 - 一 第三百十一條ノ姦婦殺傷罪
 - 一 第三百十二條ノ盜犯防止ノ場合
 - 一 第三百十六條ノ身体財産防衛ノ場合
- 特別ノ不論罪ハ左ノ如シ
- 一 第三百十四條ノ正當防衛
 - 一 第三百十五條ノ暴行防止

右列記シタル如ク特別不論罪ハ我刑法中甚ダ少キモノナリ刑法第三百七十七條ノ親族相盜及ヒ第三百五十三條ノ親屬客隱ノ如キハ不論罪ノ如シト雖モ減盡シタルモノナリト云ヘリ(官城氏刑法講義)蓋シ堀田氏ハ之ヲ不論罪ノ特別條ニ列記セリ余ヲ以テ之ヲ觀ルルハ特別ノ不論罪ニ列記スルヲ以テ妥當ナリト思考ス何トナレバ此等ノ犯罪ハ或ル種類ノ部分ナルヲ以テ之ヲ論セサルノミニテ犯罪構成ノ点ニ至テハ欠クル所ナキヲ以テナリ

第二節 自首減輕

自首減輕ハ深く探求ス可キ必要アルモノトス何トナレバ之ニ依テ犯罪ヲ免ルコトアリ然ラサルコトアツテ有無罪ノ際ル最モ必要的ノモノナレバナリ減輕ニ三種アリ曰ク自首減輕曰ク酌量減輕曰ク宥恕減輕是ナリ本條ハ自首減輕ノコトヲ規定シタルモノトス自首トハ犯人自ら已レニ不利益ノコトヲ申シ出ツルモノニテ監獄上最モ確實ノ位置ニ在ルモノトスコノ

減輕ニ法律上ノモノト裁判上ノモノトノ二種アリ法律上ノモノトハ宥恕減輕及ビ自首減輕ノ如キモノニシテ裁判官ノ意ニ依テ之ヲ左右シ得可キモノニアラス必ズ減輕セサル可ラズ裁判上ノモノトハ酌量減輕ノ如ク裁判官ニ於テ自己ノ職權ニ依リ左右シ得ルモノヲ云フ即チ減輕セント欲セバ之ヲ減輕シ減セザラント欲セバ之ヲ減輕セサルモノナリ而シテ又之ニ公益ノモノト道理上ノモノトアリ

今法律上ノモノニシテ減輕セサル可ラサルモノヲ擧クれば左ノ如シ

- 一 第三百九條 暴行防止ノ場合
 - 一 第三百十條 毆打下手ノ場合
 - 一 第三百十一條 姦夫婦殺傷ノ場合
 - 一 第三百十二條 盜犯防止ノ場合
 - 一 第三百十六條 身体財産防衛ノ場合
- 是等ハ宥恕ノ減輕ニシテ裁判官ハ必ズ減輕セサル可ラズ今自首減輕ニシテ宮城氏ノ提出セシモノハ左ノ如シ
- 一 内亂ノ預備及ヒ隱謀前ノ自首
 - 一 貨幣ヲ偽造變造シテ未行使前ノ自首
 - 一 偽証ニシテ裁判宣告前ノ自首
 - 一 幼者ヲ略取誘拐シテ婚姻シタ後
 - 一 誣告未推問前ノ自首
 - 一 自首減輕
- 是等ハ犯罪後ノ自首ニシテ未ダ社會民人ニ告ナキヲ以テ刑ヲ全免スルモノトス凡ソ自首ニ

依テ減輕スルハ如何ナル理由ニ依ルカト云フニ其說小異ナキ能ハズト雖モ自首ヲ認可スルニ至テハ片言ノ反對ヲ唱フルモノナシ洵ニ自首ハ或ル者ノ論スルカ如ク真心悔悟シテ善ニ廻リタルモノナレバ等テカ減輕セサルヲ得ンヤト然レモ又俄ニ服スルヲ能ハズ何トナレバ悔悟ハ犯後ノモノニ係リテ裁判官ニ於テ取捨スル所アルモ未ダ以テ法律上ノモノト爲スニ足ラサレバナリ自首ヲ以テ真心悔悟ニ出ツルモノトセバ兇漢無賴ノ徒ハ妄リニ自首ヲ奇貨トシテ犯罪ヲ容易ニシ遂ニ社會ノ秩序ヲ紊亂セントス自首ハ真心悔悟ヲ推測シタルモノニアラスシテ實ニ左ノ公益ニ基キタルモノト解釋セサル可ラズ

- 一 犯罪ヲ知ルヲ容易ナリ
- 一 捜査ノ勞ト費用ヲ省クナリ
- 一 有罪ヲ罰セサルノ患ナキナリ
- 一 不辜ヲ罰スルノ恐レナキナリ

以上四條件ノ必要アルヲ以テ之ヲ規定シ以テ減輕セシムルモノトス

第八十五條 罪ヲ犯シ事未ダ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者

ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕ノ限ニ在ラス

本條ハ罪ヲ犯スモ其犯罪事件ノ未ダ發覺セサル以前ニ官ニ自首シタルモノハ何レノ犯罪ヲ問ハズ本刑ニ一等ヲ減スルモノナルコトヲ規定ス然レモ謀殺故殺ノ如キモノニ至テハ自首スト雖モ自首ノ減輕ハ之ヲ與ヘサルモノナリ

然レバ則チ謀殺及ビ故殺罪ニハ一切減輕ヲ與ヘサルカト云フニ決シテ然ラズ只タ自首ニ依テ減輕ヲ與ヘサルマデニテ裁判官ノ酌量減輕ハ之ヲ與フルモノトス自首減輕ヲ與フルモノトスルハ裁判官ハ必ズ之ヲ與ヘサル可ラズト雖モ酌量減輕ノ如キハ其權内ニ在ルモノナ

ルヲ以テ自由ニ酌量シ得可キヲ以テナリ
 發覺トハ如何ナルモ云フカ犯罪事件ヲ何人モ知ラサルモ云フカ將タ事件ハ發覺スル
 モ犯罪者ノ何人ナルヤヲ知ラサルモ云フカ恩フニ自首シテ有効ナラシメンニハ宜シクマ
 ヅ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲サトル可ラス
 第一 官又ハ被害者ニ於テ犯罪者ヲ知ラサル前
 第二 官ニ自首スルコト

故ニ第八十七條ノ場合ヲ除ク外被害者ニ自首スルモ其効ナキモノトス自首ハ必ず自ラ之ヲ
 爲スコシト雖モ已ムヲ得サル場合ニ於テハ代人及ビ書面ヲ以テスルモ又其効アル者トス
 謀殺故殺ハ何ヲ以テ之ニ自首ノ減輕ヲ與ヘサルカ恩フニ之等重罪ノ犯罪者ハ其殘忍ナル實ニ
 此罪ヨリ甚シキモノナカルベシ今之ニ自首ヲ與フルトスルモハ復讐ノ念ヲ逞フスル爲メ預
 メ自首ヲ期シテ之ヲ斷行スルモノナキヲ保シ難シ此ノ如クナレバ一方犯罪者ヲシテ兇行ヲ遂
 カルニ易カラシメ一方ハ法律ノ効用ヲシテ薄弱ナラシムルノ怖アリ故チ以テ之等ノ重罪犯
 ニ限リテ自首減輕ヲ與ヘサル以所ナリ

**第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ還給シ
 損害ヲ賠償シタル時ハ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等ヲ減ス其全部
 ナ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ一等ヲ減ス**

釋義 本條ハ財産ニ對シ罪ヲ犯シ自首シテ贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償シタルモノハ自首減等
 シタル上本刑ニ二等ヲ減スルモノトスコノ場合ニ於テハ被害者ノ財産ニ於テ損スル所ナキ
 ナリテ社會之ヲ罰スルノ点ニ於テ大ニ減等ヲ用イザル可ラズ又贓物ノ全部ヲ還給セスト雖
 モ半數以上ヲ返還シタルモ又一等ヲ減ス可キモノトス

本條ヲ以テ自首ノ精神ヲ推究スルハ思ヒ半バニ過クルモノアルベシ何トナレバ眞心悔悟
 ニ依テ自首ニ減等ヲ與フルモノトセバ何ゾ物品ノ返戻ヲ以テ等蓋テ立ツルノ理アル可ケン
 ヤ物品ノ還給ヲ以テ自首ニ減等ヲ與フル以所ノモノハ取モ直サズ社會ノ利益ノ爲ニ設定シ
 タルモノナルコトヲ推知シ得ラル可シ社會ノ害愈々少クレバ減等ヲ與フルコト益々多キ以
 所ノモノハ自首ヲ待ツニ眞心悔悟ヲ以テセサルノ理ヲ知ルコト致テ雖キニアラサルナリ
**第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ官ニ自
 首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處斷ス**

釋義 財産ニ對スル罪ニシテ被害者ニ首服シタルモノハ官ニ自首スルト同シク二等ヲ減ス
 ルモノト規定シタル以所ハ他ナシ犯罪者ノ爲スニ便ナラシメタルモノニシテ被害者ニ首服ス
 ルモ官ニ自首スルモ其贓物ヲ還給シ損害ヲ賠償スル点ニ於テ少シモ結果ニ異同ナク且ツコ
 ノ法ニヨツテ以テ贓物ノ還給ヲ誘致セシモノナリ自首ト首服トハ小異ナキニアラズト雖モ
 犯罪者ノ首出スルニ於テハ罪ナルコトナカルベシ自首トハ官署ニ對スルモ二用ヒ首服トハ被
 害者ニ其事ヲ自白シテ降服スルカ如キ意味アルモノ、如シ然レモ二者ノ文字異ナリト雖モ
 結果ニ至テ異ナルコトアルコトナシ

**第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタル者ハ
 各其本條ニ從フ**

釋義 此節ニ掲ゲタルモノ、外自首ノ例ヲ擧ゲタルモノハ各其本條ニ從フトハ如何ナル場
 合ヲ規定シタルモノナルカ蓋シ此節ニ掲ゲタルモノハ法律上ノ自首減等ニシテ裁判官ハ必
 ズ是ノ場合ニ際スルモハ法律ノ規定スル所ニ從テ減等ヲ與フヘキノ義務アルモノトス
 然レニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ゲタルモノハ第二百二十六條第百九十二條第二百二

十六條等ノ全免ノ場合ヲ云ヒシモノナルベシ

第三節 酌量減輕

本節ハ前已ニ數々論シタルカ如ク裁判上ノ減輕ニ屬スルモノニテ夫ノ宥恕自首ノ二
裁等法ノ如キ法律上ノモノニアラサルナリコノ酌量減輕ハ裁判官ノ意思ニ依テ左右シ得可
キモノニシテ一ニ其權内ニ放任シタルモノナリ

凡テ酌量減輕法ヲ以テ裁判官ノ權内ニ放任セシト雖モ裁判官ハ如何ナル場合ニ於テ之ヲ適
用スルモノナルヤヲ研究セサル可ラズ蓋シ本節ハ左ノ必要アルヲ以テ之ヲ設定シタルモノ
ト云ハサル可ラサルナリ

第一 事實有罪ノ度

謀殺ハ故殺ヨリ事實ノ度重ク窃盜ハ強盜ノ事實ヨリ輕キコトハ識者ヲ俟テ後知ラサルナリ
此ノ如キモノハ預メ推知シ得可キヲ以テ立法者明ニ法律上ニ示シテ之カ輕重ヲ判明ナラシ
ムト雖モ夫ノ犯者ノ有罪ノ度ニ至テハ容易ニ知得スルコト能ハサルモノナリ

第二 犯者有罪ノ度

人ノ罪ヲ犯スヤ于差万別一モ方向ヲ同フセシモノナシ蓋シ人異レバ面又均シカラズ面同シ
カラサルカ如ク心華又同シカラサルモノトス已ニ心ニ於テ相同シカラズ如何ンゾ犯者ノ意
向ノ同一ナル可キノ理アラシキ實ニ爲ニ盜ムモノアリ盜シテ之ヲ人ニ分タント欲シテ爲
スモノアリ食禁飽ナキノ私慾ノ爲ニ犯スモノアリ飢餓身ニ迫テ之ヲ爲スモノアリ其窃盜ニ
於ケル同ジト雖モ情狀ノ異ナル百出百變未タ曾テ異ナラズンバアラサルナリ如此ナレバ其
事實ニ就テ之ヲ推知スルニアラサルヨリハ決シテ其有罪ノ度ヲ測知スルコト能ハサルナリ
以上二件ハ酌量減輕ヲ爲スニ付テ最モ必要ノモノナリトス事實ノ度ト犯者ノ有罪ノ度ト權

衡ヲ得セシムルヲ以テ酌量減輕ノ大主意ト謂ハサル可ラサルナリ

第八十九條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情狀原諒ス可キ者ハ酌量

シテ本刑ヲ減輕スルヲ得

法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量ス可キ時

ハ仍ホ之ヲ減輕スルヲ得

前已ニ論スルカ如ク犯罪ノ度ニ至テハ常ニ相同シカラサルモノニテ所犯原諒ス可キ
モノアリ然ラサルモノアリ此ノ原諒ス可キ場合ニ於テ始テ裁判官ハ酌量減輕ヲナスモノト
ス所犯原諒ス可キ場合トハ如設バ親ノ病苦ニ腦ミ慘憺ノ情子トシテ視ルニ忍ビス醫ヲ迎ヘ
ント欲シテ其資力ナク藥ヲ與ヘントスルモ之ヲ購フニ錢ナシ去レバトテ苦痛ハ一日ヨリ
甚シク命且夕ニ迫ルモノト如シ於テ是乎隣家ノ金銀ヲ窃取シテ以テ醫資ト爲シタルカ如キ又
ハ飢ニ迫テ他人ノ物件ヲ窃取シ之ヲ覆却シテ飢ヲ醫スルカ如キ其所爲タル窃盜ニ相違ナシ
ト雖モ犯者ノ有罪ノ度ニ至テハ大ニ憐恤ス可キモノアリ此ノ如キ場合ニ於テハ裁判官ハ其
犯者ノ事實ニ於テ原諒ス可キモノト感覺ヲ惹起シタルハ酌量減輕ヲ用テ刑ヲ減輕等シ犯者
ノ事實ノ度ト刑ト權衡ヲ得セシムルコトヲ務ム可キモノトス

次項ハ加重シ又ハ減輕ス可キ法律上ノモノアリト雖モ酌量減輕ス可キ必要アルハ猶ホ減
輕スルヲ得可キモノトスタトヘバ再犯ニ依テ加重シ自首スルヲ以テ減輕スル場合ニ於テ
モ猶ホ酌量減輕ヲ必要ナリトスルハ之ヲ減輕スルコトヲ得可シ

第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

裁判權ヲ張大ナラシムルハ動モスレバ專ノ弊横ナキヲ保シ難シサリトテ裁判官ハ
事實ノ承審者ナレバ犯者有罪ノ度ヲ知ルニ於テ甚ダ困難ナラサルモノアリ故ニ一等又ハ二

等ヲ減セシメテ其權衡ヲ相當ナラシムルモノトス若シ裁判官ニ許スニ無限ノ酌量法ヲ以テ
センカ好惡遂ニ適當ノ權衡ヲ得サルノ弊アリ一ニ等ノ減等ヲ以テ之ニ許スハ極少ニ失ス
ルノ弊ナク又廣大ニ濫ルルノ恐レアルコトナシ故ニ若シ其犯罪ノ度ニ於テ如何ニ原諒ス可
キモノアリトスルモ三等ヲ減スルコトヲ得ズシテ必ズ本條ニ從ヒ二等ニ止マサル可ラサル
ナリ

第五章 再犯加重

再犯トハ數罪俱發下同シカラズシテ一度裁判ヲ受ケ其裁判確定シテ而後再犯ナリ
スモノナ云フコト再犯ニ依テ刑ヲ加重スル以所ノモノハ他ナシ前刑ニ於テハ犯者其刑ノ苦
痛カ心裡ニ感セサルヨリ再犯ナルニ至リタルモノナレバ即チ刑ヲ加重シテ以テ其刑ヲ重カ
ラシムルモノトス凡ソ人ノ犯罪ニ依テ刑ニ處セラルルハ出獄後必ズ善良ニ期ス可キモノナ
ルニモ抱ハラズ反テ惡心ヲ增長シテ終ニ兇奸ノ群ニ入り獄裡ニ出沒シテ自ラ得タリト爲シ
奸黠ノ所業ヲ爲シテ良民ヲ毒害スルモノ比々皆ナラサルハナシ之レ豈ニ刑ノ目的ナラン
ヤ夫レ然リ然リト雖モ犯罪者ノ過チ改メズシテ茲ニ至ルモノハ刑罰ノ誘掖スル所ニアラズシ
テ刑罰ヨリ生スル一ノ弊害ト云ハサル可ラス是等ノ方法ヲ除去セントスルハ一ニ執行方法
ニヨレル者ニシテ一定ノ法律以テ之ヲ散除シ得可キモノニアラサルナリ
再犯加重ハ已ニ必要アルヲ以テ之ヲ設定シタルノ理アルヲ知然ルレモ是等ノ刑ハ同質ノ刑
ノ範圍ニ於テ加重ス可キモノニシテ決シテ夫ノ懲役ノ加重シテ徒刑ト爲ルカ如キハ大ニ不
可ナル所ノモノナリ何トナレバ如何ニ再犯ナレバト爲ニ刑質ヲ變ス如キ理由アラサルヲ
以テナリト非難スルモノアリ然レモ是又未ダ究メタルノ論ト云フコト能ハサルナリ如設ヒ刑
質ハ變スルモ犯罪者ヲシテ罪ノ度ト權衡ヲ得ルルハ法律ノ本分ヲ尽シタルモノト謂ハサル可

ラス然レモ重禁錮ヲ加ヘテ懲役ニ入レ又ハ拘留ヲ加ヘテ重禁錮ノ刑ニ入ルカ如キハ其刑
ノ階級ヲ亂ルモノニテ法律ノ許サ、ル所ナリ然ラズンバ重懲罪及ヒ違警罪ノ性質ニ於テ少
シモ區別スル所ナキニ至ルヲ以テナリ

凡ソ再犯トハ如何ナル罪ノ種類ヲ云ヘルモノカ同罪ヲ再犯セサルニ非ルヨリハ加重ス可キ
モノニアラサルカ或ハ異質ノモノト雖モ加重ス可キモノナルカ是等ノ說ニ至テハ或ハ云フ
モノアリ毆打創傷罪ヲ以テ已ニ確定裁判ヲ經タル者竊盜罪ヲ加重スルハ如何ナル意義ナル
ヤ竊盜ハ初メテ犯セシモノニテ未ダ懲戒ノ過不及ヲ感スルコトナシ然リ而シテ前キノ毆打
罪ニ懲リサルトテ他罪ノ預リ知ル可キモノナランヤ若シ之ヲシモ加重ス可キモノトスルハ
ハ原因結果ノ相結バサルモノト云ハサル可ラズト然レモ犯罪ニ依テ一度ヒ法律ノ制裁ヲ受
ケ猶ホ之ニ懲リズシテ再犯スルモノハ法律ヲ輕視スルモノナリ即チ昭々換ヘテ之ヲ陳ブレ
バ法律ノ施ス所ノ刑ガ犯者ノ心ヲシテ惡ヲ去ラシムル程ノ力ナキモノナリト思惟セサル可
ラズ果シテコノ推測ノ如クナレバ罪質ノ如何ハ暫ク之ヲ措キ犯罪ノ故ヲ以テ直ニ之ヲ加重
セサル可ラズ何ゾ其前後罪種ヲ同フスルコトヲ要センヤ

宮城氏ハ再犯加重ヲナスニ年限ヲ以テセリ曰ク前刑數十年ノ後ニ在ル者ノ如キ社會ノ遺忘
スル所アリ且ツ之ヲモ初犯ト爲スハ遂ニ年限ノ制裁ナキニ至ル是ヲ以テ之ヲ觀レバ再犯
ノ年限モ期滿免除ノ年限ト均シク之ヲ規定スルヲ以テ可ナリト論セリ蓋シ正當ノ說ト云フ
可シ

再犯加重ハ三犯四犯ハ之ヲ再犯ト均シク論スルモノニシテ三犯四犯ノ故ヲ以テ加重スルモ
ノニアラサルナリ何トナレバ若シ斯ノ如ク加重シテ定限スル處ナキニ至ルハ八十犯以上ニ
モ及ベハ悉ク輕罪ハ重罪ニ重罪ノ極ハ死刑ニマテ及ハサル可ラサルニ至ルヲ以テナリ再犯

加重ハ法律上ノモノニテ裁判官ノ隨意ニ爲スコトヲ得可キモノニアラサルヲ以テズ之ニ必
 從ハサル可ラサルヲ以テ勢セ右ノ如キ結果ヲ生スルニ至ルモノトス
 減輕ニ至テハ法律上ノモノアリ裁判官上ノモノアリト雖モコノ再犯加重ノ如キ其他二人以上
 ノ犯罪兇器ヲ携帯スルノ場合ニ於テ加重スル等荷モ法律ニ於テ加重スル所ノモノハ法律上
 ノモノニ限ルヲ以テ裁判官ノ適意ニ爲ス可キモノニアラザルナリ
 以上再犯加重ノ大畧ヲ解釋セリト雖モ今一言數演セサル可ラサル者アリ數罪俱發ト別ル、
 所是ナリ數罪俱發ハ吸收主義ニ依テ一ノ重キ罪カ他ノ輕キ罪ヲ吸イ取ムルモノニテ未ダ何
 レモ裁判官ニ經サルモノトス然レモ再犯加重ハ已ニ一度ヒ確定裁判ヲ經タルモノニテ再犯ハ
 獨立シテ一個ノ刑責ヲ負ヘルモノナリ必竟スルニ再犯加重ノ場合タルニハ宜シク左ノ條件
 ヲ具備セサル可ラズ

- 一 前後二罪ナルコト
- 二 前後二罪ノ同罪ノ度ナルカ又ハ前罪ヨリ重キ
- 三 前罪ハ裁判確定シタルモノナル

前後二罪ナルコトハ共ニ我國ニ於テ犯シタルモノナルヲ要ス若シ外國ニ於テ犯シタルモ
 ノナルハ我國ノ法律ニ關係セサルヲ以テ再犯加重ノ刑ヲ適用スルコト能ハサルモノトス
 前罪ハ後罪ヨリ重キトキ又ハ前後同罪ナル場合ニアラザルニテ論セサルモノトス何トナ
 レバ後罪若シ重キトキハ未ダ檢改セサルトノ推測ヲ爲ス可キ理由ナクシテ若シ後罪ノ重キ
 刑ヲ言渡シタランニハ動モスレバ檢改ノツアル可キヲ以テナリ故ニ前後同罪若クハ後罪重
 キ場合ニ限ルモノトス
 未ダ前罪確定裁判ヲ經サル者ナルハ之ノ數罪俱發ノキニ混同シテ一ノ重キ罪ヲ科ス可キ

モノトス故ニ必ズ前罪ハ裁判宣告ヲ受ケテ確定シタルモノナラサル可ラズ
 夫レ然リ然レモ以上ハ重罪輕罪ニツイテ説明シタルニ過ギス若シ違背罪ニ係ルハ之ニ獨
 ホ二件ヲ増加セサル可ラズ

- 一 一年內ニ前後二罪ヲ犯シタル
- 二 同一ノ違背罪裁判所管轄內ニ於テ犯シタル

監視規則ノ如キモ一期限内ニ二度以上犯シタルニアラザルハ裁判官ハ再犯ヲ以テ之ヲ論セ
 サルモノトス

**第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル時ハ本
 刑ニ一等ヲ加フ**

先キニ重罪ニ處セラレ裁判確定シテ再犯重罪ニ該ルハ再犯ノ故ヲ以テ刑ヲ加重ス
 ルモノトス若シ初犯輕罪ニシテ再犯重罪ナルハ及ビ初犯重罪ニシテ再犯違背罪ナル場合ノ
 如キハ再犯ヲ以テ論スルモノニアラズ初犯輕罪ニシテ再犯重罪ナルハ未ダ重罪ノ刑ヲ科
 セラレシコトナキヲ以テ之ニ懲リズト云ヘル推測ニ基クテ能ハズ又初犯重罪ニシテ再犯違
 背罪ノ如キハ其輕キモノニシテ之ヲ法律上ノ規定ニ依テ罰セズト明記シタル以上ハ是又不
 聞ニ措カサル可ラズ何トナレバ是等違背罪ノ如キハ重罪輕罪ノ如ク土地風俗ニ依テ變更セ
 サルモノニアラズシテ一年內ニ二回其内管轄內ニ於テ犯サレバ之ニ再犯加重ヲ適用セサ
 ルモノナルヲ以テ初犯重罪ニシテ再犯違背罪ヲ罰セサル以所ナリ

**第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ該ル時
 ハ本刑ニ一等ヲ加フ**

本條ハ先ニ重罪及ビ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノノ再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ

加テ可キモノトスルモ本條及第九十一條第九十三條ニ於テ云フ所ノ重罪輕罪ハ刑トハ罪ノ度ニ依テ之ヲ定ムルモノナルカ又ハ刑ノ度ニ依テ之ヲ定ムルモノナルカ大ニ研究ス可キモノトス

罪ノ度ニ就テ之ヲ定ムトセンカ大ニ結果ノ齟齬ヲ來タスモノアルベシトヘバ今茲ニ暴行ハアリ人ヲ殺傷シタルトセシカ人ヲ殺害シタルノ所爲ハ重罪ナリ此時ニ當リ先ニ重罪又ハ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ナランニハ再犯加重ヲ適用セサル可ラズ然レモ若シ刑ノ適用ニ至テ怒リニ乘シテ之ヲ爲シ若クハ暴行ヲ受ケタルノ故ヲ以テ之ヲ殺傷シタルモノナルハ第三百九條第三百十二條ニ依テ三等獄ヲ受ケサル可ラス然レバ既ニ輕罪ノ刑ニ賦等スルヲ以テ若シ初犯輕罪ニシテ等シキハ之ヲ論セサルヲ以テ本則トナスモノナリ

然レバ即チ罪ト刑ト何レニ依テ之ヲ減輕ス可キモノヤハ最モ深思セサル可ラズ今宮城氏ノ論スル所ヲ以テセバ刑ノ度ヲ以テ之ヲ定ムルモノトセリ實ニ適法ノ斷案ト謂ハサル可ラザルナリ

故ニ初犯重罪ト云フモ皆テ實際執行シタル刑ヲ以テ其度ト爲サレ可ラザルナリ
第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時

ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年內再其違警罪裁判所ノ管轄地內ニ於テ犯シタル時ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルヲ得ス

【註釋】 違警罪ノ刑ニシテ再犯トナルニハ左ノ條件ヲ具備セサル可ラズ
第一 一年內ニ二回以上犯ス

第二 同一ノ裁判管轄ニ於テ爲シタル
以上ノ條件ヲ以テスルニ非レハ違警罪ハ再犯ヲ以テ論セズト爲シタル以所ノモノハ他ナシ

是等ノ犯罪ハ一定ノ法規ノ能ク定ム可キモノニアラズシテ夫ノ重輕罪ノ如キ一般ノ土地ニ行ハル、モノト大差アルモノトス故ニ府縣ニハ適宜ノ違警罪アルカ如キモノニテ到底別異ノ法ニヨラサル可ラサルモノナリ是ヲ以テ前第二條件ヲ茲ニ要スル以所ナリ

第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ論スルヲ得ス

【註釋】 再犯加重ハ初犯裁判確定スルニ非レバ之ヲ加重スルヲ能ハサルモノニシテ數罪俱發中ニ入ル可キモノトス况シヤ刑ノ度ノ輕重ヲ以テ加重スルモノトスルハ猶ホ更裁判確定ノ後ナラサル可ラザルナリ

第九十五條 刑期限內再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ徵收ス

【註釋】 刑期限內トハ即チ裁判宣告ヲ受テ確定シタル後罪ヲ犯シタルトニテ刑ヲ加重ス可キモノニ當ルハ其執行方ニツキ之ヲ本條ニ規定シタルモノトス今先ツ解シ易ラン爲メ之ヲ分別シテ論スルハ左ノ如ク區別セサル可ラズ

第一 定役アルモノヲ先ツ執行ス可シ

第二 共ニ定役アルモノ又ハ共ニ定役ナキモノハ先ツ重キ者ヲ執行スベシ
以上ノ如ク分解シ來ルハ其執行ス可キノ順序ハ明瞭ナルモノト云フ可シ然レモ實際ニ當テ之ヲ深ク考究スルハ疑團ノ容易ニ決ス可ラサルモノアリ如設ヘバ死刑及ビ無期刑ノ如

キ是ナリ

先キニ重罪ヲ犯シテ無期刑ニ處斷セラレシモノアリ服役中重罪ヲ犯シテ死刑ノ宣告ヲ受ケタルモノアリト假定セヨコノ場合ニ於テハ何レヲ先キニ執行ス可キモノナルカ定役アルヲ以テ先ニセサル可ラズトセバ無期刑ヲ以テ先ツ執行テ了ハラサル可ラズ無期刑ハ即チ満期ノ日ナク刑期ノ終ルルハ即チ犯人ノ死スル時ナリ然レバ即チ遂ニ死刑ヲ執行スルノ期ナキニ至ル然レバ如何ニスベキカ宜シク死刑ヲ執行ス可キノミ夫レ死刑ハ極刑ナリ犯者ノ生命ヲ斷ツモノナリ何ゾ又已ニ無期刑ノ不執行ヲ憂フ可ケンヤ蓋シ死刑ヲ除クノ外定役アルモノヲ先ニスベシト云ヒシモノト解釋セサル可ラサルナリ

定役ニ服スルモノヲ以テ先ツ執行ス可シト定メタルモノハ定役アルモノハ定役ナキ刑ヨリモ苦痛大ナルモノナルヲ以テ之ヲ執行ス可キモノトス若シ服役中大赦又ハ特赦等ニ依テ免刑ヲ得タルハ定役ナキモノヲ先ニスルトキハ定役アル苦痛ノ刑ハ一日モ執行スルノ日ナキニ至リ少シモ刑ノ効用ヲ感スルノ時ナキヲ以テナリ

罰金科料ノ如キハ金刑ニシテ輕重ノ別ナキヲ以テ何レヲ先ニシ何レヲ後ニスルモ利得喪ノアルヘキコトナシ故ニ之ヲ徵收スルニ區別ヲ以テセサルモノトス然レバ實際之ヲ徵收スル点ニ於テハ前ニ宣告ヲ受ケタルモノヲ以テ徵收ヲ先ニスルモノナリ何トナレバ罰金ノ如キハ確定後三十日ノ猶預アルヲ以テ同時ニ徵スルコト能ハズシテ勢ヒ前裁判ノ分ヲ先ツ徵收スルノ順序トナルモノトス

第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ非常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ズ

註 本條ハ陸海軍ニ於テ判決ヲ經タルモノ其非常事犯ニ係リ普通刑法ニ依テ處斷シタルニアラサレバ再犯ヲ以テ論セズト云フニ在リ

能ク本條ヲ審究スルトキハ大ニ疑ノ發生スルモノアリ何トナレバ判決ヲ經タル者ト云ヒ初犯ノ非常律ニ從ヒ云々ト云ヘルモノ是ナリ今本條ヲ案スルニ陸海軍ニ於テモ普通ノ罪ヲ犯シタル者ニハ普通刑法ヲ案シテ裁判ヲ與フルノ權アルモノノ如ク解釋セサル可ラス初犯ノ非常律ニ從ヒ處斷スルトハ即チ陸海軍裁判所カ常律ニ據テ處斷シタルモノト謂フモノナリ然レバ軍人屬ニシテ陸海軍ノ法律ヲ犯シタルハ陸海軍裁判所ノ管轄ス可キモノニテ常律ノ與カル所ニアラズ軍人ニシテ常律ノ法律ヲ犯シタルハ常律ニ依テ常事裁判所ノ管轄スル所ナリ然レバ常事犯ナシテ軍事裁判所ニ依テ處斷ス可キ場合ナカルベシ

サレバ本條ハ如何ナルコトヲ規定シタルモノナルカ堀田氏ハ之ヲ左ノ如ク爲スヲ以テ穩當ナルベシト云ヘリ

軍律ニ從ヒ處斷セラレタルモノハ再ヒ重罪輕罪ヲ犯スモ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得スト余ハ未ダ以テ右ノ改正ニ服能スルコトハサルモノナリ果シテ刑法第九十六條ノ義解ヲ如此ナレバ即チ可ナリト雖モ大ニ法文ノ錯綜スル所アルヲ以テ見レバ或ハ恐ル通常刑法ニモ明文アリ又陸海軍刑法ニモ明文アリテ事實取調上便宜ナルヲ以テ之ヲ陸海軍ノ刑法ニ據テ處斷シタルカ如キ場合ニハアラサルカヲ若シ堀田氏ノ如クナレバ別ニ本條ヲ改正セズトモ「重罪輕罪ヲ犯シタルモノ」ト訂正スルハ直ニ得ラレ可キカ須臾ラケ後ノ識者ヲ俟ツ何ヲ以テ陸海軍刑法ニ依テ處斷セラレタルモノハ常事犯ニ加重スルノ基トナラサルカ之ヲ論スルモノアリ曰ク軍人屬ハ嚴整ノ法律ヲ以テ之ヲ牽束スルニ非レバ大ニ軍令ヲ亂リ且ツ規格ヲ破ルモノナリ故ニ常事犯ヨリモ其刑嚴酷ナリ之ヲ以テ加重セズト蓋シ又謬見誤解ナ

ルノミ嚴酷ナレバ猶ホ更ラ加重ノ理由ト爲スニ足ル何トナレバ嚴酷ノ軍律ヲ以テスルモ猶ホ未ダ懲リメトノ推測ヲ以テ加重スルモ決シテ不當ニアラサルナリ然レモ是等ノモノヲシテ咄犯加重ト爲サ、ル以所ハ嚴酷ヲ以テ理由ト爲シタルニ非ズシテ全ク性質ヲ異ニスルモノナルヲ以テナリ刑法ハ通常犯ヲ罰スルモノナリ軍律ハ一部ノ軍人ヲ罰スル特別法ナリ故チ以テ茲ニ之ヲ規定シタルモノト決定セサル可ラサルナリ

第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス

大赦ハ其事件ヲ罰スルノ必要ナリ且ツ之ヲ罰スルハ反テ世論ヲ惹起ス等ノ種々ノ必要アルキ之ヲ行フモノニテ 天皇陛下ノ親ヲ戮シ賜フ所ノモノナリ國事ニ依テ罪ヲ得タルモ世慮其國事犯ノ論スル所ニ荷担シ政治ノ方針モ又此ノ論者ノ説キタル所ニ轉スルカ如キ件ニ於テハ之ヲ赦免セサル可ラズ反テ犯者ヲ苦シマシムルハ爲ニ世人ノ怨怒ヲ受ケ施政ノ防害ヲ來タスノ怖レアリ且ツヤ社會ハ全ク其犯罪ヲ忘却シタルモノト見做ス理由アリテ之ヲ行フ可キモノナリ

大赦ニ依テ免罪ヲ得タルモノハ元來罪ヲシトスルモノニテ爾來罪ヲ犯スモ再犯ヲ以テ論セズ潔白ノモノトナルモノナリ大赦ハ未決已決ヲ論セズ何時ニテモ之ヲ行フモノニテ夫ノ特赦ノ如キ已決ニ限ルモノニ非ルナリ大赦ニ依テ免罪ヲ得タルモノハ直ニ復讐ヲ得ルコト雖モ特赦ニ至テハ赦狀中記載スルニ非レバ之ヲ得可キモノニアラサルナリ殊ニ大赦ハ事件ヲ目的トナシテ之ヲ行フモノニテ特赦ノ如キ人ヲ目的ト爲スモノニアラサルナリ其他大赦特赦ノ區別ニ至テハ前已ニ之ヲ詳説セリ今又之ヲ贅セズ

第九十八條 三犯以上ノ者ト雖モ其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ

刑ヲ加重スルニハ再犯加重アリ特別加重アリ茲ニ論スル所ノモノハ再犯加重ナリ其三犯以上ト雖モ之ヲ加重セサルモノハ前已ニ之ヲ論シタルカ如ク其極度ナクシテ遂ニ刑ノ度ト罪ノ度ト相應セサルカ如キニ至テ大ニ法律ノ預想ヲ破ルカ如キノ弊害アルヲ以テナリ數十犯ニ至テハ輕罪ハ重罪ニ入り重罪ノ下刑ハ進テ極刑ニ騰ルカ如キ殆ンド罪刑ノ別ヲ亂ルコト多シトセズ故チ以テ再犯以上ハ幾回ニ及ブモ之ヲ加重セサルモノト定メタルナリ

第六章 加減順序

罪アルキ必ズ之ヲ法律ニ照シテ以テ處斷セサル可ラズ然リ而シテ犯罪ノ事實ニツイテ之ヲ觀ルニ情狀原諒ス可キモノアリ自首スルモノアリ宥恕スベキモノアリ或ハ轉シテ加重ス可キ再犯者アリ特別加重ス可キモノアリ其加減ノ點ニ於ケル最モ察セサル可ラサルナリ本章ハ其加減ス可キ順序ヲ規定シタルモノニテ法律適用ノ上ニ於テ最モ重大ノモノト謂ハサル可ラサルナリ

何チ以テ之ヲ云フ曰ク加重ヲ先ニスルト減輕ヲ先ニスルト或ハ之ニ反シテ後ニスルトニ依テ大ニ刑ノ度ヲ異ニスルモノアルヲ以テナリ乞フ試ミニ例ヲ舉テ以テ之ヲ示サン

タトヘバ幼者アリ無期刑ニ當ルモノトス然ルニ此ノ場合ニ於テ幼者ハ再犯ノ故チ以テ加重セサル可ラサルモノト假定センカ此ノ場合ニ於テ減輕ヲ先ニシ加重ヲ後ニセンカ結局同一ノ無期刑ニ居ラサル可ラズサレバ加重ヲ先ニセンカ加ヘテ死刑ニ入ルハ法律ノ許サ、ル所ナルヲ以テ加重ヲ行フニ由ナクシテ減輕ヲ行ヒ以テ有期罪ニ降下セサル可ラズ此ノ如ク一方ハ死刑ニ入ラントシ一方ハ有期ノ減等ニ降ル之ヲ先後スルニ依テ生スルモノノ豈少シトスベクンヤコレ余ノ適用上忽爾ニスベカラズト云フ以所ナリ

第九十九條 罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可

キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其
他本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト
爲ス

- 一 再犯加重
- 二者 恕減輕
- 三 自首減輕
- 四 酌量減輕

附註 本條ハ即チ總則ニ照シテ同時ニ加重減輕ヲ行フ可キト規定シタルモノニテ即チ總
則ノ場合ニ於テ之ヲ行フハ左ノ順序ニ從ハサル可ラズ若シ之ヲ轉置スルガ如キトアレバ
擬律ノ錯誤ナルヲ以テ破毀ノ原由トナルモノトス

- 第一 再犯加重
- 第二 宥恕減輕
- 第三 自首減輕
- 第四 酌量減輕

但從犯未遂犯罪ノ場合ニ於テハ減等及ビ特別ノ加重減輕ハ其加減シタルモノヲ以テ本刑ト定
メ而後第一ヨリ第四ヨリニ及ブモノトス蓋シ之ヲシテ斯ノ如ク規定シタル以所ノモノハ他
ナシ從犯未遂犯罪ニ依テノ減等特別ノ加重減輕ハ事實ノ有罪ノ度ニ依テ定メタルモノナレバ
夫ノ總則ニ原キテ規定シタル犯罪者有罪ノ度ノ如キモノニアラサルヲ以テナリ
有罪ノ度先ツ定テ而後チ刑者ノ度ニ及ブヲ以テ正則トス何トナレバ未遂犯罪ノ如キハ犯罪ニ
缺クル所アルヲ以テ減等シ宥恕ノ如キハ犯罪ニ付テハ缺クル所ナキモ犯罪者ノ身分又ハ事實

ニヨツテ之ヲ減輕スルモノトス故ニ之ヲ此ノ如ク規定シタルハ其當ヲ得タルモノトイフ可
キナリ

第七章 數罪俱發

附註 數罪俱發トハ其文字ノ指スガ如ク罪ノ數個カ一時ニ社會ニ發覺シタルモノヲ云フ凡
テ重罪輕罪違背罪ノ三罪ヲ犯シ其罪未ダ判決ヲ經ズシテ未決中ニ在ルモノヲ云フ蓋シ此等
ノ俱發ハ吸收主義ニ依テ一ノ重キ刑ノミヲ罰シテ他ハ之ヲ論セサルモノナリ
本條ヲ適用スル數罪俱發ノ場合ハ左ノ如クナラサル可ラス

- 第一 二個以上ノ犯罪アルト
- 第二 同一ノ犯者ナルト
- 第三 一罪ハ未ダ確定裁判ヲ經サルト

以上ノ場合ニ於テハ之ヲ合併シテ其重キ分ノミヲ罰シテ他ノ罪ハ之ヲ論セサルナリ然レモ
茲ニ注意ス可キトアリ一個ノ犯罪ヲナスニ他ノ犯罪ノ付添スル場合之ナリタトヘバ窃盜ヲ
爲スニハ家宅ヲ侵シタル罪アリト雖モ之ヲ一罪トシテ罰スルナク竊盜加重ノ情狀タルニ
過ギサルモノトス

第百條 重罪輕罪ヲ犯シ未ダ判決ヲ經スニ罪以上俱ニ發シタル時ハ
一ノ重キニ從テ處斷ス

重罪ノ刑ハ刑期ノ長キ者ヲ以テ重ト爲シ刑期ノ等シキ者ハ定役ア
ル者ヲ以テ重ト爲ス
輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ス

附註 本條ハ即チ罪俱發數ノ場合ヲ規定シタルモノニテ判決ヲ經ズトハ未ダ裁判確定サセ

ルモノヲ云フ是等ノモノハ一ノ重キニ依テ處斷スルモノニテ他ノ刑ハ之ヲ實際ニ科セズシテ重キ刑ニ吸收セラルルモノトス然レモ前已ニ窃盜家宅侵入ノ場合ヲ以テ引例シタルカ如ク其事件ニ依テハ加重ノ情狀タルノミニシテ別罪ヲ組成セサルモノハ一ノ重キヲ以テ論スル限ニアラサルナリ

重罪ノ刑ニ於テハ輕重ヲ分ツニ刑期ノ長キモノヲ以テ重シト爲シ刑期ノ等シキモノハ定役アルモノヲ以テ重トナスト規定セリ蓋シ又正當ノモノナル可シ然レモ其實際ノ場合ニ至テハ遂ニ執行ス可ラサルノ結果ヲ生スル場合アラントス國事犯ト常事犯トニ罪アリタルハ如キ國事犯ノ刑期長キヲ以テ重ト爲シ之ニ依ツテ處斷セラレ后テ大赦アリタル場合ノ如キハ國事犯ノ爲ニ非國犯ノ罪ヲモ消滅シ直ニ復權ヲ得ルニ至ラントス然レモ法律上ノ規定已ニ如斯ナルヲ以テ又已ムテ得ス國事犯ノ餘慶ヲ非國犯ニ及ボサトル可ラサルナリ

輕罪ノ刑ハ所犯最モ重キ者ヲ以テ處斷スト云ヘリコノ重キ者トハ如何ナル有標ヲ以テ重シトシ輕シトスルヤ甚ダ區別ヲ難キモノアリ凡ソ犯罪ノ度ニ至テハ其罪ノ種類ヲ定テ窃盜ヨリハ殺人犯ヲ重トシ放火ハ失火ヨリ重シトス是等ハ其罪ノ程度ニ依テ區別スルモノナレバ預メ立法者ニ於テ之ヲ定ムルコト敢テ難キコトニモアラサルナリ然レドモ犯罪者所爲ノ点ニ於テ之ヲ考察スルトキハ亦大ニ前者ノ比ニアラサルナリ窃盜ノ如キモ貧ノ爲ニスルモノアリ貧慾ノ爲ニスルモノアリテ同一ノ意思ニ因ルモノトテ殆ンド稀ナリサレバ本條末項ノ如キ其所犯情狀ノ重キトハ如何ナルモノヲ云ヒシモノナルカ必ズヤ立法者ノ預メ區別スルコト能ハサルモノ則チ言ヲ換テ之ヲ陳レバ犯罪者ノ事實ニ依テ裁判官ノ推知スル摸樣ト云フ可キナリ前已ニ説明スルカ如ク犯罪者ノ犯罪ノ度ヲ以テ之ヲ推考シ而シテ輕重ヲ定ムルモノトセンカタトヘバ窃盜ト委託物消費ト併發シタル場合アリタルモノトセンカ窃盜ハ貧窮ノ爲ニシ

情狀頗ル憐レム可キモノアリ委託物消費ハ所犯情狀ノ重キモノナルハ窃ヲ不盜間ニ措キ委託物消費罪ニ依テ處斷セサル可ラズ然レバ則チ窃盜ノ二月以上四年以下ノモノヲ捨テ、ヲ免レンカ爲ニ刑期ノ最モ短キ罪ヲ犯シテ以テ重キノ結果ヲ取ラシコト務ムベシコレ豈法律ノ精神ナランヤ余ハ所犯情狀ノ重キト云ヘルモノハ決シテ此等ノモノニアラサルコトヲ信シテ疑ハサルモノナリ何ヲ以テ之ヲ云フ左ニ理由ヲ詳述シテ以テ疑ハサル以所チ明ニスベシ

所犯ノ重キハ則チ刑ノ重キモノナリ刑ノ重キモノハ即チ罪ノ度ノ重キ結果ナリ已ニ然レバタトヒ刑期ハ短キモノト雖モ情狀ノ重シト云フコトヲ得可ノ法理アラントヤ之ヲ反言セバ盜人ヲ憎ンテ錠ヲ貸スト一般其目的ト相反スルノ所爲チナスモノニシテ識者ノ執ラサル所ナリトス之ヲ以テ之ヲ觀ルルハ所犯情狀ノ重キハ則チ刑期ノ長キモノヲ以テ重シトナシ之ニ依テ處斷セサル可ラサルナリタトヘバ窃盜ハ二月以上四年以下ノ範圍内ニ於テ二年ノ重禁錮ニ處斷ス可キモノトシ詐欺取財ニ於テハ同シク二月以上四年以下ノ範圍内ニ於テ一年六月ノ重禁錮ニ處斷ス可キモノト決定シタル場合ニ於テハ必ズ窃盜ニ依テ處斷セサル可ラズ如何ニ其情狀ハ詐欺取財ノ所爲ヲ以テ重シトスルモ刑期ノ点ニ於テハ窃盜ノ方長キヲ以テ之ヲ論ス可キモノト爲サトル可ラズ刑期ノ長キハ所犯ノ重キ結果ナレバナリ

禁錮ト罰金ニツイテ之ヲ觀ルルモ又同シ禁錮ハ自由ヲ拘束スル刑刑ナリ罰金ハ財産ニ及ブ金刑ナリ餘刑ハ重ク金刑ハ輕シ故ニ斯ル場合ニ於テハ罰金ヲ捨テ、餘刑ノ分ヲ取ラサル可ラサルナリ

又タトヘバ定役ナキ輕禁錮ハ二年ニ該リ定役アル重禁錮ハ一年ニ當ルルハ之ヲ如何ス可キ

元來刑法ニ於テ不特定アルモノヲ以テ重シトナス元則チ然レドモ本條重罪ノ輕重ニ於テ示ス所ニ依レバ刑期ノ長キ者ヲ以テ重シトセリ然レバ彼此反戾スル所アリト雖モ定役ナキ輕禁錮ノ長キモノヲ以テ論セザル可クナルナリ此場合ニ於テ大赦アリタル時其影響ヲ非國事犯ニ及ボスハ蓋シ亦已ムヲ得サルモノナリ

第百一條 違警罪ニ罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ツ重キニ從フ

流警罪ハ輕微ノ罪ニシテ恰モ罰貴懲罰ノ意ヲ有スルモノナリ故ニ之等ノ如キハ各罪併科シタルバトテ敢テ嚴ニ失スルノ恐レナク反テ併科スルノ其犯者ヲ懲スニ足ル可キ利益存スルヲ以テナリ併シテナガラ重罪ト輕罪ト併發シタル并ハ常ニ重罪又ハ輕罪ニ吸收セラルトテ以テ別ニ拘留又ハ科料ヲ科セサルモノトス今本條ノ規定ヲ討究スルニ一ツ重キニ從フト云ヘリ恰モ重罪二個以上及ビ輕罪二個以上併發シタル場合ト同シ文章ヲ用イタルトモ違警罪ハ重罪又ハ輕罪ノ爲ニハ吸收シ去ラルト判然タルヲ以テ見レバ一ノ重キト云フヲ得サル可シ寧ロ之ヲ科セズト云ヘルノ簡便ナルカ如シト雖モ之ヲ科セズトハ或ハ併發シタルガ爲ニ免罪ヲ受ケルヤノ疑ナキヲ保シ難シ故ニ亦之ヲ以テ數罪以重論文ヲ以テ規定シタルモノナルカ之ヲ要スルニ本條重罪及ビ輕罪ト併發シタル并ハ拘留科料ノ違警罪ハ論セラルヘキモノニアラサルナリ

今數罪俱發以重論ノ場合ヲ列記セバ左ノ如ク

- 一 二罪以上俱發シタル
- 二 確定裁判ヲ經サル
- 三 同一ノ犯者タル

以上ノ三條件ヲ具有シテ缺クルコトナキ并ハ數罪俱發ニ入ル可キモノトス

第百二條 一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪ノ後ニ發シ其輕ク若シクハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ已ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ刑期ニ通算ス

若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未タ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ツノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ通算セス

本條ハ數罪俱發ノ事際ヲ規定シタルモノニテ猶ホ例示ノ如キモノトス一罪已ニ發シテ已ニ判決ヲ經餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シキ者ハ之ヲ論セズ重キモノハ更ニ之ヲ論スルモノトス今如何ナル場合ヲ計テ之ヲ規定シタルモノナルカト云フニタトヘバ茲ニ竊盜罪ヲ犯シ已ニ裁判宣告ヲ受テ確定シ服役中未タ發覺セザル竊盜罪ノ露見シタルト假定センカ即チ本條初項ノ所謂判決ヲ經テ餘罪後ニ發シタルモノニテ前已ニ確定シタル竊盜罪ト均シキモノナル并ハ之ヲ論セズト雖モ若シ二人以上ナルカ又ハ兇器ヲ携帯シテ犯シタルカ如キ加重ノ情狀アルモノナル并ハ刑ノ重キヲ以テ即チ之ヲ論セサル可ラサルカ如シ

但前發ノ刑罰金科料ニ該ル并ハ後發ノ刑期ニ算入スト雖モ若シ後發ノ刑死刑又ハ無刑ノ如クナル并ハ刑期ニ算入ス可ラサルヲ以テ已ニ納完シタル罰金及ビ科料ハ之ヲ返還セサル可ラズ蓋シ一ノ重キ刑ニ吸收スルノ原則ニ背戾スレバナリ

第二項ノ場合ハ如設ヘバ初犯ノ裁判確定シ執行中又罪ヲ犯シ其罪ノ審理中又一ノ犯罪ノ發覺シタル場合ヲ云フコトニ當リテ初犯ト再犯トト比較シテ重キニ依テ判決シ而後餘罪ノモノト比較シテ又重キニ決スル并ハ大ニ刑期ヲ長キモノヲ來タシ爲ニ正當ナルサハ刑ノ科

果ヲ生スルニ至ルヲ以テ先ツ餘罪ノモノト再犯トナ比較シ重キニ依テ決シテ以テ已ニ確定シタルモノト通算スルモノトス

第百三條 數罪俱ニ發シ一ツノ重キニ從フ時ト雖モ其沒收及ヒ徵償ノ處分ハ各本法ニ從フ

數罪俱發ニ因テ一ノ重キニ從テ之ヲ處分スト雖モ他ノ輕キモノハ無罪トスルニアラズシテ全ク之ヲ罰スルモノナリ然レモ刑期ノ點ニ於テハ單ニ一ノ長キ刑ヲ執行シテ之ヨリ短キモノハ實行セサルノミ然リ而シテ外面皮想ヨリ之ヲ觀ルハ全ク他ノ輕キモノハ消滅シタヤノ觀想アレモ決シテ然ラズシテ依然トシテ存在スルモノナレバ裁判官渡中ニモ之ヲ記載スルモノトス故ニ沒收及ヒ徵償處分ニ至テモ實行シタルモノト異ナルコトナクシテ之ヲ沒收シヌハ徵償ノ處分ヲ爲シテ犯罪ノ結果ヲ終了スルコトハ少シモ實決ノモノト相違スルコトナキモノナリ

第九章 數人共犯

一人ニテ罪ヲ犯スモノアリ數人ニテ之ヲ犯スモノナリ同シク數人ニテ之ヲ犯スト雖モ決意シテ發シ其智識ヲ人ニ移シテ已レ自ラ之ヲ行ハズシテ人ヲシテ行ハシムルモノアリ或ハ獨リ自ラ發意シ決行スルモノアリ人ヲ殺サントシテ之ヲ戶外ニ誘出スルモノアリ之レカ首ヲ兩斷スルモノアリ或ハ財物ヲ窃取スルモノモアルベク戶外ニ瞭望スルモアルベシ此等ノ犯者ニ至テハ其有罪ノ度ニ於テ各々均シカラズシテ首ヲ斷ツモノハ誘出スルモノヨリ重ク窃取シタルモノハ戶外ニ見張シタルモノヨリ重カラサル可ラサルナリ

凡ソ犯罪ノ度ニ於テモ區別スル所ノ必要此ノ如ク類繁ナルヲ以テ數人共犯ノ場合ノ如キハ最モ錯雜スルモノト云ハサル可ラサルナリ然レモ今犯罪ニツイテ之ヲ大別スルハ左ノ如

キ區別ス可キモノトス

第一 決定

第二 預備

第三 實行

決定トハ發意ノ決定ニテ一人ニテ決心シ一人ニテ實行スルモノアリ又ハ決心シテ方法ヲ人ニ授ケ人ヲシテ行ハシメテ自ラ行ハサルモノアリ前者ハ即チ單純ノ正犯ニテ後者ハ所謂教唆者ト云ヘルモノナリ

正犯ニ三種アリ左ノ如シ

第一 純正正犯

第二 無爲正犯

第三 決行正犯

無爲トハ即チ教唆者ニシテ人ヲシテ行ハシメ已レハ手ヲ下サハルモノ之ナリ是等犯者ハ心裡ニ不真ノコトヲ露テ暗々ノ裡ニ良心ヲ惡路ニ移シ遂ニ他人ニ授テ之ヲ決行セシムルモノニテ最モ惡ム可キ犯者ナリトス故ニ又之ヲ正犯ニ列セシムルモノトス所謂智識ノ犯者之ナリ決行正犯トハ自ラ犯罪事件ヲ案出セズト雖モ人ノ教唆ニ依テ惡行ヲ遂クルモノニテ最モ犯罪ニ直接スルモノナレバ是又許ス可ラサルモノナリ凡ソ犯罪ナルモノハ或ル場合ヲ除クノ外預備ニ止マルモノハ之ヲ罰セサルヲ以テ元則トス故ニ教唆ノ如キ如何ニ不真ノ事柄ヲ企テ惡念胸中ニ塞充スルト雖モ之ヲ外形ニ見ハシテ決行セサル以上ハ法律ノ得テ干涉ス可キモノニアラサルナリ然レバ則チ被教唆者ニシテ其事柄ニ乘スルナクンバ未ダ以テ道德ヲ破リ社會ヲ害スルガ如キコトナキヤモ又知ル可ラサルナリ決行者ノ犯罪構成ノ上ニ於テ有テスル

責任重大ナリト云ハザルベカラサルナリ之ノ種者ヲ昧カノ犯罪ト云フ蓋シ決行ノ責任アル
ノミニテ智識ヲ用ユル所アラサルヲ以テナリ

以上ハ正犯ノ場合ヲ列記シタルニ過ギス又之ニ反シテ從犯ナルモノアリテ正犯ヲ幫助シ犯
罪ヲ容易ナラシメタルモノヲ以テ之ニ充ツルモノトス

刑法第九條ニ曰ク重罪輕罪ヲ犯スルヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他預備ノ所爲
ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯
現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ者ハ止メ其知ル所ノ重ニ照シ一等ヲ減スト
然レバ則チ從犯タルニハ宜シク先ツ左ノ條件ヲ要スルヲ知ラサル可ラズ

第一 重罪輕罪ヲ犯スルヲ知テ器具ヲ給與スルヲ

第二 重罪輕罪ヲ犯スルヲ知テ誘導指示スルヲ

第三 預備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタルヲ

右三條件ヲ具備スルハ從犯タルヲ知ル可シト雖モ是等ノ犯罪ハ正犯ト密接スルモノナ
ルヲ以テ深ク注目スルニ非ラズンバ容易ク解得ス可キモノニアラサルナリ

之ヲ要スルニ數人共犯トハ猶ホ俳優ノ劇演チスルカ如ク數人ニテ其犯罪ヲ遂行スルモノチ
云フ即チ語ヲ轉シテ之ヲ會ヘバ決定預備決行ノ三者ヲ各犯分擔シテ行フ所ノモノチ云フ恰
モ俳優ノ劇ヲ演スルニ同一ニ進テ均シク之ヲ演スルニアラズト雖モ分擔ノ役ニ相應シ配列
アルト同シク俳優タルニ相違ナク其演劇ヲ終了スルニ至ルマテ大小ノ加効者タルヲ妨ケサ
ルカ如ク犯罪ノ度ニ至テ輕重ノ區別アリト雖モ然レバ犯罪者タルヲ妨ケサルモノトス戸外ニ
見張シタルモノト物取シタルモノト或ハ頭ヲ斷チシモノト誘導指示シタルモノトノ間ニハ
有罪ノ度ニ於テ頗ル輕重スル所ナクンバアラサルナリ

第一節 正犯

本條ハ正犯ノ何者タルコトヲ示シタルモノニシテ前已ニ說明シタルカ如ク一人ニテ
之ヲ犯スルハ敢テ正犯ノ名モ從犯モ必要ナラズト雖モ二人以上ニ係ルハ犯罪ノ度ニ依テ從
犯アリ已ニ從犯アレバ之ニ反對スル正犯ナカル可ラズ故ニ正犯ノ何者タルヲ規定シタルモ
ノトス

第四百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑

ヲ科ス

二人以上ニ罪ヲ現犯シタルモノハ正犯トナストハ如何ナルモノチ云ヘルモノナルカ
人アリ之ヲ解シテ曰ク現ニトハ第二百六十一條ノ所謂現行犯ノ場合ヲ規定シテ之ヲ云ヒタ
ルモノナリト余以爲ラク然ラズ本條云フ所ノ現ニトハ現行犯ノ現ニアラズシテ實際犯シタ
ルモノハト云ヘルカ如キモノニテ決シテ現行犯現行犯ニ係ルモノニアラサルナリ何トナ
レバトヒ現行犯ニアラズト雖モ正犯ノ場合多クアル可キヲ以テナリ

各自ニ刑ヲ科スハ刑法ノ元則ニテ夫ノ分ク可キ性質ヲ有スル民法上ノ如キモノニアラサル
ナリ各犯昧カニ異ニシ心神ヲ異ニスルモノナレバ甲ニ對シテ與フル苦痛ハ乙ニ對シテ痛痒
相感スルモノニ非レバ少シモ刑ノ効力ナキヲ以テ之ヲ各自ニ科セサル可ラサルナリ

第四百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者亦正犯ト爲ス

人ヲ教唆スルトハ即チ人ヲシテ其事ヲ行ハシメント唆カスモノニシテ人ノ心神ヲ狂
惑セシムルニカムルモノトス凡ソ自ラ之ヲ決行セズト雖モ已ニ決意シテ之ヲ他人ニ移シ依
テ以テ其事ヲ決行セシメタルモノハ即チ無形ノ正犯ニシテ法律上通帯ノ正犯ト同シク
處斷ス可キモノトス本條ニハ重罪輕罪ノ教唆ノヲ云フト雖モ遠聲罪ノヲ云ハズサルモ

ノハ教唆罪ハ違背罪ニ適用セサルヲ以テナリ
今教唆罪ノ成立スルニハ如何ナルモノヲ要スルヤヲ研究ス可シ

第一 決意セシムルヲ

第二 決行スルヲ

第三 教唆外ニ出テサルヲ

第四 教唆アリタルヲ

以上ノ如ク被教唆者ノ決心ハ全ク教唆ノ爲メナラサル可ラズ若シ教唆ニ依ラズシテ之ヲ決意セシモノナレバ自ラ決心シタルモノニテ教唆罪ノ成立ヲ妨害スルモノナリトシテトモトモト雖モ被教唆者ニ於テ之ヲ決行セサルトキハ犯罪ノ成立ス可キナキヲ以テ之又教唆罪ノ成立セサルモノトス況ンヤ教唆外ノヲ行フタルモノハ教唆者ノ預リ知ラサル所ニシテ争テカ之ヲ罰スルヲ得ンヤ第四教唆アリタルコトハ政テ必要ニアラサルカ如シト雖モ其被教唆者ニ於テ獨リ自ラ教唆アリタルモノト思ヒ誤認シテ罪ヲ犯セシキノ如キハ教唆者ノ知ラサル所ナリ故ニ教唆アリタルヤ否ヤハ深ク考察セサル可ラサルナリ

第六六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正犯從犯及ヒ教唆者ニ及ホスヲ得ス

本條ハ正犯ノ身分ニ因テ別ニ刑ヲ加重ス可キハ他ノ正犯及ビ從犯ニ其加重ヲ及ホスヲ能ハサルモノトス實ニ犯罪ニ依テ加重スルモノニアラズシテ身分ノ如何ニツイテ加重スルモノナレバ其身分ナ有スルモノ一人ニ止マルハ理ノ最モ親易キ所ナリトス身分ニ依テ加重スルトハ如何ナルモノヲ云フカ官吏ノ職務上ニ對スル罪子孫ノ祖父母父母ニ對スル罪ノ如キハ身分ニ依テ加重セラルモノトス

夫レ然リ而シテ減輕ノヲ云ハサルモノハ如何ナル理由アルニヨレルモノナルカ若シ減輕ハ之ヲ他ノ正犯及ビ從犯ニ及ホスヲ得ルモノトスルハ奇怪ノ結果ヲ生出スルニ至ラントスタトヘバ正犯中滿才ニ滿タサルモノアリタランニハ減輕セラル可シ此時ニ當リ之ヲ他ノ正犯及ビ從犯ニ及ホスベキモノトスルハ教唆者ノ如キハ言ハレナクシテ減輕ヲ受クルニ至ラントス

其他加重ニ依テ之ヲ見ルモ又同一ノ結果アラントス若シ加重ヲシテ及ホスモノトスルハ子孫ニアラサルモノト雖モ加重セラルトニ至ラントス故ニ加重及ビ減輕ハ之ヲ他ノ正犯及ビ從犯ニハ及ホス可ラサルモノトス然ルニ加重ノミナ記載シテ減輕ヲ記載セサルモノハ抑モ如何ナル理由ニ出テシモノナルカ之ヲ知ルニ由ナシト雖モ思フニ立法者ノ遺脱ニ出テシモノニハアラサルカ然ラサレバ立法者ノ殊更ニ之ヲ除キタル理ヲ發見スルヲ能ハサレバナ

第七七條 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スヲ得ス

多數ニ依テ刑ヲ加重ス可キ場合ハ刑法第三百六十九條第三百七十九條第四百十五條等ノ如キモノニシテ多數ニ依テ加重ス可キノ理由アルニヨレルモノナリ凡ソ多數ニテ爲ス時ハ之ヲ遂クルニ易ク又防禦スルニ於テモ大ニカアルモノナリ言ヲ換ヘテ之ヲ述ブレバ犯罪ヲ遂クルヲハ初メヨリ十分期シタルモノナリ故ニ社會ノ害モ甚シク被害者ニ於テハ又到底之ヲ防止スルヲ能ハサルノ理由アルニヨルモノナリ夫レ然リ而シテ本條ヲ願ミルニ教唆者ノ如キハ犯所ニ至ラズ故ニ下手セズ他ニ在テ決行ヲ待ツノミナレバ犯所ニ多數ノモノナルカルベシ前已ニ説明セシカ如ク教唆者ハ智識犯ニシテ被教唆者ハ林犯ニ立ツ所ノモノナレ

ハ之ヲ多數ニ加フルノ理由ナキモノナリ各犯刑ノ適用ニ至テハ正犯ヲ以テ論セラルトモノナリ

第百八條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教唆者ノ指示シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ處斷ス
一所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止ダ其指定シタル罪ニ從テ刑ヲ科ス
二所犯教唆シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑ヲ科ス

本條ハ教唆意外ノヲ行ハタル罪又ハ教唆シタル事ヨリ殊ナル所ヲ行ヒタル罪教唆者ヲ罰スル程度ノ異ナル所ヲ示シタルモノトス洵ニ教唆罪ナシテ完全ナラシメンニハ教唆シタル下ヲ行ヒ以テ之ニ應セサル可ラサルモノナレバ教唆罪ノ成立ハ最モ多カラサルモノト云ハサル可ラサルナリ

第一項 教唆シタル罪ヨリ重キ罪ヲ犯シタルハ其重キ罪ハ教唆者ノ知ラサル所ナルヲ以テ之ヲ教唆者ニ責ムルト能ハズ故ニ只ハ教唆シタル刑ノミヲ科ス可キモノトス但トハハ竊盜ヲ教唆シタルニ強盜ヲ行ヒタルカ如キハ只ハ竊盜ノ刑ヲ教唆者ニ科ス可キノミ
第三項 教唆シタル刑ヨリ重キ罪ヲ犯シタルハ實際爲シタル所ニ依テ處斷スベキモノトス但トハハ強盜ヲ教唆シタルニ竊盜ヲ行ヒタル場合ノ如キハ竊盜罪ヲ以テ教唆者ヲ罰ス可キモノトス

右ノ如キハ實ニ適理ノ法文ニシテ實益ヲ以テ主義トナセシモノナリ如設ヒ強盜ヲ教唆シタルニモセヨ之ヲ決行セサルハ教唆罪ハ成立セサルカ如シ然レモ爲ニ竊盜ヲ行ヒタルモノ

ナレバ實害ノ生シタル竊盜ヲ以テ處斷セサル可ラズ強盜ハ強盜ノ教唆アルヲ以テ行ヒシモノナレバ原因ハ依然トシテ教唆ノ範圍ヲ離レサルナリ

第二節 從犯

從犯トハ正犯ニ反對スルノ文字ニシテ正犯ノ影響ト云フモ致テ失當ニアラサルナリ從犯ハ正犯ニ依テ生死ヲ共ニスルモノナリ然レモ前已ニ論スルカ如ク身分ニ依テ刑ヲ加減ス可キモノアルハ從犯ハ之ヲ共ニスルト能ハズシテ正犯ノ刑ト分離セサル可ラズ從犯ハ犯罪ヲ容易ナラシムルヲ以テ成立スルモノニシテ執行後ニモ又從アルト云ヘリ然レモ余ノ見ヲ以テスルハ正犯ト云ヒ從犯ト云フハ犯罪以前犯罪ニ至ルマテノ名稱ニシテ實行シ了リタル後ハ之ニ付テ從犯ノアル可キモノナシト信シテ疑ナサルモノナリ世人動モスレバ贓物ノ授受犯人藏匿ヲ以テ實行後ノ從犯ト云フモノアリ誤見ト云フ可キノミ之等ノ犯罪ハ一個單獨ノ犯罪ニシテ從犯ヲ以テ名ス可キモノニアラズ故ニ又正犯ヨリ減等スル法律ノ適用アルコトナシ

第百九條 重罪輕罪ヲ犯スヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ其他預備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止タ其知ル所ノ罪ニ照シ一等ヲ減ス

從犯トハ重罪及ビ輕罪ヲ犯スヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ人ヲ誘ヒ出シ或ハ何人ハ何レニ居ル又ハ金額ハ何レニ在リ之ヨリ闖入ス可シト云フカ如ク犯罪實行ノ方法ヲ與ヘ其犯罪ヲ容易ク遂グシムルモノヲ云フ故ニ之ヲ從犯トナシテ正犯ヨリ一等ヲ減シテ所罰ス可キモノトス何トナレバ若シ之等ノ誘導指示又ハ器具ナキハ犯者ハ爲ニ犯罪中止ノ念

ヲ起シタルヤモ知ル可ラサレバナリ
現ニ行フ所云々トヘバ窃盜ノ爲ニ要スルモノト信シテ階子ヲ給與シタルニ豈測ラシヤ放
火ノ用ニ供シタル場合ノ如シ

コノ場合ニ於テハ犯者ハ只ダ窃盜罪ノ從犯トナス可キモノトス

第百十條 身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ル時ハ其重キニ從
テ一等ヲ減ス

正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖正從犯ノ刑ハ其輕キニ從
テ免スルコトヲ得ス

身分ニ依テ加重ス可キモノ從犯トナルハ加重シタルモノヲ以テ本刑トナシ其刑ヨ
リ一等ヲ減スルモノトス

第二項ハ正犯ノ身分ニ依テ減免スト雖正從犯ニ之ヲ及ホストヲ得サルモノトスタトヘバ滿
才ニ至ラサルモノト犯罪ハ減輕スト雖正之ヲ他ノ從犯ニ及ホストヲ得ザル幣ヲ偽造シ未ダ
行使セサル前ニ自首スルハ本刑ヲ免セラル可シト雖正之ヲ他ノ自首セサル從犯ニ及ホス
ト能ハサルカ如キモノヲ云フ

第九章 未遂犯罪

未遂犯ハ既遂犯ノ反對ニシテ最モ注意セサル可ラズ既未遂ノ分ル所ハ刑ハ輕重ニ
於テ徑庭スル所鮮抄ナラサル可キヲ以テナリ

未遂犯ヲ罰スルハ重罪及ビ輕罪ニ限ルモノニシテ濫懲罪ニハ之ヲ罰セサルモノトス何トナ
レバ濫懲罪ノ如キ輕微ノ未遂犯ニ於テハ之ヲ罰スルノ必要ナキヲ以テナリ然リ而シテ輕罪ノ
如キモ悉ク之ヲ罰ス可キモノニアラズシテ各條中未遂犯ヲ罰スルノ明文アルモノニアラサ

レバ決シテ之ヲ罰ス可キモノニアラサルナリ

未遂犯トハ未ダ其目的ヲ達セサルモノニテ從テ社會ヲ害スルコト少ク又被害ノ点ニ於テモ缺
失スル所アルモノトス今之ヲ詳論スルハ數十片紙ノ能クスル所ニアラサルヲ以テ茲ニ大
略ヲ適記スベシ

未遂犯トハ犯罪着手以上ニ涉ルモノニシテ之ヲ分テ三種ト爲ス

第一 好意中止

第二 意外ノ障礙

第三 意外ノ舛錯

以上ノ如ク區別シ來ルハ甚ダ解シ易キカ如シト雖正又不能犯ナルモノアリテ未遂ト甚ダ
相似タルモノナリコノ未遂犯罪ト不能犯トノ區別ハ後ニ至テ之ヲ説明シ今第一ヨリ第三ニ
至ル理由ヲ詳述ス可キナリ

好意中止トハ犯人ノ意思ニ依テ犯罪ヲ中止スルモノニテ其所爲タル全ク決心ニ止マリ外形
ニ發露セサル者ナリ如設ヘバ人ヲ殺サント欲シテ刀劍ヲ購求セシモ恐怖ノ爲メ或ハ悔悟ノ
爲ニ之ヲ中止シタルカ如キモノ是ナリ此等好意ノ中止ノ如キハ外形ノ着手ナク且ツ預備ニ
止マルモノナルヲ以テ之ヲ罰スルノ必要ナキモノナリ管ニ罰スルノ必要ナキノミナラズ若
シ之ヲシモ罰スルモノトスルハ人ヲシテ強テ犯罪ヲ遂ゲシメ中止スルモノナキニ至ル何
トナレバ一度ビ決心スル以上ハ中止スルモ罰セラレ悔悟之ヲ隱スルモ罰セラルモノトス
ルハ到底犯罪者タルヲ免レサルヲ以テ遂ニ之ヲ決行スルニ至ル故ニ之等好意中止ハ之ヲ
罰セサルモノトス法律ハ人ノ内心ヲ罰スルモノニアラズシテ有形上ノ實害ヲ生シタルハ之
ヲ罰スルモノナレバ決心中ニ在テ止マルモノナレハ未ダ以テ何等ノ害ヲモ發出セサルヲ以

テナリ
 意外ノ障礙トハ前中止ノ場合ト異ニシテ十分目的ヲ達セントスルモノナリ然レモ他人ノ來
 ア之ヲ支フルカ又ハ他物ノ爲ニ之ヲ達クルト能ハサルモノヲ云フ如設ヘバ人ヲ殺サントシ
 テ刀ヲ捧ゲ將ニ之ヲ下サントスルニ際シ他人ノ來テ之ヲ支ヘ爲ニ其目的ヲ達セサルカ如キ
 全ク自己ノ好意ニアラズシテ他人ノ爲ニ達セサルモノヲ云フ
 舛錯トハ犯人他人ノ爲ニ支エラレタルニアラズ自ラ中止シタルニモアラズ其所爲ハ全ク終
 了シタルレ其目的ヲ達セサルモノヲ云フタトヘバ人ヲ殺サント欲シテ銃ヲ放チシモ銃丸人
 ニ中ラサルカ如キ又ハ毒殺セント欲シテ毒藥ヲ飲マシメタルモ其入毒藥タルトチ知テ消毒
 藥ヲ飲ミタルカ如キモノニシテ犯者已ニ其事ヲ行ヒ終リシト雖モ全ク意外ノ舛錯ニ依テ其
 事ヲ遂ケサルモノヲ云フ此等ノ所爲ヲ考フルニ決心シテ其所爲ヲ行フタルモノナレハ道德
 ニ背キ又社會ノ其危險ニ感セリ故ニ之等ノ犯罪ハ道德ヨリ見ルモ社會ノ危懼ヨリ考フルモ
 十分惡念ヲ行ヒシモノナレバ之ヲ既遂犯トシテ論スルモ決シテ不可ナキモノト如シ思フニ
 舛錯ヲ以テ目的ヲ達セサルモノヲシテ未遂犯中ニ列セシモノハ社會ノ實害ヨリ生セシ所ニ
 シテ刑ノ本質ニ適スルモノト謂フ可シ犯者ノ行爲ハ已ニ道德ニ背キ幾分ノ危險ノ社會ニ與
 ヘタルモノナリト雖モ未ダ以テ人ヲ殺サズ目的ヲ達セサルモノナレバ既遂ト同ジク論ス可
 ラサルヤ明カナリ凡ソ犯罪ハ第一預謀第二預備第三決行ノ條件ナクンバ未ダ論スルニ既遂
 ナテテス可ラサルコトハ余ノ暇々待タサル所ナリト今コノ舛錯ノ場合ニ於テ考フルトハ
 預謀アリ預備アリ決行アリト雖モ其事柄ノ達セサルモノナレバ其所爲ハ無効ニシテ犯罪ノ
 構成ヲ全クナラシメサルモノトス凡ソ犯罪トシテ罰スルハ必ズ實害ノ生ス可キモノヲ要
 ス若シ其害ノ生セサルハ其生セサル害ハ何物ヨリ來ルモノナルコトヲ論セズ既遂ヨリ減

等セサル可ラズコト場合ハ所謂無効犯ト云ヘルモノ之ナリ
 世ノ學者未遂犯ヲ解シテ着手未遂ト着手既遂ト二者ニ分テリ着手未遂トハ障礙ニ依テ遂ケ
 サル場合ニシテ未ダ犯罪者ニ接セズ正ニ着手セントシテ他人ノ爲ニ支エラレタルモノト
 云フ然レバ則チ若シコノ障礙ニ遇フ所ナクンバ其目的ヲ達セシヤ未ダ期ス可ラズ故チ以テ
 着手未遂中ト雖モ猶ホ之ヲ論スルモノトセリ着手既遂トハ舛錯ノ場合ニシテ執行ノ後ニ係
 ルモノ之ナリ銃ヲ放チテ犯者其決心ヲ行ヒシモ其銃ハ命中セサリシガ如キ又毒藥ヲ與ヘシ
 モ偶々消毒藥ノ半ニ中毒セサリシト如キハ犯罪執行後ト雖モ無効犯ナルノ故チ以テ之ヲ
 未遂犯ト爲シテ論スルモノトス夫レ然リ而シテ未遂犯ト區別ス可キ不能犯ナルモノアリ
 相似タルモノト前已ニ云ヒシモノ即チ是ナリ
 不能犯トハ到底目的ヲ達シ得可ラサルモノニシテ法律上此種ノ犯罪ハ之ヲ論セサルモノト
 ス如設ヘバ木石ヲ人ト誤認シテ發銃シタルカ如キ又ハ屍ニ刀劍ヲ加ヘタルカ如キ毒藥ト誤
 認シテ水ヲ飲マシメタルカ如キモノ是ナリ第一ノ所爲ハ目的物ノ誤認ニ依テ犯罪ヲ遂ケズ
 第二ノモノモ又然リ如設ヘバ人ヲ銃殺セントシテ發銃シタルニ其距離遠クシテ其人ニ達セ
 サル場合ノ如キハ前者ト異ニシテ目的ハ人ニテ犯罪ヲ遂ケ得サルモノニアラズト雖モ銃丸
 ノ達セサルモノナレバ如何ニ之ヲ救回スルモ到底遂ケサルモノニテ此種ノモノハ犯罪ノ方
 法到底罪ヲ遂クルト能ハサルモノナリ
 前第一目的物ノ爲ニ遂ケ可ラサルモノヲ絕對的ノ不能犯ト云ヒ犯罪方法ニ依レルモノヲ相
 對的ノ不能犯ト云フ此場合ニ於テ法律上罪トシ論セサルモノハ到底罪ヲ犯シ能フ可キニア
 ラサルチ以テナリ芙蓉峰ヲ盜セントシ泰山ヲ挾ンテ北海ヲ越エルノ謂ト一般爲シ能フ可
 キモノニアラサルナリ

第十一條 罪ヲ犯サンコト謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハザル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス

註 罪ヲ犯サンコト謀リ之ヲ預備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハザル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス以テ社會ニ害ナク決心ニ止マルモノナルヲ以テ之ヲ罪トシ論セザルナリ然レモ法律上別ニ預備ヲ罰スル正條アルモノハ如設ヒ預備ニ止マルモノト雖モ之ヲ本罪トシテ論ス可キモノトス其他重罪未遂犯中ニ於テ第百十六條皇室ニ對スル罪ノ如キハ本刑ヲ科シ未遂犯ヲ以テ之ヲ論セザルモノナリ

預備ヲ罰スルモノハ第百二十五條ノ内亂ノ場合ニ於テハ之ヲ本罪トシテ預備ヲ罰スルモノトス蓋シ之等ノ犯罪ハ既遂ノ場合ニ於テハ之ヲ罰スルニ由ナク從テ豫備ヲ例外トナスモノナリ況ンヤ其第二項ノ如キハ預備前ノ決心ヲ罰スルモノト定ム思フニ此等ノ罪ハ一國政府ノ秩序ヲ亂シ公衆ノ安寧ヲ害スルノ重大ナルヲ以テ之ヲ別罪トナセシモノナリ其他第百三十三條ノ如キモ均シク預備ヲ罰スルモノトス

第十二條 罪ヲ犯サンコトシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意外ノ障礙若クハ舛錯ニ因リ未タ遂ケサル時ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

註 本條ハ未遂犯ノ場合ヲ規定シタルモノニテ前已ニ論究シタルモノ是ナリ凡ソ未遂犯ノ如キハ内心ノ決意及ビ之ヲ執行シタル場合ニ至テハ其道徳ニ戻ルコト敢テ輕シトナサズ故ニ此ノ点ヨリ論スル別ニ減等ヲ用ユルコトヲ爲サズシテ本刑ヲ科スルモノ不可ナキカ如シト雖モ社會ノ刑罰權ヲ行フ以所ノモノハ害ヲ受クルヲ以テ之ヲ罰スルモノナリ即チ背德加害アルヲ以テ之ヲ罰スルモノナリ然レモ未遂犯ノ如キハ其結果未ダ以テ人ヲ殺サズ害ノ

外形ニ顯ハルモノナキヲ以テ之ヲ罰セザルナリ

意外ノ障礙ニ依テ遂ケサルモノト着手未遂ノモノニシテ犯罪執行ノ前ニ在ルモノ意外ノ舛錯ハ着手既遂ノモノニシテ執行後ニ係ルモノトス無効犯及ビ不能犯ノ場合ヲ詳論セント欲スレドモ紙數限リアルヲ以テ今之ヲ略ス

第十三條 犯罪ヲ犯サンコトシテ未タ遂ケサル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

輕罪ヲ犯サンコトシテ未タ遂ゲサル者ハ本條別ニ記載スルニ非ザレバ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス

違警罪ヲ犯サンコトシテ未タ遂ゲサル者ハ其罪ヲ論セス

註 未遂ハ之ヲ一般ニ及ホス可キモノニアラズシテ之ヲ論スルモノアリ論セザルモノアリ重罪犯ニハ悉ク未遂犯ヲ以テ論ス可シト雖モ輕罪ニ至テハ則チ然ラズ各條記載シテ未遂ヲ論スルコトヲ規定シタルニ非レバ之ヲ論セザルモノトス

違警罪ノ如キハ其罪最モ輕クシテ道徳ニ背クノ点至テ少キモノナリ故ニ此種ノ犯罪ニハ別ニ未遂減等ノ方法ヲ設ケズシテ未遂犯ハ凡テ之ヲ論セザルモノトス

凡ソ未遂犯タルニハ着手前ノモノト着手後ニ係ル者アリト雖モ要スルニ犯罪ト直接ニ相對持スルニアラサレバ不可ナリ如設ヘバ人ヲ殺サンコトシテ潜伏シタルカ如キハ未ダ犯罪着手ニ時間ヲ要シ其人ノ果シテ通行スルヤ否知ル可ラサルモノナレバ劇ニ未遂犯ヲ以テ名ス可ラサルナリ如此ハ只ダ預備中ニ止マルモノニシテ別ニ預備ヲ罰スル犯罪ニ非ルヨリハ決シテ論ス可キモノニアラズ犯罪ヲ成構スルニハ前條ニ說明シタルカ如ク左ノ要件ナカル可ラズ

- 第一 預謀
- 第二 預備
- 第三 着手
- 第四 實行

然リ而シテ未遂犯ハ實ニ其第三番ニ至テ着手前トナリ着手後ト區別ヲ生スルモノトス預謀ニ依テ決心シ預備ニ依テ決心ヲ活用シ場所ヲ選ミ器具ヲ要メ或ハ人ヲ道ニ待ツ等着手ノ場合ヲ要望スルモノナリ預備已ニ定ル即チ犯罪着手ニ接スルモノニシテ即チ未遂既遂ノ分ル、時ト云ハサル可ラサルナリ

故ニ人ヲ殺サントスルモノハ刀ヲ携ヘテ其人ニ尾シ方ニ加ントスルカ如キモノヲ云フ然レバ即チ未遂犯ノ場合タランニハ犯罪ニ直接シタル場合ヲ想像セサル可ラズ苟モ犯罪ヲ遂クルニ他ノ物ノ其間ニ介入スルカ如キハ未ダ以テ未遂ニアラズシテ或ハ預備ニ止マルモノト云ハサル可ラズ窃盜ヲ爲サントシテ人家ニ忍入り財物ノ在ル所ヲ搜索中捕獲セラレタルモノ、如キハ如何ニ之ヲ處分スベキヤ其犯者ノ目的金錢ニ在ルモノニシテ他物ニ在ラズ爲ニ金箱ノ搜索中ニ在リシハ未ダ未遂犯ニアラズシテ預備ニ止マルモノト云ハサル可ラズ何トナレバ其金箱ノ果シテ在ルヤ否且ツ搜索中恐怖ノ念ヲ發シテ自ラ中止スルヤ否未ダ以テ知ル可ラズ金箱ノ在ル所ニ達シテ已ニ之ヲ携ヘントシタルニアラザレバ窃盜未遂ヲ以テ論ス可ラズ目的ヲ達セントスルマテニハ介入スル所アルベキヲ以テナリ之ヲ要スルニ未遂犯タルニハ直ニ犯罪ヲ遂クル点ニ達シタルモノナルヲ知得セザル可ラサルナリ

第十章 親屬例

本章凡テ二條親屬例規則ヲ定ム

刑法中親屬ノ事ヲ掲グルハ第三百二十八條第三百四十四條第三百五十條第三百六十一條ノ數條ナリ本章ハ其親屬ノ區域ヲ定メタルナリ

第一百四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ云フ

- 一 祖父母父母夫妻
- 二 子孫及ヒ其配偶者
- 三 兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 四 兄弟姊妹ノ子及ヒ其配偶者
- 五 父母ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 六 父母兄弟姊妹ノ子
- 七 配偶者ノ祖父母
- 八 配偶者ノ兄弟姊妹及ヒ其配偶者
- 九 配偶者ノ兄弟姊妹ノ子
- 十 配偶者ノ父母ノ兄弟姊妹

釋義 本條ハ此刑法ニ於テ親屬ト稱スル者ノ何タルヲ定ム

舊法五等親ニハ妾ヲ以テ親屬ノ中ニ加ヘタリシカ此刑法ニハ妾ヲ廢ス立法者大ニ審議討論シテ之ヲ廢スルニ至リシト云フ是レ實ニ其當ヲ得タルモノナリト云フヘシ夫レ妾ハ固ヨリ親屬ノ中ニ入ルヘキモノニ非ス只是レ一種特別ノ者ナリ

第一百五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾玄孫外孫同シ兄弟姊妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姊妹同シ

養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

本條ハ前條又ハ各本條ニ祖父母父母子孫兄弟姉妹ト掲クル者ハ唯々其レノミチ旨フニ非ス其中ニ包括スル者アルヲ示スナリ

祖父母ト稱スルハ高祖父母曾祖父母マテテ包括シ父母ト稱スルハ繼父母嫡父母ヲ包括ス嫡母ニハ正妻ノ産ム所ニ非サル者ヨリ正妻ヲ指スノ稱ナリ又子孫ト稱スル者ハ庶子庶孫曾孫支孫外孫ヲ包含ス庶子トハ正妻ノ産ム所ニ非サルモノヲ正妻ヨリ指スノ謂ヒナリ又兄弟姉妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姉妹マテテ包括スルモノナリ

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

本編凡テ九章公益ニ關スル重罪輕罪ヲ定ム

第一章ハ皇室ニ對スル罪ヲ定メ第二章ハ國事ニ關スル罪ヲ定メ第三章ハ靜謐ニ關スル罪ヲ定メ第四章ハ信用ヲ害スル罪ヲ定メ第五章ハ健康ヲ害スル罪ヲ定メ第六章ハ風俗ヲ害スル罪ヲ定メ第七章ハ死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪ヲ定メ第八章ハ商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪ヲ定メ第九章ハ官吏濫職ノ罪ヲ定ム

第一章 皇室ニ對スル罪

本條凡テ五條皇室ニ對スル罪ヲ定ム

皇室トハ天皇ノ室家ノ義ニシテ天皇三后皇太子及ヒ皇族ニ對スル事ナリ吾カ刑法ハ皇室ニ對スル罪ノ爲メ特ニ一章ヲ設ケ全ク之ヲ國事犯ト分テリ是レ國事ニ關スル罪ト皇室ニ對スル罪トハ其性質異ナレハナリ國事ニ關スル罪トハ其目的タル政府ヲ顛覆シ邦土ヲ濫奪シ朝

憲ヲ紊亂スルニ在リ

第一百十六條 天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

天皇トハ今上帝太上帝三皇トハ太皇太后皇后皇太子トハ帝位ヲ踐マセラルヘキ皇嗣危害トハ其身体ニ對スル罪ヲ犯ス者ヲ云フ皆ナ之ヲ死刑ニ處スルナリ

第一百十七條 天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

皇陵ニ對シ不敬ノ所爲アル者亦同シ

本條ハ天皇三后皇太子ニ對スル不敬ノ罪ヲ定ム

不敬ノ罪トハ尊敬ヲ失スル所爲ヲ謂フ御前ニ係ルト否トナ間ハス謗誹毀等一切不敬ノ所爲ヲ云フ所謂ル危害ノ稱ト同ク其包含スル所極メテ廣ク凡テ尽スヘキノ敬禮ヲ闕キタル者ハ皆ナ本條ニ依テ處斷ス

第二項皇陵トハ天皇三后皇太子ノ墳墓ヲ包括スルモノニテ皇陵ニ對スル不敬トハ發掘汚穢毀損スル等ヲ云フナリ

第一百十八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

本條ハ皇族ノ身体ニ對スル罪ヲ定ム

皇族トハ皇子皇女皇孫及ヒ皇太子ノ妃其他皇族ノ貴號ヲ帶フル天皇ノ御一族ナリ本條ニ於テ危害ヲ加ヘタル者ト之ヲ加ヘントシタル者トノ刑ヲ異ニシタルハ少シク其意ノ解セサル所アリ何トナレハ身体ニ對スル罪中最モ重キ者ノ未遂犯ト最モ輕キ者ノ既遂犯トヲ比照セ

ハ輕キ罪ノ既遂犯ノ方其罪惡輕シトセサルヘカラス然ルニ其刑ニ至テハ輕キ罪ノ方却テ重ク全ク其順序ヲ失セルヲ表明スレハナリ

第百十九條 皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ皇族ニ對スル不敬ノ罪ヲ定ム

皇族トハ前條ニ列記セル如シ皇族ニ對スルノ不敬ハ天皇三后皇太子ニ對スルノ不敬トハ大ニ其罪輕シ故ニ本條ニ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加スト定メタリ

第百二十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

本條ハ此章ニ定メタル罪ヲ犯シタル者ハ輕罪ノ刑ニ處スルトキト雖モ仍ホ監視ニ付スル旨ヲ定ム

總則ニ依ルニ重罪ノ刑ニハ必ス監視ヲ附加シ輕罪ノ刑ニハ本條別ニ記載アルニ非サレハ之ヲ附加セス今皇室ニ對スル罪ハ其世安ヲ害スル尤モ太甚シ且ツ今日ノ文明ニ進歩シ此ノ如キ犯人アツテハ外國ニ對シテモ君子國ノ美稱其實ヲ空シクシ實ニ愧ヅヘキノ事ナレハ決シテ有ル可キト無シト信ス若シ之レアルハ可成重罪ニ處スヘキハ尊敬ヲ重ニスルノ致ス所ナリ故ニ其罪輕罪ノ刑ニ該當スル場合ト雖モ仍ホ犯人ヲ六月以上二年以下ノ監視ニ付シ以テ其犯者ヲ懲悔セシメ再犯ヲ豫防セサルヘカラス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ

第二章 國事ニ關スル罪

本章ヲ分テ二節トス曰ク内亂ニ關スル罪曰ク外患ニ關スル罪是レナリ此罪ハ直接ニ

ニ社會ヲ害スル所ノ犯罪ニシテ所謂國事犯ナリ第百二十一條ヨリ第百三十五條ニ至リ總テ十五條ナリ然レ此十五條ニ於テ國事犯ヲテ尽シタルニ非ス只其記載スル所ノ罪國事犯ナルヲ以テ本章ノ表題ニ國事ニ關スル罪ト題シタル者ノミ而シテ其揭クル所ノ國事犯ハ社會ノ組織ヲ變更セントスル所ノ犯罪ナリ即チ政体ヲ變更シ或ハ施政ノ方向ヲ改メ或ハ人民參政ノ權利ヲ與ヘント企圖スルモノトミナリトス

第一節 内亂ニ關スル罪

内亂トハ内國ヲ亂スノ謂ヒニシテ假令ヒ暴擧ヲ爲ス者アルモ爲メニ内國亂ルハニ非サレハ内亂ヲ起シタル者ト謂フ可カラスト爲スハ非ナリ本節ニ所謂内亂トハ或ハ一國組織ノ方法ニ不滿ヲ抱キ或ハ施政ノ方向時勢ニ適セサルヲ懽慨シ政府ニ抗敵シ兵ヲ擧ケ謀ヲ設ケテ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他政体ヲ變シ施政ノ方向ヲ轉スルヲ目的トナシ兵ヲ擧ゲ又ハ擧ゲント企ツル者ハ未ダ之ヲ遂ゲスシテ實際内國ヲ亂ルニ足ルニ至ラサルモ尙ホ内亂ヲ起シタルモノトス又之ニ反シ以上ノ目的ヲ以テ劫ヲ起シタルモ其爲ス所内國ヲ亂ルノ目的ヲ以テシタルニ非レハ此法律ヲ以テ罰ス可カラス然ルニ本節ニ記載スル各條項ハ皆ナ兵ヲ擧ケテ内國戰亂ヲ起スノ所爲ヲ視認メタル者ニシテ其他ノ方法ヲ企テタル場合ヲ指スニ非ルヤ明カナリ

第百二十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スル

一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス

二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流刑ニ處ス

三 其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス

三兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁獄ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁獄ニ處ス
四教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

内亂トハ即チ内國戰爭ノ手段ニ依リ政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭窃スルカ如キノ所爲ヲ謂フト雖モ之ガ既遂未遂ヲ判別セハ犯人其目的ヲ達スルヲ以テ既遂トセズ未タ其目的ヲ達セスト雖モ目的ヲ達スルノ手段ヲ施シ内亂ヲ起シタル時ヲ以テ既遂罪ト爲ス是レ常事犯ト異ナル所ナリ故ニ第二百二十四條ニ於テ前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ本刑ヲ科ストアルハ内亂ノ罪ハ未タ其目的ヲ達ケサル時ニ於テ尙ホ本刑ヲ科ストノ意ニアラスシテ未タ内亂ヲ送ケサル時ニ於テ尙ホ本刑ヲ科スト云フノ意ナリ

第一項政府ヲ顛覆スルトハ現今ノ政府政治ノ方針ヲ誤ルト云ヒ或ハ常路官吏ガ壓制ヲ施スト謂ヒ滿腔ノ憂情已ク能ハサルヨリ政府ヲ覆シ更ニ新政府ヲ立テ或ハ政体ヲ變更セントスルノ類ヲ云フナリ邦土ヲ僭窃スルトハ一地方ヲ押領シ我國ノ政令法度ヲ遵依セス自ラ政体ヲ立ツルノ類ヲ云フ朝廷ヲ紊亂ストハ我朝廷ノ憲法制度ヲ紊亂シテ變更セントスル者ノ如キヲ謂フ

右諸件ノ罪ヲ犯サントスル者ハ尋常ノ手段ヲ以テ其目的ヲ達スルコト能ハサルカ故ニ必ス内國戰爭ヲシテ始メテ此目的ヲ達スルヲ以テ國事ニ關スル罪ト爲ス所以ナリ其他天下ヲ騷擾セントスルノ目的ヨリ兇徒ヲ聚衆シ内國ニ横行シ火ヲ放チ人ヲ殺スカ如キ暴動ノ所行ヲ爲シ内國ヲ亂リタリト雖モ未タ以テ内亂ノ罪ト爲ス可カラズ要スルニ本條ニ所謂内亂トハ兵力ヲ以テ直接ニ政府ニ對敵スル一種ノ性質アルモノヲ謂フナリ

以上内亂ヲ起シタル者ハ如何ナル刑ヲ科スルヤハ左ニ掲クル區別ニ從ヒ數人共犯ノ例ニ從ハス是レ内亂ノ罪ハ各犯必其罪科ヲ異數ニシテ人共犯ノ例ニ依ル能ハサル所以ナリ

一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス首魁トハ暴舉ヲ起スニ際リ自ラ首唱者トナリテ多衆ヲ嘯集シ之ヲ統一シタル巨魁ヲ云フ教唆者トハ其區別ニアリハ確實ニ一定ノ所爲ヲ教唆シタル者ニシテ實行者ト其運命ヲ共ニスル者アリハ先導者トモ云フ可キ者ニシテ確實ニ一定ノ人ニ對シテ一定ノ所爲ヲ教唆シタル者ヲ云フニ非ス種々ノ方法ヲ以テ政府ニ抗敵シ兵ヲ舉ルコトヲ煽動シ遂ニ事ヲ起サシメタル者ヲ云フ是レ本條ノ所謂教唆者ナリ此罪ヲ以テ死刑ニ處スルハ本條ノ罪ヲ起スノ根源タレハナリ

第二項本項ハ首魁又ハ教唆者ニ比スレハ其情輕キモノニシテ有期流刑ニ處ストアリ何トナレハ本項ニ掲クル罪ヲ犯シタル者ハ或ハ會計ヲ掌リ其他計畫ノ謀議ニ參與シタル者ヲ云フ而シテ彼ノ總則ノ酌量減輕トハ大ニ異ナル處アリ混同スヘカラス本項ハ則チ立法者ガ裁判官ヲシテ其情狀輕キト認メタルモノハ有期流刑ニ處ス可シト命シタルモノニシテ酌量減輕ノ如ク裁判官ガ擬律シテ減輕スルコトヲ得ルモノト同一ニ視做ス可カラズ

第三項是レ前項ヨリ輕キモノニシテ是等ハ或ハ金策ニ奔走シ又ハ器物ヲ造リ又ハ運轉ヲ爲シ内亂ヲ助ケタル者ナリ

第四項總テ兵ニ加ハリタル者ヲ云フ本項ニ教唆ニ乘シテ附和隨行ストアレトモ強迫セラレテ已ムテ得ス之ニ從ヒタル者ヲ謂フニ非ス自ラ好テ兵ニ加ハリタル者ヲ云フナリ

第二百二十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠シタル者ハ已ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑ニ同シ

本條ノ所爲ハ内亂ヲ起スノ豫備ニ止マリ内亂ノ一部ニ着手セシモノナリ故ニ立法者

ハ之ヲ國事犯ノ一罪トシテ前條ト同刑ニ處スルモノナリ

本條ニ於テ云フ所ノ兵器彈藥船金穀其他軍備ノ物品ヲ劫掠スルトハ國ニ於テ軍用ニ供スル爲メ準備スル所ノ兵器其他ノ物品ヲ劫掠スルヲ云ヒ通常民間ニ所有スル兵器金穀等ヲ劫掠シテ内亂ヲ起スノ用ニ供シタルノ場合ヲ云フニアラス然レハ本條ノ罪ヲ犯スヤ必ス軍事ノ用ニ供スル爲メ準備シタル所ノ兵器彈藥等ノ物件ヲ劫掠スルトナリ要スルニ在リ是レ本條ノ所爲ヲ以テ内亂ヲ起シタル者ト同刑ヲ科スル所ヨリ思考スルモ昭々タリ

第二百二十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル者ハ兵ヲ擧ルニ至ラスト雖内亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處ス

政府ヲ變亂スルトハ官吏ノ壓制傲慢ヲ憤リ民權ノ減縮ヲ痛嘆シ遂ニ政府ノ官吏ヲ殺害スルヲ云フ此罪ヲ犯ス者ハ兵ヲ擧ルニ至ラスト雖内亂ト同シク論スルモノナリ本條ノ人ヲ殺スト云フハ途上往來ノ人ヲ殺害シタルヲ謂フニ非ス必ス其目的ヲ達シ得ヘキ大臣參議ヲ謀殺シタルカ如キヲ云フ而シテ人ヲ殺シタル者ハ其目的ニ關セズ死刑ニ處スルノ原則ナルニ今茲ニ内亂ト同シク論ストアルハ裁判管轄ノ異ナルヲ第百二十四條ニ云フ未遂犯ノ時ニ於テ本刑ヲ科スルヲ及ヒ第百二十五條ニ從ヒ其預備陰謀ヲモ罰スルヲ是レナリ

教唆者及ヒ下手者ハ死刑ニ處ストアルハ其罪ノ性質ヲ論スレハ勿論ナレトモ通例ノ書法ニ依レハ何々ノ所爲アル者ハ死刑ニ處スト書スルナリ此二者ハ固ヨリ到底死刑ヲ免ル能ハサルモノナレトモ今此ニ教唆者及ヒ下手者ヲ死刑ニ處スト明記シタルハ特別ノ主旨アルカ如シ

第二百二十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ科ス

常事犯ナルハ未遂犯ノ者ハ之ヲ罰セサルアリ又少クモ一等ノ減等ヲ受クルモノナ

ルニ前三條ノ場合ニ於テハ未遂犯ノ時尙ホ本刑ヲ科ス是レ其罪タル實ニ重大ニシテ國家安危ノ關スル所ナレハナリ

本條ニ云フ所ノ未遂トハ内亂ヲ起スノ目的ヨリシテ未遂ト云フニ非スシテ既ニ内亂ト名ク可キ所ノ事實現ハレタル所ノ未遂ヲ云フモノナリ而シテ此所爲タル其性質上ニ於テ既遂未遂ノ區別カ立タズモノナレハ此ニ未遂ノ時ニ於テ本刑ヲ科ストアルハ猶ホ其事ニ着手スルヤ直チニ本刑ヲ科スト云フノ意ナル可シ

第二百二十五條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂ノ豫備ヲ爲タル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス内亂ノ陰謀ヲ爲シ未ダ豫備ニ至ラザル者ハ各二等ヲ減ス

本條ハ第百二十一條ノ犯罪ノ準備陰謀ヲ罰スルノ條ニシテ内亂ヲ起スノ目的ヲ達スル爲メ兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備スルトハ預備中ノ最重大ナル者ヲ擧タルナリ而シテ此事若シ軍備ノ物品ヲ劫掠スルハ第百二十二條ヲ以テ其罪ヲ論スヘク若シ人民ノ財物ヲ強取掠奪スルニ係ルハ強盜犯ノ刑ニ比照シ重キニ從テ處斷スルナリ否ラサレハ若シ人民ノ財物ヲ強奪シタルモ一ニ本條ニ依リ其強奪ノ罪ハ別ニ問ハストセハ送ニ強奪スル爲メ人ヲ傷ケ或ハ死ニ致シタルモ之ヲ問ハサルニ至リ通常ノ強盜ヨリ其刑輕キニ至ラシ故ニ本條ノ罪ヲ犯サントシテ其手段ノ爲メ他ノ罪ヲ犯スハ常ニ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷スヘキナリ

以上内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ第百二十一條ノ例ニ照シ預備ニ係ルハ一等ヲ減シ陰謀ニ係ルハ二等ヲ減シテ罰ストアリ然レニ第百二十一條ノ場合ニ於テハ預備陰謀中ニ係ル事ハ附加隨行シタル者ハ勿論首魁、教唆者、群衆ノ指揮ヲ爲シタル者、等ノ區別ナシ

實際上大ニ刑ノ適用ニ苦ムモノハ尽ク首魁トシテ罰セサルヲ得サル如キトアリ

第二百二十六條 内亂ノ預備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未ダ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス

釋義 通常ノ場合ニ於テハ自首者ハ其刑一等ヲ減スルモノナルニ本條ニ於テハ之ヲ全免スル所以ハ内亂ノ如キハ社會ニ害ヲ加フルコト大ニシテ爲メニ國力ノ盛衰ニモ關スルニ至ル故ニ未ダ遂クサルニ際リ其決心ヲ自滅セシメント欲スル計策ヨリ犯者ヲ誘導スルニ自首全免ノ恩典ヲ以テシ内亂ヲ網羅セント欲スルニ在リ

本條免刑ノ上監視ニ付スルハ再犯ノ者ヲ防遏スルカ爲メニ之ヲ進退ヲ監視スルナリ而シテ本條ノ監視ハ重罪輕罪何レノ監視ナルヤハ明記ナシト雖モ蓋シ特別ノ監視ト見做サ、ルヲ得ス故ニ重罪輕罪ヲ犯スモ再犯ヲ以テ論ス可カラズ

第二百二十七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

釋義 内亂ヲ起ス者ハ他犯罪ト異ニシテ其計畫陰謀ヲ爲スニハ衆人相集テ其方法ヲ議セサルヲ得ス其黨スル所モ亦人目ヲ忌避スヘキナリ本條ノ犯者ニ集會所ヲ給與スルハ其犯罪ノ預備ヲ助クル者ニシテ之ヲ罰スルハ内亂ヲ犯ス者ヲ妨碍スルノ良法ナレハナリ是レ其集會所ヲケレハ之ヲ計畫衆議スル所ナキヲ以テナリ

第二百二十八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財産ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス

釋義 内亂ヲ起ス時ハ兵器彈丸ヲ弄シ人ノ身體財産ヲ傷フハ言ヲ俟タス其交戰ニ際シテハ

敵兵ヲ殺傷シ或ハ家屋ヲ燒毀スル等ハ内亂上免レサル所ナレハ別ニ之ヲ刑ヲ科セス然ルニ此内亂ヲ起シ勢ニ乘シテ二人ヲ殺シ財産ヲ奪フ等ノ内亂ニ關セサル罪ヲ犯シタルモノ、如キハ尋常ノ罪ヲ犯シタルモノニシテ決シテ内亂ノ罪ト性質ヲ同クスルモノニ非ルナリ故ニ是等ハ尋常ノ刑ニ從テ處斷セサル可ラサルハ勿論ナリ

第二節 外患ニ關スル罪

釋義 外患ニ關スル罪モ國事犯ナリトス國事犯トハ既ニ陳述シタルカ如ク我日本國々々依政體ノ組織ニ直接ニ害ヲ及ホスヲ云フ然ルニ外患ニ關スル罪ニ付論セハ自國ノ改良ヲ謀ラン爲メ外國ニ入り專ヲ起シ我邦ヲシテ外國ト事アラシメ其機ニ乘シ内治改良ヲ爲サントシ又單ニ同盟國カ他ノ國ニ凌侮セラルハ憤リ好意ヲ以テ弱國ヲ助ケント謀リタル如キ彼ノ明治十七八年ノ間ニ大井憲太郎等カ朝鮮ノ獨立ヲ謀リテ朝鮮ニ事ヲ起シ其機ニ乘シ内治改良ヲ謀リタルモ同シ又自國ニ對シテ怨ヲ抱クカ又ハ利ノ爲メニ自國ヲ忘ル、者ノ所爲ナリ而シテ本節ニ含蓄スル所ノ諸罪ニ其種類ニアリ一ハ外國ニ與シテ本國ニ對シテ戈ヲ倒ニスルモノト一ハ私ニ外國ト戰端ヲ開キ本國ニ禍ヲ蒙ラヌノ罪ナリ

第二百二十九條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戰中同盟國

ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

釋義 外國ニ與シテ本國ニ抗敵ストハ言論ヲ以テ本國ニ抗敵スルモノヲ云フニ非ス本條ハ一ニ兵力ニ依テ本國ニ抗敵スル場合ノミヲ云フナリ外國ニ與スルトハ外國ト與ニ日本國ニ敵スルノ意ニシテ其外國ニ對シテ主從ニ論ナク苟モ本國カ外國ト交戰中外國ヲ援ケテ本國ニ抗敵スル者ヲ以テ論ス又自ラ率先シテ本國ニ抗敵シ外國カヲ藉リタル者モ皆ナ本條ヲ以テ論スヘキモノナリ

外國ト交戦中同盟國ニ抗敵シトハ必シモ接戦中ヲ云フニアラス例ハ敵國ニ檄文ヲ送りタルカ又ハ其外國ヲ以テ敵トナスノ布告アリタルトキハ則チ交戦中ト稱スルヲ得ヘク又同盟國トハ通常平和ノ同盟條約國ヲ指シタルニ非ス交戦ニ關シテ其趣旨チ一ニシ敵チ同フスル同盟國ヲ云フ

本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者トハ苟モ本國ニ背キ敵兵ニ附和隨從シタル者ハ兵ヲ以テ對敵シタル者ト否トナ分タス本條中ニ包含ス附和トハ同意シテ事ヲ計畫スル者隨從トハ戰事ニ從ヒ指揮ヲ受ケ或ハ軍器ヲ製造シ雜役ニ供シタル者皆本條ヲ以テ論スヘキナリ然ルニ脅迫セラレテ敵兵ニ附和隨從シタル者ハ罪トシテ論スル所ニアラサルナリ

第三十條 交戦中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

第三十一條 本條以下ハ前條ト異ニシテ前條ノ如ク公然チ戈ヲ執リ本國ニ抗敵スルニ非スシテ陰ニ敵兵ヲ援ケテ本國ニ抗敵スル者ヲ云フ又本條ノ罪ハ單ニ日本人タルニ關セス内外人共ニ犯ストチ得ル所ニシテ之ヲ罰スルモ亦内外人ノ區別ナシ

交戦中トハ如何ナル場合ヲ云フカハ既ニ前二條ニ述ベタルガ如ク今又茲ニ贅セス倍テ其交戦中如何ナル所爲アル者ニ對シ本條ハ死刑ヲ科スルヲ論スレハ第一敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメタル者はレナリ敵兵ヲ誘導スルトハ自ラ先導シテ敵兵ヲ内地ニ導キ入レタル者ノミニアラス雪面若クハ口頭ニテ本國管内ニ入レタル者ヲモ指スナリ此敵兵ヲ誘導スルニ付テ本條ハ同盟國管内ニ入ラシメタル者ヲ罰スルノ明文ナキハ少シク其意解シ難シ第百三十一條ニ依レハ同盟國ノ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ヲモ之ヲ無期流刑ニ處セリ其趣

斷スル所了解シ難シ又ハ第二ニ本國及ヒ同盟國ノ都府城塞云々中都府城塞ニ付テハ必スシモ軍事ニ關スルヲ要セス而シテ軍事ニ關スル土地家屋物件トハ山川ノ要衝、家屋、金穀、船舶等荷モ軍用ニ供スル者ハ皆其中ニ包含スルナリ

第三十二條 本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス

敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者亦同シ

第三十三條 陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス

者交戦ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ處ス

陸海軍ヨリ物品ヲ供給シ又ハ工作ヲ爲スノ委任ヲ受タルトハ例ヘバ兵糧彈藥兵器等買入方ノ請負ヲ契約シタル者

第二交戦中敵國ニ通謀シ又ハ其賂遺ヲ收受シテ命令ニ違背シタル者トハ通謀トハ敵國ニ軍專ノ謀計ヲ知ラシムルヲ云フ命令ニ違背ストハ敵國ヨリ金錢若クハ品物ヲ受ケ軍備ノ缺乏ヲ致シタル者ヲ云フ否ラサレハ命令ニ違背スルノ語ハ何等ノ事ニ違背スルヲ指スモノナリヤ詳カナラス宮城浩藏氏ノ刑法講義ニ曰ク此命令ニ違背シノ語ハ「敵國ニ通謀シ」ノ語ニモ係リテ即チ敵國ニ通謀シテ命令ニ違背シ又ハ云々ト讀ムヘキノ義ナルヤ將々單ニ「賂遺ヲ收受シテ」ノ語ノミニ附ケテ讀ムヘキノ義ナルヤ甚々詳カナラス然レモ之ヲ要スルニ何レノ罪ニ從フモ此命令違背ノ語ヲ以テ本條ノ罪ヲ構成スルノ一元素ト見做スヲ要セス即チ命令ニ違背セサレハ本條ノ罪トナラスト論スルヲ要セサルナリ何トナレハ第三ノ條件タル軍備ノ缺乏ヲ致スト致サルトハ命令ニ違背シタルトセサルトナ証スルモノニシテ軍備缺乏スレバ自ラ命令ニ違背シタル者トナリ缺乏セサレハ自然ニ命令ニ違背セサル者トナレハナリ云々ト

第三軍備ノ缺乏トハ命令ヲ受ケタル工作者供給者ナル其契約通りニ兵器彈藥ノ工作ヲ爲サス糧食ノ供給ヲ怠リタルトハ直ニ軍備ノ缺乏ヲ致スナ云フ是レ即チ命令ニ違背スル者ナリ凡ソ陸海軍ニ於テ供給ヲ命シ工作ヲ契約セシムルハ其軍備ヲ充實ナラシムル爲ナレハ其命令ニ違背シタルトキハ之ヲ充實セシムルニ至ラサルハ勿論ナリ故ニ本條ハ命令ニ違背シタル者ハ直チニ罰シ其實際陸海軍ニ於テ差支ヲ生スル場合アルト無キトニ關セサルナリ

第三百三十三條 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス

其豫備ニ止ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス

本條ヲ犯ス罪ハ前數條ト異ニシテ其目的トスル前數條ト反對スル處アリ何トナレハ前數條ノ犯人ハ本國ヲ害スルヲ目的トスレバ本條及ヒ次條ノ犯人ハ其目的タル本國ヲ害セントスルニ非ス却テ本國ニ利益ヲ與フルコトアリ

外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開クトハ政府ノ命ヲ俟ダス私ニ外國政府ニ對シ抗敵シタル場合ヲ指スモノナリ故ニ本條ノ罪ヲ犯スニ其目的ニアリ

第一外國政府ニ對スルヲ目的トスル

第二ハ人數ニ限リナキモ兵器ヲ以テ腕力ニ際ヘル

右二者ノ目的ヲ以テスルヲ本條ノ犯罪トス而シテ本條ニ戰端ヲ開クトアルハ戰端ヲ起スノ義ト異ナルヤ若シ否ラサレハ何故ニ戰ヲ起スト曰ハズシテ戰端ヲ開クト曰フヤ曰ク此文字ヲ用ヒタルハ蓋シ外國政府ニ對シ交戦ノ道始ント無キニ至ルノ場合ニ於テ無謀ノ徒自ラ徒覺ヲ結テ私ニ外國ト戰端ヲ開クトアル場合ヲ豫想シテ戰端ヲ開ク云々トアリ戰端ヲ開クト云フハ事未タ小ナル場合ヲ言ヒ戰端ヲ起スト云フハ事小ナル場合ニアラス戰端ノ始メヲ云フ歟

第三百三十四條 外國交戦ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル時其布告ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

本條ハ尋常前條ト同シクシタルモノナリ外國交戦ノ際本國ニ於テ局外中立ヲ布告シタル其布告ニ違背シタル者ハ例ヘバ支那ト佛國ト戰ヲ爲ス場合ニハ何レノ國ヲモ援グル

「ナ爲サス其局外ニ立チ即チ關係セザルハ萬國公法ニ在リ然ルニ此時ニ於テ支那ハ我隣國ナルカ故ニトテ支那ニ加勢スルカ如キヲ云フ而シテ數人相黨シテ勢援ヲナシタルカ如キモノハ則チ前條ニ入ラサル可カラズ故ニ本條ハ唯一人ニシテ外國ニ與ミセル時ヲ謂フナリ
第三百三十五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三章 靜謐ヲ害スル罪

靜謐ヲ害スル罪トハ猶ホ公安ヲ害スル罪ト云フカ如ク社會一般ノ公益ヲ害スル者ニシテ其罪分テ九類トス其種類ハ茲ニ列記セス逐次之ヲ擧ゲテ註解スベシ而シテ是等ノ罪ハ皆ナ直接ニ社會ニ害ヲ及ホスト雖モ其構成權ニ關係スルコトナク唯其警察權ニ害ヲ及ホス者ナリトス

第一節 兇徒聚衆ノ罪

兇徒トハ惡シキ所爲アル者ヲ云フ暴動トハ其兇徒多衆相聚テ社會ヲ騷擾スルヲ云フ故ニ兇徒聚衆ノ罪ヲ成スニハ左ノ三條件ヲ要ス

- 第一 人員多數ナル事
 - 第二 其目的暴ヲ爲スニアルコト又ハ暴動ヲ爲シタル事
 - 第三 暴動ノ理由國事ニ關セサルコト
- 右三條件ヲ具備セザルハ本節ノ兇徒聚衆ノ罪トナルコトナシ
- 第三百三十六條 兇徒多衆ヲ嘯聚シ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受ケルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ激峻者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス附和隨行シタル者ハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ罪モ前ニ述ベタル條件ヨリ成立ツモノナリ而シテ本條ノ罪ハ官吏ノ説諭ヲ受ケテ尙ホ解散セザル者ヲ加ヘテ四條件トス

第一兇徒多衆ナルコト多衆ノ文字法律ニ定員ナキヲ以テ本條ヲ解スルニハ十名以上ヲ以テ多衆ト爲スト解セハ可ナリ是等ノ事ハ實際ニ就テ裁判官ノ認定ニ任スモノナリ

第二ハ其目的暴動ヲ爲スニアリ例ヘハ徒黨アリテ官廳ニ迫リ喧鬧シ村市ヲ騷擾シ又ハ家ヲ毀テ財產ヲ毀棄スルカ如キ一揆ヲ起シ旗幟槍ノ器動ヲナスノ類是レナリ此目的ナクシテ假令ヒ幾數千人集ルモ罪トナラズ且ツ本條ハ兇徒多衆ヲ嘯聚シ暴動ヲ謀リトアリテ陰謀即チ罪ヲ犯スノ決心ヲ罰スルモノニ非ス本條ハ有形的ノ所爲ニシテ只其暴動ノ目的アルトシテ場合ニ限ルモノニシテ預備ニ止ルモノヲ罰スルニアラサルナリ

第三ハ暴動ヲ爲サントスルノ理由ナリ本條ハ暴動ヲ爲サントスルノ理由國事ニ關セザル以上ハ其何ノ理由ニ出ルヲ論セス尽ク本條ヲ以テ處斷スヘキナリ而シテ其理由ハ或ハ米麥ノ騰貴ニヨリ貧苦ニ逼リテ富豪ヲ恐嚇シテ財ヲ分取リセントシ或ハ租稅ノ多額ヲ口實トシ地方廳ニ迫リテ減稅セシメントスルカ如キ是レナリ

第四ハ官吏ノ説諭アリタルコト暴動ヲ爲スノ目的ヲ以テ多衆相聚ルモ官吏ノ説諭ナキカ又ハ説諭アリタルニ承服シテ解散シタルトハ本條ノ罪トナラス又説諭トハ解散スヘキノ説諭ヲ言フナリ而シテ其官吏タル者ハ斯ル場合ニ於テ説諭ヲ爲スヘキ權利義務アル行政官即チ府知事縣令警察官其他郡區戶長ノ如キ相當ノ官吏ヲ云フナリ

以上ノ四條件ヲ具備シタル所爲アルトキ本條ニ於テハ如何ナル刑ヲ以テ之ヲ罰スヘキヤチ定ムルニ首魁激峻者ト附加隨行者トナ區別シ之ヲ罰スルナリ

第三百三十七條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強迫シ又ハ

村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者ハ重懲役ニ處ス其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助タル者ハ輕懲役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

本條ノ暴動ノ目的ヲ以テ兇徒多衆ヲ嘯集シタル時ニ官吏ノ説諭ニ服セサルカ若クハ説諭ナキ前ニ既ニ暴動ヲ起シタル者ニシテ前條トハ其罪一層重シ故ニ本條ノ罰スル所從テ重ク官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強迫シ又ハ村市ヲ騷擾スル等ハ前條ト其所爲同シキカ故ニ之ヲ註解セズ其嘯集ニ應ジ煽動シトハ自ラ率先シテ他ノ兇徒ヲ嘯集スルニ非ス初メハ他ノ嘯集ニ從ヒテ集リ後ヲ共ニ誘導シタル者ヲ云フ

茲ニ注意スヘキハ本條ノ罪ハ前條ノ罪ト共ニ未遂犯ノ場合アルコトナキナリ何トナレハ前條ノ罪ハ官吏ノ説諭後解散スルトセザルトニ因テ罪ノ有無ヲ成スモノナレハ固ヨリ未遂犯ノ場合アル可キ理ナキヲ以テナリ

第三百十八條 暴動ノ際人ヲ殺死シ若ハ家屋船舶倉庫等ヲ燒燬シタル時ハ現ニ手ヲ下シ及ヒ火ヲ放者ヲ死刑ニ處ス首魁及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ

暴動ヲ爲スニ當リ勢ニ乘リ自ラ他罪ヲ犯スノ所爲アリ即チ人ヲ殺害シ若クハ人ヲ毆打創傷スル如キ財物ヲ強取スル如キ家屋船舶倉庫等ヲ毀損シタル時ハ附和隨行者ト雖モ自ラ手ヲ下シタルモノハ其重キニ從テ論スルハ言ヲ俟タズ而シテ本條ニ於テ暴動ノ際人ヲ殺死シ云々ト規定シタル者ハ殺人罪ト放火罪トニ付テモ數罪俱發ノ例ニ從テ處斷スルハ勿論ナレトモ此ニ此ニ罪ニ就キ刑ヲ重クスル爲メ及ヒ暴動ノ首魁教唆者ノ責任ヲ定ムル爲メニ例

外ヲ設ケタルナリ

本條ニ人ヲ殺死シ云々トアルハ謀殺故殺ヲ云フナレハ毆打創傷シテ死ニ致シタル者ハ此中ニ包含セス何トナレハ毆打殺過失殺ハ元ト人ヲ殺スノ意ニ出ルモノニ非レハナリ

家屋船舶倉庫等ヲ燒燬ス云々トアルハ倉庫倉庫ハ人ノ住居シタルト否トチ分タズ船舶ハ人ヲ乘載シタルトセザルトチ問ハサルナリ

現ニ手ヲ下シ火ヲ放者ヲ死刑ニ處ストハ暴動ニ與シタル者ト雖モ此殺罪人ト放火罪トニ與カラサル者ハ本條ニ從ハサルコト示スナリ而シテ本條ハ例外ヲ設ケテ此等ノ者ヲ死刑ニ處スルナリ何トナレハ他ノ條ニ在テハ故殺ノ罪ハ無期徒刑ニ處シ人ノ住居セサル家屋人ヲ乘載セサル船舶等ニ放火スルハ無期徒刑又ハ重懲役ニ處ス可キモノナルニ本條ニ於テハ死刑ニ處スル此レ例外ナリ

第二項首魁教唆者トハ暴動ノ首魁教唆者ヲ云フモノニシテ本條殺人罪放火罪ノ首魁教唆者ヲ云フニ非ス若シ此暴動ノ教唆者ノ外ニ尙ホ本條ノ罪ノ教唆者アラハ刑法第百五條ノ例ニ照シテ處斷スヘキナリ

第二節 官吏ノ職務ヲ行フチ妨害スル罪

官吏其職務ヲ行フニ當リ之ニ對シテ暴行脅迫ヲナシ又ハ之ヲ侮辱スル者ハ是レ政府ニ對シテ輕蔑スルモノニシテ乃チ社會ノ公安ヲ妨害スル罪ノ最モ大ナルモノナリ故ニ此罪ヲ以テ靜謐ヲ害スル罪ニ入ルハナリ

第三百十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス

暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シ

本條ニ於テ執行官吏ニ抗拒シタル者ヲ罰スル其第一項ノ罪ハ則チ左ノ三件ヨリ成立シモノナリ

第一 暴行脅迫ヲ以テ抗拒スルコト

第二 官吏ニ對シテ抗拒スルコト

第三 官吏其職務ヲ以テ法律規則又ハ官署ノ命令ヲ執行スル場合ナルコト

第一ノ所謂暴行トハ總テ腕力ニ訴フル粗暴ノ所爲ヲ云フ又脅迫トハ刑法第三百二十六條ニ記載シタル所爲ヲ云フ而シテ本條ノ罪ハ必ス暴行脅迫ノ所爲アルニ非レハ本條ノ罰ス可キニ非ス故ニ他ノ所爲ヲ以テ犯シタル罪ハ本條ノ罪トハナラサルナリ又抗拒トハ暴行脅迫ヲ以テ官吏ノ執行ニ抗拒スルノ所爲ヲ謂フモノニシテ例ヘハ官吏ヨリ是々ノ事ヲ爲ス可シト指揮スルカ又ハ官廳ニ來ル可キヲ命シタルニ其官吏ニ對シテ暴行ヲ加ヘタルモ本條ノ罰ヲ所ニ非ス

第二官吏ニ對シテ抗拒スルトハ警部巡查憲兵戸長ノ如キ總テ執行官吏ニ向ヒ抗拒シタルモノヲ云フ其抗拒ストハ官吏其人ニ對シテ抗拒スルヲ云ヒ官吏ノ職務上取扱フ物品ニ對シテ暴行ヲ加フル如キヲ云フニアラス

第三ハ例ヘハ巡查現行犯人ヲ逮捕スル場合ノ如キヲ謂ヒ又命令ヲ執行スルトハ例ヘバ地方官ノ命ヲ受ケテ收税官吏カ煙草印紙貼用ヲ調査スルカ如キ場合又ハ巡查預審判事ノ命ヲ受テ犯人ヲ逮捕スルカ如キ場合ヲ云フナリ

第二項暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタル者亦同シト此爲ス可カラサル事件トハ爲ス可カラサル事件ト云議ニシテ例ヘハ官吏ヲシテ無罪ノ人ヲ逮捕セシメタルカ如キ惡事ヲ爲サシメタル如キハ本項ニ從ヒ罰スヘキナリ然ラハ本條ニ罰スヘキ範圍ハ只法律規則若クハ命令ノ執行ヲ受クル者其執行官吏ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ抗拒シタルト爲ス可カラサル事ヲ行ハシメタルトノミヲ罰シ其他ハ本條ノ範圍ニ非ルヲ知ルヘシ

第四百十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

前條ノ場合ニ於テ官吏ヲ毆傷シタルトハ暴行脅迫ヲナス際甚シナキニ至テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各條中ニ照シ一等ヲ加ヘルハ官吏タル者官ノ命令ヲ受ケテ其職務ヲ執行スル場合ニシテ公安ヲ害スレハナリ若シ本條ノ場合ニ於テ官吏ヲ毆傷シタルハ通常ノ故殺罪ニ照シヘキヤ果シテ然ラハ毆打ノ時ハ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ故殺ノ時ハ通常ノ故殺罪ニ照シヘキヤ果シテ然ラハ毆打ノ時ハ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ故殺ノ時ハ通常ノ故殺罪ニ照シヘキヤ

第四百十一條 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其目前ニ非スト雖モ刑行ノ文書圖書又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

本條ハ第三百三十九條ト同シク官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スルノ罪ナレモ第三百三十九條ハ有形的ニシテ官吏ノ身体ニ對シ害ヲ加フルモノニテ本條ハ無形的ニ官吏ノ榮譽ニ對シ害ヲ加フルモノナリ又第三百三十九條ハ官吏ノ行ニ對シ抗拒スル場合ヲ云フモノニシテ本條ハ

山形始審裁判所酒田支廳檢事同

明治十七年三月十二日

官吏ノ職務ニ對シ文書ヲ直チニ其官吏ニ送致シ以テ侮辱シタル者法律ニ明文無之候處右ハ筆記セシ言語ナリトシ又直接ニ送致シタルヲ以テ目前ニ於テ爲セルト同一ナリトスル時ハ刑法第四百十一條初項ヲ以テ論ズ可シト雖モ已ニ紙上ニ移シタル